

# 方言文法調査 ガイドブック

## 2

大西拓一郎編  
2006年



# 方言文法調査ガイドブック

## 2

大西拓一郎編

2006年

井上文子(国立国語研究所)  
井上優(国立国語研究所)  
大西拓一郎(国立国語研究所)  
沖裕子(信州大学)  
木部暢子(鹿児島大学)  
小西いずみ(東京都立大学)  
渋谷勝己(大阪大学大学院)  
高木千恵  
日高水穂(秋田大学)  
船木礼子  
前田直子(学習院大学)  
三井はるみ(国立国語研究所)



# 方言文法調査ガイドブック 2

## 目 次

総論	大西拓一郎	1
主題	小西いずみ	3
副助詞(付：接尾辞)	三井はるみ	25
可能表現 2	木部暢子	43
否定表現	大西拓一郎	51
授受表現	日高水穂	81
待遇表現	井上文子	95
過去回想表現	渋谷勝己	115
推量表現	船木礼子	137
様態表現	船木礼子	161
伝聞表現	船木礼子	179
疑問表現	井上優・小西いずみ	189
確認要求表現	船木礼子	211
原因・理由表現	前田直子・日高水穂・ 小西いずみ・船木礼子	231
接続詞	沖裕子	253
資料 (希望表現 意志表現 詠嘆表現 強調表現 (「のだ」文など) 勧誘表現 命令表現 禁止表現 あいさつ表現)		263



## 総論

大西拓一郎

### 1. ガイドブックのねらい

本書は、2002年に公開した『方言文法調査ガイドブック』の続編である。

『方言文法調査ガイドブック』同様に、方言文法を調査・記述する際の主要な視点を具体的な項目や資料とともに提示するものである。このガイドブックを利用することで、各地方言におけるそれぞれの文法分野の中核的部分が、ひととおり記述できることをめざしている。

大学の修士課程レベルはもちろん、学部レベルでも高度の研究に挑もうと考える人、また、一般の人でも論点の把握につとめれば、文法上の問題点をおさえながら一定のレベルでの研究が進められると期待する。

### 2. 各章について

本書は文法分野別に独立して章立てしている。それぞれがステップを踏んで進んでいくという性質にはない。したがって、読者の関心に従って、必要な箇所を読み進み、研究を進めればよい。

### 3. 分野の設定

分野を設けるにあたり、参考にしたのは、『方言文法全国地図』である。その準備調査と本調査の調査項目を基本にして、分野を設定した。また、『方言文法全国地図』の調査に関しては、検証調査が、記述的研究として行われており、そのための調査票も参考にした。このように『方言文法全国地図』の調査を基盤にしているので、先行する『方言文法調査ガイドブック』と本書を合わせても、文法に関するすべての分野が、カバーできているわけではない。たとえば、基本的な分野でも指示詞や連体詞などは対象になっていない。本書で扱わなかった分野であっても研究上、重要な分野は存在するだろう。関連しそうな箇所を参照したり、手順を参考にしながら、問題点を整理し、挑戦していくことを望みたい。

### 4. 調査項目の利用・改変

それぞれの章で具体的な調査項目が設定されているが、それらは絶対的なものではない。対象となる方言にはそれぞれの体系上の背景があるはずで、それが、本書の調査項目とは微妙にずれることは十分に予想される。また、各自の研究テーマにおける問題の設定と本書の項目が適合するとも限らない。各地方言や研究者自身の事情にあわせて改変して利用することを推奨する。

なお、以上の改変を含めて本書の利用は自由であるが、利用のむねを論文・著書に記載していただくと幸いである。

## 5. その他

本書は、文法記述を念頭において編集している。文法記述のためには対象となる方言の音韻の記述は、クリアしていることが前提である。音韻記述がなければそれぞれの方言の表記ができない。最低限、それぞれの方言で区別のある音は聞き分け、書き分ける能力をもって臨んでほしい。また、文法記述とは言っても語彙、その他の言語事象から完全に独立しているとは考えないでほしい。場合によっては、言語行動や生活事情が有意味に機能することもあるはずだ。それぞれの地域に入ったら、面倒がらず、広くさまざまなことに関心を持って地域に接してほしい。ひいてはそれが、文法問題の解決に結びつくこともあるはずだ。そんなことからこそフィールドワークの面白さが実感されるものなのである。

## 6. 「ガイドブック」作成の経緯など

本書は2002～2005年度科研費補助金(基盤研究B)「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」(課題番号14310196)の成果を踏まえるものである(先行して作成した『方言文法調査ガイドブック』は、同様に科学研究費基盤研究(B)(2)「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」(1998-2001年度, 課題番号10410097)研究成果に基づくものであった)。

『方言文法調査ガイドブック』で取り上げた分野は、数も少なく、まだ不十分な点を残していた。本書『方言文法調査ガイドブック2』では、それを補う形で、また、『方言文法調査ガイドブック』を実際に使用する中で生じた問題点も記す形で、編集している。先行書の経緯に関しては、『方言文法調査ガイドブック』の総論も参照のこと。

## 7. 補足

当初、分野に関して、「希望表現」「意志表現」「詠嘆表現」「強調表現(「のだ」文などの表現)」「勧誘表現」「命令表現」「禁止表現」「あいさつ表現」を独立した章として、完成させる計画であったが、時間の関係で、そろえることがかなわなかった。これらについては、末尾に「資料」として、『方言文法全国地図』の質問文(本調査・準備調査)を挙げた。

その他、「格助詞」「アスペクト表現」「条件表現」の項目の拡充・補充も予定していたが、これもできなかった。

以上に関しては、いずれ機会があれば、整備した形の第2版を作成できればと願っている。

## 付記

執筆者のうち、船木礼子氏と前田直子氏は、上記科研費の分担者ではない。しかしながら、船木さんは、分担者の何倍もの項目を担当して下さった。前田さんは、別途御自身が代表されている条件表現に関する科研費(大西ほか複数のメンバーが重複して参加)の成果をこちらに生かして下さい。分担者の皆さんとの共同作業(4年間にわたり毎年2回ずつ研究会を開催してきた)から本書が出来上がったことは言うまでもないが、とりわけこのお二人には深く感謝申し上げたい。その他、執筆者としてお名前は出さなかったが、高木千恵氏は、大西が否定表現を執筆するにあたり多くの情報を提供して下さいたことを申し添えておく。



## 主題

小西いずみ

### A 解説

#### 1. 主題とは

##### 1.1 主題の定義，主題の範囲

「太郎は学生だ」「日本は狭い」「太郎は今勉強している」「その絵は太郎が描いた」のような「AはB」型の文の多くは，Aが〈説明対象〉，Bが〈説明内容〉という意味関係を持つとされる。このとき，説明対象Aをその文の主題（題目）と呼び，また，助詞「は」を主題提示（題目提示，提題）の機能を持つ形式とみなす。

主題となるAは，ガ格主語にあたることが多いが，「その絵は太郎が描いた」のようにヲ格目的語にあたる場合もあり，また，「このにおいてはガスがもれているにちがいない」「[食堂で] ぼくは日替わり定食」など格項目でない場合もある。「主題」や「有題文」（主題を持つ文，題目文）をどう定義するか，また，具体的に何を「主題」「有題文」に含めるかは，厳密に規定するのが難しく，研究者間でまちまちな部分がある。例えば，西山(2003:第5章，第8章)は，これまでの日本語文法研究において主題という術語が「きわめてルーズに用いられている」ことを指摘するとともに，「その会社の責任者は山田だ」（倒置指定文）や「魚は鯛がいい」における「は」の前接名詞句を主題とみなすべきかという問題を提起している（西山2005，丹羽2006も参照）。

尾上(2004)は，題目語の定義や範囲を確定するのが難しいことを指摘したうえで，「典型的な題目語」の要件として(1)をあげる（ただし，尾上は，下の要件①-aは感覚的なものであり，個々の例についてこれを満たしているかどうかの判定が本質的に困難な場合がある，とする）。さらに，要件①に関して，名詞項Xを表現の前提として持ち出すことが不自然でないための条件として，(2)に示す3つをあげている。

(1) ① 一文の中で，その成分が表現伝達上の前提部分という立場にある。

①-a 表現の流れにおいて，その部分が文の全体の中から仕切り出されて特別な位置にある。

①-b その成分は，後続の伝達主要部分の内容がそれと決定されるために必要な原理的先行固定部分である。

② その成分が，後続部分の説明対象になっている。

(2) (i) 話し手，聞き手，表現行為のイマ・ココ，およびそれらの関係項目

例：「私は」「君の故郷は」「今日は」「来年の大晦日は」「ここは」「隣の部屋は」

(ii) 話題がいつそこに転じてもおかしくないほどに，すべての人にとって一般的

なもの、あるいは話し手（筆者）と聞き手（読者）の間に恒常的に共通の関心の対象になっているもの、およびその延長上に存在が当然承認されるもの

例：「日本は」「人間の記憶は」「アメリカの大統領は」

(iii) 文脈上既出の項目、およびその関係項目

後者の例：「お前はメロンが好きなんだってな」「いや、果物はなんでも好きです」

また、最近では、丹羽(2006)が、「題目文」の概略的な定義として(3)を、より厳密な定義として(4)を示している。

- (3) 題目文「XはP」は、Xを先に提示し、そのXがいかなる属性を持つか、いかなる状況にあるか、いかなる状況を望むかということ、Pと述べる文である。(丹羽 2006:2)
- (4) 題目文「XはP」は、独立文あるいは独立性の高い従属節において、Xを先に提示し、Xの在り方（属性・状況）がいかなるものかという関心を持ち、それに対してPと述べる、という関係（〈述語焦点〉）を統語構造化したものである。述部Pは、属性・状況を表す部分と、その成立に関する話し手の態度（モダリティ）を表す部分からなる。(丹羽 2006:25-26)

## 1.2 現代共通語における主題提示の形式

現代共通語におけるもっとも代表的な主題提示の形式は、これまでも例示してきたように「は」である。「は」は、〈提題〉という機能を持つ一方で、「は」の前接項Aと他の事項、あるいは「AはB」で表される事態と他の事態とを〈対比〉するという機能も持つ。「は」が〈提題〉か〈対比〉のどちらかを表すというわけではなく、提題性が高く対比性がほとんどない場合から、提題性と対比性がともに認められる場合（「太郎は廊下、次郎はトイレを掃除して」「春は来たが、暖かくなならない」）、対比性が強く提題性がほとんどない場合（「太郎よりは頭がいい」「一応、行ってはみた」）まで、両者の強弱は相対的に決まるものと言える。また、「東京は神田の生まれだ」「不思議なことにははお金がいっこうにたまらない」「きのうは太郎が家に来ました」など、提題とも対比とも言えない「は」もある(尾上 2004, 丹羽 2006:第7章)。

益岡・田窪(1992:149-150)は、「は」以外の提題助詞として「なら」「だったら」「って」「とは」「ったら」をあげている。そのほか無助詞や接続助詞「が」でも主題が提示されることがある(丹羽 2006, 尾上 2004 など)。

- (5) 「太郎はどうした?」「太郎 {なら／だったら} 二階にいるよ」
- (6) 働く {って／とは} 大変なことだなあ。
- (7) 花子ったら、ふざけないでよ。
- (8) あ！あの時計が、止まっている。
- (9) 先にお送りした論文ですが、もう目を通してくださったでしょうか。

## 2. 日本方言の主題

『方言文法全国地図』第1集(国立国語研究所 1989)には、共通語の提題の「は」にあたる形式の分布をみるための図として、次のものが収められている。

第10図「あれは (学校だ)」「あれは何か」と聞かれて「あれは学校だ」と答えるとき

にはどのように言いますか。)

この文は、疑問詞疑問文に対する応答文で、疑問文の主題である指示語「あれ」を受けて再度主題とし、それに建物の種類としての属性「学校」を帰す、属性叙述文（措定文）の一種と言える。図から、全国的に広く「ワ」「ア」「ヤ」等の助詞が見られること、「 $\phi$ 」（無助詞）が近畿や関東・東北に比較的まとまって分布すること、秋田や山形北部に「ダバ」等の仮定表現に由来した形式が見られること、などがうかがえる。

ヲ格目的語にあたる対比性が強い「は」相当のものとして、次の図がある。

第 11 図「ビールは（飲まない）」・第 12 図「酒は（飲む）」

（「あの人は、ビールは飲まないが、酒は飲む」と言うときの「ビールは飲まないが、酒は飲む」のところはどのように言いますか。）

第 11 図では、先の第 10 図より「ダバ」類の分布域が若干広がり、第 12 図ではさらにそれが広がる。第 12 図は、共通語でも「なら」が現われやすい場合であり、他地域でも「ナラ」「ヤッタラ」等の仮定条件形が散見される。

G A J における「は」の項目としてはほかに次のものがある。

第 16 図「(ここに) 有るのは」(「ここに有るのは何か」と言うときにはどのように言いますか。)

第 17 図「行くのでは (ないか)」(「もしかしたら、お前は東京に行くのではないかと尋ねるときの「行くのではないか」のところはどのように言いますか。)

『講座方言学』第 4～10 巻（飯豊ほか 1982-1984）などの各地域・都道府県方言の記述をみても、主題が無助詞で表されることが多いという報告が目立つ（岩手など）。また、主格助詞との形態的な区別がない（青森など）、前接語の末尾音が/a, o, u/のときは/a/, /i, e/のときは/e/, 撥音のときは/na/のように異形態を持つという記述も各地にある（埼玉県秩父地方、佐賀など）。なお富山方言では、撥音前接時の提題・主格の助詞の異形態「ナ」が再分析され、撥音以外の場合にも使われるようになった（山田 2001）。

沖縄那覇方言の「ヤ」は、形態論的にも統語論的にも興味深い現象をみせる（国立国語研究所 1963:270, 野原 1984 など）。まず、前接語末が短母音/i, a, u/や撥音のときはそれと融合してそれぞれ/ee, aa, oo, noo/となるが、前接語末が長母音のときは融合しない。また、共通語ではガ格名詞句やヲ格名詞句が主題となったとき助詞「が」「を」が現われないうが、那覇方言では「名詞句+主格助詞/ga, nu/」に/ja/が付くことができる（前述の融合規則により、それぞれ/gaa, noo/となる）。さらに、「どれが君のものか」のような疑問文の焦点となる名詞句に付くことができる。

東北地方の「ダバ」類については、荒井(1990)や日高(2000:97-98)が記述している。日高によると、秋田方言では、主題が無助詞で表現される場合や、前の助詞と融合して「コレア オメアノホンダガ?」のように「ア」と発話される場合もあるが、〈提題〉の意図を明示するためには、本来は仮定条件を表す形式である「ダバ」が用いられる。「ダバ」は、「ナラバ」に相当する〈選択・対比〉の意味を持つ場合のほかに、「ナンカ」「ナド」に相当する〈否定的特立〉の意味が強く感じられる場合、「ハ」にほぼ置き換わる無色の〈主題提示〉の意味で用いられる場合がある。県北部では「ダバ」と「ダッキヤ」（断定ダ+形容詞仮定形語尾）に由来する形式、県南部では「ダバ」と「ナバ」が併用されている。

(1) A : コレ $\phi$  オメアノ ホンダガ? (これはおまえの本か?)

B : アエ コレンダンバ オレアッタデア。(ああ、これは私のだよ。)

(2) A : タローφ エダガ? (太郎はいるか?)

B : タローダンバ サキタ デハッタデア。(太郎ならさっきでかけたよ。)

(3) コンタ モノンダッキヤ ナンボンデモ アルデア。(こんなものなんかいくらでもあるよ。)

荒井(1990)があげる北庄内方言の「ダバ」の例には、明らかに共通語の「なら」では置き換えられないものが含まれている(例4, 5)。一方で、複数の事項を対比する場合には「ダバ」が用いられにくく、「ワ」が用いられるという(例6)。

(4) 念仏講サ ハラネ 人ダバ コツカラ出デ イゲダド

(念仏講に入らない人はここから出て行けだ)

(5) 「オラ アンマリ シャベネデバ」「オレダバ シャベル ゴドバリ イッペ アテノ」

(「わたしあんまり話さないよ」「私は話すことばかり沢山あってね」)

(6) カジュワ 吹グシ, 雨ワ 降ルシ, ヒデメ アタ (風は吹くし雨は降るしひどいめにあった)

引用表現に由来する提題形式にも、共通語にはない発達をとげたものがある。富山方言の「チャ」は語形成的には「とは」に対応するものだが、「とは」よりも提題助詞としての用法が広く、「って」に近い。ただし、対比性を持つ、「名詞+格助詞」などの連用修飾成分にも付くなどの点で「って」とも異なる(小西 2005, 同 2006)。

(7) アンタモ行くチャ 思ワンド。(あなたも行くとは思わなかった。)

(8) オーエスチャ 何ケ。(「オーエス (OS)」{って/というのは/とは} 何?)

(9) アノ人チャ イクツケ。(あの人 {って/\*というのは/\*とは} 何歳?)

(10) コノ話 太郎ニチャ ユワンデヤ。(この話, 太郎には言わないでよ。)

石川県金沢方言では、語形成的には「と言ったら」に対応する「チュータラ」が提題の形式として機能している(小西 2005)。

(11) A : 山田サンニモ 知ラセヨー。

B : 山田サンチュータラ ダレ。(山田さんって誰?)

(12) (一緒にお酒を飲んでいる相手に) アンタチュータラ 酒 強イガヤネ。

(「今までは気づかなかったけど」あなたって、酒が強いんだね。)

### 3. 調査の着眼点

ある方言において、提題の機能を果たす形式にどのようなものがあるか、そして、その形式がどのような意味・用法の広がりを見せるかを探るためには、まず、共通語の「は」の諸用法と対照してみるのが適当であろう。また、前節でみたように方言においては、

- ・「ア」などの形を、提題形式としても主格助詞としても使う方言がある。また、その形は前接語の末尾音による異形態を持つという報告もみられる。
- ・無助詞で主題を提示するとされる方言が多い。
- ・仮定条件表現に由来する形式、引用表現に由来する形式で特徴的なものがある。

ということが言える。そこで、ここでは、次の5つに分けて調査の際の着眼点を概説する。また各々に対応する調査項目を「B 項目」の頁に示す。

I 前接音による異形態、主格助詞との区別についての確認

II 共通語の「は」との対照

III 「名詞句φ」の提題用法

- IV 引用表現に由来する提題形式
- V 仮定条件表現に由来する提題形式

## I 前接音による異形態，主格助詞との区別についての確認

前接音 a, o, u, e, i, N それぞれについて，a) 提題の「は」相当の場合，b) 中立叙述の「が」相当の場合，c) 指定（総記）の「が」相当の場合，を確認する（共通語と同様に，5母音で開音節を基本とする方言を想定している）。その形式が対比性の強い「は」相当の場合も使われるかどうかについてはIIの項目を用いる。主格の「が」についてさらに確認する必要がある場合は「格助詞」の頁も参考にしてほしい。

## II 共通語の「は」との対照

「は」の用法を大きく次の二つに分け，それぞれに対応するものをみていく。

- 1) 主題提示の「は」
- 2) 主題提示とは言いがたい「は」

### 1) 主題提示の「は」

「は」の前接形式（「AはB」のA）が名詞句の場合で，Aが説明対象，Bが説明という関係にあるものとする（尾上2004の「典型的な題目語」にほぼ従う）。

#### 1.1) 格項目の一つが主題となったもの

ガ格名詞句，ヲ格名詞句，ニ格名詞句の場合がある。ここでの「格項目」は，属性・動作・変化の主体，動作の対象といった，述語が意味論的に必要とする項に限る。調査の観点の一つにガ格・ヲ格の場合「格助詞+提題形式」が可能かという点がある（2節参照）。

##### 1.1.1) ガ格名詞句

解説部（「AはB」のB）の述語の違いによってさらに次のように下位区分できる。

- ①名詞述語：A=属性・状態の主体となる名詞句，B=属性・状態の叙述。
- ②形容詞述語：①に同じ。「彼が失敗するのは明らかだ」などBがAに備わる属性・状態とは言いがたいものもある。
- ③動詞述語：A=動作・変化の主体となる名詞句，B=動作・変化の叙述。「鳥は空を飛ぶ」のように恒常的に成立する事態の叙述の場合，属性叙述に類するものとなる。
- ④存在動詞・「ない」が述語：A=存在の主体となる名詞句（A=存在場所・持ち主の場合は1.3.1.1を参照）。場所存在文（B=存在場所の叙述。属性叙述の一種と考えられる）と，絶対存在文（B=存否についての叙述）に区別できる。

ガ格名詞句が主題となったものとして，ほかに感情・感覚の対象にあたる場合があるが，これについては1.3の「AハBガC」型の文のなかで扱う。

##### 1.1.2) ヲ格名詞句，1.1.3) ニ格名詞句

動作の対象を表すヲ格名詞句やニ格名詞句が主題となったもの。「この料理は日本酒がよく合う」は，ガ格名詞句が主題となったものとも考えられる。堀川(2004)は，AとBの意味関係が〈説明対象－説明内容〉と解釈しにくく，〈処置課題－処置内容〉と捉えるべきものがあるとする（特に，Bが行為要求表現や当為表現の場合）。

### 1.2) 格項目以外が主題となったもの

大きく分けて、AとBとがどのような関係にあるかがその文のみから分かるものと、文脈に頼らないと分かりにくいものがある。AとBとがどのような関係にあるかがその文から分かりやすいものとして、次のような例があげられる。

- ・倒置指定文（上林 1988，西山 2003）：「この会の幹事は太郎だ」など。「太郎がこの会の幹事だ」のように「BがA」（指定文）と言い換えても基本的に文の意味が変わらない。「この会の幹事は誰か」というと、「太郎だ」のように、Aが疑問詞疑問文で言い換えられ、Bがその答えという関係となる。西山(2003)はこの型の文の名詞句Aを主題ではないとする。
- ・倒置同定文（西山 2003，熊本 1995）：Aを他から識別するための同定条件をBとして述べる文。
- ・倒置同一性文（西山 2003）：AとBが同一であることを述べる文。
- ・A=動作・出来事の場所，B=動作・出来事
- ・A=動作主，B=動作主に対する行為要求・当為表現
- ・「破格の主題」などと呼ばれてきたもの：菊地(1995)の「特定類型」，尾上(1981, 2004)の「先行”題目”」「状況の直接的提示—その解釈」にあたる。

AとBとがどのような観点で結び付けられているのかが、文脈に頼らないと分からないものの代表例はいわゆる「ウナギ文」である。なんらかの観点からみて名詞句AとBとが対応することを述べるもので、複数の事物の対応関係を述べることが多く、その場合は対比的な性格が強くなる。

### 1.3) 「AハBガC」型の文

「AハBガC」型の文（「Aは」のあとの解説部にガ格が含まれる形の文）には、そのA・B・Cの相互の意味・統語関係のありかたからみるとさまざまなものがある。ここでは例として以下のものをあげる。

#### 1.3.1) 「BガC」がAについての属性叙述である文

##### ① Aが広義の場主語と解釈できるもの

尾上(2004)の第一種二重主語文。以下の3つがある。

- ・〈存在場所〉ハ〈存在物〉ガ〈存在・多寡を表す用言〉
- ・〈感情・感覚の主体〉ハ〈感情・感覚の対象〉ガ〈感情・感覚形容詞〉
- ・〈動作の主体〉ハ〈動作の対象〉ガ〈動詞の可能・自発の表現〉

##### ② 「象は鼻が長い」構文

尾上(2004)の第二種二重主語文。典型的な「象は鼻が長い」構文は、AとBの間に「全体—部分」という意味関係があるとされたり、連体助詞「の」で結ばれるような関係があるとされたりする（西山 2003:第4・5章も参照）。

①②には、「Bガ」の助詞「ガ」がいわゆる「中立叙述」であるか「指定（総記）」であるかによって、「BガC」がAについての一つのまとまった属性叙述であるという場合（西山(2003)の[長鼻-読み]）と、「Aについて、Cなのはどれかを問うと、Bである」という場合（西山(2003)の[指定内臓-読み]）とがある。

##### ③ 「カキ料理は広島が本場だ」構文

西山(2003:第6章)などを参照。「広島がカキ料理の本場だ」のように、指定文「B

が、AのC」と言い換えられる。Cが「本場」「主役」などの非飽和名詞（何の本場・主役なのかを定めない限り、外延が決まらない名詞）とされる（ただし坂原 2005も参照）。

### 1.3.2) 「魚は鯛がおいしい」構文

西山(2003:第5章),尾上(2004)などを参照(ただし西山はこの型の文を有題文ではないとする)。「\*鯛がおいしい魚」のように「BがC」でAを連体修飾することができず、「BガC」がAについての属性叙述とは言いがたい。「BガC」は指定文で、AとBの間に上位概念-下位概念という関係が成立しており、「AにおいてCなのはBだ」と言い換えることができる。

### 1.4) 対比性が強い「は」

ここでは、提題性を持ちながらも対比性が強い「は」を、その統語上の条件や対比されるものの性質の違いによって整理して例示する。対比性が強くなる統語的な条件として、①並列や逆接の関係にある節・文内の「は」、②連体修飾節内の「は」、③二重主語文で「AハBハC」という表現をとったときの「Bハ」、④疑問文に対する応答文で焦点となる名詞句につく「は」、⑤A=不定語の場合、をあげた。

対比のありかたとしては、名詞句どうしが対比される場合と、事態(節、文)どうしが対比される場合とに区別できる。前者は、名詞句A1, A2, A3…のそれぞれに、異なる説明B1, B2, B3…を与えるものである。Bとしてさまざまな値をとりうる場合、対義語の各々をわりあてる場合、事態の成立・不成立(用言の肯定表現・否定表現)のどちらかをわりあてる場合がある。

## 2) 主題提示とは言いがたい「は」

### 2.1) A=名詞句

Aが名詞句でありながら、「AはB」の表現においてAが説明対象とは言えない場合である。「東京は神田の生まれだ。」は「魚は鯛がいい」のような範囲を限定する「Aハ」と似た側面が感じられ、「これはまいった。」は「破格の主題」のうち、「このにおいは、ガスがもれている」のような発話時の認識・知覚内容を直示して提示するものと似る。

### 2.2) A=名詞句以外

この場合の「は」は対比の意味を担うものが多いが、主題提示にきわめて近いもの、主題とも対比ともいいがたいものもある。Aの品詞的・統語的性質から次のように分類した。

① A=名詞句+格助詞(ニ・デ・ト・カラ・マデ・ヨリ)

② A=名詞句+とりたて助詞(グライ・コソ・ダケ・マデ)

③ A=副詞(形容詞・形容動詞連用形の副詞的用法を含む)

動作の様態、動作の結果、認識・思考の内容、数量・程度・頻度、時間関係、時、文副詞(便宜上、接続詞にあたるものも含む)に分けて示した。

④ A=引用節

⑤ 用言の連用形+は+補助用言

全体で一つの述語ともみなせるもの。以下が含まれる。

・動詞連用形・サ変名詞+ハ+スル

- ・動詞テ形＋ハ＋補助動詞（イル・ミルなど）
- ・形容詞・形容動詞の連用形＋ハ＋補助用言（ナイ・ナルなど）
- ・名詞句＋断定辞連用形デ＋ハ＋補助用言（アル・ナイ）

#### ⑥ A=連用副詞節

並行する事態を表す「ながらは」、後件の条件を表す「以上は」「限りは」、判断の理由を表す「からには」をあげた。

#### ⑦ 「～ては」条件節

「ては」全体で条件節をつくる形式として慣用化されたもの。「反復」「提案」「後件に否定的な事態が来る用法」の3つがあるとされる(蓮沼 1987, 丹羽 2006: 第7章など)。

### Ⅲ 「名詞句φ」の提題用法

「φ」の提題用法の範囲を調査・記述するには、次の2つをともに確認する必要がある。

- ・共通語で「は」（や格助詞）よりも「φ」が用いられやすい場合
- ・共通語の「は」の用法（Ⅱ）

前者の例文を「B 項目」のⅢにあげる。Ⅱの「は」の例文においても、共通語で「φ」が適格な場合・不適格な場合がある。

丹羽(2006: 第10章)は、共通語の提題の「φ」と「は」とを比較して、「φ」に次のような性格を認めている。

- ・非対比性：「は」は対比性を持つが、「φ」は対比性を持たない。
- ・現場的性格：その名詞句が持つ属性についての知識を問うたり、知識を述べる場合には「φ」は用いられない。眼前の描写や経験に基づいた叙述には「φ」が現われる。
- ・新主題性：新しく主題をたてる場合に「φ」は用いられやすく、「は」は用いられにくい。

「B 項目」のⅢにあげたものは、いずれの点においても「φ」の特徴を満たしていると言える。方言の「φ」の調査・記述の際には、特にこれらの点での共通語との異同に注目するとよいだろう。

### Ⅳ 引用表現に由来する提題形式

共通語の「って」「というのは」「とは」、富山方言の「チャ」など、引用表現に由来する提題の形式の用法は、大きく次の3つに分けられる(塩入 1994, 藤田 2000, 丹羽 2006: 第8章, 小西 2006)。

#### 1) 発話・思考・知覚内容を提示して、発話・思考・知覚の成立・不成立を述べるもの

「〈発話・思考・知覚内容〉ツテ・トハ〈発話・思考・知覚動詞述語〉」という構造のもの。引用表現であり、かつ、〈発話・思考・知覚内容〉を主題として提示してその成立・不成立を述べるという関係が見られるものである。

#### 2) 言語表現を主題として提示して、その意味や属性を述べるもの

言語表現の意味論的・語用論的意味（言語形式の辞書的意味、発話の表意・含意）を述べる場合は「は」で言い換えにくい。表記や品詞などを述べる場合は「は」も用いやすく、むしろ「とは」が用いられない。



### 3) 事物を主題として提示して、その属性・状況や存否を述べるもの

引用という性格が薄れ、一般的な提題形式としての性格が強くなったもので、「は」と置き換えられる場合も多い。調査・記述の主な観点を、共通語の「って」「というのは」「とは」や富山方言の「チャ」の振る舞い、「B 項目」での該当項目とともに記す。調査項目としてはⅡも用いるとよい。

- ・動詞終止形に直接接続し、解説部でその動作・事柄の特徴づけを行う場合：共通語では「って」「というのは」「とは」が用いられ、「は」は用いられない。→Ⅳ3(1)
- ・解説部の述語の制約（主題Aと解説Bの意味関係の制約）：「とは」は、物事の本質的属性を捉えてその特徴づけを行う場合（特に「用言連体形＋名詞（「こと」「もの」「人」等）＋ダ」という構造の名詞述語を解説部にとりやすい。西山(2003)や熊本(1995)のいう倒置同定文を含む）、認識した事態への評価を述べる場合に使われ、事物の一時的な状況や存否について述べる場合には用いられない。→Ⅳ3(1)～(13)
- ・A=指示語の場合：「って」は可、「とは」「というのは」は不可。→Ⅳ3(5)(9)
- ・A=話し手・聞き手双方に身近な事物の場合：「って」は可、「とは」「というのは」は不可。→Ⅳ3(6)(8)
- ・A=文の連用修飾成分（名詞句＋助詞、副詞、等）の場合：「って」「というのは」「とは」は不可、富山方言の「チャ」は可。→Ⅱ2.2
- ・認識した事態に対する最初の所感を述べる場合：「とは」が使われやすく、「というのは」「って」は用いにくい。一方「とは」は、仮定的な事態には用いることができない。→Ⅳ3(11)～(13)
- ・「捉え直し」性：「って」「というのは」「とは」ともにその事物を「捉え直す」「改めて問題にする」という性格がある。→Ⅳ3, 特に(14)対(15), (16)対(17)。
- ・対比性：「って」には対比性がない(用法1,2の場合も)。→Ⅱ2.2.4(1)(2), Ⅳ3(16)(18), Ⅱ1.4
- ・新主題性：「って」は新しく主題を設定する場合に用いられやすく、受取主題（相手から持ち出されたものを主題にする場合）や既出の事物に補足説明を加える場合には用いにくい(発話時に改めて「捉え直す」のなら可。用法1,2の場合も)。→Ⅳ3(19)(20), Ⅳ2(2), ほかⅡも参照(1.1.1.1(1)～(4)など)

### V 仮定条件表現に由来する提題形式

共通語の「なら」「だったら」の提題用法は、大きく次の二つに分けられる（高梨1995, 丹羽2006:第9章など）。

- 1) 受取主題の場合（相手から持ち出されたものを主題にする場合）
- 2) その名詞句に焦点がある場合

「B 項目」のVにはその両者の例文をあげた。仮定条件表現に由来する提題形式の用法の範囲を記述するためには、さらにⅡの項目を用いて「は」の用法と対照すべきだろう。調査・記述の観点を下に示す。

- ・述語の性格：共通語の「なら」は、1), 2)の場合ともに述語に肯定的な事態・その文脈上で望ましいとされる事態がきて、否定的な事態はとらない。東北方言の「ダバ」類は、否定的な事態もとることができるようである（2節を参照）。

- ・対比性：1)の用法の「なら」は、二つの物事について対比的に述べる場合には用いにくい。2)の用法の「なら」は、当該の問題にとって適切な物事を選択して提示するという性格上、対比性を帯びる。ただし、前項の制約上、事態の成立・不成立（肯定・否定）を対比的に述べる場合、不成立のほうの文・節には用いにくい。
- ・A=疑問詞の場合：2)の用法では、「何ならできるの？」のように、疑問詞疑問文の疑問詞に「なら」が付くことができる。「は」も対比性が強い場合に疑問詞に付きうるが（Ⅱ1.4(6)参照）、「なら」は前項の制約から否定的事態が述語の場合は不適格となる。
- ・A=名詞句以外の場合：2)の用法では、「名詞+助詞」などの連用修飾成分にも「なら」が付くことができる。

ほか、焦点がある場合以外の疑問文の場合（Ⅱ1.1.1.1(1)等）、A=不定語の場合（Ⅱ1.4(9)）など、さらなる用法の広がりについてはⅡの項目で確認する必要がある。

#### 4. 研究の状況と発展

方言における提題表現の体系や、提題形式の意味・用法についての詳しい記述的研究はほとんど行われていないようである。GAJからうかがえるように、多くの方言では、もっとも一般的な提題表現として共通語の「は」と同源と思われる形式が用いられているため、特に面白い研究課題と認識されなかったのかもしれない。しかし、無助詞による提題表現、引用表現・仮定条件表現に由来する提題形式の意味・用法範囲など、諸方言の提題表現にはいろいろ興味深い現象がありそうである。

他の文法範疇・意味範疇にもしばしば見られることだが、同じ文脈・同じ文で複数の提題形式が適格となることが少なくない。その点を考えると、少人数のインフォーマントを対象とした質問調査による定質的な把握とともに、多人数を対象とした面接・アンケート調査や談話資料の用例調査による計量的な把握を並行して行うのが有効と思われる（方言談話資料による記述研究の例として山田2001がある）。

#### 5. 文献

- 青木伶子(1992)『現代語助詞「は」の構文論的研究』笠間書院  
 天野みどり(2002)『文の理解と意味の創造』笠間書院  
 荒井孝一(1990)「主題構成と日本語—標準語と方言の異同一」『国文学解釈と鑑賞』55巻1号  
 飯豊毅一ほか(編)(1982-1984)『講座方言学』第4～10巻 国書刊行会  
 大島資生(1995)「「は」と連体修飾」益岡ほか編(1995)所収  
 奥津敬一郎(1978)『「ボクハウナギダ」の文法—ダとノー』くろしお出版  
 尾上圭介(1981)「「は」の係助詞性と表現的機能」『国語と国文学』58巻5号  
 尾上圭介(1995)「「は」の意味分化の論理」『月刊言語』24巻11号  
 尾上圭介(2004)「主語と述語をめぐる文法」『朝倉日本語講座6文法Ⅱ』朝倉書店  
 上林洋二(1988)「措定文と指定文—ハとガの一面—」『筑波大学文藝言語研究 言語篇』14号  
 菊地康人(1990)「「XのYがZ」に対応する「XはYがZ」文の成立条件—あわせて、〈許容度〉の明確化」『文法と意味の間 国広哲弥教授還暦退官記念論文集』くろしお出版

主題

- 菊地康人(1995)「「は」構文の概観」益岡ほか編(1995)所収  
菊地康人(1996)「「XがYがZ」文の整理—「XはYがZ」文との関連から—」『東京大学  
留学生センター紀要』6号
- 熊本千明(1995)「同定文の諸特徴」『佐賀大学教養部紀要』27号  
国立国語研究所(編)(1963)『沖縄語辞典』大蔵省印刷局(第9刷 2001 財務省印刷局)  
国立国語研究所(編)(1989)『方言文法全国地図』第1集 大蔵省印刷局
- 小西いずみ(2005)「方言文法—引用表現に由来する主題提示の形式を題材に—」『国文学解  
釈と教材の研究』50巻5号
- 小西いずみ(2006)「富山方言の提題・対比の助詞「チャ」について」『方言における文法形  
式の成立と変化の過程に関する研究』(平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 基  
盤研究B 課題番号 14310196 研究成果報告書)
- 坂原茂(2005)「書評 西山佑司著『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示  
的名詞句』」『日本語の研究』1巻2号
- 塩入すみ(1994)「「トハ」文の主節の述語について」『現代日本語研究』1号
- 高梨信乃(1995)「非節的なXナラについて」仁田義雄(編)『複文の研究(上)』くろしお出  
版
- 高梨信乃(2003)「遠そうで近い条件と理由, 条件と主題」『月刊言語』32巻3号
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 西山佑司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひ  
つじ書房
- 西山佑司(2005)「コピュラ文の分類に集合概念は有効であるか」『日本語文法』5巻2号
- 丹羽哲也(2006)『日本語の題目文』和泉書院
- 野田尚史(1985)『日本語文法セルフマスターシリーズ1 はとが』くろしお出版
- 野田尚史(1996)『新日本語文法選書1 「は」と「が」』くろしお出版
- 野原三義(1984)「沖縄那覇方言の係助詞・副助詞—琉球方言の鳥瞰を含む—」平山輝男博  
士古稀記念会(編)『現代方言学の課題 第2巻 記述的研究篇』明治書院
- 蓮沼昭子(1987)「条件文における日常的推論—「テハ」と「バ」の選択要因をめぐって」  
『国語学』150号
- 日高水穂(2000)「秋田方言の文法」秋田県教育委員会(編)『秋田のことば』無明社出版
- 藤田保幸(2000)『国語引用構文の研究』和泉書院
- 堀川智也(2005)「「典型的な題目語」の意味的立場」『日本語文法』5巻1号
- 堀口和吉(1995)『「～は～」のはなし』ひつじ書房
- 益岡隆志・田窪行則(1987)『日本語文法セルフマスターシリーズ3 格助詞』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法』改訂版 くろしお出版
- 益岡隆志ほか(編)(1995)『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 三上章(1953)『現代語法序説』(復刊1972) くろしお出版
- 三上章(1955)『現代語法新説』(復刊1972) くろしお出版
- 三上章(1960)『象は鼻が長い—日本文法入門—』くろしお出版
- 山田敏弘(2001)「北陸方言における主題・とりたてを表す「は」の運用について」『とやま・  
ことばの研究ノート』第3集

## B 項目

<G 本○○○> : GAJ 本調査(○○○は質問番号)

<G 準○○○> : GAJ 準備調査(○○○は質問番号)

※他にも A5 節であげた文献の例文を参考にしたものがある。

### I 前接音による異形態，主格助詞との区別についての確認

- (1) a. この傘は私のだ。【末尾音 a+提題】  
b. 傘がなくなった。【末尾音 a+主格 (中立叙述)】  
c. 「何がなくなったの?」「私の傘がなくなったんだ。」【末尾音 a+主格 (指定)】
- (2) a. あの人是谁? 【末尾音 o+提題】  
b. テレビを見ていたら，あの人<sup>が</sup>来た。【末尾音 o+主格 (中立叙述)】  
c. 「誰が悪い?」「あの人<sup>が</sup>悪い。」【末尾音 a+主格 (指定)】
- (3) a. あの犬<sup>は</sup>どこの家の? 【末尾音 u+提題】  
b. 道を歩いていたら，犬<sup>が</sup>ついてきた。【末尾音 u+主格 (中立叙述)】  
c. 「ペットを飼うなら何がいい?」「犬<sup>が</sup>いい。」【末尾音 u+主格 (指定)】
- (4) a. 雨<sup>は</sup>もうやんだ? 【末尾音 e+提題】  
b. 外で遊んでいたら，雨<sup>が</sup>降ってきた。【末尾音 e+主格 (中立叙述)】  
c. 雨<sup>が</sup>事故の原因だ。【末尾音 e+主格 (指定)】
- (5) a. 雪<sup>は</sup>もうやんだ? 【末尾音 i+提題】  
b. 外で遊んでいたら，雪<sup>が</sup>降ってきた。【末尾音 i+主格 (中立叙述)】  
c. 雪<sup>が</sup>事故の原因だ。【末尾音 i+主格 (指定)】
- (6) a. 新聞<sup>は</sup>もう来た? 【末尾音 N+提題】  
b. 8時なのに新聞<sup>が</sup>まだ来ない。【末尾音 N+主格 (中立叙述)】  
c. 朝日新聞<sup>が</sup>お気に入りだ。【末尾音 N+主格 (指定)】

### II 共通語の「は」との対照

#### 1. 主題提示の「は」

##### 1.1 格項目の一つが主題となったもの

###### 1.1.1 ガ格名詞句

###### 1.1.1.1 名詞述語

- (1) (テレビに鯨が出てきたのを見て) 鯨<sup>は</sup>魚?
- (2) (上の質問に) いや，鯨<sup>は</sup>哺乳類だよ。
- (3) あなたの息子<sup>は</sup>大学生?
- (4) (上の質問に) a. うん，うちの息子<sup>は</sup>大学生だよ。  
b. いや，うちの息子<sup>は</sup>まだ高校生だよ。
- (5) この問題<sup>が</sup>解ける人<sup>は</sup>天才だ。

- (6) 太郎はこの会社の社長だ。
- (7) あの人は先生か。〈G 準 090 (疑問表現)〉
- (8) 「あれは何か」と聞かれて) あれは学校だ。〈G 本 120〉
- (9) ここに有るのは何か。〈G 本 102〉

#### 1.1.1.2 形容詞述語

- (1) (テレビに鯨が出てきたのを見て) 鯨は大きい?
- (2) (上の質問に) うん, 鯨はたいていの魚より大きいよ。
- (3) このみかんは甘い?
- (4) (上の質問に) a. うん, このみかんはとても甘い。  
b. いや, このみかんは酸っぱい。
- (5) この部屋はとても静かだね。
- (6) 彼が失敗するのはは明らかだ。

#### 1.1.1.3 動詞述語

- (1) (テレビにペンギンが出てきたのを見て) ペンギンは空を飛ぶ? 【恒常的事態】
- (2) (上の質問に) いや, ペンギンは飛ばないよ。【恒常的事態】
- (3) あなたはいつも朝何時に起きる? 【恒常的事態】
- (4) (上の質問に) 私はたいてい朝 6 時に起きる。【恒常的事態】
- (5) (帰宅して) 太郎は何してる? 【一時的的事態】
- (6) (上の質問に) 太郎は部屋で勉強してるよ。【一時的的事態】
- (7) 今, 雨は降っていますか? 【一時的的事態】
- (8) 太郎は, 先週, 東京に出張に行きました。【一時的的事態】
- (9) この会社の多くの社員は 5 時になるとすぐ帰る。【恒常的事態, A=不定名詞句 (丹羽 2006: 第 5 章)】
- (10) この前の地震のとき, ある人は, 何かの祟りだと言った。【一時的的事態, A=不定名詞句 (丹羽 2006: 第 5 章)】

#### 1.1.1.4 存在動詞・「ない」が述語

- (1) (路上で) すみません, 本屋はどこにありますか? 【場所存在文】
- (2) (上の質問に) 本屋は向こうの商店街の中にあります。【場所存在文】
- (3) 山田さんはどこにいますか? 【場所存在文】
- (4) (上の質問に) 山田さんは今, 隣の会議室にいます。【場所存在文】
- (5) 日本でいちばん大きな湖は琵琶湖です。琵琶湖は滋賀県にあります。【場所存在文】
- (6) 100m を 3 秒で走る人はいない。【絶対存在文】
- (7) (路上で) すみません, この辺に本屋はありますか? 【絶対存在文】
- (8) (上の質問に) いえ, 本屋はありません。【絶対存在文】
- (9) 何か欲しいものはある? 【絶対存在文】

※ A=存在場所・持ち主の場合については, 1.3.1.1 参照

#### 1.1.2 フ格名詞句

- (1) この絵は誰が描いたの?
- (2) (上の質問に) その絵は私が描いた。
- (3) その話は太郎から聞いた。

- (4) この薬は食前に飲みなさい。【B=行為要求表現】
- (5) (荷物を運び入れながら) この棚はどこに置けばよいですか。【B=当為表現】
- (6) (上の質問に) その棚は角に置いてください。【B=行為要求表現】
- (7) 私のセーターはどうした？
- (8) (上の質問に) あのセーターはクリーニングに出した。

### 1.1.3 二格名詞句

- (1) この料理は日本酒がよく合う。
- (2) 北海道は去年行った。
- (3) 富士山は去年登った。
- (4) 穴があいた箇所は粘土を詰めてください。【B=行為要求表現】

## 1.2 格項目以外が主題となったもの

- (1) この会の幹事は誰？【倒置指定文】
- (2) (上の質問に) 幹事は太郎だ。【倒置指定文】
- (3) このメニューのなかで一番高いのはどれ？【倒置指定文】
- (4) (上の質問に) 一番高いのはこれだ。【倒置指定文】
- (5) 家は、結婚してお金がたまると欲しくなるものだ。【倒置同定文】
- (6) あの人是谁か。〈G 準 089 疑問項目〉【倒置同定文】
- (7) 明の明星は宵の明星だ。【倒置同一性文】
- (8) この部屋は今、重要な会議が行われている。【動作・出来事の場所】  
※「動作・出来事の時」は、2.2.3.6 参照
- (9) 太郎はもう帰ってよい。次郎はもう少し残りなさい。【動作主—行為要求表現，対比性強】
- (10) (皆に指示を出している人に) 私達は何をすればいい？【動作主—当為表現】
- (11) 奥さんの家出は君が悪い。【破格の主題】
- (12) 詳しいことは説明書を読んで下さい。【破格の主題】
- (13) 決勝戦は太郎が圧勝した。【破格の主題】
- (14) このにおいはガスがもれているに違いない。【破格の主題】
- (15) (食堂でメニューを見て) 私は日替わり定食。あなたは？【ウナギ文，対比性強】
- (16) (皆に掃除の指示を出している) じゃあ、太郎は風呂，次郎はトイレ。【ウナギ文，対比性強】
- (17) 男は度胸。女は愛嬌。【ウナギ文，対比性強】

## 1.3 「AハBガC」型の文

### 1.3.1 「BガC」がAについての属性叙述である文

#### 1.3.1.1 A=場主語の文

- (1) あの部屋は窓がない。【A=存在場所】
- (2) あの部屋は窓はある？【A=存在場所，「AハBハC」】
- (3) 日本は温泉が多い。【A=存在場所】
- (4) あなたは故郷がなつかしい？【A=感情の主体】

- (5) (太郎の様子を見ながら) 太郎はあしたの遠足がうれしいんだね。【A=感情の主体】
- (6) 太郎は納豆が食べられない。【A=可能文の動作主体】
- (7) 太郎は何が食べられないの? 【A=可能文の動作主体, 指定内臓-読み】

#### 1.3.1.2 「象は鼻が長い」構文

- (1) 象は鼻が長い。
- (2) 象は何が長い? 【指定内臓-読み】
- (3) あの人は色が黒い。<G 準 243>
- (4) 私はもの覚えが悪い。
- (5) 日本は国土が狭い。
- (6) あいつは父親が医者だ。

#### 1.3.1.3 「カキ料理は広島が本場だ」構文

- (1) カキ料理はどこが本場?
- (2) (上の質問に) カキ料理は広島が本場だよ。
- (3) この芝居は誰が主役なの?
- (4) (上の質問に) この芝居は太郎が主役だよ。

#### 1.3.2 「魚は鯛がおいしい」構文

- (1) 魚は何がおいしい?
- (2) (上の質問に) 魚は鯛がおいしい。
- (3) 酒は何が好き?
- (4) (上の質問に) 酒は日本酒が好きだ。

#### 1.4 対比性が強い「は」

- (1) (「子供は何人?」と聞かれて) 二人です。上の子は大学生で, 下の子は高校生です。【A=ガ格, B=名詞述語】
- (2) (兄弟二人の性格を聞かれて) 兄はおとなしいが, 弟は活発だ。【A=ガ格, B=形容詞述語】
- (3) (この部屋の絵は誰が描いたのと聞かれて) その絵は父が描いて, あの絵は私が描いた。【A=ヲ格, B=動詞述語】
- (4) (今日の飲み会に太郎と次郎は来るかと聞かれて) 太郎は来るが, 次郎は来ない。【A=ガ格, B=動詞述語 (肯定対否定)】
- (5) (今日の飲み会に太郎は来るかと聞かれて)
  - a. 弟の次郎は来るが, 太郎は来ない。
  - b. 太郎は来ないけど, 弟の次郎は来る。【A=ガ格, B=動詞述語 (肯定対否定)】
- (6) (相手の説明が分かりにくいので要点を求めて) 結局, 誰は来て, 誰は来ないの? 【A=ガ格・不定語, B=動詞述語 (肯定対否定)】
- (7) あの人は, ビールは飲まないが, 酒は飲む。<G 本 119> 【A=ヲ格, B=動詞述語 (肯定対否定)】
- (8) (「何か運動してる?」と聞かれて) ラジオ体操はしてるよ。【A=ヲ格・疑問の焦点】
- (9) 必ず誰かは来るだろう。【A=ガ格・不定語】

- (10) 客は多いが、もうからない。【事態どうしの対比, A=ガ格】
- (11) 春は来たけど、まだ暖かにならない。【事態どうしの対比, A=ガ格】
- (12) 子供は飲めない薬【連体修飾節内の「は」, A=ガ格, B=動詞述語（肯定対否定）】
- (13) 太郎は納豆は食べられる。【AハBハC】
- (14) 花子は頭はよい。【AハBハC】

※格項目以外の場合については、1.2を参照。

## 2. 主題提示とは言いがたい「は」

### 2.1 A=名詞句

- (1) 東京は神田の生まれだ。
- (2) これは道を間違えたかな。
- (3) これはまいった。
- (4) 妙なことは妙だ。
- (5) 何はなくとも、これさえあればいい。

### 2.2 A=名詞句以外

#### 2.2.1 A=名詞句+格助詞

※格助詞の用法分類や例文については、益岡・田窪(1987)を主に参考にした。

##### 2.2.1.1 ニ

- (1) 駅前には何があるの?【存在場所】
- (2) (上の質問に) 南口には商店街があつて、北口にはオフィスビルがある。【存在場所】
- (3) あの部屋には窓がない。【存在場所】 cf. 1.3.1.1(1)
- (4) この宿にはたくさんの客が泊まっている。【存在場所】
- (5) 日本には温泉が多い。【所有者】
- (6) 私には子供が3人いる。【所有者】
- (7) (「3時頃、時間ある?」と聞かれて) 3時には会議がある。【時・順序】
- (8) 最後には山田が着いた。【時・順序】
- (9) (「こんなに遅く帰って親に叱られない?」と聞かれて) 母には叱られないだろうが、父には叱られるかもしれない。【動作主(受身文)】
- (10) この食品は刺激が強いので、子供には食べさせないほうがよい。【動作主(使役文)】
- (11) 他人に分らなくても、私には分かる。【動作主(可能・自発文)】
- (12) 駅には着いたけど、会場までの道が分からない。【着点】
- (13) 北海道には去年行った。cf. 1.1.3(2)
- (14) 壁には何も貼るな。【着点】
- (15) (太郎の様子を見て) 商売人にはなれないな。【変化の結果】
- (16) 妻には何もしないが、子供には何でも買ってやる。【受け取り手】
- (17) このこと、太郎には絶対に話すなよ。【相手】
- (18) 最近、田中さんには会った?【相手】
- (19) この料理には日本酒がよく合う。【対象】 cf. 1.1.3(1)



- (20) 富士山には去年登った。【対象】 cf. 1.1.3(3)
- (21) 穴があいた箇所には粘土を詰めてください。【対象】 cf. 1.1.3(4)
- (22) 私はその質問には答えられません。【対象】
- (23) 親には逆らってばかりだ。【対象】
- (24) 転職することを決めるには勇気が要った。【対象（動詞＋ニハ）】
- (25) たいしたことはないと思うが、行くには行く。【〈用言〉ニハ〈用言〉】
- (26) 卒業式には黒いスーツで行くつもりだ。【目的】
- (27) 毎晩飲みには行かない。【目的（動詞連用形＋ニハ）】
- (28) 大学へ行くためにはもっと勉強しなければならない。【目的（動詞＋タメニハ）】
- (29) 高校へ行くためには特に勉強しなかったが、大学へ行くためには勉強した。【目的（動詞＋タメニハ）】
- (30) 大学へ行くにはもっと勉強しなければならない。【目的（動詞＋ニハ）】
- (31) あの人のふざけた態度には本当に腹が立った。【原因】
- (32) 酒には決して酔わない。【原因】

#### 2.2.1.2 デ

- (1) この部屋では今、重要な会議が行われている。【動作・出来事の場所】 cf. 1.2(8)
- (2) 最初の計画では一人で全部やるはずだった。【動作・出来事の場所】
- (3) この道は車では行けない。【手段・道具】
- (4) あの人は、ちょっとした風邪では休まない。【原因】
- (5) 試験の結果では判断できない。【材料】
- (6) 会議は3時間では終わらない。【範囲・限度】
- (7) 裸足では歩くな。【様態】
- (8) 一人では行くな。【様態】
- (9) 彼女の本名は分からないが、自分では田中と言っていた。【動作主】
- (10) 昔は賑やかだった駅前が、今ではさびびれてしまった。【時、「は」がないと不可】

#### 2.2.1.3 ト

- (1) 太郎とはもうつきあっていない。【動作の相手】
- (2) (他の人とは別れたが) 太郎とは今もつきあっている。【動作の相手】
- (3) 昔の太郎とはもう違う。【関係の相手】
- (4) 彼女は田中とは似合わないが、山田とはお似合いだ。【関係の相手】
- (5) 雨がすぐに雪とはならない。【変化の結果】

#### 2.2.1.4 カラ

- (1) これからはもっと親孝行をしなさい。【時の起点】
- (2) 明日からは禁煙するつもりだ。【時の起点】
- (3) 彼の話聞いてからは前よりずっとやる気が出てきた。【時の起点】
- (4) この窓からは何も見えない。【場所の起点】
- (5) 私からは彼に連絡できない。【動作主】
- (6) 窓からは入れない。【経由点】
- (7) 単なる不注意からは事故は起きない。【原因】
- (8) この米からはうまい酒が作れない。【原料】

### 2.2.1.5 マデ

- (1) お昼頃までは家にいた。
- (2) せめて定年までは働きたい。
- (3) 静岡までは無理だが、東京までは今日中に行ける。

### 2.2.1.6 ヨリ

- (1) 彼は私よりは背が高い。
- (2) 車で行くよりは電車で行ったほうが早い。

### 2.2.2 A=名詞句＋とりたて助詞

- (1) 食べるくらいは何とかなる。〈G 準 269〉
- (2) 今度こそはきっと成功する。
- (3) 太郎だけはほかの人と違う。
- (4) 飲み水まではなくならないだろう。

### 2.2.3 A=副詞（形容詞・形容動詞連用形の副詞的用法を含む）

#### 2.2.3.1 動作の様態

- (1) 「(「黒板の字見える?」と聞かれて) はっきりとは見えない。
- (2) 「(「黒板の字見える?」と聞かれて) ぼんやりとは見える。
- (3) 車はすぐには止まれない。
- (4) そんなに難しくは考えていない。
- (5) そんなに静かには歩けない。

#### 2.2.3.2 動作の結果

- (1) 太ってはいるが、そんなにまるまるとは太っていない。
- (2) 「(「みんな並んだ?」と聞かれて) 一応、一列には並んだ。
- (3) 「(「髪を赤く染めたんだって?」と言われて) 「赤くは染めていないよ。」
- (4) そんなにがんじょうには作らなくてよい。

#### 2.2.3.3 認識・思考の内容

- (1) 彼女は、それほど若くは見えない。
- (2) それほどくやしくは思わない。
- (3) それほど意外には思わない。

#### 2.2.3.4 数量・程度・頻度

- (1) 「(「用意した食事食べた?」と聞かれて) 全部は食べなかった。
- (2) 「(「食欲がない」と言う人に) 少しは食べないとだめだよ。
- (3) 色を塗ると少しはましになった。
- (4) 多少は欠点もある。
- (5) 「どのぐらい売れそう?」「一日に二百本は売れると思うよ。」
- (6) どうがんばっても一日に二百本は売れない。
- (7) 一部は不満もあったが、全体的には評判がよかった。
- (8) このゲームは、たいていは先手が勝つ。
- (9) たまには来てください。

(10) いつもはここに係りの人がいるんです。

### 2.2.3.5 時間関係

- (1) 朝までずっとは電話していない。
- (2) しばらくは会わないでおく。
- (3) 太郎はもともとは教師だった。
- (4) 結局は見つからなかった。
- (5) 今のところは結婚の予定はない。
- (6) そんなに早くは帰らなかった。

### 2.2.3.6 時

- (1) きのうは父が出張から帰りました。
- (2) きのうは来たけど、今日は来ない。
- (3) 来年は大学を卒業します。

### 2.2.3.7 文副詞・接続詞

- (1) 具体的には何をやればいいのか?【「は」がなくともほぼ同義】
- (2) クラスはだいたい30人。正確には32人だ。【「は」がないと不可】
- (3) 続いては、ニュースをお伝えします。【「は」がなくともほぼ同義】
- (4) コーヒーまたは紅茶がつく。【「または」で語彙化】

### 2.2.4 引用節

- (1) 私は、雨が降るとは言ったが、雪が降るとは言っていない。
- (2) 雪が降るとは思わなかった。
- (3) 立春とは言っても、まだ寒い。
- (4) 勝つとは限らない。

### 2.2.5 用言の連用形＋は＋補助用言

#### 2.2.5.1 動詞連用形・サ変名詞＋ハ＋スル

- (1) 教科書を買いはしたが、まだ開けていない。
- (2) あの計画は、進行はしているが、成果が出ない。【サ変】
- (3) 彼にこんな難しい話が分かりはしないだろう。【否定の強調】
- (4) きのうは役場などに行きはしなかった。<G本199(否定表現)>【否定の強調】

#### 2.2.5.2 動詞テ形＋ハ＋補助動詞

- (1) 「やってみて」「一応ためしてはみるけど、期待しないで。」
- (2) 決してあなたを忘れてはいなかった。【否定の強調】

#### 2.2.5.3 形容詞・形容動詞の連用形＋ハ＋補助用言

- (1) (友達から「その着物は高かったか」と聞かれて) いや、それほど高くはなかった。  
<G本202(否定表現)>
- (2) これ以上高くはなっても安くはならない。
- (3) ここはそれほど静かではない。
- (4) もう元気にはならない。
- (5) やっと元気にはなった。

#### 2.2.5.4 名詞句＋断定辞連用形デ＋ハ＋補助用言

- (1) ここは子供の遊び場ではないよ。
- (2) 太郎はこの大学の関係者ではあるが、学生ではない。
- (3) そこまで口を出されるとたまったものはない。【「たまったものではない」で慣用化】
- (4) もしかしたら、お前は東京に行くのはないか。〈G本143〉

※「名詞句＋ニハ＋ナル」は、2.2.1.1(15)参照

#### 2.2.6 連用副詞節

- (1) 泳ぎながらは食べられない。
- (2) こうなった以上は、あきらめるしかない。【「は」がなくてもほぼ同義】
- (3) 雨が降っている限りは出られない。【「は」がなくてもほぼ同義】
- (4) そこまで言うからは何か根拠があるはずだ。【「からには」で慣用化】

※2.2.1.1にも「～タメニハ」「～ニハ」をあげた

#### 2.2.7 「～ては」条件節

- (1) 食っては寝る。【反復】
- (2) もうやめてはどうか？【提案】
- (3) そっちへ行ってはいけない。〈G本153〉【後件が否定的な事態】
- (4) そんなことを言っては失礼だろ。【後件が否定的な事態】
- (5) 我慢して病気になっては元も子もない。【後件が否定的な事態】
- (6) こんなに安月給では食っていくのがやっとだ。【後件が否定的な事態】
- (7) 軽い気持ちで参加してもらっては困る。【後件が否定的な事態】
- (8) 無理をしてはだめだ。【後件が否定的な事態】

### Ⅲ 「名詞句φ」の提題用法

- (1) わあ！ この本φ，高い。【ガ格名詞句】
- (2) あ！ あの時計φ，止まってる。【ガ格名詞句】
- (3) あ！ この本φ，私も買った。【ヲ格名詞句】
- (4) (旅行先で訪れた場所の話聞いて) あ！ その店φ，私も行った。【ニ格名詞句】
- (5) ねえ，ペンφある？【ガ格名詞句】
- (6) (喫茶店でコーヒーが運ばれてきたのを見て) あれ？ 私φ，コーヒーだっけ。【ウナギ文】

### Ⅳ 引用表現に由来する提題形式

#### 1. 発話・思考・知覚内容を提示して、発話・思考・知覚の成立・不成立を述べるもの

- (1) ねえ，今日雪が降る {って/?とは} 聞いた？
- (2) え？ 今日雪が降る {って/?とは} 聞いてないの？
- (3) ねえ，今日雪が降る {って/?とは} あなたが言ったの？

※ほか、Ⅱ2.2.4を参照

2. 言語表現を主題として提示して、その意味や属性を述べるもの

- (1) (新聞の見出しに「ODA」とあるのを見て)  
「オーディーエー」{って/というのは/とは/\*は} 何? 【言語形式－辞書的意味】
- (2) (上の質問に)
  - a. 「オーディーエー」{?って/というのは/とは/は} 政府開発援助のことだよ。【言語形式－辞書的意味】
  - b. 「オーディーエー」{って/というのは/とは/は}, 確か, 政府開発援助のことだよ。【言語形式－辞書的意味, 捉え直し】
- (3) (「田中さんのところに行ってくる」と言われて)  
田中さん {って/というのは/とは/\*は} 誰? 【固有名詞－指示対象】
- (4) (「そこにあるよ」と言う相手に)  
そこ {って/というのは/とは/\*は} どこ? 【指示語－指示対象】
- (5) (「始まるよ」と言われて)
  - a. 始まる {って/というのは/とは/\*は} 何が始まるの? 【言語表現－表意】
  - b. 始まる {って/?というのは/?とは/\*は} 何が? 【言語表現－表意】
- (6) (「あなたとはもう会いたくない」と言う相手に)「会いたくない」{って/というのは/とは/\*は} 別れるということ? 【言語表現－含意】
- (7) 今日雪が降る {って/というのは/とは/\*は} 本当? 【言語表現－真偽】
- (8) (「お前は馬鹿か」と言う相手に)  
バカ {?って/というのは/とは/は} ひどいなあ。【言語表現－評価】
- (9) 「ゆううつ」{って/というのは/?とは/?は} どう書くの? 【言語形式－表記】
- (10) 「アルバイト」{って/というのは/\*とは/は} 何語? 【言語形式－所属する言語変種】
- (11) 「ビョーキ (病気)」{って/というのは/\*とは/は} 名詞? 【言語形式－所属する品詞】
- (12) (「ODAが必要だ」と言われ, 「ODA」の意味が分からなかったので)
  - a. 今あなたが言ったの {って/\*というのは/\*とは/は} 何?
  - b. それ {って/\*というのは/\*とは/は} 何? 【A=言語表現の指示表現】

3. 事物を主題として提示して、その属性・状況や存否を述べるもの

- (1) 働く {って/というのは/とは/\*は} 大変なことだなあ。【動詞終止形接続】
- (2) 人間 {って/というのは/とは/は} 本当に高等動物なのかなあ。
- (3) 山田さん {って/というのは/とは/は} なかなか面白い人だなあ。
- (4) 山田さん {って/というのは/とは/は} なかなか面白いなあ。
- (5) あの人 {って/\*というのは/\*とは/は} なかなか面白い人だなあ。【A=指示語】
- (6) (自分の姉に) お母さん {って/\*というのは/\*とは/は}, 結構おしゃべりだよな。  
【A=身近な事物】
- (7) 田中物産 {って/というのは/\*とは/は} どこにありますか? 【B=存否】
- (8) 駅 {って/?というのは/\*とは/は} どこにありますか? 【A=身近な事物, B=存否】
- (9) この本 {って/\*というのは/\*とは/は} 読んだことある? 【A=指示語, B=存否】
- (10) 太郎 {って/\*というのは/\*とは/は} 今あそこで働いているんだって。【A=身近な

事物， B=一時的状況， 捉え直し】

- (11) 雪が降る {とは/?というのは/?って} 意外だ。【A=認識した事態】
- (12) [高校野球の決勝戦の結果を知って] 二年連続優勝 {とは/?というのは/?って} 見事だ。【A=認識した事態】
- (13) 二年連続で優勝する {って/?というのは/\*とは}， 無理だろうな。【A=仮定的な事態】
- (14) (帰宅して) 太郎 {?って/は} 何してる？ 【B=一時的状況】 = II 1. 1. 1. 3(5)
- (15) (太郎が何時間も部屋から出てこないのに気付く)
- a. 太郎 {って/は} 一体何してるの？ 【B=一時的状況， 捉え直し】
- b. 太郎 {って/は} ひょっとして勉強してるの？ 【B=一時的状況， 捉え直し】
- (16) (食堂でメニューを見て) 私 {\*って/は} 日替わり定食。あなた {\*って/は}？ 【ウナギ文， 対比性強】 = II 1. 2(15)
- (17) (食堂で， 太郎がトイレに行っている間に店員が注文をとりに来た。他の同席者に) えーと， 太郎 {って/は} うどんだけ？ 【ウナギ文， 捉え直し】
- (18) a. (太郎が遊ぶ様子を見て) 太郎 {って/は} おとなしいね。
- b. (兄弟が遊ぶ様子を見て) 太郎 {?って/は} 活発だけど， 次郎 {?って/は} おとなしいね。【対比性強】
- (19) (ふだん話題にしない人について突然) ねえ， 3丁目の山田さん {って/?は} 交通事故にあったんだって。【新主題】
- (20) 3丁目に山田さん {って/\*は} いるじゃない？ あの人， 交通事故にあったんだって。【新主題， B=存否】

## V 仮定条件表現に由来する提題形式

### 1. 受取主題の場合

- (1) (玄関前に太郎の友達がいるのに気付いて) 太郎なら二階にいるよ。【受取主題に連続する条件表現】
- (2) 「太郎はどうした？」「太郎 {なら/は} 二階にいるよ。」【受取主題】
- (3) 「太郎と花子はどうした？」「太郎 {?なら/は} 二階で勉強してて， 花子 {?なら/は} 外で遊んでる。」【受取主題， 対比性強】

### 2. その名詞句に焦点がある場合

- (1) (「何か運動してる？」と聞かれて) ラジオ体操 {なら/は} してるよ。 = II 1. 4(8)
- (2) (今日の飲み会に太郎は来るかと聞かれて) 太郎 {?なら/は} 来ないけど， 弟の次郎 {なら/は} 来る。 = II 1. 4(5)
- (3) (「語学学習が趣味だ」というが， 英語もドイツ語もフランス語も中国語も知らないというので) じゃあ， 何 {なら/?は/が} できるの？ 【A=疑問詞】
- (4) 「ドイツ語ができる人なんて， このクラスにはいないよなあ。」「隣のクラスに {なら/は} いるよ。」【A=名詞+助詞】

## 副助詞 (付:接尾辞)

三井はるみ

### A 解説

#### 1. 副助詞とは

副助詞の定義や所属語には諸説あり，準体助詞，形式名詞，接尾辞との区別もさまざまである。その中で，近藤(1982)が「他の現代語文法の記述もこれを大きくはみ出すものはないようである」として示している語は，次のとおりである。

##### 副助詞

か，から，きり，くらい(ぐらい)，こそ，さえ，しか，しも，すら，だけ，だって，でも，とて，など(なぞ・なんぞ・なんか)，なり，なんて，のみ，は，ばかり，ほど，まで，も，やら

##### 接尾辞

がてら，ぐるみ，ごと，とも，ずつ

また，副助詞のもつ，「同類のほかの事項からある事項を取り上げる」という性質に着目して，「とりたて(詞)」と称されることもある。

この章では，上記の副助詞のうち，「極限のとりたて」を担うもの(下線\_\_\_の語)と，「限定のとりたて」を担うもの(下線\_\_\_の語)を中心に扱う。なお「は」(下線\_\_\_)は「主題」の章で扱われることになるだろう。

#### 2. 日本方言の副助詞

友定(2003)は，上野(2003)，小林(2003)，三井(2003)の記述を踏まえた上で，国立国語研究所(1989)，方言研究ゼミナール(2000)を資料として分析を行い，方言におけるとりたて形式の分布の特徴について，次のようにまとめている。

##### (1) 特立のとりたて(引用注:こそ)

ア 西日本に残存分布

イ 九州での文末用法，関西での限定用法など特定地域での派生用法がある。

ウ 語形のバリエーションが(単純な音変化を除いて)極めて少ない。

##### (2) 極限のとりたて(引用注:すら，さえ，でも，まで，も，だって，くらい，など)

ア 「だに」「すら」「さえ」が衰退し，「まで」「も」「でも」になりつつある。

イ 古態性を有する語が周辺域で健在というのが，山陰の「だに」を除いては見られない。(引用注:三井(2003)では，山陰の「ダエ」などの形は，古典語の「だに」の残存ではなく，「であれ」からの変化であるとの見方を示した)

ウ 語形のバリエーションが少ない。

(3) 限定のとりたて (引用注:ばかり, だけ, しか)

ア 地域性が大きく, 特に西日本で各種の語形が見られる。

イ 古態性を有する語も各地に健在しており, 独自の用法を見せている。

ウ 語形のバリエーションが多い。

### 3. 調査の着眼点

「極限」「限定」の各意味分野ごとに, その中での各語形の意味用法の広がり, 統語的特徴に着目して, 調査項目を設定する。さしあたり, 共通語文法で明らかになっている特徴に沿って着眼点を設け, 方言で問題となる点をそれに加える。3.1. は主に三井(2003), 3.2. は主に, 沼田(2000), 沼田・野田(2003)による。

#### 3.1. 極限(意外性・類推)を表すとりたて

「極限のとりたて」は, 極端で意外なものごとを提示し, より一般的な場合について類推させる表現である。共通語では, 「も, さえ, すら, でも, だって, まで」等が, この表現を担う。

○ 最近は子ども {も/さえ/すら/でも/だって/まで} パソコンを使っている。

以下に, 調査項目設定の観点を箇条書きで挙げる。

##### (1) 意味・用法

〈極限(意外性)〉 〈累加〉 〈最低条件〉, その他のとりたての用法, とりたて以外の用法

##### (2) 統語的特徴

① 前接要素: 名詞, 名詞+助詞, 活用語連用形, テ形, 指示語, 数量, 疑問詞 等

\* 「さえ」… 「数量」「疑問詞」が前接しにくい。

② 文末表現: 未定, 既定, 否定

\* 「さえ」… 文末は主に「既定」(既定の事実・確定した事態。形式としては, 動詞過去形・ている形・否定形, 可能表現 等)。疑問の「か」とは共起しにくい。

\* 「まで」… 文末に「否定」をとりにくい。

\* 〈例示〉用法の「でも」(eg. お茶でも飲もうか) … 文末は「未定」(意志・希望, 命令文, 疑問文 等)

\* 方言では, 文末が「否定」に限られる形式がある。(eg. 雲伯方言の「ダエ」)

③ 後接要素

④ 従属節の内部

⑤ 副助詞の相互承接

##### (3) その他

最大限を表すか最小限を表すか, 文体 等

#### 3.2. 限定のとりたて

「限定のとりたて」は, とりたてられる要素一つがそうであり, 同類の他の要素はすべてそうではないと, 他の要素を排除する表現である。共通語では, 「だけ, のみ, ばかり,



しか」等が、この表現を担う。

○ 田中さんと {φ / だけ / のみ / ばかり} 会いました。

○ 田中さんと しか 会いませんでした。

以下に、調査項目設定の観点を箇条書きで挙げる。

(1) 意味・用法

① とりたての用法〈限定〉

\* 「ばかり」… 複数性, 「多い」という主観の付加

\* 「しか」… 補集合の否定に重点 (「他のものについては成り立たない」ことを強調)

② とりたて以外の用法

\* 「だけ」「ばかり」… とりたて以外の用法がある。

a. 形式名詞, 形式副詞

a-1. 形式名詞〈概数量〉

\* 「だけ」… 前は数量詞以外の数量表現 (eg. 片手でつかめただけが賞金だ。)

\* 「ばかり」… 前は数量詞, 「ばっかり」は使えない  
(eg. みかんを三つばかりください。)

a-2. 形式副詞〈程度・量〉〈原因・理由〉〈動作の様態〉

b. アスペクト

\* 「ばかり」… 〈アスペクト〉の用法がある (eg. 帰ってきたばかりだ。)

(2) 統語的特徴 (「① とりたての用法」について, 「のみ」は「だけ」とほぼ同じ)

① 前接要素: 名詞, 格助詞, 用言の連体形, 連用形・テ形

タ形… 「だけ」は○, 「しか」は×

「ばかり」は〈限定〉の意味では× (〈アスペクト〉の意味なら○)

数量詞… 「だけ」「しか」は○ (補集合の方が大)

「ばかり」は〈限定〉の意味では× (〈概数量〉の意味なら○)

否定, 状態性用言, 可能動詞… 「だけ」は○, 「ばかり」は古めかしい言い方

(eg. 英語が話せるだけだ。「ばかりか」「ばかりでなく」では

○)

② 後接要素: 格助詞, 「の」

格助詞… 「だけ」「ばかり」は (「まで」以外は) ○, 「しか」は×

所有の「の」… 「だけ」○, 「ばかり」「しか」×

その他の「の」… 「だけ」「ばかり」○, 「しか」×

③ 文末表現

\* 「だけ」… 制限なし

\* 「ばかり」… 文末に, 否定述語 (eg. 太郎ばかりかわいがらない。), 状態性述語  
(eg. 花子ばかり頭がいい。) を取りにくい。

\* 「しか」… 文末は否定述語に限られる。

④ 従属節の内部

⑤ 副助詞の相互承接

(3) その他: 文体

\* 「のみ」… 書きことば的

#### 4. 研究の現状

全国分布に関しては、国立国語研究所(1989)に、副助詞、副詞的接尾辞に関する地図25枚が収められている。地図番号、地図名は次のとおりである。(このうち、☆を付けた項目は「B項目」で取り上げた。)

- 第10図 あれは(学校だ) [120]
- 第11図 ビールは(飲まない) [119]
- 第12図 酒は(飲む) [119]
- 第16図 (ここに)有るのは [102]
- 第17図 行くのでは(ないか) [143] 第41図 食いながら(歩くな) [129]
- 第42図 買物がてら(見物する) [109]
- 第43図 帰りがけに(買物をした) [111]
- 第44図 お茶でも(飲もう) [133] ☆
- 第45図 パンでも御飯でも(好きな方を食べなさい) [128] ☆
- 第46図 子どもでも(知っている) [142] ☆
- 第47図 皮だけ(食べた) [131] ☆
- 第48図 (食って)寝るだけなら [130] ☆
- 第49図 雨ばかり(降っている) [093] ☆
- 第50図 百円くらい(使った) [136]
- 第51図 百円しか(ない) [137] ☆
- 第52図 百円ぶん(ください) [134]
- 第53図 皮ごと(食べた) [132]
- 第54図 傘なんか(いらぬ) [139]
- 第55図 安ければ安いほど(良い) [138]
- 第56図 何が起こるやら(わからない) [125]
- 第57図 誰やら(来た) [126]
- 第58図 筆やら紙やら(たくさんもらった) [127]
- 第59図 行くだの行かないだの(ぐずぐず言うな) [144]
- 第60図 今日こそ(終わらせる) [146]

また、体系に配慮した統一調査票による全国調査の報告書として、方言研究ゼミナール(2000)がある。調査地点は国内41地点、調査語は、「か、きり、くらい、こそ、さえ、しか、ずつ、すら、だけ、だって、たら、って、てば、でも、とて、など、なり、なんか、なんて、ばかり、ほど、まで、も、やら」の24語である。沼田・野田編(2003)は、現代語研究、歴史的研究、方言研究の各分野の研究者が共同しつつ分担して日本語のとりたてについて論じている。個別の語を扱ったものとしては、大西(2003)、宮地(2000)などがある。

#### 5. 発展

全国分布、個別の形式の語史については研究の蓄積がなされつつある。一方、各方言における類義表現の意味の異同については、個別の指摘や調査はあるが、それらをまとめて

一方言の体系を記述し、さらに、地理的・歴史的広がり結びつけていく研究はこれからの課題である。

## 6. 文献

- 大西拓一郎 (2003) 「方言における「コソ～已然形」係り結び」『国語学』54-4
- 上野智子 (2003) 「限定のとりたての地理的変異」沼田・野田 (2003) 所収
- 国立国語研究所 (1989) 『方言文法全国地図 第1集』(大蔵省印刷局→国立印刷局)
- 小林隆 (2003) 「特立のとりたての地理的変異」沼田・野田 (2003) 所収
- 近藤泰弘 (1982) 「副助詞の体系 -現代日本語-」『日本女子大学紀要 文学部』32
- 真田信治編 (2001) 『方言文法調査項目リスト -天草編-』「環太平洋の言語」成果報告書A4-003
- 真田信治編 (2002) 『方言文法調査項目リスト -由利編-』「環太平洋の言語」成果報告書A4-008
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味 III』(くろしお出版)
- 友定賢治 (2003) 「とりたての体系の地理的変異」沼田・野田 (2003) 所収
- 丹羽哲也 (2001) 「「取り立て」の範囲」『国文学解釈と教材の研究』46-2
- 沼田善子 (1992) 『日本語文法セルフマスターシリーズ5:「も」「だけ」「さえ」など -とりたて-』(くろしお出版)
- 沼田善子 (2000) 「第3章 とりたて」『日本語の文法2:時・否定と取り立て』(岩波書店)
- 沼田善子・野田尚史編 (2003) 『日本語のとりたて -現代語と歴史的変化・地理的変異』(くろしお出版)
- 方言研究ゼミナール (2000) 『方言資料叢刊8:日本語副助詞の研究』
- 三井はるみ (2003) 「極限のとりたての地理的変異」沼田・野田 (2003) 所収
- 宮地朝子 (2000) 「方言からみたシカの構文的特徴と成立過程」『国語学』51-1

## B 項目

次の調査票 (5. は「限定」のみ) の, 「も, さえ, すら, でも, だって, まで」(極限), 「だけ, のみ, ばかり, しか」(限定) を用いた調査文のすべてを, 「A 解説」の「3. 調査の着眼点」に挙げた観点により整理した。これらの調査票でカバーされていない観点については, 調査文を補充した。

1. 国立国語研究所 (1977) 『方言文法の全国調査のための準備調査票』
2. 国立国語研究所 (1979) 『方言文法の全国調査 第一調査票』 (= 『方言文法全国地図』本調査調査票)
3. 国立国語研究所言語変化研究部第一研究室 (1983) 『文法的特徴の全国的地域差に関する研究: 調査票Ⅱ 副助詞など』
4. 方言研究ゼミナール (2000) 『方言資料叢刊 8: 日本語副助詞の研究』
5. 真田信治編 (2002) 『方言文法調査項目リスト - 由利編 -』 「環太平洋の言語」成果報告書A4-008

各調査文の後には, 1. ~5. の調査票番号と, 各調査票内での調査文番号 (3. は掲載ページ) を, <2-271><4-D12>のように示した。各調査票の説明等も<>内に記した。表記は改めたところがある。

★を付けたのは, 補充した調査文。

※の後は観点・調査文についての説明。

同趣旨の調査文が複数ある場合は, 一つを代表として選び, それ以外は小字で示した。

下線は調査文の形式。{ } 内は共通語で可能と思われる形式の例 (すべてではない)。

項目の配列は, 「I 極限」では, まず意味・用法順に並べ, その中を統語的特徴別に並べた。「II 限定」では, まず共通語の助詞の順に並べ, その中を統語的特徴別に並べた。これは, 「限定」に比べて, 共通語の「極限」の各形式の意味・用法に重なりが大きいためである。

### I 極限のとりたて

#### 1. 極限 (意外性)

##### 1.1. 名詞

[ (が格) / 文末: 既定]

- 1) 子どもさえ {も・すら・でも・だって・まで} 知っている。<3-106, 114>

子どもでも知っている。<1-284><2-142・46図>

- 2) 小学生でさえ {も・さえ・すら・でも・だって・まで} 簡単にワープロを使っている。  
<4-B3>

[ (が格) (可能の対象) / 文末: 既定]

- 3) ゲートボールだって {も・まで} できるよ。<4-20>

[前接: 格助詞「に」 (可能・知覚の主) / 文末: 既定]

- 4) そんなこと子どもにでも {も・さえ・だって} できるよ。<4-22>

5) そんなことは子どもにもも {でも・さえ・だって} 分かる。〈3-117〉

[ (が格) / 文末: 既定 (否定) ]

6) あいさつする暇さえ {も・すら} なかった。〈3-117〉

[ (を格) / 文末: 否定]

7) 名前すら {も・さえ・だって} ろくに覚えていない。〈4-24〉

8) 朝から忙しくて昼飯も {さえ・すら} 食べない。〈4-59〉

[前接: 格助詞「に」 (到達点) / 引用節]

9) まさかあなたにまで {も} 話が行くとは思わなかった。〈4-9〉

[前接: (が格) / 文末: 未定 (疑問) ]

10) お前まで そんなひどいことを言うのか。〈3-108〉

## 1.2. 動詞

[前接: 連用形 / 文末: 否定]

11) 本など開きさえ {も・すら} しない。〈3-117〉

[前接: テ形 / 文末: 否定]

12) 目の前に見せられてさえ {も・すら} , まだ信じられなかった。〈3-105〉

## 1.3. 数量詞

[前接: 数量詞 / 文末: 肯定] ※数量が予想外に大きい

13) 弁当代に千円も かった。〈4-25〉

14) 出発まで, まだ1時間も ある。〈1-277〉

1週間も 休んでしまった。〈3-118〉

## 1.4. 数量詞 (最小量としての1)

15) 1日も 休まない。〈3-116〉

1つも 残っていない。〈3-116〉

## 1.5. 不定詞

[前接: 不定詞 / 文末: 肯定] ※全面的な肯定

16) どれでも {だって} 好きなものをあげるよ。〈3-113〉

17) どれもきれいだ。〈3-117〉

18) そんなことは誰でも {だって・しも} 知っている。〈3-114〉

誰だって {でも} そんなことを言われたら怒るよ。〈4-61〉

19) どこにでも {だって} ある。〈3-114〉

20) 野菜なんていくらでも {だって} できる。〈4-12〉

21) 何年でも {だって} 待つつもりです。〈3-114〉

[前接: 不定詞 / 文末: 否定] ※全面的な否定

22) 誰も いない。〈3-117〉

2. 意外性を伴った累加

2.1. 推移性が文脈に明示されている

[前接:名詞(が格) / 文末:既定]

23) 雨ばかりでなく, 風さえ {も・まで} 吹き出した。<3-105>

[前接:名詞+に(到達点) / 文末:既定]

24) とうとう月にさえ {も・まで} 行けるようになった。<3-106>

2.2. 推移性が文脈に明示されていない ※「さえ」が使いにくい

[前接:名詞(が格) / 文末:既定]

25) 女まで {も・さえ} 酔っぱらっている。<3-110>

[前接:名詞(+を格) / 文末:既定]

26) 親さえ {も・まで} 馬鹿にした。<3-106>

27) 親をさえ {も・まで} 馬鹿にした。<3-106>

[前接:名詞+から格(受け身の動作主) / 文末:既定]

28) 子どもからさえ {も・まで} 馬鹿にされている。<3-106>

3. 同質のもの累加 ※主に「も」

3.1. 同質のものが文脈に明示されている

[前接:名詞(が格) / 文末:既定]

29) 春らしくなって, 梅も桜も一度に咲いた。<4-16>

30) 金も暇もない。<3-116>

31) この家は庭も狭いし日当りも悪い。<3-116>

32) 今年は豊作で, 米ばかりか麦もよくとれた。<4-2>

33) しょうゆだって {も・でも} みそだって {も・でも} 作っていたんだ。<4-13>※意外性

3.2. 同質のものが文脈に明示されていない

[前接:名詞(が格) / 文末:既定]

34) 今日も良い天気だ。<3-115>

[前接:名詞(を格) / 文末:未定]

35) テレビもそろそろ買い換えよう。<4-17>

[前接:名詞+で格 / 文末:未定]

36) あの店でもも売っている。<3-115>

4. 最低条件 ※「～さえ…ば」の形で

[前接:名詞(が格) / 文末:既定]

37) 金さえあれば何でもできる。<3-107>

暇さえあれば釣りに行っている。<4-5>

これさえあればもう大丈夫だ。<4-26>

これさえ有ればいい。<1-273>

[前接:動詞連用形(～する) / 文末:既定]

38) 行きさえすれば分かる。〈3-107〉

〔前接:形容詞連用形／文末:既定〕

39) うるさくさえなければ便利な良い所だ。〈3-107〉

〔前接:形容動詞連用形(～ある)／文末:未定〕

40) 元気でさえあれば, またいつか会えるだろう。〈3-107〉

5. やわらげ ※「も」

41) あいつもなかなかやるね。〈3-115〉

42) 今日という今日はおれもがまんでできない。〈3-115〉

43) 大正も, もう末の頃だ。〈3-118〉

〔前接:数量詞〕 ※ およその数量

44) 3日もあればできる。〈3-118〉

6. 逆接仮定条件(譲歩) ※「でも」

45) お茶なら飲んでも良かった。〈1-286〉

飲んでもかまいません。〈3-116〉

46) 少しでも油断したらだまされるよ。〈3-114〉

47) おそくも9時には帰る。〈3-118〉

7. 選択的例示 ※「でも」

7.1. 1例の例示

〔前接:名詞(を格)／文末:未定(勧め)〕

48) まあお茶でも飲んでください。〈4-6, 18〉

〔前接:名詞(を格)／文末:未定(誘い)〕

49) お茶でも飲もう。〈1-285〉〈2-133・44図〉

7.2. 複数例の例示

〔前接:名詞(を格)／文末:未定(命令)〕

50) パンでも{なり} ご飯でも{なり}好きな方を食べなさい。〈2-128・45図〉〈3-115〉

8. 格助詞・順序助詞・形式副詞等 ※「まで」

8.1. 格助詞

8.1.1. 動作の到達点(場所)

51) ちょっと町まで{へ・に}行ってくる。〈3-108〉

52) 駅までもうちょっとだ。〈4-39〉

頂上まであと一息だ。〈3-108〉

8.1.2. 範囲の終点

53) 東京から大阪まで昔は8時間かかった。※場所〈3-108〉

54) 2000円くらいまでなら何とかなる。※金額〈4-49〉

- 55) あしたまで待ってくれ。※時<1-272>  
56) 願書の受付は来月の10日までだ。※時<3-107>

## 8.2. 順序助詞

- 57) 運動会は秋まで {に} 延期になった。<3-108>

## 8.3. 形式副詞等

- 58) 今さら聞くまでもない。<3-109>  
村長に聞くまでもないことだ。<4-58>  
そんなことは言うまでもないことだ。<3-109>  
59) 勝負はもはやこれまでだ。<3-109>  
60) あくまでがんばるべきだ。<3-109>  
61) この仕事は準備がちよっと面倒なまで {だけ} だよ。※助動詞的<3-110>  
62) ちよっと聞いてみたまで {だけ} です。※助動詞的<3-110>

## 9. 慣用的表現 ※「も」

- 63) 飲みも飲んだり1升も飲んでしまった。<3-119>  
64) 北も北, 北海道の果てだ。<3-119, 反復強調>  
65) 親も親, 子も子だ。<3-119, 反復強調>  
66) あまりにもひどい。<3-118>

## II 限定のとりたて

### 1. だけ

- 1.1. とりたて (<限定>) ※「ばかり」との互換を確認。意味の違いに注意

#### 1.1.1. 名詞

[だけ+格助詞「に」]

- 67) 私だけに教えてください。★

[格助詞「に」+だけ]

- 68) 私にだけ教えてください。★

[だけ (に格)]

- 69) 私だけ教えてください。★ ※「～てください」で方向性明示

[だけ+格助詞「が」]

- 70) いつも私だけが損をする。

女だけが損をする。<3-89, ばかり・相互参照>

[格助詞「が」+だけ] ※共通語では言わない。

- 71) ×いつも私がだけ損をする。

[だけ (が格)]

- 72) いつも私だけ損をする。★

[否定の述語] ※×ばかり

- 73) いつも私だけが損をしない。



[だけ+格助詞「を」]

74) あの人はまんじゅうの皮だけを食べた。★

[だけ+格助詞「を」] ※共通語では言わない。

75) ×あの人はまんじゅうの皮をだけ食べた。★

[だけ(を格)]

76) あの人はまんじゅうの皮だけ食べた。

まんじゅうを皮だけ食べた。〈1-262〉〈2-131・47図〉〈3-89〉

あの人はまんじゅうを皮だけ食べた。〈5-108 とりたて詞 (排他的限定) , =\*ばかり, 本〉

今朝は寝坊をして, パンだけ食べて来た。〈4-N43, 限定〉

[だけ+格助詞「で」]

77) そこには車だけで行ける。★※「車以外は不要」の意

[格助詞「で」+だけ]

78) そこには車だけで行ける。★※「他の手段では行けない」の意

[だけ+「だ」] 述語

79) 反対しているのはあの家だけだ。

〈3-89, ばかり〉〈5-106, とりたて詞 (排他的限定) , =ばかり, 補〉

[だけ+「の」] 連体修飾

80) ここだけの話★

81) 自分だけの部屋★ ※所有の「の」×ばかり

[(指示詞+) だけ+「は」(を格)]

82) それだけ {ばかり} は許してほしい。〈5-104 とりたて詞 (排他的限定) =ばかり, 本〉

[(指示詞+) だけ+「か」] 述語

83) たったそれだけ {△ばかり} か。

たったそれだけか。〈3-90, きり・ばかり, 相互参照〉

たったそれ ばかりか。〈3-83, だけ・きり・相互参照〉

1.1.2. 動詞

[連体形+だけ+「だ」] 主節末

84) 今日はもう寝るだけ {ばかり} だ。※「ばかり」はアスペクトでなく

今日はもう寝るだけだ。〈5-103, とりたて詞 (排他的限定) , =ばかり, 本〉

もう寝るだけだ。〈3-89, ばかり・相互参照〉

もう寝るばかりだ。〈3-83, だけ〉

[状態性動詞 (存在) 連体形+だけ+「だ」] 主節末

85) 部屋には机が一つあるだけ {△ばかり} だ。

部屋には机が一つあるだけだ。〈5-106, とりたて詞 (排他的限定) , =ばかり, 補〉

机が一つあるだけだ。〈3-90, きり・ばかり, 相互参照〉

机が一つあるばかりだ。〈3-83, だけ・きり・相互参照〉

[状態性動詞 (可能動詞) 連体形+だけ+「だ」] 主節末

★86) 外国語は, 英語が話せるだけ {△ばかり} だ。

[連体形+だけ+「だ」未然形] 従属節

87) 食って寝るだけなら, 犬や猫と同じだ。〈1-261〉〈2-130・48図〉〈3-90, ばかり・相互参照〉

[**タ形+だけ+「だ・です」**] 主節末 ×ばかり

88) ちょっと聞いてみただけです。

〈3-92, まで・相互参照〉〈5-105, とりたて詞 (排他的限定), =ばかり, 本〉  
ちょっとやってみただけです。〈3-90〉

ちょっと触っだけだ。〈5-111, とりたて詞 (排他的限定), =\*ばかり, 補〉

### 1.1.3. 形容詞

[**連体形+だけ+「だ」未然形**] 従属節

89) 寒いだけなら, がまんできる。

〈3-89〉〈5-110, とりたて詞 (排他的限定), =\*ばかり, 補〉

### 1.1.4. 形容動詞

[**連体形+だけ+「だ」**] 述語

90) この仕事は準備がちょっと面倒なだけだよ。〈3-92, まで・相互参照〉

### 1.1.5. 数量詞

[**だけ+格助詞「で」**]

91) (他の人には聞かれないので) 二人だけで話したい。

〈5-112, とりたて詞 (排他的限定), =\*ばかり, 補〉

二人だけで話したい。〈3-90, きり・相互参照〉

[**だけ**] 連用用法

92) 東京には一度だけ行ったことがある。

〈5-109, とりたて詞 (排他的限定), =\*ばかり, 補〉

## 1.2. 形式名詞・形式副詞

### 1.2.1. 概数量

[**数量詞以外の数量表現**]

93) 両手で持ちきれだけ持って行っていいよ。★

94) おみやげは家族みんなの分だけありますか。★

[**指示詞**] 従属節

95) これだけ言っても, わからないのか! 〈4-P48, 限界〉

どれだけ金があるものやら, わからない。〈5-93, 形式名詞 (概数量), =\*ばかり, 補〉

あれだけ言ったのに, まだわからないのか。〈5-94, 形式名詞 (概数量), =\*ばかり, 補〉

### 1.2.2. 程度・量 ※前接要素は用言

[**動詞連体形**]

96) そんなことは考えるだけ無駄だ。

〈3-91, 条件・「～ても」〉〈5-99, 形式副詞 (程度・量), =\*ばかり, 補〉

[～ば～だけ・ル形]

97) 勉強すればするだけ成績がよくなる。

<3-91, 条件, 「～ば～だけ」の形で><5-100, 形式副詞(程度・量), =\*ばかり, 補>

肥料をやればやるだけよく育つ。<4-Q50, 陳述的なもの「～ば～だけ」>

[～ば～だけ・タ形]

98) 勉強すればただけ成績がよくなる。★

[動詞タ形+だけのことはある]

99) さすがによく勉強しただけのことはある。<3-91, 「～の価値がある」の意>

さすがに勉強しただけのことはある。<5-97, 形式副詞(程度・量), =\*ばかり, 本>

[形容詞型助動詞連体形]

100) 食いたいだけ食べ。<5-95, 形式副詞(程度・量), =\*ばかり, 本>

[形容動詞連体形]

101) 好きなだけ食べればいい。<5-96, 形式副詞(程度・量), =\*ばかり, 本>

[慣用的・できるだけ]

102) できるだけ協力します。<5-98, 形式副詞(程度・量), =\*ばかり, 本>

なるたけやってみましょう。<3-92, 慣用句>

[慣用的・ありったけ]

103) ありったけの力を出す。<3-92, 慣用句><5-100, 形式副詞(程度・量)=\*ばかり, 補>

1.2.3. 原因・理由

[動詞タ形+だけあって] ※望ましい結果

104) 若い時に苦勞しただけあって, 人間ができている。

<3-91, 「それにふさわしく」の意><5-102, 形式副詞(程度・量), だけあって, 補>

苦勞しただけあって, 人間ができている。<4-J33, 「それにふさわしく」>

[名詞+だけに]

105) さすが東京だけに, 高いビルが多い。<3-91, 「それにふさわしく」の意> [名詞]

[形容動詞連体形+だけに]

106) 静かなだけに, 気をつかう。<3-92, 「それにふさわしく」の意> [形容動詞・連体形]

2. ばかり

2.1. とりたて (<限定>, 複数性・「多い」という主観の付加・マイナス評価)

※「だけ」との互換の確認, 意味の違いに注意

2.1.1. 名詞

[ばかり+格助詞「に」]

107) 買い物にばかりでかける。★

[格助詞「に」+ばかり]

108) 買い物ばかりにでかける。★

[ばかり(に格)]

109) ? 買い物ばかりでかける。★

[ばかり+格助詞「に」] 従属節

110) 家の中ばかりにいないで、外で遊べ。★

[格助詞「に」+ばかり] 従属節

111) 家の中にばかりいないで、外で遊べ。〈3-83, だけ〉

[ばかり+格助詞「が」]

112) いつも私ばかりが損をする。★

女ばかりが損をする。〈3-82, だけ〉

[格助詞「が」+ばかり] ※共通語では言わない。

113) ×いつも私がばかり損をする。★

[ばかり(が格)]

114) いつも私ばかり損をする。★

[ばかり(が格), 状態性述語(テイル形)]

115) 毎日雨ばかり降っている。〈1-276〉〈2-93・49図〉〈3-82, 「いつもいつも」の意〉〈5-117, とりたて詞(複数性), =\*だけ, 「多い」という主観的評価の付加, 本〉

[ばかり+格助詞「を」]

116) そんなに酒ばかりを飲むな。★

[格助詞「を」+ばかり] ※共通語では言わない。

117) ×そんなに酒をばかり飲むな。★

[ばかり(を格)] 複数回

118) そんなに酒ばかり飲むな。〈3-82, 「いつもいつも」の意〉〈5-118, とりたて詞(複数性), =\*だけ, 「多い」という主観的評価の付加, 補〉

[ばかり(を格)] 複数状態

119) 各自てんでに自分のことばかりした。

〈5-119, とりたて詞(複数性), =\*だけ, 「多い」という主観的評価の付加, 補〉

[ばかり+「だ」] 述語 複数状態

120) 私のきょうだいは男ばかりだ。★

[ (指示詞+) ばかり+「は」(を) 格]

121) そればかりは許してほしい。〈3-82, だけ〉

[慣用的・ばかりか]

122) 男ばかりか女まで酔っぱらっている。〈3-85, 「だけではなく」の意〉

男ばかりか女までが酔っぱらっている。〈5-124, その他, =\*だけ, 慣用的, 補〉

父ばかりか母もスポーツ好きだ。〈4-J35, 「～ばかりか」〉

### 2.1.2. 動詞

[テ形+ばかり+いる] 主節末 ※「ている」に割り込み

123) 遊んでばかりいる。〈3-82, 「いつもいつも」の意〉

[サ変動詞語幹+ばかり+する] 従属節 ※サ変動詞に割り込み

124) そんなに勉強ばかりしていると、体に毒だよ。〈4-N44, 限定〉 従属節

### 2.1.3. 形容詞

[連体形+ばかり+「だ」中止形] 従属節

125) からだが大きいばかりで、力がない。〈3-83, だけ〉

[慣用的・ばかりか]

126) あの子は美しいばかりか、頭も良い。

〈5-115, 形式副詞 (程度・量) =\*だけ, 慣用的, 補〉

あの娘は顔が美しいばかりか頭も良い。〈3-84, 「だけではなく」の意〉

## 2.2. 形式名詞・形式副詞

### 2.2.1. 概数量

[数量詞] 主節末

127) 小遣いを千円ばかり使った。〈5-113, 形式名詞 (概数量), =\*だけ, =ほど, 本〉

小遣いを百円ばかり使った。〈3-85, くらい・ほど〉

[数量詞] 従属節

128) 一週間ばかり {ほど・くらい} 留守にするので、頼むよ。〈4-G30, 分量・程度〉

[数量詞以外の数量表現] 主節末

129) おかわりを、茶碗に半分ばかりください。★

[数量詞以外の数量表現] 従属節 ※〈限定〉の意味にもなるか？

130) 少しばかり金をもらっても、どうしようもない。〈3-85, くらい〉

### 2.2.2. 程度・量

[慣用的・んばかり]

131) 帰れと言わんばかりの態度。〈5-114, 形式副詞 (程度・量) =\*だけ, 慣用的, 本〉

帰れと言わんばかりな態度。〈3-85〉

### 2.2.3. 原因・理由

[動詞タ形+ばかりに] 望ましくない結果

132) ちょっと油断したばかりに、とんでもないことになった。

〈4-I32, 理由〉〈5-116, 形式副詞 (程度・量) =\*だけ, ばかりに, 補〉

腹を立てたばかりに損をした。〈3-84, 接続助詞的・事態の悪化〉

### 2.2.4. 動作の様態

[慣用的・とばかり(に)]

133) この時とばかり飲み食いする。★

134) それとばかりに駆けつける。★

### 2.3. アスペクト

[動詞連体形+ばかり] ※動作の開始の直前

135) 出かけるばかりのところに客が来た。

〈3-84, 「ちょうど～」の意〉〈5-122, その他, =\*だけ, アスペクト, 本〉

136) もう食べるばかりにしてある。

〈4-K37, 今にも行われる〉〈5-123, その他, =\*だけ, アスペクト, 補〉

もう食べるばかりになっている。〈3-84, 「ちょうど〜」の意〉

[動詞タ形+ばかり+「だ」] 主節末 ※動作の完了の直後

137) 息子は今出かけたばかりだ。〈3-84〉〈5-120, その他, =\*だけ, アスペクト, 本〉

138) 今, 仕事から帰ったばかりだ。

〈4-K38, 動作の完了直後〉 〈5-121, その他, =\*だけ, アスペクト, 補〉

### 3. しか

3.1. とりたて (〈限定〉), 文末は否定・「他のものについては成り立たない」ことを強調

#### 3.1.1. 名詞

[格助詞「に」+しか]

139) この花はあの山にしかない。〈3-95〉〈5-133, しか: 排他的限定 (否定専用), に格, 本〉

[しか+格助詞「に」] ※共通語では言わない

140) ×この花はあの山しかにない。★

[格助詞「で」+しか]

141) この品物はここでしか売っていない。★

[しか+格助詞「で」] ※共通語では言わない

142) ×この品物はここしかで売っていない。★

[格助詞「まで」+しか]

143) 切符は東京までしか買っていない〈3-95〉〈5-134, しか: 排他的限定 (否定専用), 補〉

[ (準体助詞「の」+) しか (が格) ]

144) 高いのしか残っていない。

〈3-95, きり・相互参照〉〈5-128, しか: 排他的限定 (否定専用), 名詞, 補〉

[格助詞「を」+しか]

145) あの人は酒をしか飲まない。★

[しか+格助詞「を」] ※共通語では言わない

146) あの人は酒しかを飲まない。★

[しか (を格) ]

147) あの人は酒しか飲まない。〈5-126, しか: 排他的限定 (否定専用), 名詞, 補〉

酒しか飲まない。〈3-95〉

148) 今日は酒しか飲みたくない。〈5-127, しか: 排他的限定 (否定専用), 名詞, 補〉

酒しか飲みたくない。〈3-95〉

#### 3.1.2. 動詞

[連体形+しか]

149) もうあきらめるしかない。

〈1-270〉〈3-95, ほか・相互参照〉〈5-132, しか: 排他的限定 (否定専用), 動詞, 補〉

150) あの人が来るのを待つしかない。〈5-131, しか: 排他的限定 (否定専用), 動詞, 補〉

151) やるしかない。★

#### 3.1.3. 形容詞

[連体形]

152) あの家は安いしかとりえがない。

<3-95><5-129, しか: 排他的限定 (否定専用), 形容詞, 補>

[連用形]

153) (庭に池を作ろうとしたが) 土が固くて浅くしか掘れなかった。

<3-95><5-129, しか: 排他的限定 (否定専用), 形容詞, 本>

3.1.4. 形容動詞

[連用形]

154) 酒はたまにしか飲まない。<4-N42, 限定>

3.1.5. 数量詞

155) (お金を使いすぎてもうお小遣いがない) 百円しかない。

<5-125, しか: 排他的限定 (否定専用), 名詞, 本>

百円しかない。<1-268><2-137・51図><3-95, きり・相互参照>

156) どうしておまえ一人しかいないのか。<5-135, しか: 排他的限定 (否定専用), 補>

4. 副助詞の相互承接

157) もうこれだけしかないよ。<4-046, 強調>

158) 息子は1年に2回くらいしか帰らない。<5-136, しか: 排他的限定 (否定専用), 補>

百円くらいしかない。<3-95>

参. 関連する語形

◆ (っ)きり

159) 二人(っ)きり {だけ} で話したい。<3-93>

160) 机が一つある(っ)きり {だけ・ばかり} だ。<3-93>

161) [田植えのこと] うちの田んぼが残っているきり {だけ} で, よそは全部終わった。

<4-N45, 限定>

162) 百円(っ)きり {しか} ない。<3-93>

163) 高いの(っ)きり {しか} 残っていない。<3-93>

164) 東京へ行った(っ)きり帰ってこない。<3-93, 「~のち」の意>

10年前に故郷を離れたきり, 一度も帰っていない。<4-S62, 陳述的, 次の動作が不可能>

165) あれっきりもう来(こ)ない。<1-271>

それ(っ)きりうんともすんとも言っていない。<3-94, 「~のち」の意>

166) まる(っ)きりわからない。<3-94, 接尾語的>

◆ ほか

167) もうあきらめるほか {しか} ない。<3-94>

168) あの人が来るのを待つよりほか {しか} ない。<3-94>

◆ ほど

169) 旅行で三日ほど {くらい・ばかり} 家をあけた。<4-G27>

副助詞 (付:接尾辞)

◆くらい

170) 茶碗に半分くらい {ほど・ばかり} ください。<4-G28>



## 可能表現2

木部暢子

### A 解説

#### 1. ガイドブック1を実際に使った補足

九州方言には「～キル」（読ミキル）、「～ユル」（読ミユル）、「エ～」（エー読ム）、「～（ラ）ルル・（ラ）レル」（読マルル・読マレル）、「～eレル」（読メレル）、「～ナル」（読ミナル）、「～ガナル」（読ミガナル）、「～ガデクル」（読ミガデクル）、「～ダス」（読ミダス）、「～オーセル」（読ミオーセル）など可能を表す形式が多い。1つの地域で4～5つの可能形式が使用されることも少なくない。これを整理するために九州方言研究会では、2002年から2003年にかけて可能表現の調査を行なった。その際、調査項目を『方言文法調査ガイドブック1』（以下『ガイドブック1』と略す）所載の「可能」の調査項目（渋谷勝己氏作成）によった。その経験に基づき、可能表現を調査するにあたっての留意点について述べる。

#### 1.2 調査の概要

調査は九州方言研究会のメンバー（多くは九州各地出身）による内省調査法を用いた。その理由は、可能表現の調査ではかなり複雑な場面設定を行なうため、一般の話者を対象とした調査ではうまく回答が得られないことが多いからである。2002年4月～7月の第1回目の調査では、可能調査の際のさまざまな問題点が明らかとなった。また、1地域の可能表現体系を構築する際に、『ガイドブック1』の調査項目では不足する項目があることも明らかとなった。

そこで、九州方言研究会ではこれらの問題を解決するための補充項目を作成し、第2回目の調査を行なった。調査実施期間は2003年4月～7月、調査方法は第1回目と同じく、九州方言研究会のメンバーによる内省調査法である。以下、調査の留意点と補充項目について述べる。

### 2. 可能調査の留意点

#### 2.1 調査文の多様な解釈を許してしまう

調査の最も大きな問題点は、調査文が多様な解釈を許してしまう点である。例えば「この饅頭はくさっていて、食べることができない」は外的条件可能を想定した調査文だが、場合によっては「くさっていても食べる」ことが能力と解釈されて、本来ならば能力可能

を表す「食べキラン」が回答されることがある。逆に、能力可能を想定した調査文「ニンジンが嫌いだから、食べることができない」が外的条件可能と解釈されて、「食べラレン」が回答されることもある。

## 2.2 複数回答を積極的に推奨する／使用領域を明らかにする

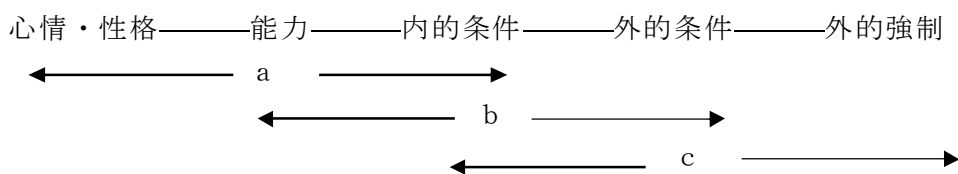
この問題を解決するには、どうすればよいだろうか。もし、解釈の多様性を未然に防ごうとして場面説明を詳細に行ったとすると、回答を誘導してしまうおそれがある。逆に、説明を極力ひかえた自然傍受法では、話者がどのような状況を念頭において「食べキラン」と言ったのか傍受者には判断することができないから、可能の意味を確定することができない。

では、どうすればよいか。それは、積極的に複数回答を推奨することである。そして、それぞれの意味がどのように違うか、できるだけ詳しく説明してもらうことである（『ガイドブック1』15頁にも「一つの語形を得たからといってそこで次の項目に進むのではなく、他の語形についても使用の有無を尋ね、複数が併用される場合にはどのように異なるのか、さらに細かく調べる必要がある」（渋谷勝己）とある）。

しかし、これを一般の話者に要求するのは、かなり無理がある。研究者の内省でも、さまざまな使用場面を設定していくうちに、どの形式でも言えそうな気がしてくる。各語形の意味の違いを説明することは、研究者にとっても大変難しい。

結局、可能表現調査の場合、使用例よりもむしろ不使用例あるいは使用不可能例を回答することが重要であるという結論に達する。つまり、「この調査文の場合、語形aと語形bは使用できるが、語形cは使用できない」という情報が重要で、これを集めていくと、語形aの使用領域、語形bの使用領域、語形cの使用領域・・・が図1のように出てくる。可能表現調査では、このような各可能形式の使用領域を導き出すことに意味がある。

図1 各語形の使用領域



もし、複数の回答が可能な場合、回答者がそのうちの最初に思いついた一つだけを回答したとすると、このような連続した使用領域が描けなくなってしまう。従って、可能表現調査においては複数回答が大切なのである。

## 2.3 体系を網羅する質問項目を

第1回目の調査が終了して、各地域の可能表現体系を構築しようとしたとき、調査票の項目が不足しているという問題が出てきた。例えば、「恥ずかしくて書くことができない」（心情可能）、「難しく書くことができない」（能力可能）、「便せんがなくて書くことができない」（外的条件可能）はあるが、内的条件可能の調査文がない。また、肯定形の質問文が少ない。これはそもそも、内的条件が「主体内部の、病気や気分などの一時的な条件に

よって可能・不可能であること」(『ガイドブック』1:9頁)のような特殊な条件を表すため、また可能表現自体が「～できる」(肯定形)よりも「～できない」(否定形)の方に注目されやすい表現であるためであるが、1方言の体系を構築するためには、やはり内的条件可能の調査文と肯定形の調査文がもう少し必要である。

そこで、このような項目を第2回目の調査で補充した。

## 2.4 動詞を統一する

動詞を統一することも重要である。例えば、能力可能を「食べる」で調査して、外的条件可能を「行く」で調査して、それを合わせて可能体系を整理するというようなことは、避けたい。できれば、「食べる」「行く」の両方でさまざまな場面の調査文を作成して、それを調査するようにしたい。

## 2.5 可能表現を広く捉える

その方言で可能を表す形式にどのようなものがあるか、また、どこまでを可能の範囲に入れるか、ということも重要である。『ガイドブック』1(7頁)には標準語の「(見捨て)がたい」、「(予想)しにくい」、「(読み)えた」、「(有り)うる」の例が挙げられているが、方言でも同じように、典型的な可能形式だけでなく、可能に関係する表現をリストアップして、可能表現を広く捉える方がよい。それにより、その地域の可能表現の特徴がよりの確に捉えられることになる。九州方言では先に述べた「～ダス」、「～オーセル」のようなもの、また「～デケン」や「～ナラン」で禁止を表すようなものなどが、その例となる。

## 2.6 ラ抜き形、レ足す形の現れ方に差がないか

ラ抜き形(見レル)、レ足す形(見レレル、読メレル)がどの程度広まっているかというのも重要である。これは単に形式だけの問題ではなく、「見レル」と「見レレル」は意味が違うといった、意味対立の問題にも発展する。

## 2.7 外部からの援助

九州方言研究会の第1回目調査では、「外部からの援助により能力が付与される、あるいは能力が引き出される場合がある」という指摘があった。これを受けて、第2回目の調査では、このような項目を追加調査した(具体的にはBの2参照)。地域により可能の条件には『ガイドブック』1に挙げられているもの以外に、さまざまなものが加わる可能性があるため、それらを随時調査項目に追加していくのがよい。また、それらを報告することが、可能の研究全体にとって大きな貢献となる。

## 3. 文献

青木博史(2004)「複合動詞『～キル』の展開」『国語国文』73-9

大西拓一郎編(2002)『方言文法調査ガイドブック』科研費研究成果報告書

神部宏泰(1987)「九州方言の可能表現法—その成立と特性—」『兵庫教育大学研究紀要』

7 (神部 1992 に再録)

- 神部宏泰 (1992) 『九州方言の表現論的研究』和泉書院
- 木部暢子・石田直子・市橋潤子・井上優子・川島由美・宮崎朋子・村嶋奈保子・室屋愛子  
(1988) 「九州北部の可能表現」『文献探究』21
- 木部暢子 (2004) 「九州の可能表現の諸相－体系と歴史－」『国語国文薩摩路』48
- 渋谷勝己 (1993) 「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33-1
- 渋谷勝己 (2005) 「日本語可能形式にみる文法化の諸相」『日本語の研究』1-3
- 種友明・糸井寛一 (1977) 「大野川流域における可能表現」『大野川－自然・教育・社会－』大分大学教育学部
- 種友明・日高貢一郎 (1981) 「大分県津江地方の可能表現」『大分大学教育学部研究紀要』5-6
- 永澤濟 (2003) 「式根島方言における可能表現形式」『日本方言研究会第77回研究発表会発表原稿集』
- 日高貢一郎 (1983) 「大分県国東半島の可能表現」『国東半島－自然・社会・教育－』大分大学教育学部
- 船木礼子 (2002) 「天草方言の可能表現」文部科学省特定領域研究 (A) 『消滅に瀕した方言語法の緊急調査研究 (1)』
- 山本友美 (2004) 「熊本県八代市二見野田崎町方言の可能表現について」『日本方言研究会第79回研究発表会発表原稿集』

## B 項目

各項目で、参考となる先行調査票の項目を以下の略号を用いて提示する。

<G 本○○○> : GAJ 本調査(○○○は質問番号)

<G 準○○○> : GAJ 準備調査(○○○は質問番号)

<G 検> : GAJ 検証調査項目

<天> : 真田(2001)に提示された阪大による危機言語天草調査項目

可能の種類 : 「潜在」 = 潜在系、「実現」 = 実現系、「反実」 = 反実仮想

可能の条件 : 「能力」 = 能力、「内的」 = 内的条件、「外的」 = 外的条件

テン ス : 「現」 = 現在、「過」 = 過去、「未」 = 未来

極 性 : 「肯」 = 肯定、「否」 = 否定

### 第2次調査 補充項目

- |    |   |   |    |                                 |
|----|---|---|----|---------------------------------|
| 潜在 | 現 | 否 | 内的 | 腕を骨折したので服を着ることができない (1人称)       |
| 潜在 | 現 | 否 | 内的 | 明日は遠足なのでわくわくして寝ることができない (1人称)   |
| 潜在 | 現 | 否 | 内的 | 手をケガして字を書くことができない (1人称)         |
| 潜在 | 現 | 否 | 内的 | 手が痛くてドアを開けることができない (1人称)        |
| 潜在 | 現 | 否 | 外的 | 電灯が暗いので小さな字は読むことができない           |
| 潜在 | 現 | 肯 | 内的 | 今日は体調がいいので手紙を書くことができる           |
| 潜在 | 現 | 肯 | 内的 | めがねをかければ小さい字でも読むことができる          |
| 潜在 | 現 | 肯 | 内的 | 病気がなおったからどこでも行くことができる           |
| 潜在 | 現 | 肯 | 外的 | 電灯が明るいので小さな字でも読むことができる          |
| 潜在 | 過 | 否 | 能力 | 小学校に行くまで字を書くことができなかった (1人称)     |
| 潜在 | 過 | 否 | 能力 | 小さい時は一人で便所に行くことができなかった (1人称)    |
| 潜在 | 過 | 否 | 内的 | きのうはわくわくして寝ることができなかった (1人称)     |
| 潜在 | 過 | 否 | 内的 | きのうは手をケガして字を書くことができなかった (1人称)   |
| 潜在 | 過 | 否 | 外的 | 先月までそのプールは改装中で泳ぐことができなかった (1人称) |
| 潜在 | 過 | 否 | 外的 | 昨日は仕事で2時まで寝ることができなかった (1人称)     |
| 潜在 | 未 | 肯 | 内的 | 病気がなおればあしたは行くことができる             |
| 潜在 | 未 | 肯 | 内的 | 気が向けばいくらでも書くことができる              |

### 第2次調査 追加項目

#### 1. 体系を見るための項目

##### 1.1 行く

- |    |   |   |    |  |
|----|---|---|----|--|
| 潜在 | 現 | 否 | 能力 | (私は道を知らないのでそこへ) 行くことができない                    |
| 潜在 | 現 | 肯 | 能力 | (私は道を知っている) (私は道を知っている) (私は道を知っている) 行くことができる |
| 潜在 | 現 | 否 | 内的 | (今日は体調が悪いのでそこへ) 行くことができない                    |

可能表現2

潜在 現 肯 内的 (今日は体調がいいのでそこへ) 行くことができる  
 潜在 現 否 外的 (車がないのでそこへ) 行くことができない  
 現 肯 外的 (車があるのでそこへ) 行くことができる

1.2 読む

潜在 現 否 能力 (そんな難しい字は) 読むことができない  
 潜在 現 肯 能力 (どんな難しい字でも) 読むことができる  
 潜在 現 否 内的 (最近目が悪くなったので小さい字は) 読むことができない  
 潜在 現 肯 内的 (最近目の調子がいいので小さい字でも) 読むことができる  
 潜在 現 否 外的 (今は時間がないので) 読むことができない  
 潜在 現 肯 外的 (今日は時間があるので) 読むことができる

1.3 泳ぐ

潜在 現 否 能力 (私は金槌なので) 泳ぐことができない  
 潜在 現 肯 能力 (私は泳ぎがうまいのでいくらでも) 泳ぐことができる  
 潜在 現 否 内的 (今日は体がきついので) 泳ぐことができない  
 潜在 現 肯 内的 (今日は体調がいいので) 泳ぐことができる  
 潜在 現 否 外的 (プールが休みで) 泳ぐことができない  
 潜在 現 肯 外的 (プールがすいていて) 泳ぐことができる

1.4 着る

潜在 現 否 能力 (この子はまだ小さいので一人では服を) 着ることができない  
 潜在 現 肯 能力 (この子はもう小学生なので一人でも服を) 着ることができる  
 潜在 現 否 内的 (腕を骨折したから服を) 着ることができない  
 潜在 現 肯 内的 (骨折がなおったから服を) 着ることができる  
 潜在 現 否 外的 (この服は小さくなったのでもう) 着ることができない  
 潜在 現 肯 外的 (この服は小さくなったけれどまだ) 着ることができる

1.5 寝る

潜在 現 否 能力 (きれいな所でないと) 寝ることができない  
 潜在 現 肯 能力 (どんな所でも) 寝ることができる  
 潜在 現 否 内的 (今日は興奮していて) 寝ることができない  
 潜在 現 肯 内的 (今日は疲れているのでよく) 寝ることができる  
 潜在 現 否 外的 (隣がうるさくて) 寝ることができない  
 潜在 現 否 外的 (これから勉強しなければいけないので) 寝ることができない  
 潜在 現 肯 外的 (ここは静かなのでゆっくり) 寝ることができる

1.6 開ける

潜在 現 否 能力 (力がないので戸を) 開けることができない  
 潜在 現 肯 能力 (力が強いので戸を) 開けることができる  
 潜在 現 否 内的 (手をけがしていて戸を) 開けることができない  
 潜在 現 肯 内的 (手のけががよくなったので戸を) 開けることができる  
 潜在 現 否 外的 (鍵がないので戸を) 開けることができない  
 潜在 現 肯 外的 (鍵を持っているので戸を) 開けることができる

1.7 食べる

可能表現2

潜在 現 否 能力 (ニンジンが嫌いだから) 食べることができない  
 潜在 現 肯 能力 (生の魚で) 食べることができる  
 潜在 現 否 内的 (お腹がいっぱいでもう) 食べることができない  
 潜在 現 肯 内的 (お腹がすいているので何でも) 食べることができる  
 潜在 現 否 外的 (この饅頭はくさっていて) 食べることができない  
 潜在 現 肯 外的 (このトマトは熟したから) 食べることができる

1.8 集める

潜在 現 否 能力 (そんなにたくさんの募金は) 集めることができない  
 潜在 現 肯 能力 (顔が広いからいくらでも募金を) 集めることができる  
 潜在 現 否 外的 (まだ金額が決まっていらないのでお金を) 集めることができない  
 潜在 現 肯 外的 (もう金額が決まったからお金を) 集めることができる

2. 外部から付与される能力

2.1 行く

潜在 現 否 能力 (私は道を知らないのでそこへ) 行くことができない  
 潜在 現 肯 能力 (道を教えてくれたらそこへ) 行くことができる  
 実現 過 否 能力 (私は道をしなかったのだからそこへ) 行くことができなかった  
 実現 過 肯 能力 (道を教えてくれたのでそこへ) 行くことができた  
 反実 過 実 能力 (道を教えてくれればそこへ) 行くことができたのに  
 潜在 現 否 内的 (今日は体がきついのでそこへ) 行くことができない  
 潜在 現 肯 内的 (体調がよくなればそこへ) 行くことができる  
 実現 過 否 内的 (昨日は体がきつかったのでそこへ) 行くことができなかった  
 実現 過 肯 内的 (昨日は体調がよかったのでそこへ) 行くことができた  
 反実 過 内的 (昨日体調がよければそこへ) 行くことができたのに  
 潜在 現 否 外的 (車がないのでそこへ) 行くことができない  
 潜在 現 肯 外的 (車があればそこへ) 行くことができる  
 実現 過 否 外的 (車がなかったのだからそこへ) 行くことができなかった  
 実現 過 肯 外的 (車があったのだからそこへ) 行くことができた  
 反実 過 外的 (車があればそこへ) 行くことができたのに

2.2 読む

潜在 現 否 能力 (そんな難しい字は) 読むことができない  
 潜在 現 肯 能力 (辞書があれば) 読むことができる  
 実現 過 否 能力 (あの時はそんな難しい字は) 読むことができなかった  
 実現 過 肯 能力 (あの時は辞書があったので) 読むことができた  
 反実 過 能力 (あの時辞書があれば) 読むことができたのに  
 潜在 現 否 内的 (最近目が悪くなったので小さい字は) 読むことができない  
 潜在 現 肯 内的 (めがねをかければ小さい字でも) 読むことができる  
 実現 過 否 内的 (あの時は目が悪くて小さい字は) 読むことができなかった  
 実現 過 肯 内的 (あの時はめがねをかけていたので小さい字でも) 読むことができた  
 反実 過 内的 (あの時めがねをかければ小さい字でも) 読むことができたのに

## 可能表現2

潜在	現	否	外的	(今は時間がないので)	読むことができない
潜在	現	肯	外的	(時間があれば)	読むことができる
実現	過	否	外的	(あの時は時間がなかったので)	読むことができなかった
実現	過	肯	外的	(あの時は時間があったので)	読むことができた
反実	過		外的	(あの時時間があれば)	読むことができたのに

### 2.3 開ける

潜在	現	否	能力	(力が弱くて戸を)	開けることができない
潜在	現	肯	能力	(力を貸してくれれば)	開けることができる
実現	過	否	能力	(あの時は力が弱くて戸を)	開けることができなかった
実現	過	肯	能力	(あの時は力を貸してくれたので戸を)	開けることができた
反実	過	実	能力	(あの時力を貸してくれれば戸を)	開けることができたのに
潜在	現	否	外的	(鍵がないので戸を)	開けることができない
潜在	現	肯	外的	(鍵があるので戸を)	開けることができる
実現	過	否	外的	(あの時は鍵がなくて戸を)	開けることができなかった
実現	過	肯	外的	(あの時は鍵があったので戸を)	開けることができた
反実	過		外的	(あの時鍵があれば戸を)	開けることができたのに

なお、追加項目の「体系を見るための項目」は、選択肢の中から使用する語形を選択する方式をとった（詳しくは「1.3 記入上の注意」参照）。

上に述べたように、可能表現調査は調査文がさまざまな解釈を許してしまう恐れがある。従って、一問一答式の回答だと実際にはさまざまな語形が回答可能なところ、回答者はその中からとりあえず思い付いた任意の一つを回答している可能性がある。このような任意の回答では、その地域の可能表現体系を築くことは到底できない。このような任意の回答を回避する方法として、使用する語形をすべて選択してもらう方法をとった。このような方法による調査の場合、普通の一問一答の調査とは異なり、aという調査項目で「どの語形が回答されたか」と同時に、別のbという調査項目で「どの語形が回答されなかったか」ということが体系を構築する上で重要な情報となる。



## 否定表現

大西拓一郎

### A 解説

#### 1. 否定表現とは

否定(打ち消し)の形式を持つものを中心に、意味・内容面で特定の命題を否定的に扱うもの、またそこから派生するモダリティに関わる表現、ならびにそれに応ずる応答の表現、その他否定的ニュアンスを有する個別の表現など、否定をとりまくさまざまな表現を広く「否定表現」と呼び、ここで扱うこととする。

#### 2. 日本方言の否定表現

まず、形態面から見た場合、もっとも基本的な否定表現を構成する動詞の否定辞(打ち消しの助動詞)が、東日本ではナイ、西日本では(へ)ンで現れ、図1のように地理的分布の上で東西対立を見せることが知られている。

ただし、気を付けたいのは、このナイ対ンの分布は、否定辞の終止形(言い切り形)の場合に典型的に見られるもので、その他の活用(派生)形を見た場合、ザル型などの形式も現れる。この点を動詞の過去時制の形式(「～なかった」)で見ると図2のようであり、ナンド類・ザッタ類・ンカッタ類が広く現れ、上記のナイ対ンとは異なった様相を呈する。

また、図1や図2は、GAJの調査結果に基づくもので、やや古い伝統方言の状況を示している。たとえば、近畿の若年層では、ンカッタ(過去形・タ形)のほかンクテ(中止形・テ形)など形容詞型活用語尾の拡張が知られる(高木 2000・2004)。

カテゴリー面では、命題の否定という、比較的単純な内容を持つものであるが、これが疑問文で用いられた否定疑問文は、モーダルな内容面で多様な派生が認められる。とりわけ、西日本においては、ナイ導入によるカテゴリーの細分化が生じていることが報告されている(高木 2005)。

否定疑問文や否定的内容を有する疑問文に対する応答詞の体系に方言差があることが従来より報告されていた(山浦 1988)。共通語タイプは否定的命題をひとまとまりの命題として肯否を応答する(飲まないか→うん、飲まない)のに対し、否定される命題を基盤にして肯否を応答する(飲マナイカ→イヤ、飲マナイ)ような、いわゆる英語型の応答詞体系のタイプの方が存在する。

否定辞が用いられる表現に「～なければならない」のような義務表現があり、単純な否定に較べて多様性が認められる(図3)。これは、全体として命題を否定する表現ではないが、否定的形式が用いられることが多いことから、否定表現の中で扱うことにした。

動詞の否定形 (書か)ない 『方言文法全国地図』第2集80図より

- ┆ ーナイ
- ーン
- ◆ ーセン・ヘン・ヒン
- ∪ ーノー
- ーヌ・ヌン・ンヌ
- ージ
- γ 書カイ・書カー
- △ 書キンナツキヤ・書キナカ

「手紙を書かない」と言うときの「書かない」はどうか。

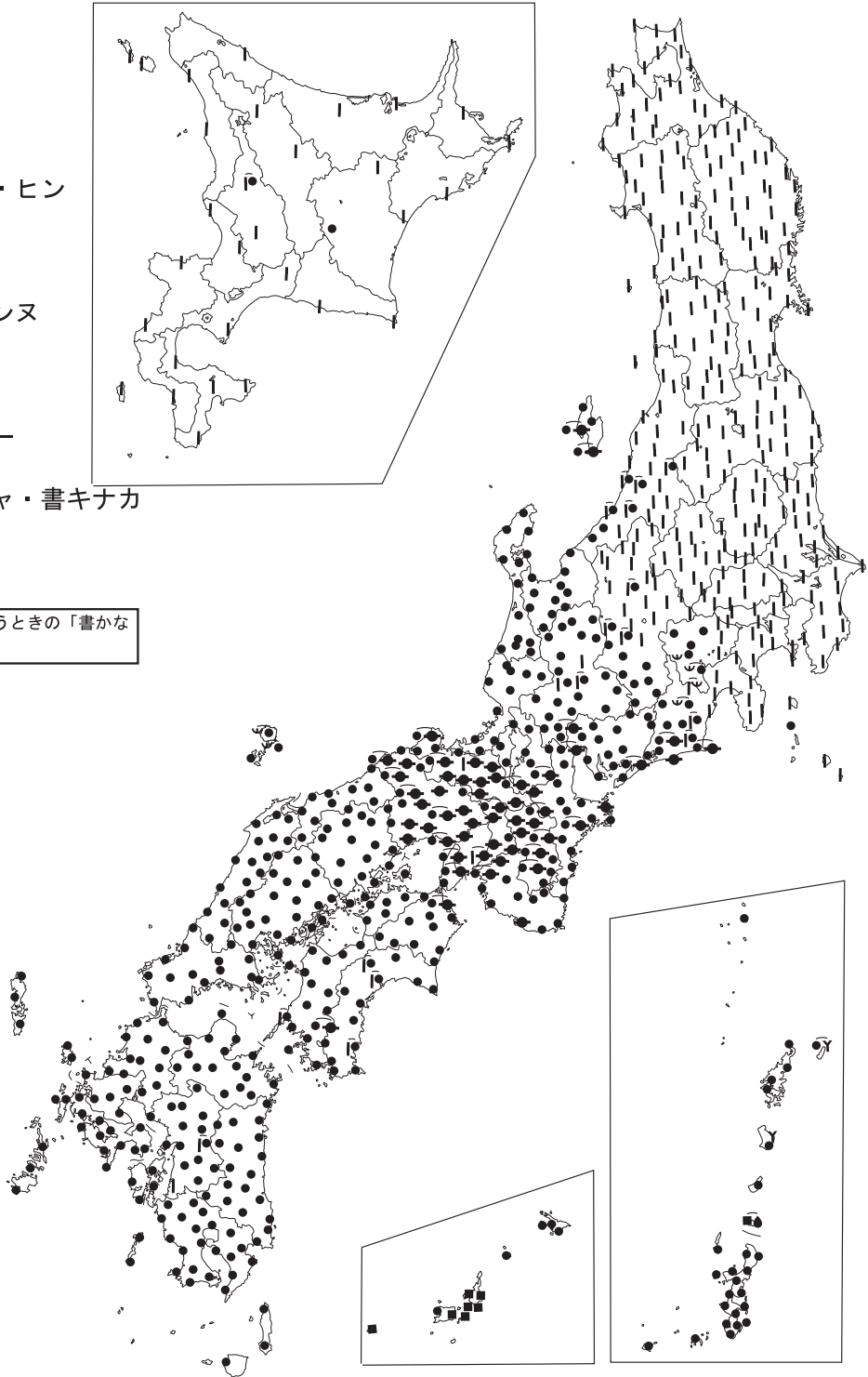


図 1

否定表現

否定過去（行か）なかった 『方言文法全国地図』 第4集151図より

- ナカッタ類
  - | -ナカッタ
  - / -ネカッタ
- ナンダ類
  - -ナンダ
  - ▬ -ヘナンダ
  - ▨ -ナンド・ナンズ
- ンカッタ類
  - -ンカッタ
  - ▣ -ヘンカッタ
- ザッタ類
  - -ザッタ
  - ◐ -ジャッタ
  - ◑ -ヤッタ
  - -ダッタ
  - ◕ -ハッタ・ーッタ
- ンジャッタ類
  - ◐ -ンジャッタ
  - -ンダッタ
  - -ンヤッタ
  - ◕ -ヒンヤッタ
- ナクテアッタ類
  - ◆ -ナクテアッタ・ナフテアッタ
  - T -ネデアッタ
- ナイツケ類
  - ∧ -ナイツケ・ニヤーツキ
  - ∨ -ノーツケ
  - ∇ -ンケ
- ンダ類
  - ▷ -ンダ・ンタ
  - -ヘンダ・ヘンタ
- ◆ -ンナッタ・ンニヤッタ・ンナタン
  - ◇ -ナッタ・ナーッタ・ナータ・ネーッタ・ナータン
- ★ -ネスタ・ネフタ・ナフタ・ナシタ
- ∪ -ネーデシマッタ
  - ∩ -ネンチャッタ・ネツチャッタ
- ⊠ 行キッコナンシチャッタ
  - ✦ 行キンジャララ
- -ダタン・ツタン・タータム・ダティ・ラティ・ダナアタン
- ▷ -ンタン・ンタリ・ンティ・ヌンタン

「きのうは役場に行かなかった」と言うとき、「行かなかった」のところをどのように言いますか。

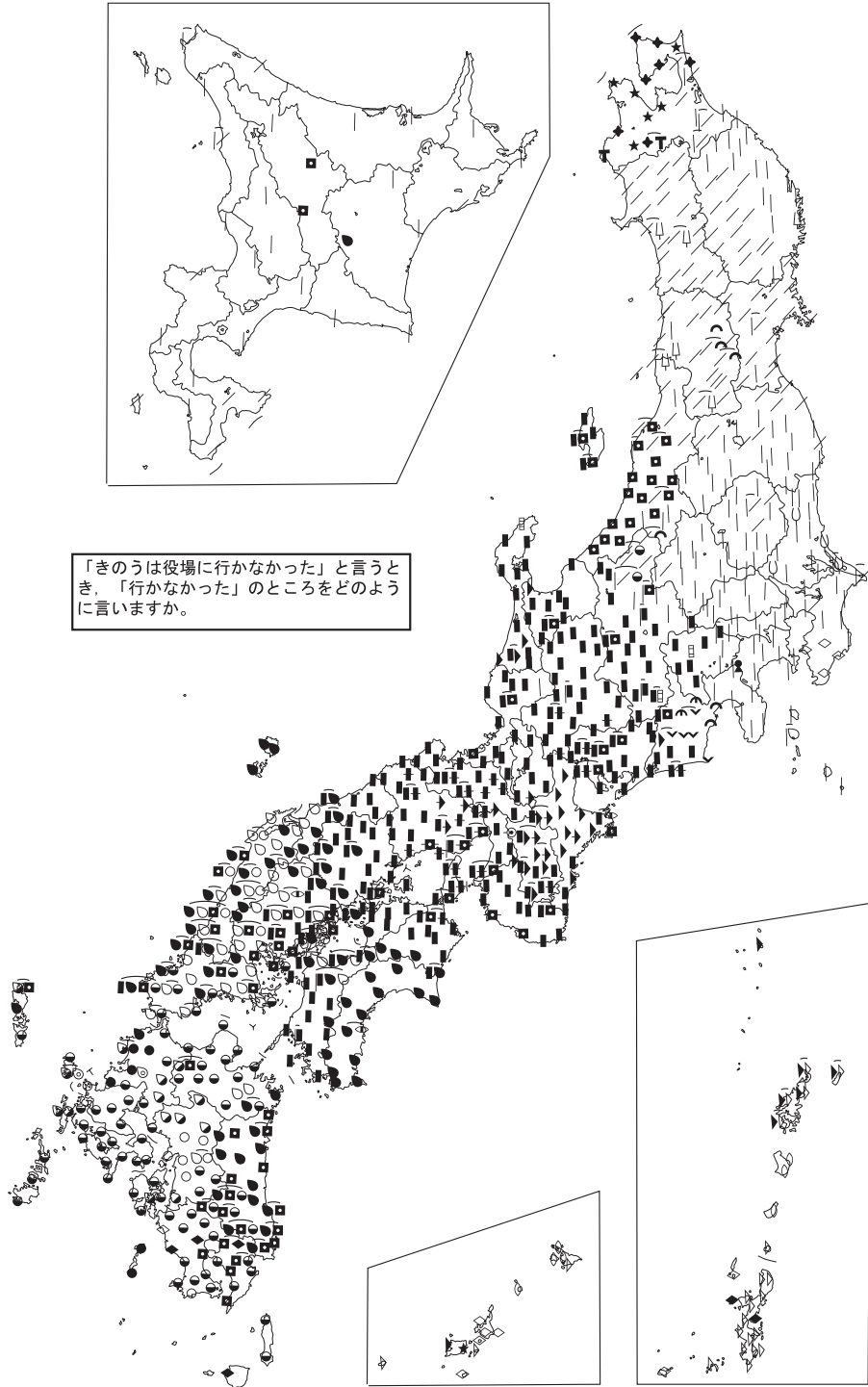


図 2

否定表現

「(行か)なければならない」 『方言文法全国地図』第5集208図より

- △ -ナケレバ・ナケリヤー・ナキヤー+ナラナイ
- ▽ -ナケレバ・ナケリヤー・ナキヤー+ナラン
- △ -ネバ・ニヤー・ネー+ナラナイ
- ▽ -ニヤー・ネー・ナ+ナラン
- -ナクテ (ワ) ・ナクチャー+ナラナイ
- -ンケリヤー・ンケバ・ンキヤ+ナラナイ
- ◇ -ンケリヤー・ンキヤ+ナラン
- ◇ -ンダラー・ンダレー+ナラン
- △ -ンレーナラン
- ◇ -ンニヤー・ンナ+ナラン
- ▷ -ンバナラン
- ≡ -ダカーナラン
- ▲ -ンナラナイ
- ▼ -ンナラン
- ▲ -ナラナイ
- -ンナン
- -ナキヤーナイ
- -ネバナイ
- ▨ -ナクテ・ナクチャー+ナイ
- ◆ -ニヤン
- ↑ -ンバン
- ┆ -ナケレバ・ナケリヤー・ナキヤー+イケナイ
- ┆ -ナクチャーイケナイ
- ┆ -ニヤー・ナ+イケン, ニヤー・ナ+イカン
- ┆ -ンニヤーイケン, ンニヤー・ンナ+イカン
- ┆ -ント+イケン・イカン
- △ -ニヤー・ナ+アカン
- ⊙ -ナクテ (ワ) ワカラネー
- ⊗ -ネバ・ニヤー・ナ+マエネ
- ⊗ -ナケリヤー・ナキヤー・ネバ+オエネー
- ◇ -ニヤーオエン
- ⌒ -ンニヤー・ンナ+スマン
- -ネバ・ニヤー+デキネー
- -ニヤー・ナ+デキン
- -ンバデキン
- ⊓ -ナケリヤー・ネバ・ナイト・ンケリヤー・ンバ+ダメダ
- ┆ -ナケリヤー・ナキヤー・ニヤー・ナ+ショーガナイ
- ★ 行キバドゥナル・ヒドゥナル
- ▷ -ナケレバ・ナキヤー
- ◁ -ナクチャー
- ▲ -ニヤー・ナ
- ▼ -ンバ
- 行クヨーナ

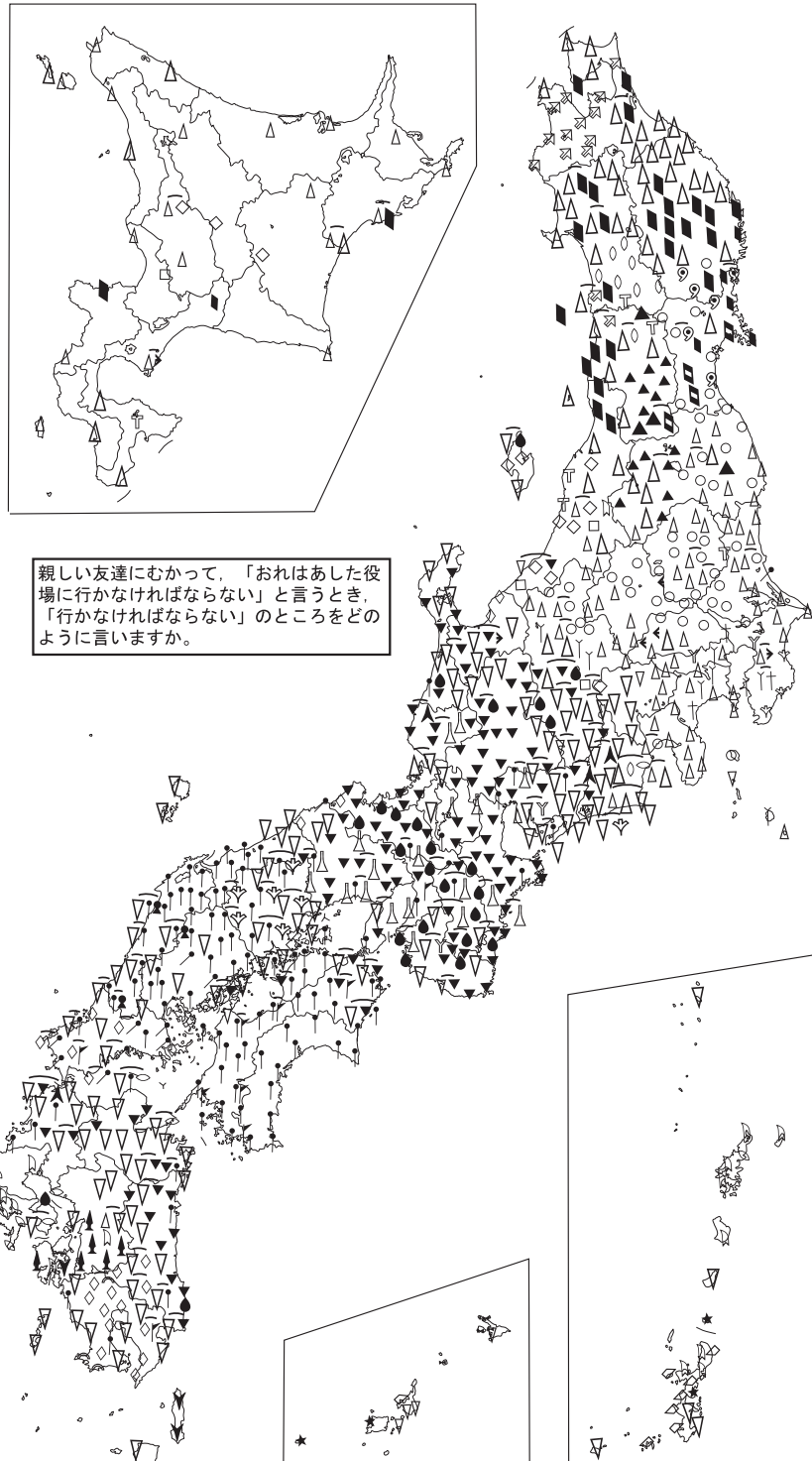


図 3

### 3. 調査の着眼点

以下では、B で扱う調査項目を中心に調査の着眼点を簡略に記す。ローマ数字(I, II, III…)はBでの扱いに対応している。

#### I. 否定の形式

否定を表すために用いられる多様な形式を聞き出すことをねらいとする。

否定的命題が想定される形式を中心に広く収めた。基本的に形式面からのアプローチを中心として扱っている。ここに取り上げた形式上の枠組みをもとにして、例えば、否定推量に対応する特定の接辞(例えばマイなど)があるかどうか、名詞述語では特定の形式(例えばチャウなど)が現れないかなど、カテゴリーにおける隙間の有無や派生等も明示されることを期待する。

品詞(ならびに語分類)別に、構文上の位置、テンス、モダリティ、従属節の性格などに基づいて分類した。

「～ない」型と「～はしない」型は、「一般否定」と「強調否定」として扱った。多くの方言で「～はしない」型が、「とりたて」から、いわゆる「強消」(強調否定)に文法化していると思われることによる。

例えば、共通語の「負けはしないが、完勝もできない」では、「～はしない」型はとりたて的であるが、

近畿方言「負けへんケド、完勝モ出来へん」

中部方言「負けヤシネーガ、完勝モデキヤシネー」

などでは、とりたての対比性を持たない。形容詞でも「(高く)ない」「(高く)はない」が同じような変化の道をたどっている可能性がある。

#### II. 否定に呼応する副詞類

否定的内容に呼応する副詞類を広く聞き出すことをねらいとする。細分化した意味・用法の記述は、扱っていない。また、否定的形式に呼応することから副助詞「しか」(限定的とりたて・その他否定)もここに含めた。

#### III. 否定疑問文

述語の否定形式に、疑問の終助詞「か」や上昇イントネーションを付加したものを「否定疑問形式」という(①②…は、BのIIIでののはじめの枝番に対応：①=III-1, ②=III-2…)。

① お父さんは酒を飲まないのか？

この形式は、①のように単に否定命題の真偽を問うだけでなく、さまざまな機能を担っている。たとえば動詞述語の場合、「いっしょに行かないか？」「そのハサミ取ってくれない？」といった表現は、「行かない」「取ってくれない」という否定命題について尋ねているのではなく〈勧誘〉や〈依頼〉を表している。方言によっては、〈命令〉にも派生しながら、命令の強さに関与することもある。

② 九州「飲マンカ」…一般的な命令

近畿「飲マンカ」…強い命令

そのほかにも、

③ 「何か質問はありませんか？」

「(味見をしている相手に対して) 甘すぎない？」

のように、否定疑問形式を用いることで「質問がある」「甘すぎる」という可能性を考慮に

入れていることを表すような使い方もある。これらはいずれも、否定形をとってはいるが固定化された表現形式であり、〈否定〉の意味は失われている。

共通語では、名詞述語の否定疑問形式である「～ではないか(話し言葉では「じゃないか」)」が終助詞化して特定の用法を持つに至っている。特定の用法とは、たとえば次のようなものである。

- ④-1 不確実なことがらに対して話し手がどのように考えているかを述べ、聞き手にその是非を問いかける
- (1) A：もしかして今日、花火大会(なん)じゃないか?  
B：うん、実はそうなんだよ。
- (2) もしかして君、熱があるんじゃないか?
- ④-2 聞き手にとっても話し手にとっても不確実なことがらに対して、話し手がどのように考えているかを述べる
- (3) A：ずいぶん人が多いね。  
B：どこかの花火大会(なん)じゃないか?
- (4) 顔色も悪いし、彼は具合が悪いんじゃないか?
- ④-3 話し手の意見を聞き手に押し付け、話し手と同じ認識を持つよう聞き手に求める
- (5) A：日曜日、海に行こうよ。  
B：何を言っているんだ、日曜日は花火大会じゃないか。
- (6) おい、こんなところで遊んでいたら危ないじゃないか。
- ④-4 【独り言において】新たに発見したことがらを認識することで、自身のそれまでの認識を改める
- (7) やっぱり、今日が花火大会じゃないか。
- (8) あれ、こんなところにネコがいるじゃないか。

以上の④-1と④-2は、不確実なことがらに対する話し手の認識を示す点で共通しており、共通語では「のではないか(話し言葉では「んじゃないか」)」という形式が用いられる。④-3と④-4は、認識を改めることを(聞き手または話し手自身に)求める点で共通しており、共通語では「ではないか(話し言葉では「じゃないか」)」という形式が用いられる。大阪方言の場合は、④-1と④-2は～ンチャウカ、④-3と④-4は～ヤナイカ・～ヤンカによって表される。方言によっては、④-3と④-4が否定疑問形式由来でない終助詞によって表現されることもある(名古屋方言のガーなど)。なお、これらの用法を調査する場合には「確認要求」の項目も参考にされたい。

また、共通語では否定疑問形式によって表されるが方言では特定の形式によって表される用法として、次のものがある。

- ④-5 話し手自身の認識を示しつつ、聞き手の認識を尋ねる
- (9) A：夏といえば花火大会じゃないか?  
B：ああ、そうだね。
- (10) あの人すごく優しくない?

この用法では、「夏といえば花火大会だ」「あの人はずごく優しい」という話し手自身の認識が否定疑問形式によって聞き手に提示され、それに対して聞き手がどのように考えて

いるかを尋ねている。大阪方言や高知県幡多方言には、④-5のような用法に特化された形式として～コトナイカというものがある(例：夏といえば花火大会ナコトナイ?)。宮崎方言では～コッセンという形が同様の用法を担っているようである。ただしこれらの用法については明らかでないことが多く、今後の調査研究が期待される。

#### IV. 応答詞

応答詞は、2節にも記したように、特に否定疑問形式の真偽疑問文に応ずるもののあり方が問題となることが多い。ただし、否定疑問文への応答詞だけを引き出しても、それが、その方言の中でどのように位置付けられるものなのかは、形式だけから一概に決められるものではない。体系的に取り扱うためには、肯定形式の真偽疑問文に応ずる応答詞も合わせて見る必要がある。

#### V. 義務表現

共通語では「～なければならない」のように否定的形式をもとに〈義務〉が表現される。全国的に見ても、多くの地域が類似の語構成に基づくことは、2節に挙げた図3から理解される。これらにおいては、形式が短縮し、接辞に変化していく、文法化が注目される。その一方で、否定的形式を伴わずに終止形+ヨーダ(ヨーナ)のような形式が用いられる地域も知られる。このヨーダ類の用法は、いわゆる〈義務〉と重なりつつも完全な一致は見せないようである。〈義務〉に関連する用法をここで取り上げるが、その諸条件は、可能表現に類似する。動詞の意味や使用条件に関する制限を検討することなどが必要である。

#### VI. その他の否定的内容を有する表現(反語, 禁止, 否定的応答など)

否定表現の周辺に位置付けられると考えられるいくつかの表現を収めた。I～Vで扱うものを充足させる際や否定をベースに考察対象を拡張させる場合の参考になるのではないかと想定するものである。

### 4. 研究の状況

基本的な否定辞(終止・言い切り形)の東西対立はよく知られるところであるが、そのような分布の成立事情は未解明である。また、過去形式のナンダは、かつて広く標準的な形であったことが知られるが、その来歴も未詳である(大西1999)。

一方で、高木(2000・2004・2005)の一連の研究が明らかにするように、近畿では否定の新たな形式が発生し、意味内容の枠組みの再編成が進行していることが知られる。このことは、伝統的方言のみならず、新しい世代での否定表現のあり方にも目を配ることが必要であることを示している。

義務表現は、多くの地域で共通語同様の「～なければならない」型が用いられているためか、あまり手が付けられていない。ヨーダ類の記述(野島2004など)との対照は、大きな手がかりになると思われる。

なお、否定表現が詳しく扱われた調査票としては、真田(2001)の天草方言調査票があり、Bの項目作成においても参考にした。

### 5. 発展

もっとも基本的なところで、否定辞そのものの活用変化全体に関する全国的な整理が求められる。GAJなどのデータを総合的に扱った、全国的俯瞰が必要である。

否定的に命題を取り扱うことは、肯定的扱いに較べて、心理的負荷がかかる。このことは、文法上の純粋な「認め方」というレベルのみでは扱えないことが多くなりやすいことを意味する。このことが形式のみならず、意味内容の多様な派生につながるものと思われる。このような意味内容の広がり、文法上のモダリティのみでは扱えない範囲に及ぶものと考えられ、ことがらや状況との関わり、聞き手への配慮など、これまでまだ十分には明らかにされてこなかった研究分野に展開されることが期待される。

義務表現は、用法や条件において、可能表現と類似した点がある。可能・義務・意志・自発といった動作・作用・状態の潜在性や実現性にまつわる表現分野は、個々のカテゴリーを個別化せず、総合的に分析する視点が要求されているように思われる。時間的制約もあって、ここでは十分に扱うことができなかったが、今後、本格的に取り組むべき価値のある分野である。

否定表現はその「否定」という性質上、ネガティブもしくは意味的にマイナス方向の語彙との連続線上にあることが予測される。方言における性向語彙にはマイナス方向のものが多く知られるが、このような語彙の研究と有機的に繋がるなら、文法研究のみならず語彙研究も新たな方向に発展する可能性がある。

## 6. 文献

- 大西拓一郎(1999)「新しい方言と古い方言の全国分布—ナンダ・ナカッタなど打消過去の表現をめぐって—」『日本語学』18-13
- 真田信治編(2001)『方言文法調査項目リスト—天草篇—』(「環太平洋の言語」成果報告書 A4-003)
- 高木千恵(2000)「大阪方言におけるテ形について—形容詞・名詞述語・動詞否定形式のテ形(相当)形式—」『阪大社会言語学研究ノート』2
- 高木千恵(2004)「若年層関西方言の否定辞にみる言語変化のタイプ」『日本語科学』16
- 高木千恵(2005)「関西若年層にみられる標準語ジャナイ(カ)の使用」『日本語の研究』1-2
- 野島本泰(2004)「神奈川県座間市で話されている方言における「ようだ」」『日本言語学会第128回大会予稿集』
- 山浦玄嗣(1988)「ケセン語：ウンツェハアの研究—否定疑問文に対する逆転した応答形式—」『日本方言研究会第47回研究発表会発表原稿集』

### 【付記】

作成にあたり、Ⅲ「否定疑問文」を中心に、高木千恵氏の協力も得たことをここに断っておく。



## 否定表現

### B 項目

#### 全体の構成

- I. 否定の形式
    - I-1. 動詞
      - I-1-1. 主節・非過去
        - I-1-1-1. 一般否定
        - I-1-1-2. 強調否定
        - I-1-1-3. その他の主節・非過去の表現
        - I-1-1-4. アスペクト
      - I-1-2. 主節・過去
        - I-1-2-1. 一般否定
        - I-1-2-2. 強調否定
        - I-1-2-3. その他の主節・過去の表現
      - I-1-3. 従属節
      - I-1-4. 丁寧体
    - I-2. 形容詞
      - I-2-1. 主節・非過去
        - I-2-1-1. 一般否定
        - I-2-1-2. 強調否定
        - I-2-1-3. その他の主節・非過去の表現
      - I-2-2. 主節・過去
        - I-2-2-1. 一般否定
        - I-2-2-2. 強調否定
        - I-2-2-3. その他の主節・過去の表現
      - I-2-3. 従属節
      - I-2-4. 丁寧体
    - I-3. 形容詞「ない」
      - I-3-1. 主節・非過去
        - I-3-1-1. 一般否定
        - I-3-1-2. 強調否定
        - I-3-1-3. その他の主節・非過去の表現
      - I-3-2. 主節・過去
        - I-3-2-1. 一般否定
        - I-3-2-2. 強調否定
        - I-3-2-3. その他の主節・過去の表現
      - I-3-3. 従属節
      - I-3-4. 丁寧体
    - I-4. 形容詞「少ない」(ナイ型の確認)
    - I-5. 形容動詞
      - I-5-1. 主節・非過去
        - I-5-1-1. 一般否定
        - I-5-1-2. 強調否定
        - I-5-1-3. その他の主節・非過去の表現
      - I-5-2. 主節・過去
        - I-5-2-1. 一般否定
        - I-5-2-2. 強調否定
      - I-5-2-3. その他の主節・過去の表現
    - I-5-2-3. その他の主節・過去の表現
    - I-5-3. 従属節
    - I-5-4. 丁寧体
  - I-6. 名詞述語
    - I-6-1. 主節・非過去
    - I-6-2. 主節・過去
    - I-6-3. 従属節
    - I-6-4. 丁寧体
  - I-7. 「のだ」文(～のではない・～わけではない)
    - I-7-1. 主節・非過去
    - I-7-2. 主節・過去
    - I-7-3. 従属節
    - I-7-4. 丁寧体
  - I-8. その他
- II. 否定に呼応する副詞類等
  - II-1. 副詞類
    - II-1-1. 程度
    - II-1-2. 叙述の種類(モダリティ)
    - II-1-3. その他
  - II-2. 副助詞(シカ)
- III. 否定疑問文
  - III-1. 否定命題の真偽疑問
  - III-2. 命令・勧誘
  - III-3. 可能性の考慮
  - III-4. 認識の伝達
- IV. 応答詞
  - IV-1. 動詞文に対する応答
  - IV-2. 存否確認文に対する応答
  - IV-3. 感覚形容詞文に対する応答
  - IV-4. 属性形容詞文に対する応答
  - IV-5. 同意要求型疑問文に対する応答
  - IV-6. 追求型疑問文に対する応答
- V. 義務表現
  - V-1. 各品詞の用法
  - V-2. 動作主体
  - V-3. 動詞の意味(自動詞)
  - V-4. 付帯状況
  - V-5. 意味
- VI. その他の否定的内容を有する表現(反語, 禁止, 否定的応答など)
  - VI-1. 反語表現
  - VI-2. 禁止表現
  - VI-3. 否定的応答
  - VI-4. 二重否定

※各項目で、参考となる先行調査票の項目を以下の略号を用いて提示する。

<G 本○○○>: GAJ 本調査(○○○は質問番号)

<G 準文○○○○>: GAJ 準備調査(文法調査票)(○○○は質問番号)

<G 準表○○○○>: GAJ 準備調査(表現法調査票)(○○○は質問番号)

<G 検>: GAJ 検証調査項目

<天>: 真田(2001)に提示された阪大による危機言語天草調査項目

※項目の番号(3桁)は、それぞれの頭の番号が I (0 と 1), II (2), III (3), IV (4), V (5), VI (6) のように対応し、下 2桁は通し番号である。

## I. 否定の形式

## I-1. 動詞

## I-1-1. 主節・非過去

ここでは、動詞をもとに基本的な否定形式の確認を行う。その際、動詞の主節・非過去の否定形式に関して、「一般否定」(弱消)と「強調否定」(強消)に分け、動詞の活用ごとの現れ方を確認する。強調否定は、～ワシナイ型が多いが、～ッコナイ(飲ミッコナイ)のような形が現れることもある。一般否定と強調否定に異なりが認められた場合は、I-1-2. 以下でも両方が使われるかどうかを確認する。

## I-1-1-1. 一般否定

五段(四段)動詞「飲む」

001 あいつは、酒を[飲まない]

002 「手紙を[書かない]」と言うときの「書かない」はどうですか。<G本 007>

参考 それでは、「[書かない]」はどうですか。<G準文 007>

一段(上一段)動詞「見る」

003 「朝はテレビを[見ない]」と言うときの「見ない」はどうですか。<G本 011>

参考 それでは、「[見ない]」はどうですか。<G準文 003>

一段(上二段)動詞「起きる」

004 8時になっても[起きない]

一段(下二段)動詞「寝る」

005 12時になっても[寝ない]

一段(下二段)動詞「開ける」

006 「寒いから窓を[あけない]」と言うときの「あけない」はどうですか。<G本 006>

参考 それでは、「[あけない]」はどうですか。<G準文 004>

カ変動詞「来る」

007 10時になっても[来ない]

参考 それでは、「[来(こ)ない]」はどうですか。<G準文 005>

サ変動詞「する」

008 仕事を頼んだのに[しない]

参考 それでは、「[しない]」はどうですか。<G準文 006>

## I-1-1-2. 強調否定

五段(四段)動詞「飲む」

009 あいつは酒など[飲みはしない]

010 「そんなところには[行きはしない]」と言うとき、「行きはしない」のところをどのように言いますか。<G準表 075>

一段(上一段)動詞「見る」

011 「あの人はテレビなど[見はしない]」と言うとき、「見はしない」のところをどのように言いますか。<G本 200>

参考 「私はテレビなど[見はしない]」と言うとき、「見はしない」

のところをどのように言いますか。〈G 準表 077〉

カ変動詞

012 「あのひはこんなところになど[来(き)はしない]」と言うとき、「来(き)はしない」のところをどのように言いますか。〈G 本 201〉

参考 「あの人はこんなところには[来はしない]」と言うとき、「来はしない」のところをどのように言いますか。〈G 準表 078〉

013 「起きる」「寝る」「開ける」「する」でも確認する。

I-1-1-3. その他の主節・非過去の表現

純粹の否定(一般的真実)

014 猫は酒を[飲まない]

意志

015 私は酒を[飲まないつもりだ]《マイなど》

推量

016 あいつは酒を[飲まないだろう]《マイなど》

一回性の動作・状態性の動詞(近畿方言における特殊動詞)

純粹の否定(一般的真実)

017 犬は字を[知らない]

推量

018 あいつはそんな事件を[知らないだろう]

019 その他の特殊動詞「わかる」「要る」に関して、016 と 017 を確認する。

全部否定

020 みんな(が)[飲まない]

部分否定

021 みんなは[飲まない]

022 みんな(が)[飲むのではない]

I-1-1-4. アスペクト

・未実現(「否定形」/「テ+存在動詞否定形」のいずれが一般的か。cf. II-1-3.)

意志動詞(マダ～テイナイ型による未実現の表現の定着化に注目)

023 「8時になってもまだ[起きない]」と言うときの「起きない」のところは、地方によってオキネー・オキン・オキランなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。〈G 本 001〉

参考 「6時になってもまだ[起きない]」と言うときの「起きない」のところは、地方によってオキナイ・オキン・オキランなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。〈G 準文 001〉

024 尋ねて行っても、まだ[起きていない]

025 「12時になってもまだ[寝ない]」と言うときの「寝ない」はどうですか。〈G 本 002〉

参考 それでは、「まだ[寝ない]」というときの「寝ない」はどうですか。〈G 準文 002〉

- 026 いつもは昼寝するが、今日はまだ[寝ていない]  
 027 「10時になってもまだ[来(こ)ない]」と言うときの「来(こ)ない」はどうですか。〈G本 003〉  
 028 郵便屋さんは、まだ[来ていない]  
 029 「仕事を頼んだのにまだ[しない]」と言うときの「しない」はどうですか。〈G本 004〉  
 030 今日はまだ掃除を[していない]

無意志動詞(無意志動詞ではともに未実現を表現)

- 031 山に行っても、まだ桜は[咲かない]  
 032 山に行っても、まだ桜は[咲いていない]

・アスペクト形式の確認

西日本において、～テイナイ・テナイが用いられる場合、他に～オランや～テオラン・トランが用いられないか、確認する。また、肯定形で～テイルが用いられるか、～オルや～テオル・トルが用いられるかどうかを合わせて確認する。

I-1-2. 主節・過去

動詞の否定・過去の基本的形式をする。ここでも一般否定と強調否定に異なりが認められた場合は、I-1-2-3 以下でも異なりがあるかどうか留意する。

I-1-2-1. 一般否定

- 033 昨日の会で、あいつは酒を[飲まなかった]  
 034 「きのうは役場に[行かなかった]」と言うとき、「行かなかった」のところをどのように言いますか。〈G本 198〉  
 参考 「今日は役場に[行かなかった]」と言うとき、「行かなかった」のところをどのように言いますか。〈G 準表 079〉

I-1-2-2. 強調否定

- 035 昨日の会で、あいつは酒など[飲みはしなかった]  
 036 「きのうは役場になど[行きはしなかった]」と言うとき、「行きはしなかった」のところをどのように言いますか。〈G本 199〉  
 参考 「昔は学校になど[行きはしなかった]」と言うとき、「行きはしなかった」のところをどのように言いますか。〈G 準表 076〉

I-1-2-3. その他の主節・過去の表現

純粹の否定(一般的真実)

- 037 縄文時代でも、猫は酒を[飲まなかった]

推量

- 038 昨日もあいつは酒を[飲まなかっただろう]

一回性の動作・状態性の動詞(特殊動詞)

純粹の否定(一般的真実)

- 039 大昔の庶民は、字を[知らなかった]

推量

- 040 大昔の人は字を[知らなかっただろう]  
 041 その他の特殊動詞「わかる」「要る」に関して、026 と 027 を確認する。

全部否定

042 みんな(が)[飲まなかった]

参考 みんな行かなかった。〈G 検〉

部分否定

043 みんなは[飲まなかった]

参考 みんな(全員)は行かなかった。〈G 検〉

044 みんな(が)[飲むのではなかった]

I-1-3. 従属節

付帯状況

045 酒も[飲まないで]、しゃべってばかりいる。

046 「仕事に[行かないで]遊んでばかりいる」と言うとき、「行かないで」のところをどのように言いますか。〈G 本 196〉

参考 「仕事に[行かないで]遊んでばかりいる」と言うとき、「行かないで」のところをどのように言いますか。〈G 準表 073〉

原因理由

047 薬を[飲まなくて]困る。

048 「子どもが仕事に[行かなくて]困った」と言うとき、「行かなくて困った」のところをどのように言いますか。〈G 本 197〉

参考 「仕事に[行かなくて]困る」と言うとき、「行かなくて」のところをどのように言いますか。〈G 準表 074〉

順接条件 1

049 あんなに酒を[飲まなければ]よかったのに。

順接条件 2

050 お前が酒を[飲まないなら]、私も飲まない。

順接条件 3

051 薬を[飲まなくて]は]困る

参考 君が[行かなくて]は]困る。〈G 検〉

並列

052 酒も[飲まず]、たばこも吸わず、休みもしない。

逆接条件

053 酒は[飲まないが]、たばこは吸う。

054 酒は[飲まなかったが]、たばこは吸った。

複合用言前項

おく

055 今日は酒を[飲まないでおく]

くれ

056 今日だけは酒を[飲まないでくれ]

ほしい

057 今日だけは酒を[飲まないでほしい]

よい

058 そんな薬は、[飲まないでよい]

連体修飾

059 酒を[飲まない]時もある。

060 酒を[飲まなかった]時もある。

連用修飾

061 だんだん酒を[飲まなく]なる。

その他

062 そんな薬は[飲まなくても]いい。

参考 言わなくてもいい。〈G 検〉

063 そんな薬は[飲まないでも]いい。

参考 言わないでもでもいい。〈G 検〉

#### I-1-4. 丁寧体

非過去

064 (土地の目上の人に向かって)自分は酒を[飲みません]

過去

065 (土地の目上の人に向かって)自分は昨日酒を[飲みませんでした]

#### I-2. 形容詞

##### I-2-1. 主節・非過去

形容詞の否定形式を確認する。方言によっては、高イコトナイのように体言化させる地域や高カリオランのような動詞アスペクト形式が現れる地域もあるので注意する。形容詞においても高クナイ型の「一般否定」(弱消)と高クワナイ型の「強調否定」(強消)が現れることがある。一般否定と強調否定に異なりが認められた場合は、I-2-2. 以下でも両方が使われるかどうかを確認する。

##### I-2-1-1. 一般否定

ク活用(黒い・低い・大きい・良い)

066 あの山は、[高くない]

067 「この品物の値段はあまり [高くない]」と言うときの「高くない」はどうですか。〈G 本 014〉

参考 それでは、「この山は [高くない]」と言うときの「高くない」はどうですか。〈G 準文 015〉

シク活用(めずらしい、うれしい、苦しい)

068 ほめられてもあまり [うれしくない]

参考 それでは、「[めずらしくない]」はどうですか。〈G 準文 016〉

##### I-2-1-2. 強調否定

069 あの山は、けっして[高くはない]

070 友達から「その着物は高かったか」と聞かれて、「いや、それほど [高くはなかった]」と答えるとき、「高くはなかった」のところはどのように言いますか。〈G 本 202〉

071 ほめられても、けっして[うれしくない]

I-2-1-3. その他の主節・非過去の表現

推量

072 みんなが言うほどあの山は[高くないだろう]

全部否定

073 ここの周りの山は，全部[高くない]

部分否定

074 ここの周りの山は，全部は[高くない]

075 ここの周りの山は，全部が[高いわけではない]

I-2-2. 主節・過去

I-2-2-1. 一般否定

076 あの山は，昔は[高くなかった]

I-2-2-2. 強調否定

077 あの山は，昔はけっして[高くはなかった]

I-2-2-3. その他の主節・過去の表現

推量

078 あの山は，今ほど[高くはなかつただろう]

I-2-3. 従属節

付帯状況(?)

079 あの山は[高くなくて]，隣の山も頂上は広い。

原因理由

080 あの山は，[高くなくて]，登りやすい。

順接条件1

081 あの山は，[高くなければ](越えるのが楽で)よかつたのに。

順接条件2

082 その山が[高くないなら]，登ってみよう。

原因理由3

083 もっと[高くなくて]は，つまらない。

並列

084 あの山は，[高くなくて]，紅葉もきれいで，道も広い。

逆接

085 あの山は，[高くないが]，登るのはあぶない。

連体修飾

086 [高くない]山

087 大昔，[高くなかつた]ころ

連用修飾

088 [高くなく]なる

089 [高くなく]見える

その他

090 子供が登る山だからそんなに[高くなくて]いい。

I-2-4. 丁寧体

非過去

091 (土地の目上の人に向かって)あの山は[高くありません]

過去

092 (土地の目上の人に向かって)あの山は昔は[高くありませんでした]

### I-3. 形容詞「ない」(動詞アルの否定型に注意)

アラナイ型がなくても強調否定にアリワシナイ型やアリッコナイ型が現れることがあるので、注意する。

#### I-3-1. 主節・非過去

##### I-3-1-1. 一般否定

093 うちには大金は[ない(アラン)]

094 それでは、「何も [ない]」と言うときの「ない」はどうですか。(「有る」の否定形を求める。) <G 準文 008>

095 友達から「お前のところには車はあるか」と聞かれ、「[ない]」と答えるとき、どのように言いますか。 <G 準表 080>

096 「お前のところにクーラーはあるか」と聞かれ、「[そんなものはない]」と答えるとき、どのように言いますか。 <G 準表 081>

##### I-3-1-2. 強調否定

097 うちには大金なんか[ない(アリハセン)]

##### I-3-1-3. その他の主節・非過去の表現

推量

098 あのうちにも大金は[ないだろう(アルマイ)]

#### I-3-2. 主節・過去

##### I-3-2-1. 一般否定

099 うちには昔も大金は[なかった]

100 「きのうは運動会が有ったか」と聞かれて、「いや、[無かった]」と答えるとき、どのように言いますか。 <G 本 203>

参考 何もなかった <G 検>

##### I-3-2-2. 強調否定

101 うちには昔も大金なんか[なかった]

##### I-3-2-3. その他の主節・過去の表現

推量

102 あのうちには昔も大金は[なかっただろう]

#### I-3-3. 従属節

付帯状況 (?)

103 うちには金が[なくて], 親戚も貧乏だ。

原因理由

104 うちには金が[なくて], 物が買えない。

順接条件 1

105 そんなに大金が[なければ], よかったのに



## 否定表現

### 順接条件 2

- 106 金が[ないなら], 仕事をすればよい。  
参考 何も[なければ]しかたがない。〈G 検〉

### 順接条件 3

- 107 金が[なくては], 売るわけにはいかない。  
参考 紙が[なくては], 物を書くことができない。〈G 検〉

### 並列

- 108 うちには金が[なくて], 土地もない。(金も[ないし]~, 金も[なければ]など)  
109 「[車もないし, クーラーもない]」と言うとき, どのように言いますか。〈G 準表 082〉

### 逆接

- 110 うちには金は[ないが], 土地はある。

### 連体修飾

- 111 海が[ない]県

### 連用修飾

- 112 埋め立てたからこの川は来年には[なく]なる  
113 この地図では川が[なく]見える

### その他

- 114 そんな高価なものは[なくても]いい。

## I-3-4. 丁寧体

### 非過去

- 115 (土地の目上の人に向かって)うちには金は[ありません・ないです]

### 過去

- 116 (土地の目上の人に向かって)うちには昔から[ありませんでした・なかったです]

## I-4. 形容詞「少ない」(ナイ型の確認)

- 117 この村には子供が[少ない]。  
118 そんな物を買う人は[少ないだろう]。  
119 昔は長生きする人が[少なかった]。

## I-5. 形容動詞

(静カナ)コトナイ型にも注意する。コトナイ型が現れた場合, 動詞・形容詞などにも飲ムコトナイ・高イコトナイのような形で単純な否定を形成することがないか確認する。また, 「で(は)ない」に対応しない別形式の「と違う(チャウ)」のような形式が用いられないかにも注意する。

### I-5-1. 主節・非過去

#### I-5-1-1. 一般否定

- 120 「ここは車が通るのであまり [静かでない]」と言うときの「静かでない」

はどうか。〈G 本 015〉

参考 それでは、「ここは[静かでない]」と言うときの「静かでない」  
はどうか。〈G 準文 017〉

#### I-5-1-2. 強調否定

121 今夜は祭りがあるので、まったく[静かではない]

#### I-5-1-3. その他の主節・非過去の表現

推量

122 あそこは国道の近くなので、[静かで(は)ないだろう]

全部否定

123 この道沿いは、どこも[静かで(は)ない]

部分否定

124 この道沿いは、どこも[静かなわけではない]

#### I-5-2. 主節・過去

##### I-5-2-1. 一般否定

125 昔は蛙が鳴いて、[静かでなかった]

##### I-5-2-2. 強調否定

126 昔は子供がたくさんいて、まったく[静かではなかった]

##### I-5-2-3. その他の主節・過去の表現

推量

127 昔は人通りが多くて、[静かで(は)なかつただろう]

#### I-5-3. 従属節

付帯状況(?)

128 うちの子供は[静かでなくて]、となりの家も大騒ぎばかりしている。

原因理由

129 ここは、[静かでなくて]、仕事ができない。

順接条件 1

130 ここが[静かでなければ]、よかったのに。静かすぎて気味が悪い。

順接条件 2

131 そこが[静かでないなら]、家は建てない。

順接条件 3

132 周りが[静かでなくて]は、仕事ができない。

並列

133 ここは、夜も[静かでなく]、人通りが多く、にぎやかだ。

逆接

134 ここは、[静かでないが]、買い物には便利な場所だ。

連体修飾

135 [静かでない]場所

連用修飾

136 大きな道が出来て、[静かでなく]なる

137 近くに大きな道があるので、[静かでなく]見える

その他

138 便利だったら, [静かでなくても]いい。

#### I-5-4. 丁寧体

139 (土地の目上の人に向かって)ここは[静かではありません]。

140 (土地の目上の人に向かって)ここは[静かではありませんでした]。

#### I-6. 名詞述語

「(と)違う(チャウ)」のような形式が用いられないかにも注意する。

##### I-6-1. 主節・非過去

一般否定

141 あの光は, [花火大会でない]

142 それでは, 「これは [鳥でない]」と言うときの「鳥でない」はどうですか。

<G 準文 018>

強調否定

143 あの光は, けっして [花火大会ではない]

推量

144 あの光は, [花火大会で(は)ないだろう]

全部否定

145 いくつも光っているが, どれも [花火大会で(は)ない]

部分否定

146 いくつも光っているが, 全部が [花火大会で(は)ない]

147 いくつも光っているが, 全部が [花火大会というわけではない]

##### I-6-2. 主節・過去

148 昨日見たのは, [花火大会で(は)なかった]

推量

149 昨日見たのは, [花火大会で(は)なかっただろう]

##### I-6-3. 従属節

付帯条件(?)

150 今夜は, [花火大会でなくて], 残業だ。

原因理由

151 今夜は, [花火大会でなくて], つまらない。

順接条件1

152 今夜が [花火大会でなければ], よかったのに。

順接条件2

153 あの光が [花火大会でないなら], 雷だ。

順接条件3

154 あの光が [花火大会でなくては]心配だ。

並列(?)

155 あの光は, [花火大会でなくて], 雷でもない。

逆接

156 今夜が[花火大会ではないが(花火大会ではなくて)], 明日が花火大会だ。  
連体修飾

157 この日が[花火大会でない]ことを祈る。  
連用修飾

158 雨が降れば, [花火大会でなく]なる。

159 [花火大会でなく]思う。

その他

160 ?楽しいなら, [花火大会でなくて]いい。

#### I-6-4. 丁寧体

161 (土地の目上の人に向かって)今夜は[花火大会で(は)ありません・花火大会で(は)ないです]。

162 (土地の目上の人に向かって)ゆうべは[花火大会で(は)ありませんでした・花火大会で(は)なかったです]。

#### I-7. 「のだ」文(～のではない・～わけではない)

##### I-7-1. 主節・非過去

163 この酒は(神様にささげたので), 人間が[飲むのではない]  
推量

164 この酒は(神様にささげたので), 人間が[飲むのではないだろう]

##### I-7-2. 主節・過去

反省

165 あんなに酒を[飲むのではなかった]。

##### I-7-3. 従属節

原因理由

166 隣の人があまりたくさん酒を[飲むわけではなくて], うれしい。

逆接

167 この酒は, 人間が[飲むのではなくて], 神様が飲むのだ。

##### I-7-4. 丁寧体

168 この酒は(神様にささげたので), 人間が[飲むのではありません]。

169 あんなに酒を[飲むのではありませんでした]。

##### I-8. その他

<否定+「のだ」>と<「のだ」+否定>

170 飲まないのだ

171 飲むのではない

172 見ないのだ

173 見るのではない

174 高くないのだ

175 高いのではない

## Ⅱ. 否定に呼応する副詞類等

### Ⅱ-1. 副詞類

以下の文脈で使える副詞類を聞き出す。

#### Ⅱ-1-1. 程度

全面的否定

201 [全然]酒を飲まない。

部分的否定

202 [あまり]酒を飲まない。

頻度的否定

203 [めったに]酒を飲まない。

#### Ⅱ-1-2. 叙述の種類(モダリティ)

否定的断定

204 [けっして]酒を飲まない。

否定的予想

205 [まさか]酒を飲むとは思わなかった。

否定的可能性

206 [とても]酒は飲めない。

事態の非絶対性

207 [必ずしも]酒は飲まない。

#### Ⅱ-1-3. その他

「あの酒は、もう飲んだか」と尋ねられた場合の回答。

208 [ ]飲んでない。

209 [ ]飲まない。

### Ⅱ-2. 副助詞(シカ)

否定形式を用いるが命題は否定されないタイプを引き出す。

210 酒[しか]飲まない。

211 「100円しかない」と言うときにはどのように言いますか。〈G本 137〉

参考 「[百円しか]ない」と言うとき、「百円しか」のところをどのように言いますか。〈G準文 268〉

212 「もう[あきらめるしか]ない」と言うときには、どのように言いますか。〈G準文 270〉

### Ⅲ. 否定疑問文

#### Ⅲ-1. 否定命題の真偽疑問

否定命題の真偽を尋ねる疑問文の場合は、「のだ」文相当の形式の方が話者にはイメージしやすいと考えられることから、いずれも「～のか」の形で項目を設定した。

名詞述語

301 今日は、[花火大会じゃないのか?]

形容動詞

302 ここのお寺って、境内が[静かじゃないのか?]

形容詞

303 うちの県の山って[高くないのか?]

動詞

304 お父さんはお酒を[飲まないのか?]

#### Ⅲ-2. 命令・勧誘

命令や勧誘に否定疑問形式を使うのが一般的かどうかを尋ねる。また、命令形に使う場合は、その時の心的態度(やさしく言う時か、きびしく言う時か)を尋ねる。

命令(やさしく)

305 少しだけ酒を[飲まないか。]

命令(きびしく)

306 もっと酒を[飲まないか。]

勧誘

307 いっしょに酒を[飲まないか。]

#### Ⅲ-3. 可能性の考慮

「可能性の考慮」を表す際に、否定疑問形式を用いるのが一般的かどうかを尋ねる。

308 質問は[ありませんか?]

309 (味見をさせて)[甘すぎないか?]

#### Ⅲ-4. 認識の伝達

Ⅲ-4-1. 不確実なことがらに対して話し手がどのように考えているかを述べ、聞き手にその是非を問いかける。共通語では「のではないか」が一般的。

名詞述語

310 道が混んでいるけど、今日は隣町の[花火大会なんじゃないか?]

形容動詞

311 もしかして、ここのお寺も境内が[静かなんじゃないか?]

形容詞

312 ひょっとして、うちの県の山も[高いんじゃないか?]

動詞

313 もしかして、今日はお父さんもお酒を[飲むんじゃないか?]

Ⅲ-4-2. 聞き手にとっても話し手にとっても不確実なことがらに対して、話し手がどのように考えているかを述べる。共通語では「のではないか」が一般的。

名詞述語

314 道が混んでいるね。今日は、隣町の[花火大会なんじゃないか?]

形容動詞

315 ここのお寺も、きっと境内が[静かなんじゃないか?]

形容詞

316 うちの県の山って、隣の県より[高いんじゃないか?]

動詞

317 きっと、今日は、お父さんもお酒を[飲むんじゃないか?]

Ⅲ-4-3. 話し手の意見を聞き手に押し付け、話し手と同じ認識を持つよう聞き手に求める。共通語では「ではないか」が一般的。

名詞述語

318 ほら、やっぱり今日は隣町の[花火大会じゃないか。]

形容動詞

319 何を言っているんだ、ここのお寺も境内が[静かじゃないか。]

形容詞

320 見ろ、うちの県の山も[高いじゃないか。]

動詞

321 やっぱり、お父さんもお酒を[飲むじゃないか。]

Ⅲ-4-4. (独り言で)自身のそれまでの認識を改め、自分の意見を修正する。共通語では、「ではないか」が一般的。

名詞述語

322 なんだ、今日は隣町の[花火大会じゃないか。]

形容動詞

323 意外と、ここのお寺も境内が[静かじゃないか。]

形容詞

324 けっこう、うちの県の山も[高いじゃないか。]

動詞

325 お父さんも意外にお酒を[飲むじゃないか。]

Ⅲ-4-5. 話し手自身の認識を示しつつ、聞き手の認識を尋ねる

名詞述語

326 夏といえば、[花火大会じゃないか?]

形容動詞

327 ここのお寺って境内が[静かじゃないか?]

形容詞

328 うちの県の山って[高くないか?]

動詞

329 (宴席で酒を飲んでいない父を見て)お父さんってふだんはお酒を[飲まないか?]

## IV. 応答詞

### IV-1. 動詞文に対する応答

#### IV-1-1. 肯定疑問文

401 (お前は酒を飲むか?) [\_\_\_\_], 飲まないよ。

402 (お前は酒を飲むか?) [\_\_\_\_], 飲まないよ。

#### IV-1-2. 否定疑問文

403 (お前は酒を飲まないか?) [\_\_\_\_], 飲まないよ。

404 (お前は酒を飲まないか?) [\_\_\_\_], 飲むよ。

#### IV-1-3. 肯定疑問文(推量形)

405 (お前は酒を飲むだろう?) [\_\_\_\_], 飲まないよ。

406 (お前は酒を飲むだろう?) [\_\_\_\_], 飲まないよ。

#### IV-1-4. 否定疑問文(推量形)

407 (お前は酒を飲まないだろう?) [\_\_\_\_], 飲まないよ。

408 (お前は酒を飲まないだろう?) [\_\_\_\_], 飲むよ。

### IV-2. 存否確認文に対する応答

#### IV-2-1. 肯定疑問文

409 (お前のところに車はあるか?) [\_\_\_\_], ないよ。〈天〉

410 (お前のところに車はあるか?) [\_\_\_\_], あるよ。〈天〉

#### IV-2-2. 否定疑問文

411 (お前のところに車はないか?) [\_\_\_\_], ないよ。

412 (お前のところに車はないか?) [\_\_\_\_], あるよ。

#### IV-2-3. 肯定疑問文(推量形)

413 (お前のところに車はあるだろう?) [\_\_\_\_], ないよ。

414 (お前のところに車はあるだろう?) [\_\_\_\_], あるよ。

#### IV-2-4. 否定疑問文(推量形)

415 友達から「今、お前のところに車は無いだろう?」と聞かれて、「[うん、無いよ]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G本 204〉

416 それでは、友達から「今、お前のところに車は無いだろう?」と聞かれて、「[いや、有るよ]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G本 205〉

### IV-3. 感覚形容詞文に対する応答

#### IV-3-1. 肯定疑問文

417 (痛い?) [\_\_\_\_], 痛くないよ。〈天〉

418 (痛い?) [\_\_\_\_], 痛いよ。〈天〉

#### IV-3-2. 否定疑問文

419 (痛くない?) [\_\_\_\_], 痛くないよ。〈天〉

420 (痛くない?) [\_\_\_\_], 痛いよ。〈天〉

#### IV-3-3. 肯定疑問文(推量形)

421 (痛いだろう?) [\_\_\_\_], 痛くないよ。

422 (痛いだろう?) [\_\_\_\_], 痛いよ。



IV-3-4. 否定疑問文(推量形)

- 423 (痛くないだろう?)[\_\_\_\_], 痛くないよ。〈天〉  
424 (痛くないだろう?)[\_\_\_\_], 痛いよ。〈天〉

IV-4. 属性形容詞文に対する応答

IV-4-1. 肯定疑問文

- 425 (おれの鼻は黒いか?)[\_\_\_\_], 痛くないよ。〈天〉  
426 (おれの鼻は黒いか?)[\_\_\_\_], 痛いよ。〈天〉

IV-4-2. 否定疑問文

- 427 (おれの鼻は黒くないか?)[\_\_\_\_], 痛くないよ。〈天〉  
428 (おれの鼻は黒くないか?)[\_\_\_\_], 痛いよ。〈天〉

IV-4-3. 肯定疑問文(推量形)

- 429 (おれの鼻は黒いだろう?)[\_\_\_\_], 痛くないよ。〈天〉  
430 (おれの鼻は黒いだろう?)[\_\_\_\_], 痛いよ。〈天〉

IV-4-2. 否定疑問文(推量形)

- 431 (おれの鼻は黒くないだろう?)[\_\_\_\_], 痛くないよ。〈天〉  
432 (おれの鼻は黒くないだろう?)[\_\_\_\_], 痛いよ。〈天〉

IV-5. 同意要求型疑問文に対する応答

IV-5-1. 肯定疑問文

- 433 (痛いね?)[\_\_\_\_], 痛くないよ。  
434 (痛いね?)[\_\_\_\_], 痛いよ。

IV-5-2. 否定疑問文

- 435 (痛くないね?)[\_\_\_\_], 痛くないよ。  
436 (痛くないね?)[\_\_\_\_], 痛いよ。

IV-6. 追求型疑問文に対する応答

IV-6-1. 肯定疑問文

- 437 (隠しているか?)[\_\_\_\_], 隠していないよ。  
438 (本当は隠しているか?)[\_\_\_\_], 隠していないよ。  
439 (隠しているか?)[\_\_\_\_], 隠しているよ。  
440 (本当は隠しているか?)[\_\_\_\_], 隠しているよ。

IV-6-2. 否定疑問文

- 441 (隠していないか?)[\_\_\_\_], 隠していないよ。  
442 (本当は隠していないか?)[\_\_\_\_], 隠していないよ。  
443 (本当に隠していないか?)[\_\_\_\_], 隠していないよ。  
444 (隠していないか?)[\_\_\_\_], 隠しているよ。  
445 (本当は隠していないか?)[\_\_\_\_], 隠しているよ。  
446 (本当に隠していないか?)[\_\_\_\_], 隠しているよ。

## V. 義務表現

多くの地域で「～なければならない」相当の形式で〈義務〉が表現される。その際、語形の短縮化が見られ、形式面での文法化が確認されることがある。

また、このような否定形式をとまなわなない方言もあるので注意したい。現在知られているのは、飲ムヨーダ・飲ムヨーナのようなヨーダ類であり、この形で「飲まなければならない」が表現される。現在、論文や辞書類で報告されている地域は、岩手県気仙地方、島根県、神奈川県であるが、群馬や埼玉、東京多摩地域でも用いられているという情報もある。東京近郊・関東での使用は、形式面で推量・比況の「ようだ」と同じであることから、いわゆる「気付かれにくい方言」として見過ごされてきた可能性がある。

なお、ヨーダ類をもとに分析するにあたっては、推量・比況の「ようだ」も合わせて検討するとともに、「なければならない」型が同時に併用で存在する場合、相互を比較しながら、違いを明らかにするように記述するとよいだろう。

### V-1. 各品詞の用法

#### 動詞

501 この薬は、必ず[飲まなければならない]

502 親しい友達にむかって、「おれはあした役場に[行かななければならない]」と言うとき、「行かななければならない」のどこをどのように言いますか。〈G本 154〉

参考 親しい友達にむかって、「私はあした役場に[行かななければならない]」と言うとき、どのように言いますか。〈G準表 023〉

#### 形容詞

503 相撲取りは、背の高さが160センチより[高くななければならない]

504 人間が生きるには水が[なければならぬ]

#### 形容動詞

505 学校を作る場所は、[静かでなければならない・静かでなくてはならない]。

#### 名詞述語

506 あの光は、雷だと困る。[花火大会でなければならない]

### V-2. 動作主体

#### 話し手主体

507 おれもこの酒を[飲まなければならない]

#### 聞き手主体

508 お前もこの酒を[飲まなければならない]

#### 第3者主体

509 あいつもこの酒を[飲まなければならない]

### V-3. 動詞の意味(自動詞)

日常会話においては、「なければならない」型の場合、無意志動詞は使いにくい。思考・心理動詞も「～てやる・あげる」のように授与形にして意志動詞にした方が使いやすい。

#### 意志動詞

- 510 明日は5時に[起きなければならない。](主体変化)
- 511 駅まで、30分も[歩かなければならない。](主体動作)
- 512 社長が来るまで、ここに[いなければならない。](存在)

#### 無意志動詞

- 513 何もかも嫌になったから、[死ななければならない。](主体変化)
- 514 恐い先生が来る前にここから、[消えなければならない。](主体変化)
- 515 みんなも泣いているから、いっしょに[泣かなければならない。](主体動作)
- 516 水に入れたら、氷は[浮かなければならない。](主体変化)

#### 思考・心理動詞

- 517 大人は、小さい子どものことを[思わなければならない。]
- 518 困っている人のことを[考えなければならない。]

### V-4. 付帯状況

#### V-4-1. 外的・内的条件

##### 外的条件

- 519 先輩につがれた酒だから、[飲まなければならない]

##### 内的条件

- 520 風邪をひいたから、薬を[飲まなければならない]

#### V-4-2. 条件の緊急性

緊急性の程度との関わりを検討する。

- 521 熱があるから、すぐ病院に[行かなければならない。]
- 522 具合が悪いから、明日は病院に[行かなければならない。]
- 523 明日は、休診日だから、今日うちに病院に[行かなければならない。]
- 524 (健康診断の結果を見て、)暇があるうちに、一度病院に[行かなければならない。]
- 525 (趣味で知り合いの先生から、病院に顔を見せろと言われたので、)そのうち先生に会うために、病院に[行かなければならない。]

#### V-4-3. 心情

状況が、動作主にとって、好ましい状態かどうかを検討する。

##### 不本意(非好意的)

- 526 (飲めないことを冷やかされたくないので、)酒を[飲まなければならない]
- 527 (嫌いな人が相手に)気が進まないが、今夜も酒を[飲まなければならない]

##### 本意(好意的)

- 528 久しぶりの宴会だから、大いに[飲まなければならない]

V-4-4. 能力

529 体力があるから、たくさん荷物を[持たなければならない。]

V-5. 意味

V-5-1. 義務

相対的義務

530 晴天が続くうちに、ふとんを[干さなければならない。]

絶対的義務(社会的・当然)

531 電車に乗る時は、お金を[払わなければならない。]

絶対的義務(社会的・当然による不利益の回避)

532 運賃の20倍もの高額な罰金をとられるから、電車に乗る時は、お金を[払わなければならない。]

絶対的義務(自然法則)

533 スイッチを入れたら、電灯は[光らなければならない。]

534 春になったら、花が[咲かななければならない。]

V-5-2. 当然の結果

535 テーブルから落したら、卵は[割れなければならない。]

536 暑いところに置いたままにした野菜は、[腐らなければならない。]

537 バットで打たれたボールは、[飛ばなければならない。]

V-5-3. 必然性

538 10時に着いたということは、9時45分には、家を[出なければならない。/ 出ていなければならない。]

539 二日酔いしたということは、1升は酒を[飲まなければならない。/ 飲んでいなければならない。]

V-5-4. 必然的動作の開始(自発的)

540 悲しい話を聞いたら、[泣かななければならない。](泣かずにはいられない)

541 不正を知ったら、[怒らなければならない。](怒らずにはいられない)

542 かわいそうな人を見たら、[助けなければならない。](助けずにはいられない)

## VI. その他の否定的内容を有する表現（反語、禁止、否定的応答など）

### VI-1. 反語表現

#### 反語表現 1(内容は否定)

- 601 今夜は誰が飲むものか（いや，飲まない。）
- 602 「そんなばかげたことは [やるものか]」と強く言うとき、「やるものか」の  
ところをどのように言いますか。〈G 準表 098〉
- 603 「そんなこと [誰がやるものか]」と強く言うとき、「誰がやるものか」の  
ところをどのように言いますか。〈G 本 193〉
- 参考 「そんなこと [誰がやるものか]」と強く言うとき、「誰がやるも  
のか」のところをどのように言いますか。〈G 準表 099〉

#### 反語表現 2(内容は肯定。飲マイデカなど)

- 604 今夜は誰が飲まないものか（いや，飲む。）
- 605 あることを，必ずやるという気持で「[やらないことがあるものか]」と  
言うとしたら，どのように言いますか。〈G 本 194〉
- 参考 あることを，かならずやるという気持で「[やらないことがあるも  
のか]」と言うとしたら，どのように言いますか。〈G 準表 100〉

### VI-2. 禁止表現

#### 禁止表現（飲ムナ・飲ンデワダメ・飲メナイ…など）

- 606 酒は，飲むな（普通に）
- 607 酒は，飲むな（やさしく）。
- 608 酒は，飲むな（きびしく）。
- 609 朝いつまでもねている孫に早く起きるように言うとき，どのように言いま  
すか。〈G 準表 010〉
- 610 朝いつまでも寝ている孫にむかって，起きるようにやさしく言うとき，ど  
のように言いますか。〈G 本 147〉
- 参考 孫にむかって，起きるようにやさしく言うとき，どのように言  
いますか。〈G 準 012〉
- 611 それでも起きないので，起きるようきびしく言うとき，どのように言いま  
すか。〈G 本 148〉
- 参考 それでも起きないので，起きるようきびしく言うとき，ど  
のように言いますか。〈G 準表 011〉
- 612 孫にむかって，窓をあけるように言うとき，どのように言いますか。〈G 準  
表 013〉
- 613 部屋の空気が悪いので，孫にむかって，窓をあけるようにやさしく頼むとき，  
どのように言いますか。〈G 本 149〉
- 参考 孫にむかって，窓をあけるようにやさしく言うとき，ど  
のように言いますか。〈G 準表 015〉
- 614 なかなかあけないので，窓をあけるようきびしく言うとき，どのように言

- いますか。〈G 本 150〉  
 参考 なかなかあけないので、窓をあけるようにきびしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 014〉
- 615 孫にむかって、やさしく「そっちへ [行くな]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 本 151〉  
 参考 孫にむかって、「そっちへ [行くな]」とやさしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 018〉
- 616 孫にむかって、きびしく「そっちへ [行くな]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 本 152〉  
 参考 孫にむかって、「そっちへ [行くな]」ときびしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 017〉
- 617 孫にむかって、「そっちへ [行ってはいけない]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 本 153〉  
 参考 孫にむかって、「そっちへ [行ってはいけない]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 016〉
- 618 孫にむかって、「そこで [泳いではいけない]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 019〉
- 619 孫にむかって、「そこで [泳ぐな]」とやさしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 021〉
- 620 孫にむかって、「そこで [泳ぐな]」ときびしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 020〉
- 621 孫にむかって、「今日は寒いから [泳がないでおけ]」と注意するとき、「泳がないでおけ」のところをどのように言いますか。〈G 準表 022〉

### VI-3. 否定的応答

否定的応答（アカンなど）

- 622 （酒を飲んでもいいか？）[だめ]。

拒否的応答（イランなど）

- 623 （飲むのは好きか？）[きらい]。  
 624 （いっしょに飲むか？）[いや]。  
 625 （いっしょに飲もうくしつこく）[いや]。  
 626 （飲みに行こう。）[ ]〈断り切れない場合〉  
 627 （飲みに行こう。）[いやいや]〈ほどほどに断る場合〉  
 628 （飲みに行こう。）[かなわないなあ]〈実は、飲むのがきらいではない場合〉

### VI-4. 二重否定

- 629 「飲まないことはない」といった言い方を日常生活の中で使うかどうか。使う場合、の意味は、「よく飲む」「普通に飲む」「多少飲む」「ほとんど飲まない」「まったく飲まない」のうちのどの意味に相当するか。

## 授受表現

日高水穂

## A 解説

## 1. 授受表現とは

## 1.1 授受表現の体系性

授受表現とは、与え手が対象物（所有物）を所有権ごと無償で受け手に移行することを表す表現である。現代日本語（標準語）では、授受を表す基本的な動詞に、次のような語彙体系が見られる。

表1 標準語の授受動詞

ヴォイス的対立	敬意の有無による対立	人称的方向性による対立	
		遠心性動詞	求心性動詞
授与動詞 (与え手が主格)	敬意あり	さしあげる	くださる
	敬意なし	やる・あげる	くれる
受納動詞 (受け手が主格)	敬意あり		いただく
	敬意なし		もらう

「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」は、与え手が主格に立つ表現をなし、「もらう」「いただく」は受け手が主格に立つ表現をなす。ここでは、前者を「授与動詞」、後者を「受納動詞」と呼ぶことにするが、この授与動詞と受納動詞の構文的な関係は、格の交替という観点から、能動文と受動文との対立（ヴォイス的対立）に対応するものである。

- (1) a. 太郎が [与え手] 次郎に [受け手] 本をやる。(授与動詞)  
 b. 太郎が [与え手] 次郎に [受け手] 本をくれる。(授与動詞)  
 c. 次郎が [受け手] 太郎に [与え手] 本をもらう。(受納動詞)
- (2) a. 太郎が [与え手] 次郎に [受け手] 本を与える。(能動文) (= (1) a・b)  
 b. 次郎が [受け手] 太郎に [与え手] 本を与えられる。(受動文) (= (1) c)

敬意の有無ということでは、「やる」は敬意を含まない語であり「あげる」はそのやや上品な語、「さしあげる」はその謙譲語動詞である。「くれる」は敬意を含まない語であり、「くださる」はその尊敬語動詞、「もらう」は敬意を含まない語であり、「いただく」はその謙譲語動詞である。

さらに現代日本語（標準語）の授受動詞は、話し手を基準にした授受の方向性の違いにより、与え手と受け手に人称制限を持つ。すなわち、「やる」「あげる」「さしあげる」は、授受の与え手に中立もしくは話し手寄りの人物、受け手に中立もしくは他者を配す「遠心性動詞」であり、「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」は、授受の受け手に話し手寄りの人物、与え手に他者を配す「求心性動詞」である。

- (1) a. 太郎が [中立/話し手寄り] 次郎に [中立/他者] 本をやる。  
 b. 太郎が [他者] 次郎に [話し手寄り] 本をくれる。  
 c. 次郎が [話し手寄り] 太郎に [他者] 本をもらう。

こうした授受動詞の分類基準のうち、授与動詞に遠心性動詞と求心性動詞の対立があることは、現代日本語（標準語）の大きな特徴と言える。

さらにこれらの7つの動詞が、ひとまとまりの動詞群として一般の動詞と区別されるのは、これらの動詞が、物の授受を表すという実質的な意味の他に、動詞のテ形に接続して当該動詞の表す行為に恩恵的方向性を付与する補助動詞の用法を持つことによる。

- (3) a. 太郎が [与え手] 次郎に [受け手] 本を読んでやる。  
 b. 太郎が [与え手] 次郎に [受け手] 本を読んでくれる。  
 c. 次郎が [受け手] 太郎に [与え手] 本を読んでもらう。

このような「行為の恩恵的方向性付与」という機能的意味・用法を共通して持つという点から、これらの動詞は強い体系性を持った語彙群であるといえることができる。

## 1.2 人称的方向性による対立の成立メカニズム

### 1.2.1 受納動詞の人称制限

表1に示した授受動詞の対立のうち、人称的方向性による対立は、現代日本語（標準語）の授受動詞の大きな特徴と言える。

ところで、授受動詞の人称的方向性による対立のうち、授与動詞と受納動詞に生じる人称制限は、それぞれ発生メカニズムが異なっている。

受納動詞の人称制限は、(4)のような受身的意味を持つ動詞一般に見られるもので、これは(5)のような受動文の持つ人称制限と同じ性格のものである。

- (4) a. 私が太郎から {統計学を教わる／本を預かる／本を受け取る}。  
 b. ?太郎が私から {統計学を教わる／本を預かる／本を受け取る}。  
 (5) a. 私が太郎になぐられる。  
 b. ?太郎が私になぐられる。

こうした受納動詞の人称制限は、「動作の受け手を主格に据える」という構文的特殊性によって説明できる。通常の動詞構文（能動文）では、動作の仕手が主格に立つのに対し、受身動詞や受動文はあえて受け手を主格に据えることによって、事態を通常とは異なる視点から眺めようとする。その視点の持ち主は話し手が共感を寄せる者（話し手自身か話し手寄りの人物）であり、そのために、受け手を主格とするこれらの構文では、話し手寄りの人物が主格に立ちやすいという人称制限が生じるのである（久野 1978 参照）。

### 1.2.2 授与動詞の人称制限

受納動詞の人称制限が、構文的に生じるものであるのに対し、授与動詞の人称制限は、



語彙的な意味による対立であると言える。中央語の授与動詞の歴史的変遷を見ても、中古以前には、「くれる（くる）」が人称的方向性の区別なく用いられる授与動詞であったのに対し、「やる」は、「(手紙を) 送る」「(使いに) 行かせる」という限られた意味を表すものであって、現代語のように一般的な物のやりとりには用いられていなかった。この意味の「やる」は、次のように、現代語においても存在する。

(6) (私は) 東京にいる娘に荷物／手紙をやった (=送った)。

(7) (私は) 息子を父親の迎えにやった (=行かせた)。

これらの用法から出発した「やる」が、中世以降に遠心的方向の授与を表すようになり、同時に「くれる」が求心性を帯びることにより、「やる／くれる」の語彙体系が生まれたという(古川 1995)。

こうした「やる／くれる」対立が発生するにあたっては、まず、「くれる（くる）」の遠心的方向用法に語用論的な制約が生じ、「やる」がその用法を「代行」する、ということが起きたものと考えられる。

古川(1995)によると、人称的方向性に関して中立的であったと思われる平安時代の「くる」は、上位者から下位者への授与を表すものであったのに対し、鎌倉以降に現われる「くる」にはこうした上下関係は関与せず、一方で、他者から話し手(寄りの人物)への授与(求心的方向の授与)を表すものへと用法が片寄っていくという。古川(1995)は、平安時代の「くる」を下位待遇(卑罵)的な語であったとし、鎌倉以降の「くる」を待遇性に関して中立的になったとするが、仮に平安時代の用法を「くる」の旧用法、鎌倉以降に見られる用法を「くる」の新用法と呼ぶとすると、この2つの「くる」の違いは、待遇的意味の違いではなく、語用論的な運用法の違いとして説明できるものなのではないかと考えられる。

授与行為は、人と人の中で物の所有権が移動する行為である。この行為は無償で行われ、また授与の対象物は受け手にとって利益のあるものであることが前提とされる。与え手は物理的な負担を負う一方で、心理的には優位な立場に置かれるのに対し、受け手は物理的な利益を得るとともに、与え手に対する恩恵意識(心理的負担)を抱くことになる。このように授与行為は、潜在的に与え手上位、受け手下位の上下関係を生じるものである。そのため、授与を表す動詞は、運用の際に「与え手Aと受け手Bの間に、AがBよりも上位者(BがAよりも下位者)として扱われても差し支えない関係が保証されていること」という語用論的な制約を受けることになる。

旧用法の「くる」は、社会階層が固定的であった時代において、社会階層の上位者が下位者に与える場合に用いるというものであった。一方、中世以降の社会変動により、そうした固定的な社会階層が崩壊した結果、対人的な上下関係をはかる基準が変化した。新しい基準は、話し手を中心に据えた親疎関係＝「ウチ／ソト」関係によるものである。

新用法の「くる」の制約は、まず、話し手が「ウチ」の人物を「ソト」の人物よりも上位者として表現することを憚るという語用論的な制約として生じた。結果的に「くる」には、求心的方向の授与では用いられるが遠心的方向の授与では用いられないという人称的方向性による片寄りが生じた。そこで遠心的方向の授与を表す表現として、本来は授与の意味を持たず、単に対象物の移動を表す動詞であった「やる」が、婉曲的な表現として使用されるようになった。この語用論的な配慮に基づく運用法が、徐々に慣用化していくこ

とにより、「やる」と「くれる」は相補的に使い分けられるようになったものと考えられる。

### 1.3 授受補助動詞の成立と用法

現代語の授受動詞7語は、いずれも補助動詞の用法を備えているという点で、共通の文法的機能を持つと言える。物の授与を表す本動詞用法に対して、行為に恩惠的方向性を付与する補助動詞の用法は、「自立性をもった語彙項目が付属語となって、文法機能をにやうようになる」(大堀 2005) 文法化 (grammaticalization) の過程を経て生じたものである。

宮地 (1981) は、現代語の授与動詞各語の補助動詞用法の発達の状況を表2のような略図にして示し、「遅速はあるが、一七世紀なかごろまでに「てくれる・てやる・てもらう」が出そろい、その敬語形「てくださる・てあげる・ていただく」は、それぞれ約二世紀あとに生まれたようであり、一九世紀なかごろまでに全部出そろったと見られる」(宮地 1981) と述べている。

表2 授受補助動詞用法の成立時期

15C	16C	17C	18C	19C	20C
てくれる		てくださる			
		てやる		てあげる	
		てもらう		ていただく	

(宮地 1981:18, 宮地 1975 をもとに作成)

表2からは、授受動詞の補助動詞用法の成立は、①非敬語動詞(くれる・やる・もらう)のほうが敬語動詞(くださる・あげる・いただく)よりも先行する、②非敬語動詞の中では「くれる」が他の2形式にくらべて早い時期に補助動詞用法を発生させている、ということが分かる。このことは、授受動詞という現代日本語では緊密な体系性を持った語彙体系が、漸次的に成立したものであることを示している。

授受動詞の補助動詞用法は、典型的には、行為の恩惠的方向性の付与、ということにあると考えられるが、現代日本語(標準語)においては、恩惠性を介在させない、非利益的な用法というものが存在する。

- (8) あんまり癪にさわるから怒鳴りつけてやった。(不利益の供与)
- (9) 自殺してやる。(自棄自虐)
- (10) あんな大学、きっとパスしてやる。(強い意志)
- (11) ほんとに余計なことをやらかしてくれたものだ。(迷惑)
- (12) 断りなしに他人の部屋に入ってもらっちゃ迷惑だ。(迷惑)

(意味分類, 用例は森田 1977 による)

これらの用法のうち、「～てやる」の「不利益の供与」、「～てくれる」「～てもらう」の「迷惑」の意味は、授受動詞が本来的に持つ「与益性・受益性」を逆手に取った、一種の皮肉表現として成立しているものであると考えられ、行為の影響を被る受け手は依然とし

て文脈的に存在するものと思われる。一方、「～てやる」の「自棄自虐・強い意志」の意味用法には、もはや行為の受け手は存在しない。

ところで「～てくれる」には、文体的に非常に限られた文脈で使用されるものではあるが、次のような話し手を行為主体にした遠心的方向用法がある。

(13) 返り討ちにしてくれる。

(14) どうしてくれよう。

これは、「～てくれる」の「自分の動作で他人に害を与えたり、悪意をこめて動作したりすることをあらわ」（小松 1964）す用法であるが、この用法は「～てやる」の「不利益の供与」の意味用法に近い。どちらも話し手を行為主体とした場合のみに生じる意味用法であるが、話し手を行為主体とした場合にこうした意味合いが生じるのは、先に見た授受表現の潜在的な待遇の意味のためであると考えられる。授与動詞の遠心的方向用法には、与え手である話し手の受け手に対する「親愛の情」と「支配意識」とが常に裏表の関係で付随するのであるが、「～てやる」の「不利益の供与」や「～てくれる」の(13)(14)のような用法は、後者の「支配意識」が前面に現われた用法と言えよう。

こうした用法を対照させてみると、「～てやる」には、「不利益の供与」と連続的なものではあるが、単なる「決意表明」のような受け手の存在を含意しない表現が可能であるのに対して、「～てくれる」には常に受け手の存在が含意されるという違いが認められる。受け手の存在を含意しないので「自殺してやる」のような表現が自虐的な意味で成立するのであるが、「自殺してくれる」ではその行為（自殺）によって迷惑を被る受け手の存在が意味されて自虐的な意味では成立しないように思われる。

このことは、「やる」が本来、受け手の存在を想定しない、単なる二者間の対象物の移動を表す（例(6)(7)参照）ものであったことと関わりがあろう。「くれる」が本来的に受け手の存在を必要とする授受動詞であったのに対し、「やる」は語用論的な用法が慣用化することによって、授受動詞の体系の中に組み込まれていった。このように考えると、現代日本語（標準語）では強固なものに見える授受動詞の語彙体系も、いくつかの変化の結果が重なったところに成立したものであることが分かる。

## 2. 日本方言の授受表現

### 2.1 授受表現の全国分布

日本の各地方言の授受動詞に関しては、国立国語研究所編『日本言語地図』（LAJ）、同『方言文法全国地図』（GAJ）において、次のような質問文による全国分布調査が行われている。

- ①ただで与えることを物をどうすると言いますか。わたしが友達に、たばこを一本、どうすると言いますか。お金と引き換えなら「売る」というところですが……。 (LAJ73 図「やる」)
- ②よその人が自分に物を渡すことをどうすると言いますか。友達が、わたしに、たばこを一本、どうすると言いますか。 (LAJ74 図「くれる」)
- ③お金を出さないで、ただで物を受け取ると物をどうすると言いますか。たばこを一本、わたしが、友達からどうすると言いますか。お金を出すなら「買う」というところですが……。 (LAJ76 図「もらう」)
- ④「友達から本をもらった」と言うとき、「本をもらった」のところをどのように言い

ますか。(GAJ262 図「もらった」)

⑤友達に「きのう、うちの孫に本をやった」と言うとき、「本をやった」のところをどのように言いますか。(GAJ263 図「やった」)

⑥孫に向かって、「犬に餌をやったか」と聞くとき、「餌をやったか」のところをどのように言いますか。(GAJ264 図「やった(か)」)

⑦親しい友達に「おれにたばこを1本くれ」と言うとき、「1本くれ」のところをどのように言いますか。(GAJ266 図「くれ」)

①⑤⑥が「やる」、②⑦が「くれる」、③④が「もらう」に相当する表現を問う調査項目となっている。

これらの分布図のうち、①と②に基づく授与動詞の総合図を図1に示した。この分布図からは、以下のことが分かる。

- ・人称的方向性による対立のない型(A)とある型(B)が、ほぼ(A)-(B)-(A)の分布を成している。
- ・(A)(B)のうち最も広範囲に分布する形式は、(A)「クレル/クレル」、(B)「ヤル/クレル」である。

ここから、現在「ヤル/クレル」の対立を持つ中央部においても、かつては人称的方向性による対立をもたない「クレル/クレル」が用いられていたという文献上の歴史的変遷過程の傍証が得られる。

ヤル、クレル以外の語形では、遠心的方向の授与を表す動詞として、秋田県男鹿半島、茨城県、千葉県のダス、石川県能登半島のトラスがあり、求心的方向の授与を表す動詞として、鳥取県、島根県のヨコス(実際の語形はゴス)がある。図1には明確に現れていないが、北陸地方のヨコス(実際の語形はイクス・イコス)は、人称的方向性の区別なく用いられるものである。沖縄県のトラス(実際の語形はトゥラスン等)、エラス(実際の語形はイラスン等)も人称的方向性の区別のない動詞である。

⑤⑥⑦については、用いられる動詞の分布状況は、おおむね①②に準じたものとなっている。ただし、動物(犬)が受け手となる⑥では、以下のように、周辺地域に「食わせた」に相当する表現が広く分布している。本来の授受動詞の用法では、受け手が人間に限定されていたことを窺わせる分布である。

カヘダ：青森県

カセダ：岩手県、宮城県、秋田県、山形県

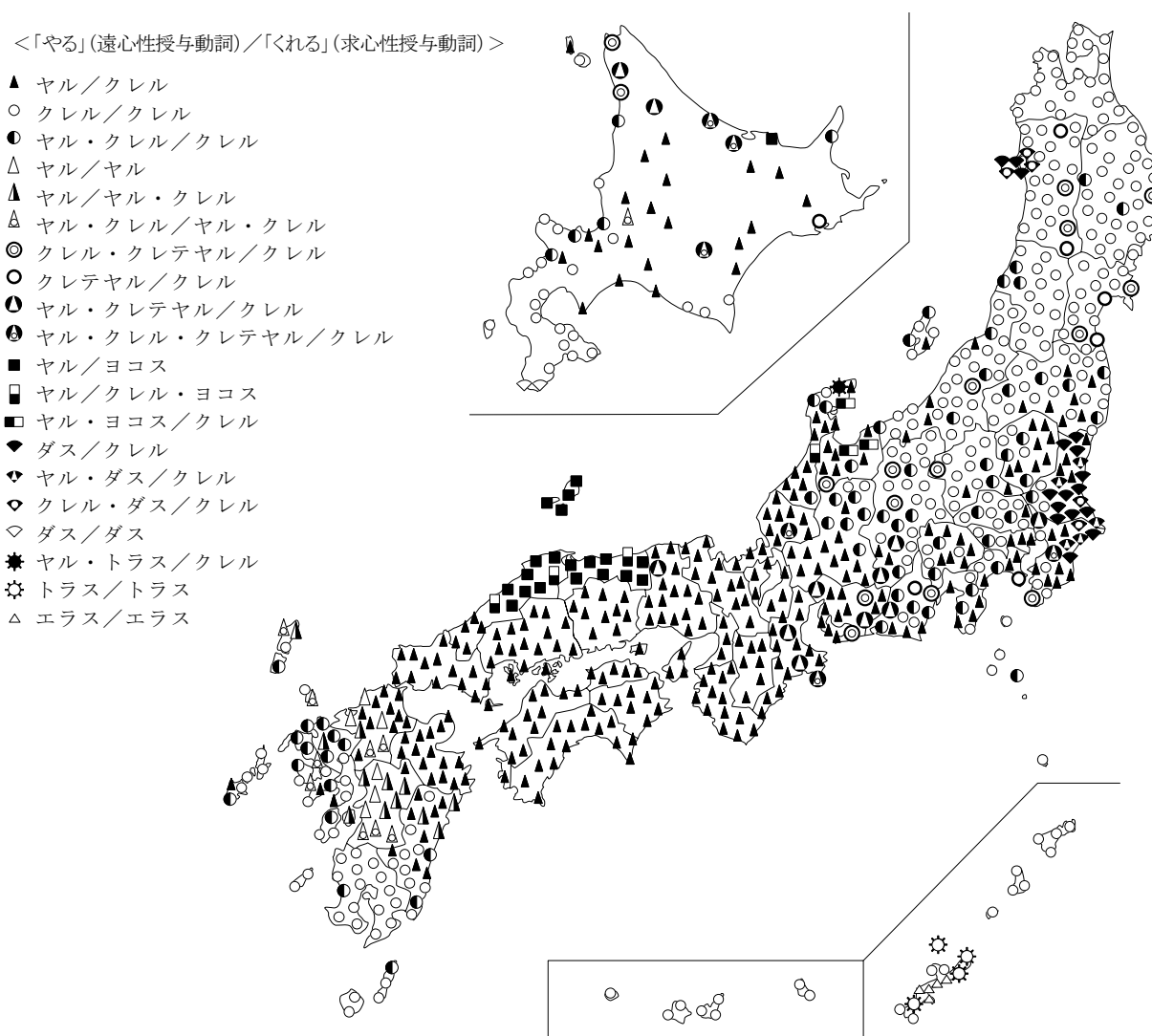
クッセタ：宮城県、鹿児島県

クワーチー：沖縄県

次に、③④の「もらう」に相当する表現の分布を見ると、全国的にモラウ系の語形が分布する中で、沖縄県にエル系の語形が分布している。先に見たように、沖縄県の方言には、授与動詞にエラス系の語を用いるものがある。つまり、受納動詞(エル)の派生語(使役動詞形)として、授与動詞(エラス)が形成されていることになる。

なお、③と④の分布図の違いとしては、③の分布図では、エル系の語形が佐賀・長崎にも多く見られること、沖縄にトル系の語形が見られること、宮古にモラウ系の語形が見られないことなど、④の分布図と異なる点がある。

図1 授与動詞総合地図



(国立国語研究所 1997 をもとに作図した日高 1994b 所収の分布図の略図。日高 2002 参照。)

## 2.2 授与動詞の段階的な体系変化

図1によれば、中部地方以東と九州南西部には、クレルを人称的方向性による区別なく用いる方言がある。これらの方言の中には、遠心的方向の授与を表すクレルの用法に構文的な制約が生じ、クレルが求心動詞化していく過程にあるものがある。

遠心的方向の授与を表すクレルに生じる構文的な制約のうち、東日本の「クレル／クレル」地域に見られるものとして、以下の現象がある。

- ①聞き手に対する直接的な授与では用いやすいが、第三者に対する授与では用いにくい。
- ②意志文では用いやすいが、叙述文では用いにくい。
- ③本動詞用法では用いやすいが、補助動詞用法では用いにくい。

表3は、石川県珠洲郡内浦町の老年層13名に対し、上記の①～③の条件を組み合わせた

調査文に対し、クレルを言うかどうかを回答してもらうという調査の結果である（日高 1997b 参照）。

表 3 遠心的方向の授与を表すクレルの使用（石川県珠洲郡内浦町）

受け手	構文	用法	調査文	回答者（数字は生年の西暦下二桁）												
				男 28	男 32	男 11	男 35	男 24	女 36	女 37	女 30	男 20	男 26	女 25	男 24	女 27
聞き手	意志文	本動詞	①おまえに本をクレル	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	
		補助動詞	②おまえに本をヨンデクレル	○	◎	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	叙述文	本動詞	③おまえに本をクレタ	○	○	○	×	×	○	×	◎	○	○	×	×	×
		補助動詞	④おまえに本をヨンデクレタ	○	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	×	×
第三者	意志文	本動詞	⑤孫に本をクレル	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	
		補助動詞	⑥孫に本をヨンデクレル	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	叙述文	本動詞	⑦孫に本をクレタ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
		補助動詞	⑧孫に本をヨンデクレタ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

◎：よく言う ○：言うこともある ×：言わない

表 3 から分かるように、内浦町方言のクレルは、遠心的方向用法の使用に制約が生じ、求心動詞化していく過程にある。以下では、この現象を推し進める制約の意味について考えてみよう（日高 1997b・1997c 参照）。

遠心的方向の授与を表すクレルに生じる構文的な制約のうち、①と②の現象は密接に関連する。授与動詞の場合、受け手が聞き手で意志文であるということは、発話の場が授与を行う場となるということである。一方、③に関しては、物の授与を意味する本動詞と行為の方向性を示す補助動詞では、表す意味の抽象度が異なる。①～③の現象は、クレルの求心動詞化のプロセスに、次の 2 つの要因が関わることを意味している。

- ・ 現場性の有無
- ・ 機能語化の度合

「現場性の有無」は、クレルが求心動詞として機能する必要性を左右する。遠心的方向用法のクレルがもっとも安定して使われるのは、聞き手に対し、直接、その場で物を与える意志を表明する場合である。こうした場面では、授与行為そのものが発話現場において実現するため、話し手が与え手であり、聞き手が受け手であるという授与の方向性は、授与動詞が人称的な方向性を表さなくても、自明なこととして理解される。一方、発話の現場にいない第三者への授与について述べる場合には、与え手と受け手の関係を解釈する際に助けとなる、発話現場依存的な情報というものは、通常存在しない。

こうしたことから、発話現場依存的な解釈の補強が得られる場面では、クレルの遠心的方向用法は維持されるが、そうした補強が得られない場面では、クレルが求心動詞化することによって伝達効率を向上させていく、ということが起こるわけである。

次に、「機能語化の度合」であるが、本動詞と補助動詞では、ヤルとクレルの対立に占める語彙的意味の程度に差がある。本動詞のヤルとクレルは、単なる対象物の移動を表すか、所有権の移動を伴う「授与」を表すか、という語彙的な意味が、両者が併存する際の対立

の基準になる。それに対し、補助動詞のテヤルとテクレルは、いずれも行為に恩恵的方向性を付与するという共通の機能を持つ一方、語彙的な意味の対立は希薄化している。そのため、遠心的方向用法では2つの形式が競合する状態が生じてしまう。ヤルは、そもそも遠心的方向用法しか持たない動詞であるので、クレルが求心動詞化すれば、両者は人称的方向性の区別を表し分けるといった機能分担が可能になる。

さらに、本動詞のクレルが求心動詞化しなくても、補助動詞のテクレルが求心的方向性を付与する機能を持つようになれば、クレテヤル、クレテクレルという複合形式によって、動作の人称的方向性を明示することが可能になる。

こうしたことから、補助動詞用法が本動詞用法に先んじて求心動詞化が進む、ということが起こるのである。

クレルの求心動詞化は、現在、各地で同時進行的に起こっている。その際、「現場性の有無」と「機能語化の度合」の条件では、前者がより有効に働く方言（石川県内浦町方言、富山県五箇山方言、岐阜県白川方言など）と、後者がより有効に働く方言（長野県信州新町方言、茨城県水海道方言、福島県喜多方方言など）がある（日高 1997c・2002 参照）。クレルの求心動詞化の現象は、「言語変化のプロセスに見られる地域差」を観察するのに、興味深い事例と言える。

### 3. 調査の着眼点

以下では、Bで扱う調査項目を中心に調査の着眼点を簡略に記す。ローマ数字はBでの扱いに対応している。

#### I. 授受動詞の用法

以下のような調査項目を設けた。

- ①授受本動詞の基本的な用法：授受動詞「やる」「くれる」「もらう」に相当する動詞の本動詞の基本的な用法を問う。
- ②授受補助動詞の基本的な用法：授受動詞「やる」「くれる」「もらう」に相当する動詞の補助動詞の基本的な用法を問う。
- ③授受動詞の周辺の用法：授受動詞「やる」「くれる」「もらう」に相当する動詞について、周辺の用法での使用を問う。

#### II. 授与動詞の人称的方向性

以下のような調査項目を設けた。

- ①遠心的方向の授与：遠心的方向の授与を表す動詞が、用法に片寄りを生じていないかを調べることを目的とする。以下の条件を組み合わせた8つの質問文について、該当の動詞の使用を問う。
  - ・受け手が聞き手であるか、第三者であるか。
  - ・文タイプが意志文であるか、叙述文であるか。
  - ・本動詞用法であるか、補助動詞用法であるか。
- ②求心的方向の授与：求心的方向の授与を表す動詞が、用法に片寄りを生じていないかを調べることを目的とする。以下の条件を組み合わせた6つの質問文について、該当の動詞の使用を問う。
  - ・受け手が聞き手であるか、第三者であるか。

- ・文タイプが命令文であるか、叙述文であるか。
- ・本動詞用法であるか、補助動詞用法であるか。

③複合授与動詞:複合授与動詞クレヤル・クレケレルが存在するかどうかを問う。

クレヤル・クレケレルは、地域によっては、ケデヤル・ケデケルなど、語形が変わることがあるので、該当する語形を確認した上で質問文ごとの使用を問う。

なお、受納動詞「もらう」およびその補助動詞用法では、次のように、与え手を表す格助詞のバリエーションが、問題となる場合がある。

(15) 太郎 {に／から} カメラの使い方を教えてもらった。

(16) 太郎 {に／×から} 宿題を手伝ってもらった。

これは、いわゆる受動文の動作主マーカとなる格助詞のバリエーションの問題と軌を一にするものであり、この観点での調査項目は、既刊の『方言文法調査ガイドブック』の「ヴォイス（受動文を中心に）」（執筆：日高水穂）に掲載している。参照されたい。

#### 4. 研究の現状と発展

各地方言の授受動詞の意味・用法についての記述的な研究には、東北方言を対象にした篠崎（1994）、北陸方言を対象にした日高（1994b）などがあるが、まだ地域的には十分な記述がそろっているとは言えない。茨城・千葉方言のダス、山陰方言のゴス（<ヨコス）など、授与動詞にヤル・ケレル以外を用いる方言の授受動詞を体系的に記述することは、今後の課題となる。また、授受動詞の用法に特徴があるだけでなく、敬語表現が多様に分化している九州方言についての体系的な記述も必要である。特に、沖縄方言の授受動詞は、語形の面でも用法の面でも、本土方言とは異なる体系性を持つ可能性があり、今後の詳細な記述が望まれる（島袋・かりまた（2001）に概略的な記述がある）。

授与動詞の人称的方向性による対立の発生に関する動態研究には、日高（1996・1997a・1997b・1997c）がある。これらは、東日本の「ケレル／ケレル」地域を扱うものであり、同様の調査を西日本（九州南西部）の「ケレル／ケレル」地域でも実施していくことが、今後の課題となる。

#### 5. 文献

大堀壽夫（2005）「日本語の文法化研究にあたって—概観と理論的課題—」『日本語の研究』1-3（『国語学』通巻222）

奥津敬一郎（1986）「やりもらい動詞」『国文学 解釈と鑑賞』51-1

久野暉（1978）『談話の文法』大修館書店

古川俊雄（1995）「授受動詞「くれる」「やる」の史的的研究」『広島大学教育学部紀要』2-44

古川俊雄（1996）「通時的観点から見た現代日本語における「くれる」の特殊用法」『日本語教育学科紀要』6 広島大学教育学部日本語教育学科

国立国語研究所編（1967）『日本言語地図』第2集 大蔵省印刷局

国立国語研究所編（2002）『方言文法全国地図』第5集 財務省印刷局

小松寿雄（1964）「～してやる・～してもらう・～してくれる」『口語文法講座3 ゆれている文法』明治書院

櫻井光昭（1991）「受身・使役・授受表現の歴史」『講座日本語と日本語教育10 日本語の歴



- 史』明治書院
- 篠崎晃一(1994)「鶴岡方言の授受表現」国立国語研究所『鶴岡方言の記述的研究—第3次鶴岡調査報告—』秀英出版
- 島袋幸子・かりまたしげひさ(2001)「琉球方言のやりもらい動詞」『言語』30-5
- 城田俊(1996)「話場応接態(いわゆる「やり・もらい」)—「外」主語と「内」主語—」『国語学』186
- 日高水穂(1994a)「越中五箇山方言における授与動詞の体系について」『国語学』176
- 日高水穂(1994b)「授与動詞の全国分布と東西対立」『日本学報』13 大阪大学文学部日本学研究室
- 日高水穂(1996)「信州新町地域の授与動詞の体系変化」『地域言語』8 天理・地域言語研究会
- 日高水穂(1997a)「五箇山・白川郷の方言授与動詞使用の動態」真田信治編『五箇山・白川郷の言語調査報告』科学研究費報告書
- 日高水穂(1997b)「授与動詞の体系と変化に関する方言対照研究」大阪大学博士(文学)取得論文
- 日高水穂(1997c)「授与動詞の体系変化の地域差—東日本方言の対照から—」『国語学』190
- 日高水穂(2002)「言語の体系性と方言地理学」馬瀬良雄監修／佐藤亮一・小林隆・大西拓一郎編『方言地理学の課題』明治書院
- 宮地裕(1965)「「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について」『国語学』63
- 宮地裕(1975)「授受表現補助動詞「やる・くれる・もらう」発達の意味について」鈴木知太郎博士古稀記念 国文学論叢』桜楓社
- 宮地裕(1981)「敬語史論」『講座日本語学9 敬語史』明治書院
- 村上三寿(1986)「やりもらい構造の文」『教育国語』84
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院
- Yamada, Toshihiro (1996) Some Universal Features on Benefactive Constructions. 『日本学報』15 大阪大学文学部日本学研究室

## B 項目

各項目で、参考となる先行調査票の項目を以下の略号を用いて提示する。

<G 本○○○> : GAJ 本調査(○○○は質問番号)

<G 準○○○> : GAJ 準備調査(○○○は質問番号)

質問文の一部に下線を引いた項目は、下線部分をどのように言うかを問う。

### I. 授受動詞の用法

#### I-1. 授受本動詞の基本的な用法

- I-1-1. 友達に「きのう、うちの孫に本をやった」と言うとき、「本をやった」のところをどのように言いますか。<G 本 208>
- I-1-2. それでは「うちの孫」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。
- I-1-3. 友達に「きのう、うちの孫が本をくれた」と言うとき、「本をくれた」のところをどのように言いますか。
- I-1-4. それでは「うちの孫」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。
- I-1-5. 友達に「おれにたばこを1本くれ」と言うとき、「1本くれ」のところをどのように言いますか。<G 本 207>
- I-1-6. それでは「友達」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。
- I-1-7. 友達に「うちの孫から本をもらった」と言うとき、「本をもらった」のところをどのように言いますか。<G 本 206 参照>
- I-1-8. それでは「うちの孫」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。

#### I-2. 授受補助動詞の基本的な用法

- I-2-1. 友達に「きのう、うちの孫に本を読んでやった」と言うとき、「読んでやった」のところをどのように言いますか。
- I-2-2. それでは「うちの孫」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。
- I-2-3. 友達に「きのう、うちの孫が本を読んでくれた」と言うとき、「読んでくれた」のところをどのように言いますか。
- I-2-4. それでは「うちの孫」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。
- I-2-5. 友達に「このカメラの使い方を教えてくれ」と言うとき、「教えてくれ」のところをどのように言いますか。
- I-2-6. それでは「友達」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。
- I-2-7. 友達に「うちの孫に本を読んでもらった」と言うとき、「読んでもらった」のところをどのように言いますか。
- I-2-8. それでは「うちの孫」ではなく「先生」であれば、どのように言いますか。

#### I-3. 授受動詞の周辺的な用法

- I-3-1. 犬に餌をやった。<G 本 209 参照>
- I-3-2. 花に水をやった。

- I-3-3. 娘を嫁にやった。
- I-3-4. パーティの招待状をどこかにやってしまった。
- I-3-5. 息子に手紙をやった。
- I-3-6. 息子が手紙をよこした。
- I-3-7. 親戚の引っ越しの手伝いに人をやった。
- I-3-8. 親戚が引っ越しの手伝いに人をよこした。
- I-3-9. 神棚に御神酒をあげる。
- I-3-10. 仏壇に線香（お供え物）をあげる。
- I-3-11. あんまり癪にさわるから怒鳴りつけてやった。
- I-3-12. 自殺してやる。
- I-3-13. あんな大学，きっとパスしてやる。
- I-3-14. ほんとに余計なことをやらかしてくれたものだ。
- I-3-15. 断りなしに他人の部屋に入ってもらっちゃ迷惑だ。

## II. 授与動詞の人称的方向性

### II-1. 遠心的方向の授与

- II-1-1. お孫さんに「おまえにこの本をやる」
- II-1-2. お孫さんに「おまえにこの本を読んでやる」
- II-1-3. お孫さんに「昨日おまえに本をやった」
- II-1-4. お孫さんに「昨日おまえに本を読んでやった」
- II-1-5. 家の人に「明日は孫の誕生日なので，本をやる」
- II-1-6. 家の人に「今から孫に本を読んでやる」
- II-1-7. 家の人に「昨日は孫の誕生日だったので，本をやった」
- II-1-8. 家の人に「昨日は孫に本を読んでやった」

### II-2. 求心的方向の授与

- II-2-1. お孫さんに「(私に) その本をくれ」
- II-2-2. お孫さんに「(私に) その本を読んでくれ」
- II-2-3. お孫さんに「昨日私に本をくれたよね」
- II-2-4. お孫さんに「昨日私に本を読んでくれたよね」
- II-2-5. 家の人に「昨日は孫が私に本をくれた」
- II-2-6. 家の人に「昨日は孫が私に本を読んでくれた」

### II-3. 複合授与動詞

- II-3-1. お孫さんに「おまえにこの本をクレテヤル／クレテクレル」(= II-1-1)
- II-3-2. 家の人に「昨日は孫の誕生日だったので，本をクレテヤッタ／クレテクレタ」  
(= II-1-7)
- II-3-3. お孫さんに「(私に) その本をクレテヤレ／クレテクレ」(= II-2-1)
- II-3-4. 家の人に「昨日は孫が私に本をクレテヤッタ／クレテクレタ」(= II-2-5)

### Ⅲ. 補遺

以下の項目は、GAJ 準備調査の調査項目である。適宜参照されたい。なお、10 以降の「○○さん」には、①もっとも丁寧に接する相手、②対等な言葉遣いをする相手、③奥さん、を当てはめる。

1. 「友達に本をやった」と言うとき、「本をやった」のところをどのように言いますか。〈G 準 184〉
2. 「友達から本をもらった」と言うとき、「本をもらった」のところをどのように言いますか。〈G 準 185〉
3. 「友達が私に本をくれた」と言うとき、「本をやった」のところをどのように言いますか。〈G 準 186〉
4. 自分の孫に「この本をやるよ」と言うとき、「本をくれた」のところをどのように言いますか。〈G 準 187〉
5. 友達に「おれにタバコを 1 本くれ」と言うときには、どのように言いますか。〈G 準 188〉
6. 友達に「きのう、うちの孫に本をやった」と言うとき、「本をやった」のところをどのように言いますか。〈G 準 189〉
7. 学校の先生に「きのう、うちの孫に本をやった」と言うとき、「本をやった」のところをどのように言いますか。〈G 準 190〉
8. 自分の孫に「犬に餌をやったか」と聞くとき、「餌をやったか」のところをどのように言いますか。〈G 準 191〉
9. 友達に「さっき、うちの犬に餌をやった」と言うとき、「餌をやった」のところをどのように言いますか。〈G 準 192〉
10. ○○さんに「これは、あなたからもらったものだ」と言うとき、「もらったものだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 233〉
11. ○○さんに「これをあなたにやろう」と言うとき、「やろう」のところをどのように言いますか。〈G 準 234〉
12. ○○さんに「手紙をくれ」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 238〉
13. ○○さんに「手紙をくれてありがとう」と言うとき、「手紙をくれて」のところをどのように言いますか。〈G 準 239〉
14. ○○さんに「この手紙を書いてくれ」と言うとき、「書いてくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 240〉
15. ○○さんに「こちらへ来てくれ」と言うとき、「来てくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 241〉
16. ○○さんに「(私の) 父はすぐもどるからしばらく待ってくれ」と言うとき、「待ってくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 244〉

## 待遇表現

井上文子

### A 解説

#### 1. 待遇表現とは

話し手が、自分自身と聞き手や話題にする人物とのそれぞれの人間関係を、社会的・心理的な上下・優劣・強弱・親疎などの基準によって判断し、発話の場面などに即して、その位置づけを言語形式などの表現に反映させること、またその表現を「待遇表現」と呼んでいる。

待遇表現の範囲には、相手を上位に位置づける場合の、一般に言う敬語に限らず、対等の場合、下位に位置づける場合も含まれる。待遇的な位置づけは、言語形式だけでなく、声の調子などを含めた広範な言語的表現によってもおこなわれ、表情・動作・服装などの非言語的表現にも反映されている。

広範な言語的要素・非言語的要素を含む待遇表現であるが、ここでは、言語形式による待遇表現について扱うことにする。

#### 2. 日本方言の待遇表現

形式の多様性、対象や場面の複雑さ、地域方言や社会方言による体系・運用・意識の枠組みの違いなどから、待遇表現の全国的な比較・分布の記述は困難だとされているが、一般的に、西日本では尊敬表現がさかんなのに対して、東日本ではあまり発達していないと言われている。福島県中央部から茨城県・栃木県にかけては、尊敬表現はほとんど見出せない。西日本でも、紀伊半島東南部、高知などには尊敬表現が現れにくい。近畿中央部では、1 地点で数種類、何段階もの言い方がある。形態的にみると、敬語動詞よりも、一般動詞+助動詞の形が多くなっている。その一方で、尊敬表現のさかんな近畿地方は、尊敬表現とは逆の卑罵表現も多様である。

いわゆる無敬語地帯でも、イントネーションで丁寧さを表現したり、敬語的な命令・要求表現が使われたり、終助詞で丁寧表現を担ったりすることが多い。また、急激な状況の変化があるようであるが、人称代名詞に待遇的価値が反映されることも多数報告されてきた。

従来、専用の素材待遇表現がほとんど認められない地域においては、待遇表現行動の実態は記述されることが少なかった。しかし、そのような地域でも日常生活では待遇的な配慮や言語行動がおこなわれている。また、急速な標準語化も考慮して、きわめてシンプルな待遇表現体系を持つ地域における人々の待遇表現行動の実態を、現時点で正確に記述することが重要だと考えられるようになり、調査が進められている。

### 3. 調査の着眼点

#### 0. 対者・第三者設定

『方言文法全国地図』本調査では、話し相手を「親しい友達」「近所の知り合いの人」「この土地の目上の人」の3段階に設定して、それぞれに使用される待遇表現形式を調査している。一方、準備調査や検証調査では、最初には話し相手を設定せず、調査項目の中で話者に申告してもらう方式をとっている。Bで※印をつけた項目がそれにあたる。

話し相手や話題の人物を調査者側で設定する場合には、年齢・性別・上下・親疎・ウチソトなどの組み合わせにより設定される場合が多い。特に、「もっとも丁寧なことばづかいで話す人」を設定する場合、「先生」「僧侶」「医者」などを設定することが多いが、地域や話者の年齢などによってかなりの違いがあるので、注意が必要である。

自分自身のネットワークを振り返って話し相手や話題の人物を列挙したり、フォーマル・インフォーマルの各場面を想定してみたりすること、また、形式のリストアップをおこなって、その敬意度、聞き手・話題の人物の誰に使えるか、どこで切り替えるか、などについて内省することも有効であると思われる。

男女差が大きい分野であるとの指摘もあるので、偏りが出ないように、人物の設定、話者の選定の際には注意が必要である。

#### I. 聞き手主体

待遇表現の形式面では、「行く」「来る」「いる」「する」「言う」「見る」「知る」「着る」「食べる」「起きる」「寝る」「乗る」「結婚する」「死ぬ」「生まれる」などについて、「敬語動詞」が用いられるか、「一般動詞＋助動詞」「動詞＋補助動詞」のような形が使われるか、助詞・文末詞などによって待遇差が示されるか、などが注目される。動詞の活用の種類によって、接続する助動詞の形式に違いがあったり、同じ形式でも地域によって接続が異なったりすることもある。

#### II. 第三者主体

話し相手と話題の人物との組み合わせにより、多数の調査項目が設定される。

#### III. 話し手主体

方言では、謙譲語が発達していないとの指摘もある。

#### IV. 丁寧表現

出現する複数の形式の丁寧度や、段階の分け方に注意する。

#### V. 卑罵表現

下向き待遇の形式を求めているが、同じ形式が親愛表現にも用いられる可能性がある。

#### VI. 代名詞表現

対称詞・自称詞・親族名称に関しては、呼びかけ・言及・自称詞の反射指示用法もある。

#### VII. 間投表現

終助詞もあわせて、待遇に関わるものが多い。

#### VIII. 格助詞

「が」「の」の尊卑を確認する。

#### IX. その他

これ以外にも、待遇表現形式の活用、文中の位置、承接関係、文のタイプや諸要素との共起関係などの面からも調査することができる。

## B 項目

各項目で、参考となる先行調査票の項目を以下の略号を用いて提示する。

<G 本○○○> : GAJ 本調査(○○○は質問番号)

<G 準○○○> : GAJ 準備調査(○○○は質問番号)

<G 検> : GAJ 検証調査「待遇表現に関する実験的調査」

調査票の項目としては挙げなかったが、下記のものも参照した。

真田信治編(2001)『方言文法調査項目リスト—天草篇—』(「環太平洋の言語」成果報告書 A4-003)

真田信治編(2002)『方言文法調査項目リスト—由利篇—』(「環太平洋の言語」成果報告書 A4-008)

真田信治編(2002)『消滅に瀕した方言文法の記録—天草方言・由利方言—』(「環太平洋の言語」成果報告書 A4-009)

方言研究ゼミナール(1997)『方言資料叢刊 7 方言の待遇表現』「待遇表現調査票」

### O. 対者・第三者設定

001 この土地のことばでもっとも丁寧なことばづかいをするこの町村内の人

※ あなたがふだん、この土地のことばでもっともていねいなことばづかいをなさる、この町(村)内の方はどなたでしょうか。お1人あげてください。<G 準 195.51>

002 この土地のことばで対等なことばづかいをする近所の人

※ では次に、あなたがふだん、この土地のことばで対等なことばづかいをなさる近所の方はどなたでしょうか。お1人あげてください。<G 準 195.52>

### I. 聞き手主体

#### I-1. 質問表現

五段(四段)動詞「書く」

003 手紙を[書きますか]

参考 親しい友達にむかって、「ひと月に何通手紙を [書くか]」と聞くとき、「書くか」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「ひと月に何通手紙を [書きますか]」と聞くとき、「書きますか」のところをどのように言いますか。<G 本 252-A>

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。<G 本 252-B>

Aさんに「今日 [手紙を書くか]」と聞くとき、「手紙を書くか」

のところをどのように言いますか。〈G 準 199〉

Bさんに「今日 [手紙を書くか]」と聞くとき、「手紙を書くか」のところをどのように言いますか。〈G 準 199〉

では、奥さんに「今日 [手紙を書くか]」と聞くとき、「手紙を書くか」のところをどのように言いますか。〈G 準 199〉

五段(四段)動詞「行く」

004 [どこへ][行きますか]

参考 親しい友達にむかって、「[どこへ行くのか]」と行先をたずねるとき、どのように言いますか。〈G 本 246-0〉

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに言うときはどうですか。〈G 本 246-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 246-B〉

Aさんに「[どこに行くか]」と聞くとき、どのように言いますか。〈G 準 198〉

Bさんに「[どこに行くか]」と聞くとき、どのように言いますか。〈G 準 198〉

では、奥さんに「[どこに行くか]」と聞くとき、どのように言いますか。〈G 準 198〉

自分の父親に「[どこに行くか]」とたずねるとき、どのように言いますか。〈G 準 246〉

自分の孫に「[どこに行くか]」とたずねるとき、どのように言いますか。〈G 準 247〉

あなたの奥さんがあなたにむかって、「[どこに行くか]」と聞く場合は、奥さんはどのように言うでしょう。〈G 準 248〉

※ 道で会って、相手に「[どこに行くか]」と相手の行先をたずねる場合、相手によっていろいろ変わった言い方をなさると思います。「どこに行くか」と言うことを、この土地のことばで、ていねいな言い方からぞんざいな言い方まで順におっしやってみてください。では、上のような言い方をなさる相手は、あなたにとってどんな人でしょうか。具体的におっしやってください。〈G 準 194〉

五段(四段)動詞「聞く」

005 ラジオを[聞きますか]

参考 Aさんに「今日 [ラジオを聞くか]」と聞くとき、「ラジオを聞くか」のところをどのように言いますか。〈G 準 202〉

Bさんに「今日 [ラジオを聞くか]」と聞くとき、「ラジオを聞くか」のところをどのように言いますか。〈G 準 202〉

では、奥さんに「今日 [ラジオを聞くか]」と聞くとき、「ラジオを聞くか」のところをどのように言いますか。〈G 準 202〉



五段(四段)動詞「言う」

006 何と[言いましたか]

参考 親しい友達にむかって、「あなたは、今、[何と言ったか]」と聞き返すとき、「何と言ったか」のところをどのように言いますか。近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「あなたは、今、[何と言いましたか]」と聞き返すとき、「何と言いましたか」のところをどのように言いますか。〈G 本 254-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 254-B〉  
Aさんに「さっき [何と言ったか]」とたずねるとしたら、「何と言ったか」のところをどのように言いますか。〈G 準 210〉  
Bさんに「さっき [何と言ったか]」とたずねるとしたら、「何と言ったか」のところをどのように言いますか。〈G 準 210〉  
では、奥さんに「さっき [何と言ったか]」とたずねるとしたら、「何と言ったか」のところをどのように言いますか。〈G 準 210〉

五段(四段)動詞「知る」

007 あの事件を[知っていますか]

参考 親しい友達にむかって、「あの事件を [知っているか]」と聞くとき、「知っているか」のところをどのように言いますか。近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「あの事件を [知っていますか]」と聞くとき、「知っていますか」のところをどのように言いますか。〈G 本 251-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 251-B〉  
Aさんに「そのことを [知っているか]」と聞くとき、「知っているか」のところをどのように言いますか。〈G 準 206〉  
Bさんに「そのことを [知っているか]」と聞くとき、「知っているか」のところをどのように言いますか。〈G 準 206〉  
では、奥さんに「そのことを [知っているか]」と聞くとき、「知っているか」のところをどのように言いますか。〈G 準 206〉

五段(四段)動詞「読む」

008 何を[読んでいますか]

参考 Aさんに「今、[何を読んでいるか]」と聞くとき、「何を読んでいるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 201〉  
Bさんに「今、[何を読んでいるか]」と聞くとき、「何を読んでいるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 201〉  
では、奥さんに「今、[何を読んでいるか]」と聞くとき、「何を読んでいるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 201〉

五段(四段)動詞「乗る」

009 何に[乗ってきましたか]

参考 Aさんに「ここへは [何に乗ってきたか]」と聞くとき、「何に乗ってきたか」のところをどのように言いますか。〈G 準 204〉  
Bさんに「ここへは [何に乗ってきたか]」と聞くとき、「何に乗ってきたか」のところをどのように言いますか。〈G 準 204〉  
では、奥さんに「ここへは [何に乗ってきたか]」と聞くとき、「何に乗ってきたか」のところをどのように言いますか。〈G 準 204〉

一段(上一段)動詞「見る」

010 テレビを[見ますか]

参考 Aさんに「今日 [テレビを見るか]」と聞くとき、「テレビを見るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 200〉  
Bさんに「今日 [テレビを見るか]」と聞くとき、「テレビを見るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 200〉  
では、奥さんに「今日 [テレビを見るか]」と聞くとき、「テレビを見るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 200〉

一段(上一段)動詞「着る」

011 洋服を[着ますか]

参考 Aさんに「洋服は [着るか]」と聞くとき、「着るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 205〉  
Bさんに「洋服は [着るか]」と聞くとき、「着るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 205〉  
では、奥さんに「洋服は [着るか]」と聞くとき、「着るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 205〉

一段(上一段)動詞「いる」

012 家に[いますか]

参考 親しい友達にむかって、「今日は [家にいるか]」と聞くとき、「家にいるか」のところをどのように言いますか。  
近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「今日は [家にいますか]」と聞くとき、「家にいますか」のところをどのように言いますか。〈G 本 249-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 249-B〉  
Aさんに「今日は [家にいるか]」と聞くとき、「家にいるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 196〉  
Bさんに「今日は [家にいるか]」と聞くとき、「家にいるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 196〉  
では、(あなたがあなたの)奥さんに「今日は [家にいるか]」と聞くとき、「家にいるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 196〉  
自分の父にむかって、「あしたは [家にいるか]」と聞くとき、

「家にいるか」のところをどのように言いますか。〈G 本 265〉

一段(下一段)動詞「食べる」

013 パンを[食べますか]

参考 親しい友達にむかって、「あなたは、ふだん、パンを[食べるか]」と聞くとき、「食べるか」のところをどのように言いますか。近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「あなたは、ふだん、パンを[食べますか]」と聞くとき、「食べますか」のところをどのように言いますか。〈G 本 253-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 253-B〉  
Aさんに「あなたも[パンを食べるか]」と聞くとき、「パンを食べるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 203〉  
Bさんに「あなたも[パンを食べるか]」と聞くとき、「パンを食べるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 203〉  
では、奥さんに「あなたも[パンを食べるか]」と聞くとき、「パンを食べるか」のところをどのように言いますか。〈G 準 203〉

一段(下一段)動詞「寝る」

014 何時に[寝ますか]

参考 Aさんに「夜は[何時に寝るか]」と聞くとき、「何時に寝るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 207〉  
Bさんに「夜は[何時に寝るか]」と聞くとき、「何時に寝るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 207〉  
では、奥さんに「夜は[何時に寝るか]」と聞くとき、「何時に寝るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 207〉

カ変動詞「来る」

015 ここに[来ますか]

参考 親しい友達にむかって、「あしたも[ここに来るか]」と聞くとき、「ここに来るか」のところをどのように言いますか。近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「あしたも[ここに来ますか]」と聞くとき、「ここに来ますか」のところをどのように言いますか。〈G 本 250-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 250-A〉  
Aさんに「あしたも[ここに来るか]」と聞くとき、「ここに来るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 197〉  
Bさんに「あしたも[ここに来るか]」と聞くとき、「ここに来るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 197〉  
では、奥さんに「あしたも[ここに来るか]」と聞くとき、「ここに来るか」のところをどのように言いますか。〈G 準 197〉

サ変動詞「する」

016 何を[しましたか]

参考 Aさんに「さっき [何をしましたか]」とたずねるとしたら、「何をしましたか」のところをどのように言いますか。〈G 準 211〉

Bさんに「さっき [何をしましたか]」とたずねるとしたら、「何をしましたか」のところをどのように言いますか。〈G 準 211〉

では、奥さんに「さっき [何をしましたか]」とたずねるとしたら、「何をしましたか」のところをどのように言いますか。〈G 準 211〉

I-2. 命令表現

五段(四段)動詞「書く」

017 これを[書きなさい]

参考 Aさんに「[これを書け]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 214〉

Bさんに「[これを書け]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 214〉

では、奥さんに「[これを書け]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 214〉

五段(四段)動詞「行く」

018 バスで[行きなさい]

参考 親しい友達にむかって、「あそこへは、バスで [行け]」と言うとき、「行け」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「あそこへは、バスで [行きなさい]」と言うとき、「行きなさい」のところをどのように言いますか。〈G 本 257-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 257-B〉

Aさんに「[あちらのほうに行け]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 212〉

Bさんに「[あちらのほうに行け]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 212〉

では、奥さんに「[あちらのほうに行け]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 212〉

五段(四段)動詞「入る」

019 中に[入りなさい]

Aさんに「[中に入れ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 218〉

Bさんに「[中に入れ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 218〉

では、奥さんに「[中に入れ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 218〉

五段(四段)動詞「待つ」

020 [待ってください]

参考 親しい友達が尋ねてきました。その人にむかって、「私の父は① [すぐ来る] から、ちょっと② [待ってくれ]」と言うとき、「すぐ来るから、ちょっと待ってくれ」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人が尋ねてきました。その人にむかって、ややていねいに「私の父は① [すぐ来ます] から、ちょっと② [待ってください]」と言うとき、「すぐ来ますから、ちょっと待ってください」のところをどのように言いますか。〈G本 264-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G本 264-B〉

Aさんに「(私の) 父は [すぐもどるからしばらく待ってくれ]」と言うとき、「すぐもどるからしばらく待ってくれ」のところをどのように言いますか。〈G準 244〉

Bさんに「(私の) 父は [すぐもどるからしばらく待ってくれ]」と言うとき、「すぐもどるからしばらく待ってくれ」のところをどのように言いますか。〈G準 244〉

では、奥さんに「(私の) 父は [すぐもどるからしばらく待ってくれ]」と言うとき、「すぐもどるからしばらく待ってくれ」のところをどのように言いますか。〈G準 244〉

一段(上一段)動詞「見る」

021 あれを[見なさい]

参考 Aさんに「[あれを見ろ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G準 215〉

Bさんに「[あれを見ろ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G準 215〉

では、奥さんに「[あれを見ろ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G準 215〉

一段(上一段)動詞「いる」

022 この部屋に[いなさい]

参考 親しい友達にむかって、「この部屋に [いろ]」と言うとき、「いろ」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「この部屋に [いなさい]」と言うとき、「いなさい」のところをどのように言いますか。〈G本 256-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G本 256-B〉

Aさんに「[そこにいろ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G準 219〉

Bさんに「[そこにいろ]」と言うとき、どのように言いますか。

<G 準 219>

では、奥さんに「[そこにいろ]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 219>

一段(下一段)動詞「食べる」

023 早く[食べなさい]

参考 Aさんに「[早く食べろ]」と言うとき、どのように言いますか。

<G 準 217>

Bさんに「[早く食べろ]」と言うとき、どのように言いますか。

<G 準 217>

では、奥さんに「[早く食べろ]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 217>

カ変動詞「来る」

024 こちらの方へ[来なさい]

参考 親しい友達にむかって、「こちらの方へ [来い]」と言うとき、「来い」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「こちらの方へ [来なさい]」と言うとき、「来なさい」のところをどのように言いますか。<G 本 255-A>

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。<G 本 255-B>

Aさんに「[ここに来(こ)い]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 216>

Bさんに「[ここに来(こ)い]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 216>

では、奥さんに「[ここに来(こ)い]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 216>

サ変動詞「する」

025 早く[しなさい]

参考 Aさんに「[早くしろ]」と言うとき、どのように言いますか。

<G 準 220>

Bさんに「[早くしろ]」と言うとき、どのように言いますか。

<G 準 220>

では、奥さんに「[早くしろ]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 220>

## Ⅱ. 第三者主体

### Ⅱ-1. 質問表現

五段(四段)動詞「行く」

026 [行くのか]

参考 尊敬している先生のことを話題にして、「あの先生は、いつ東京へ [行くのか]」と友達に聞くと、「行くのか」のところをど

のように言いますか。〈G 本 267〉

Aさんに「校長先生は[どこに行ったか]」とたずねるとき、「どこに行ったか」のところをどのように言いますか。〈G 準 245〉

Bさんに「校長先生は[どこに行ったか]」とたずねるとき、「どこに行ったか」のところをどのように言いますか。〈G 準 245〉  
では、奥さんに「校長先生は[どこに行ったか]」とたずねるとき、「どこに行ったか」のところをどのように言いますか。〈G 準 245〉

## II-2. 断定表現

### 五段(四段)動詞「もどる」

#### 027 父は[すぐもどる]

参考 Aさんに「(私の) 父は[すぐもどるからしばらく待ってくれ]」  
と言うとき、「すぐもどるからしばらく待ってくれ」のところを  
どのように言いますか。〈G 準 244〉

Bさんに「(私の) 父は[すぐもどるからしばらく待ってくれ]」  
と言うとき、「すぐもどるからしばらく待ってくれ」のところを  
どのように言いますか。〈G 準 244〉

では、奥さんに「(私の) 父は[すぐもどるからしばらく待って  
くれ]」と言うとき、「すぐもどるからしばらく待ってくれ」の  
ところをどのように言いますか。〈G 準 244〉

### 一段(上一段)動詞「いる」

#### 028 父は家に[いる]

自分の母にむかって、「あしたは父が[家にいるか]」と聞くと  
き、「家にいるか」のところをどのように言いますか。

Aさんに「(私の) 父はあした[家にいる]」と言うとき、「家に  
いる」のところをどのように言いますか。〈G 準 243〉

Bさんに「(私の) 父はあした[家にいる]」と言うとき、「家に  
いる」のところをどのように言いますか。〈G 準 243〉

では、奥さんに「(私の) 父はあした[家にいる]」と言うとき、  
「家にいる」のところをどのように言いますか。〈G 準 243〉

### カ変動詞「来る」

#### 029 父は[すぐ来ます]

参考 親しい友達が尋ねてきました。その人にむかって、「私の父は①  
[すぐ来る]から、ちょっと②[待ってくれ]」と言うとき、「す  
ぐ来るから、ちょっと待ってくれ」のところをどのように言  
いますか。

近所の知り合いの人が尋ねてきました。その人にむかって、や  
やていねいに「私の父は①[すぐ来ます]から、ちょっと②[待  
ってください]」と言うとき、「すぐ来ますから、ちょっと待  
ってください」のところをどのように言いますか。〈G 本 264-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 264-B〉

### Ⅲ. 話し手主体

#### Ⅲ-1. 断定表現

##### 五段(四段)動詞「書く」

###### 030 手紙を[書きます]

参考 Aさんから「これから何をするか」と聞かれて「[手紙を書く]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G 準 226〉

Bさんから「これから何をするか」と聞かれて「[手紙を書く]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G 準 226〉

では、奥さんから「これから何をするか」と聞かれて「[手紙を書く]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G 準 226〉

##### 五段(四段)動詞「行く」

###### 031 東京に[行きます]

参考 Aさんに「私はあした[東京に行く]」と言うとき、「東京に行く」のところをどのように言いますか。〈G 準 223〉

Bさんに「私はあした[東京に行く]」と言うとき、「東京に行く」のところをどのように言いますか。〈G 準 223〉

では、奥さんに「私はあした[東京に行く]」と言うとき、「東京に行く」のところをどのように言いますか。〈G 準 223〉

##### 五段(四段)動詞「行く」

###### 032 [はい], [行きます]

参考 親しい友達から「あした、おれのところに来るんだろう？」と聞かれて、「[うん、行くよ]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G 本 247-0〉

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに言うときはどうですか。〈G 本 247-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 247-B〉

Aさんに「これからあなたのところに[行く]」と言うとき、「行く」のところをどのように言いますか。〈G 準 232〉

Bさんに「これからあなたのところに[行く]」と言うとき、「行く」のところをどのように言いますか。〈G 準 232〉

では、奥さんに「これからあなたのところに[行く]」と言うとき、「行く」のところをどのように言いますか。〈G 準 232〉

##### 五段(四段)動詞「知る」

###### 033 [知っています]

参考 Aさんに「そのことは[知っている]」と言うとき「知っている」のところをどのように言いますか。〈G 準 227〉

Bさんに「そのことは[知っている]」と言うとき「知っている」



のところをどのように言いますか。〈G 準 227〉

では、奥さんに「そのことは [知っている]」と言うとき「知っている」のところをどのように言いますか。〈G 準 227〉

一段(上一段)動詞「いる」

034 家に[いる]

参考 親しい友達にむかって、「私は、あしたは [家にいる]」と言うとき、「家にいる」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「私は、あしたは [家にいます]」と言うとき、「家にいます」のところをどのように言いますか。〈G 本 258-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 258-B〉

Aさんに「あしたは [家にいる]」と言うとき、「家にいる」のところをどのように言いますか。〈G 準 225〉

Bさんに「あしたは [家にいる]」と言うとき、「家にいる」のところをどのように言いますか。〈G 準 225〉

では、奥さんに「あしたは [家にいる]」と言うとき、「家にいる」のところをどのように言いますか。〈G 準 225〉

カ変動詞「来る」

035 ここに[来ます]

参考 親しい友達にむかって、「私は、あしたも [ここに来る]」と言うとき、「ここに来る」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「私は、あしたも [ここに来ます]」と言うとき、「ここに来ます」のところをどのように言いますか。〈G 本 259-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 259-B〉

Aさんに「あしたも [ここに来る]」と言うとき、「ここに来る」のところをどのように言いますか。〈G 準 224〉

Bさんに「あしたも [ここに来る]」と言うとき、「ここに来る」のところをどのように言いますか。〈G 準 224〉

では、奥さんに「あしたも [ここに来る]」と言うとき、「ここに来る」のところをどのように言いますか。〈G 準 224〉

サ変動詞「承知する」

036 [承知した]

参考 Aさんに「[承知した]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 242〉

Bさんに「[承知した]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 242〉

では、奥さんに「[承知した]」と言うとき、どのように言いま

すか。〈G 準 242〉

### Ⅲ-2. 申し出表現

#### 037 [あげましょう]

参考 親しい友達にむかって、「これをあなたに [あげよう]」と言うとき、「あげよう」のところをどのように言いますか。  
近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「これをあなたに [あげましょう]」と言うとき、「あげましょう」のところをどのように言いますか。〈G 本 262-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 262-B〉  
Aさんに「これをあなたに [やろう]」と言うとき、「やろう」のところをどのように言いますか。〈G 準 234〉  
Bさんに「これをあなたに [やろう]」と言うとき、「やろう」のところをどのように言いますか。〈G 準 234〉  
では、奥さんに「これをあなたに [やろう]」と言うとき、「やろう」のところをどのように言いますか。〈G 準 234〉

#### 038 [持ちましょう]

参考 親しい友達にむかって、「その荷物は、私が [持とう]」と言うとき、「持とう」のところをどのように言いますか。  
近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「その荷物は、私が [持ちましょう]」と言うとき、「持ちましょう」のところをどのように言いますか。〈G 本 260-A〉  
この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 260-B〉  
Aさんに「その荷物は [私が持つ]」と言うとき、「私が持つ」のところをどのように言いますか。〈G 準 228〉  
あなたは「荷物を持タセテイタダク」という言い方をすることがありますか。〈G 準 228〉  
Bさんに「その荷物は [私が持つ]」と言うとき、「私が持つ」のところをどのように言いますか。〈G 準 228〉  
では、奥さんに「その荷物は [私が持つ]」と言うとき、「私が持つ」のところをどのように言いますか。〈G 準 228〉

### Ⅲ-3. 授受表現

#### 039 [もらったものだ]

参考 Aさんに「これは、あなたから [もらったものだ]」と言うとき、「もらったものだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 233〉  
Bさんに「これは、あなたから [もらったものだ]」と言うとき、「もらったものだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 233〉

では、奥さんに「これは、あなたから [もらったものだ]」と言うとき、「もらったものだ」のところをどのように言いますか。  
〈G 準 233〉

040 [手紙をくれ]

参考 Aさんに「[手紙をくれ]」と言うとき、どのように言いますか。  
〈G 準 238〉

Bさんに「[手紙をくれ]」と言うとき、どのように言いますか。  
〈G 準 238〉

では、奥さんに「[手紙をくれ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準 238〉

041 [手紙をくれて]

参考 Aさんに「[手紙をくれて] ありがとう」と言うとき、「手紙をくれて」のところをどのように言いますか。〈G 準 239〉

Bさんに「[手紙をくれて] ありがとう」と言うとき、「手紙をくれて」のところをどのように言いますか。〈G 準 239〉

では、奥さんに「[手紙をくれて] ありがとう」と言うとき、「手紙をくれて」のところをどのように言いますか。〈G 準 239〉

042 [書いてくれ]

参考 Aさんに「この手紙を [書いてくれ]」と言うとき、「書いてくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 240〉

Bさんに「この手紙を [書いてくれ]」と言うとき、「書いてくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 240〉

では、奥さんに「この手紙を [書いてくれ]」と言うとき、「書いてくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 240〉

043 [来てくれ]

参考 Aさんに「こちらへ [来てくれ]」と言うとき、「来てくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 241〉

Bさんに「こちらへ [来てくれ]」と言うとき、「来てくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 241〉

では、奥さんに「こちらへ [来てくれ]」と言うとき、「来てくれ」のところをどのように言いますか。〈G 準 241〉

044 [取ってくれないか]

参考 親しい友達にむかって、「そこに有る本を [取ってくれないか]」と言うとき、「取ってくれないか」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「そこに有る本を [取ってくれませんか]」と言うとき、「取ってくれませんか」のところをどのように言いますか。〈G 本 263-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 263-B〉

045 [見せたいものがある]

参考 Aさんに「あなたに[見せたいものがある]」と言うとき、「見せたいものがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 229〉

Bさんに「あなたに[見せたいものがある]」と言うとき、「見せたいものがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 229〉

では、奥さんに「あなたに[見せたいものがある]」と言うとき、「見せたいものがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 229〉

Aさんに「あなたに[聞きたいことがある]」と言うとき、「聞きたいことがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 230〉

Bさんに「あなたに[聞きたいことがある]」と言うとき、「聞きたいことがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 230〉

では、奥さんに「あなたに[聞きたいことがある]」と言うとき、「聞きたいことがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 230〉

046 [言いたいことがある]

参考 Aさんに「あなたに[言いたいことがある]」と言うとき、「言いたいことがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 231〉

Bさんに「あなたに[言いたいことがある]」と言うとき、「言いたいことがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 231〉

では、奥さんに「あなたに[言いたいことがある]」と言うとき、「言いたいことがある」のところをどのように言いますか。〈G 準 231〉

#### IV. 丁寧表現

##### IV-1. 形容詞表現

047 [寒いですね]

参考 親しい友達にむかって、「今日は[寒いな]」と言うとき、「寒いな」のところをどのように言いますか。〈G 本 244-0〉

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに言うときはどうですか。〈G 本 244-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 244-B〉

Aさんに「今日は[寒いね]」と言うとき、「寒いね」のところをどのように言いますか。〈G 準 222〉

Bさんに「今日は [寒いね]」と言うとき、「寒いね」のところをどのように言いますか。〈G 準 222〉

では、奥さんに「今日は [寒いね]」と言うとき、「寒いね」のところをどのように言いますか。〈G 準 222〉

#### IV-2. 名詞述語表現（肯定）

##### 048 [珍しい本ですね]

参考 親しい友達が珍しい本を見せてくれました。そこで、その人にむかって、「これは [珍しい本だね]」と言うとき、「珍しい本だね」のところをどのように言いますか。

近所の知り合いの人が珍しい本を見せてくれました。そこで、その人にむかって、ややていねいに「これは [珍しい本ですね]」と言うとき、「珍しい本ですね」のところをどのように言いますか。〈G 本 261-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 261-B〉

Aさんに「これは [めずらしい本だ]」と言うとき、「めずらしい本だ」のところをどのように言いますか。〈G 準 235〉

Bさんに「これは [めずらしい本だ]」と言うとき、「めずらしい本だ」のところをどのように言いますか。〈G 準 235〉

では、奥さんに「これは [めずらしい本だ]」と言うとき、「めずらしい本だ」のところをどのように言いますか。〈G 準 235〉

Aさんに「これは [めずらしい本だね]」と言うとき、「めずらしい本だね」のところをどのように言いますか。〈G 準 236〉

Bさんに「これは [めずらしい本だね]」と言うとき、「めずらしい本だね」のところをどのように言いますか。〈G 準 236〉

では、奥さんに「これは [めずらしい本だね]」と言うとき、「めずらしい本だね」のところをどのように言いますか。〈G 準 236〉

##### 049 [いい天気だなあ]

参考 Aさんに「今日は [いい天気だなあ]」と言うとき、「いい天気だなあ」のところをどのように言いますか。〈G 準 221〉

Bさんに「今日は [いい天気だなあ]」と言うとき、「いい天気だなあ」のところをどのように言いますか。〈G 準 221〉

では、奥さんに「今日は [いい天気だなあ]」と言うとき、「いい天気だなあ」のところをどのように言いますか。〈G 準 221〉

※ 道で会って、相手に「今日は [いい天気だなあ]」と言うとします。そのときの言い方を、ていねいな言い方からぞんざいな言い方まで、すべておっしゃってみてください。では、上のような言い方をなさる相手は、あなたにとってどんな人でしょうか。具体的におっしゃってください。〈G 準 195〉

#### IV-3. 名詞述語表現（否定）

050 [いや], [役場ではない]

参考 親しい友達から「あれは役場か」と聞かれて、「[いや, 役場ではない]」と答えるとき, どのように言いますか。〈G本 248-0〉  
近所の知り合いの人にむかって, ややていねいに言うときはどうですか。〈G本 248-A〉  
この土地の目上の人にむかって, ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G本 248-B〉

V. 卑罵表現

051 [行きやがれ]

参考 相手をののしって, 「むこうへ [行きやがれ]」のように言うとき, 「行きやがれ」のところをどのように言いますか。〈G本 266〉  
相手をののしって「むこうに [行きやがれ]」と言うとき, 「行きやがれ」のところをどのように言いますか。〈G準 213〉

VI. 代名詞表現

VI-1. 対称詞

052 [あなたの傘]

参考 親しい友達にむかって, 「これは [お前の傘か]」と聞くとき, 「お前の傘か」のところをどのように言いますか。〈G本 242-0〉  
では, 今の言い方を, 近所の知り合いの人にむかって, ややていねいに言うときはどうですか。〈G本 242-A〉  
この土地の目上の人にむかって, ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G本 242-B〉  
Aさんに「これは [あなたの傘か]」と聞くとき, 「あなたの傘か」のところをどのように言いますか。〈G準 208〉  
Bさんに「これは [あなたの傘か]」と聞くとき, 「あなたの傘か」のところをどのように言いますか。〈G準 208〉  
では, 奥さんに「これは [あなたの傘か]」と聞くとき, 「あなたの傘か」のところをどのように言いますか。〈G準 208〉

053 [あなたのだ]

参考 Aさんに「この傘は [あなたのだ]」と言うとき, 「あなたのだ」のところをどのように言いますか。〈G準 209〉  
Bさんに「この傘は [あなたのだ]」と言うとき, 「あなたのだ」のところをどのように言いますか。〈G準 209〉  
では, 奥さんに「この傘は [あなたのだ]」と言うとき, 「あなたのだ」のところをどのように言いますか。〈G準 209〉

VI-2. 自称詞

054 [私のです]

参考 親しい友達にむかって, 「この傘は [おれのだ]」と言うとき, 「おれのだ」のところをどのように言いますか。〈G本 243-0〉  
近所の知り合いの人にむかって, ややていねいに言うときはど

#### 待遇表現

うですか。〈G 本 243-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 243-B〉

Aさんに「この本は [私のだ]」と言うとき、「私のだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 237〉

Bさんに「この本は [私のだ]」と言うとき、「私のだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 237〉

では、奥さんに「この本は [私のだ]」と言うとき、「私のだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 237〉

#### IV-3. 対称詞/自称詞

055 [あなた／お前]

※ 参考 「[あなた]」「[お前]」のような相手を指すことばがあります。そのような、相手を指すこの土地でのことばを、ていねいなものからぞんざいなものまで、すべておっしゃってみてください。では、上のようなことばで指す相手は、あなたにとってどんな人でしょうか。具体的におっしゃってください。〈G 準 193〉

#### VII. 間投表現

056 [なあ]

参考 親しい友達にむかって、「今日、役場に① [なあ]、行ったら② [なあ]」のように言うとき、「役場になあ、行ったらなあ」のところをどのように言いますか。〈G 本 245-0〉

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに言うときはどうですか。〈G 本 245-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 245-B〉

#### VIII. 格助詞

057 [先生が] 来られた

参考 「きのう、家に [先生が] 来られた」と言うときの「先生が来られた」のところはどのように言いますか。〈G 本 100〉

「きのう、家に [先生が] 来た」と言うとき、「先生が来た」のところをどのように言いますか。〈G 準 204〉

058 [どろぼうが]

参考 「きのう、家に [どろぼうが] 入った」と言うときの「どろぼうが入った」のところはどのように言いますか。〈G 本 101〉

「きのう、家に [どろぼうが] 入った」と言うとき、「どろぼうが入った」のところをどのように言いますか。〈G 準 205〉

059 [先生の]

参考 「これは [先生の] 忘れた手ぬぐいだ」と言うとき、「先生の忘れた手ぬぐい」のところをどのように言いますか。〈G 準 212〉

060 [どろぼうの]

- 参考 「これは[どろぼうの] 忘れた手ぬぐいだ」と言うとき、「どろぼうの忘れた手ぬぐい」のところをどのように言いますか。〈G 準 213〉
- 061 [おれの]  
 参考 「それは[おれの] 手ぬぐいだ」と言うときの「おれの手ぬぐい」のところはどのように言いますか。〈G 本 103〉  
 「それは[おれの] 手ぬぐいだ」と言うとき、「おれの手ぬぐい」のところをどのように言いますか。〈G 準 214〉
- 062 [先生の]  
 参考 「それは[先生の] 手ぬぐいだ」と言うときの「先生の手ぬぐい」のところはどのように言いますか。〈G 本 104〉  
 「それは[先生の] 手ぬぐいだ」と言うとき、「先生の手ぬぐい」のところをどのように言いますか。〈G 準 215〉
- 063 [どろぼうの]  
 参考 「それは[どろぼうの] 手ぬぐいだ」と言うときの「どろぼうの手ぬぐい」のところはどのように言いますか。〈G 本 105〉  
 「それは[どろぼうの] 手ぬぐいだ」と言うとき、「どろぼうの手ぬぐい」のところをどのように言いますか。〈G 準 216〉

## IX. その他

- 064 接頭語  
 お～, ご～, み～,  
 お+外来語,
- 065 接尾語  
 ～さま, ～さん, ～ちゃん, ～はん, ～やん, ～どん,  
 雷様, お天道様, お日様, お日さん, お月さん,  
 お豆さん, お芋さん, お粥さん, 飴ちゃん, 患者様,
- 066 形容詞+です  
 高いです, 楽しいです,
- 067 無生物主語への敬語  
 雨よう降らはる, バスが来やはった,
- 068 親愛表現化  
 猫食べたはる, 赤ちゃん泣いたはる,
- 069 丁寧語化  
 あげる, ～てあげる, いただく, 泥棒入らはった,
- 070 身内尊敬用法



## 過去回想表現

渋谷勝己

### A 解説

#### 1. 過去回想表現とは

(a) 過去形式・(b) 回想形式とは、発話時を現在とし、(a) ある出来事や事態を、現在から切り離された過去のものとして客観的に描き出す際に、それが過去であることをマークする形式（過去形式）、あるいは、(b) 話し手が実際に経験した出来事や事態を、発話時の現在から振り返って描き出すとき、それが回顧（振り返り）であることをマークする形式（回想形式）のことを言う。共通語では、前者をタが担い、後者はケの表すところである。

- (1) 太郎はその映画を見たた（過去）
- (2) きのは野菜が高かった（過去）
- (3) そういえば、昔、君とあの映画を見たっけなあ（回想）
- (4) そういえば、そのころはみんな元気だっ（たっ）けなあ（回想）

共通語では、タも、文脈のサポートを得て回想の意味を担うことがある。

- (5) そういえば、昔、君とあの映画を見たなあ（回想）
- (6) そういえば、そのころはみんな元気だったなあ（回想）

なお、回想のタやケと共に起しているナアは、それ自身が回想をマークするものではない。

- (7) (独り言で) 今日は暑いなあ

などの例と同じように、話し手自身を目当てとした、話し手の感情表出であることをマークする形式である。回想という行為は必ずしも聞き手を目当てとして行われるものではなく（「そういえばそういうこともありましたっけ」のように聞き手を目当てとしてもよい）、また、遠い記憶のなかから浮び上がった思い出は、一般に、話し手にあらためて懐かしさや感動を与えることが多いことから、ナアが共起することが多いのである。

以下、日本語の過去回想表現に見られる形式－意味対応の特徴をいくつかあげておく。

(A) 過去と回想の不連続性＝体験性の有無。「過去」のなかには自身が見聞きしていない出来事や事態も含まれるが、「回想」は話し手の体験のみにかかわるものである（#は語用論的に不適切な文であることを示す）。

- (8) 関ヶ原の戦いは、1600年に起こった（過去）
- (9) #関ヶ原の戦いは、1600年に起こったっけなあ（回想）

この体験性の有無によって両者は区別されるが、話し手が実際に経験した過去の出来事については、次のように、過去と回想が不分明になることもある。

(10) そのときは、たしか、そこに太郎と次郎がいたなあ

(B) 過去回想形式の多義性。各地の方言で過去形式あるいは回想形式とされるものは、いずれも多義的であることが多い。たとえば共通語のタは、過去というテンス情報だけではなく、

(11) もうお昼ご飯食べた？

のような現在パーフェクト（アスペクトの一）を表す場合や、

(12) さあ買った買った

(13) あー、忘れてた。明日は会議があったんだ

のような行為指示や想起など、モダリティの一部を担うことがある。また、上で共通語で回想を表すとしたケにも、

(14) その書類書いたの、君だっ（たっ）け？

(15) 信長って何年に生まれた（んだ）っけ？

のように、必ずしも「回想」といったラベルがふさわしくない用法がある。ケは、共通語では、むしろ、「話し手が自分のもっている記憶や一度蓄えた知識を検索する」という情報処理操作を発話時点（あるいは発話の直前）に行っている／行ったことをマークするモダリティ形式である。平叙文については記憶を検索して情報にヒットしたことを（検索完了＝回想）、疑問文については検索しても情報にヒットせず、不確定なままに残されていることを表す（聞き手にその情報の確定を求める場合もある。以下、ケの「検索未了」用法とする）。その検索が発話時にも続いている場合には、次のように、ケがアイコニックに長音化して発音されることも多い。

(16) あー、そうそう、そういえばあのときここで花見をしたんだっけー

(17) あれー、あのときの参加者ってだれだっけー？

(C) 過去と回想の連続性。先に (A) で過去と回想が意味的に不分明になるケースをあげたが、方言によっては、形式面でも、過去と回想が連続する場合がある。同じ形式が、過去も回想も表すという場合である。このようなケースとして、上では共通語のタの場合をあげたが、方言でも、たとえば山形市方言のケなどでは、状態を表す用言に下接した場合、過去を表すテンスマーカールになるということがある。

(18) おもてに変な人がいたケ（＝いた）

(19) きのうは野菜が高いケ（＝高かった）

本項目で、過去表現と回想表現を、「過去回想表現」として一括して扱う理由も、このようなどころにある。

以上、(B) や (C) で見たような、アスペクト・テンス・モダリティにまたがって使用されるという過去回想形式の多義性は、(i) 古典語のタリがタに変化するとともにアスペクト形式からテンス形式、さらにはモダリティ形式に変化してきたこと、あるいは、(ii) 古典語のテンス形式であるケリがやはりケに単音節化するなかでモダリティ形式化してきたことなどに関連づけて把握する必要があるのだが、ここでは古典語における変化（文法化）の側面は捨象して、方言における過去回想表現の意味の広がりだけに注目することにする。

以上、述べたように、過去表現と回想表現は、両者のあいだで互いに連続しつつ、また、この2つの表現領域以外の意味領域を担うこともある。また、各方言においては、§2 で

見るように、異なった過去回想形式が、一方では共通する意味領域を担いつつも、また一方ではそれぞれの方言に特有のかたちで分節され、使用されているところがある。

過去・回想表現については、通方言的な分析枠を設けて調査票を作成するよりも、まず、各方言における個々の過去回想形式を出発点として、その担う意味領域や用法を個別にまた体系的に記述し、データを蓄積していくのが、研究の現段階では妥当な方法である(§4)。

したがって、本項目においては、「B. 項目」は設けず、その代わりに、§2でいくつかの個別方言の過去回想表現体系をやや詳しく説明し、その結果を整理するかたちで、§3で各地の過去回想表現体系を記述するときに留意しなければならない、あるいは関与的(relevant)であるかもしれない意味素性を整理するというかたちで解説を行う。

なお、末尾に、「C. 資料」として、『方言文法全国地図』等に全国分布地図が収録されている過去回想表現の調査文一覧を掲載した。

## 2. 日本方言の過去回想表現

過去回想表現については、沖縄を除けば、西日本方言よりも東日本方言のほうが複雑に分化している場合が多い。このことの原因には、東日本の方言が、

- ・動詞「いる」の現在を表す形としてイタを使うこと
- ・回想等を表すケが用いられること
- ・タッタなど、特徴的な過去形式をもつこと

といったことがある。

以下、本節では、東日本の方言を対象にして行われた記述をいくつか選び、その方言において、過去回想表現をどのように分節しているかを整理してみよう。過去を表す形式は、共通語を例にすると、表1のようなアスペクトとテンスの枠のなかで整理されるのがふつうであるが、ここでは完成相過去のみを取り出し、さらにこの枠組みにおさまらない回想表現を加えて、その特徴を考えることになる。表1の枠による各地方言のテンス・アスペクト表現の調査法については、大西拓一郎編(2002)『方言調査ガイドブック』の「テンス・アスペクト」の項目(木部暢子・沖裕子・井上文子担当)を参照されたい。

表1 テンス・アスペクトの分析枠

	完成相	継続相
非過去	読ム	読ンデイル
過去	読ンダ	読ンデイタ

以下で取り上げる方言は、過去を表すのにどのような形式を用いるかという点を基準にして、比較的記述の進んでいるいくつかの方言を3つのグループにわけ、そのなかから代表的な事例として選んだものである(本項目では沖縄方言などを除いており、分類はまだ網羅的なものではない)。

### (A) 「タ」1つが過去を表す方言

東京方言(ケは回想を表す、§2.1)

### (B) 「タ」と「ケ」が過去を表す方言

山形市方言 (§2.2.1)・焼津市方言 (§2.2.2)

## (C) 「タ」と「タッタ」が過去を表す方言

宮城県登米郡中田町方言 (§2.3.1)・盛岡市方言 (§2.3.2)

出典がある場合、用例や用法のラベル(名称)も多くそれらにしたがった。過去を表す形式については、以下に記載するもののほかに、さまざまなモーダルな意味や語用論的な意味を表すことがあるが、本節では捨象して示し、§3.3 でまとめて整理する(先行研究中に記載がある場合には、本節でもあげた)。

なお、各地方言のなかには、上の3つ以外にも、

## (D) 「タ」と「ツ」が過去を表す方言

静岡県水窪方言(山口 1968)

などがあり(山口 1968 によれば、静岡県のツとケはほぼ同義)、上で(C)に入れた盛岡市方言などは「タ」と「タッタ」のほかに「ケ」ももっている(竹田 2001)。類型化については、今後追究されるべき課題である (§4 (C))。

## 2.1 「タ」1つが過去を表す方言：東京方言

各地方言の過去回想表現体系を対照するためのベースとして、まず、東京方言の体系をまとめておこう。次のようになる(ケの用法については §1 でまとめた)。

表2 東京方言の過去回想表現

タ	ケ
過去	回想・検索未了

東京方言では、形容動詞や名詞の場合を除けば、ケはタと義務的に共起するのがふつうであるが、

(20) 卒論を書いてたとき、みんなで湯島天神に初詣に行つたっけなあ

(21) 太郎はまだ {学生だっけ / 学生だっけ} ?

状態用言の場合、近年では、ケが基本形に下接することも増えてきた。

(22) そんなところにコンビニって {あっけ / あるっけ} ?

(23) その家っけ、{白っけ / 白いっけ} ?

## 2.2 「タ」と「ケ」が過去を表す方言

## 2.2.1 山形市方言(渋谷 1999、竹田 2004 など)

当該方言の基本的な過去回想表現体系をまとめると、次のようになる。

表3 山形市方言の過去回想表現

前接形式 / 後接形式	タ	ケ
動き動詞	過去	回想・検索未了・情報告知：報告
いる	現在・過去	回想・検索未了・情報告知：報告
状態動詞・形容詞・形容動詞		過去：回想・検索未了・情報告知：報告

以下、タの場合とケの場合にわけて、その用法を具体的に説明する。

### 2.2.1.1 タ

タについては、次のような例がある。表3に分類した3種類の前接形式グループで異なった振る舞い方をする。以下、方言の用例については、理解の便を考えて、問題となる方言形のみをカタカナで示し、その他は漢字かな交じりによって共通語で示す。また、「\*」は非文であることを、「?」は文法的に不自然であることを、「#」は語用論的に不適切であることを表す。

(24) きのう、東京に行ッタ (動き動詞)

(25) ちょっと見て。あそこに変な人が {イル/イダ} (動詞「いる」。現在)

(26) きのうは一日家にイダ (動詞「いる」。過去)

現在を表すイル・イダについては、恒常的な状態を表す場合にはイルのみが使用され、イダは使用できない。

(27) ゴキブリはどこにでも {イル/\*イダ}

状態動詞や形容詞・形容動詞の過去はケによって表され、タが用いられることはほとんどない。

(28) 昔、そこには大きな池がアッケ (状態動詞)

(29) そのころの駅前には {人が多イッケ/ニギヤカダッケ}

### 2.2.1.2 ケ

(a) 状態動詞等に下接したケが過去を表すことは上で述べた。

(b) 表3の「回想・検索未了」については、§1を参照。検索ということでは、当該方言では、そのほかに、

(30) a おれ、おまえにあれほど行くなってユタケベ? (言っただろう、聞き手に対する記憶の検索要求)

b おれ、おまえに行くななんてユタケガー (言っただけ、話し手の記憶の検索(検索未了))

c おまえ、そのとき、おれに行くなってユタケヨー (言ったよ、(c) 情報告知) のうちの a のような、聞き手に記憶の検索を求めるような場合にもケを用いることができる。

(c) 回想用法と関連して、当該方言には、「情報告知」用法とも言えそうなケの用法がある (30c)。聞き手に、聞き手の目撃・体験した出来事を問い合わせたり (疑問文)、話し手の知っている過去の出来事を、話し手が目撃・体験した情報として聞き手に伝えるものである (平叙文)。この場合、「検索」というプロセスはあまり明確でなく、平叙文の場合ヨが共起するという点で回想とは異なるが、次に述べる (d) の「報告」とは異なって主語に人称制限がない。

(31) 孫 : うちの父さん、小さいころはちゃんと勉強 {シタ/シタケ} ?

祖父 : うん、そりゃもう、よく勉強 {シタ/シタケ} ヨ

(32) 孫 : おじいちゃん、小さいころ、ちゃんと勉強 {シタ/シタケ} ?

祖父 : うん、そりゃもう、朝から晩までせっせと勉強 {シタ/シタケ} ヨ

(33) 父親：おまえ、10年ぐらい前、東京に行ったか？

子供：当時は横浜に住んでたから、よく{行ッタヨ／行ッタケヨ}。なんで？  
これらの文において、タとタケの違いは、前者が出来事を過去のものとして客観的に述べているのにたいして、後者はあくまでも話し手（平叙文）・聞き手（疑問文）の目撃・体験情報として述べているところにある。したがって、

(34) 関ヶ原の戦いは、1600年に{起ゴタヨ／#起ゴタケヨ}（起こったよ）  
のような場合、起ゴタケヨが使用できるのは関ヶ原の戦いを目撃しているときのみであり、見ていない状況のもとでは起ゴタヨしか使えない（話し手と聞き手のあいだで関ヶ原の戦いの年が話題になり、二人とも自信がないといった状況で、話し手が図書館に調べに行き、そのあと聞き手にその結果を伝える場合にはケが使用できる。これは(d)の報告用法か）。

なお、ケの「情報告知」の用法には、(32)(33)のような習慣・反復的動きについてはケを用いやすいが、次のような1回動的な動きを述べる場合にはケは使用しにくくなるということがあるようである。

(35) 孫：おじいちゃん、蔵王に歩いて登ったことある？

祖父：a うん、小学校のとき、1回だけ{登タ／?登タケ}ヨ（登ったよ）

b あー、そういえば小学校のとき、1回だけ登タケナー（回想）

このことは、ケが状態用言で用いやすいこと（上記(a)項）と関連して、反復・習慣的な動きが1回動的な動きよりも状態表現に近づいているからかもしれない。あるいは、反復・習慣（さらには恒常状態）の場合のほうが1回動的な事象の場合よりも、記憶をスキャンする時間が長くかかるために、ケが用いられやすいといったことも考えられる。

ちなみに、次のような、子供が記憶の検索を行わずに返事をしている場合には、「情報告知」のケは使用できない。

(36) 父親：おまえ、きのうちゃんと宿題やったか？

子供：うん、ちゃんと{ヤッタ／\*ヤッタケ}ヨ。なんで？（1回動作）

(37) 父親：おまえ、先週はちゃんと宿題やったか？

子供：うん、毎日ちゃんと{ヤッタ／\*ヤッタケ}ヨ。なんで？（反復動作）

「情報告知」においては、そのプロセスが明確でなくとも、何らかの記憶検索といった情報処理過程が関与していることを示す事例であろう。(36)は、

(38) 父親：おまえ、きのうちゃんと宿題やったか？

子供：う～ん、たしかー、ちゃんとー、{ヤッタ／ヤッタケ}ヨー。なんでー？

（1回動作）

のように、検索していることが明確になると、ケが用いられるようになる。

(d) 表3に「報告」とあるのは、平叙文の場合、次のような、他者の関わった事態を話し手が外から目撃して、それを誰かに報告するような場合の用法である（疑問文の場合には、聞き手への報告要求となる）。平叙文においては、主語は、基本的に、二人称・三人称に限定される。この用法では、次の例のように、見たことをすぐに報告するというケースが多く、検索は行われぬ／行われる必要がない。

(39) A：(Bに) 太郎がちゃんと宿題をはじめかどうか見てきてちょうだい

(Bが見に行って、やっていることを確認する)

A：どうだった？ ちゃんとシタケガ？ (=やったか)

B：うん、ちゃんとシタケヨ（＝やったよ、ヨは上昇調）

以上、「回想・検索未了・情報告知」用法や「報告」用法の異同をまとめると、次のようになる。

- ・平叙文の場合、ケのいずれの用法も、話し手が経験した出来事を述べるという点で共通する（evidential、疑問文等における検索未了の用法については、話し手の実際に経験した事態だけでなく、話し手の蓄えた知識でもよい）。
- ・「回想・検索未了・情報告知」の場合には、第三者のかかわる出来事について述べる場合にも話し手が同じ場面のなかにいるという視点をとるのに対して、「報告」の場合には、話し手は第三者と同じ場面にはおらず、外部の者として観察を加えている。したがって、一人称主語の平叙文は、自分を客体として外部から観察するという視点をとらないかぎり、不適格になる。
- ・「回想・検索未了」については記憶の検索の過程が明らかであるものの（話し手が一度情報を失い、それを、自身の記憶を検索することによって復元するというプロセスを踏む）、「情報告知」と「報告」の場合にはそのプロセスが明確でない（したがってヨが共起する）。この、記憶検索のプロセスが明確でないということは、状態用言についてケが過去のマーカーとなっているということに連続する。

以上、当該方言のタとケの主な用法をまとめると、次のようになる（「過去」は状態用言の場合。＋＝あり、－＝なし、±＝関与しない（あってもなくてもよい））。

表4 山形市方言のタとケの素性

	タ	ケ				
		回想	検索未了	情報告知	過去	報告
体験性の有無	±	+	±	+	±	+
記憶の検索	±	+	+	＋?	±	－
一人称主語文	+	+	+	+	+	－

（回想と検索未了の違いは、記憶の検索の結果、ヒットするか否かによる。）

なお、動き動詞において、タとケが共起した場合には、タは事態が完了したことを表し、未完了であることを表すと対立する。

(40) 太郎は若いころ、せっせと東京に {行グ/行ッタ} ケなあ

(41) いま見てきたら、太郎はうまい字を {書グ/書イダ} ケ

たとえば、(41) の例では、書グを用いた場合には太郎はまだ書くという行為を続けているが、書イダの場合にはすでに（そのうまい字を）書くという行為を終えていることを表す。

### 2.2.1.3 その他の形式

当該方言の過去回想にかかわる形式には、そのほかに、

(42) あの人、若いころはよく東京に行く {ガッタ/ケ} なあ

のような、動詞ル形＋形容詞語尾ガッタの形が、過去時における動きの反復・習慣を表すものとして使われる（金田 1983・1984 参照）。このガッタは、次のように、タに後接する

ことはない。

(43) あの人、若いころはよく東京に行った {\*ガッタ/ケ} なあ  
 なお、形容詞語尾のガッタに関連して、当該方言では、

(44) (落とした財布が無事にもどってきて) イガッタイガッタ  
 などという場合以外には、形容詞の過去はケでマークされ、ガッタは使用されなくなりつつある。

## 2.2.2 静岡県焼津市老年層方言 (中田 1979)

本項では、中田 (1979) にしたがって、静岡県焼津市方言の老年層の話し手がつ過去回想表現体系についてまとめる。動詞述語文 (§ 2.2.2.1) と形容(動)詞・名詞述語文 (§ 2.2.2.2) にわけて整理する。

### 2.2.2.1 動詞述語文の場合

#### 2.2.2.1.1 ケ (タも使用可)

当該方言のケは、以下のような用法をもつ。なお、当該方言のケは、山形市方言の場合と異なって、動詞の連用形に接続する。

(ケ-1) 過去：動作・状態が現在の時点と隔絶した過去の特定の時間に起きた、あるいはある期間継続したことを表す。自己の動作(一人称文)については述べられない (§ 2.2.1.2 (d) 山形市方言のケの「報告」用法参照)。

(45) あいつは昨日仕事をヤッケヨ (やったよ)

(46) おれは昨晩は酒を {飲ンダ/\*飲ンゲ} ヨ

(ケ-2) 回想：過去において習慣的にくり返された動作・状態、あるいは一定の条件のもとで実現した動作・状態を表す。ケの以下の用法においては、すべて一人称の文も適格である。

(47) 仕事を怠けると親父にすぐ怒ラレケヨ (怒られたよ)

(ケ-3) 回想：過去における動作・状態を回想的に表す。単なる過去の動作の、いわば記録的報告的な表現とは異なり、感慨をもって回想する気分がある。

(48) 小さい頃はここによく来ケヨ (来たよ)

(ケ-4) 回想か：ある動作・状態が実現したことに対して詠嘆的に表す。

(49) この薬を塗ったから傷が早く直ッケダナー (直ったんだなー)

(ケ-5) 気付き：ある存在・状態に対して、今気付いたことを表す。

(50) なんだ、こんな所にイケ (いた)

(ケ-6) 気付き：過去において既に確定している未来の事柄への気付き・確認を表す。

(51) あっ、明日は仕事がアッケ (あった)

(ケ-7) 気付き：過去から現在にわたる存在や習慣などへの気付き・確認を表す。

(52) あんた、確か煙草を吸ッケナー (吸ったなあ)

(ケ-8) 気付き：ある決まりきった動作・状態への気付き・確認を表す。

(53) 高校の上には大学がアッケナー (あったなあ)

(ケ-9) 反実仮想：ある動作・状態が実際には実現しなかったが、実現したものとして仮想して表す。



(54) もうちょっとで車にブツカッケ (ぶつかるところだった)

#### 2.2.2.1.2 タ (ケは使用不可)

(タ-1) 完了：過去に実現した動作・作用の状態が現在まで継続していることを表す。

(55) 煙草はもうヤメタ

(タ-2) 完了：現時点において動作が完了したことを表す。

(56) 子供はもう宿題をヤッタヨ

(タ-3) 単純な「過去」の時点における自己の動作を表す。

(57) 俺は昨晚は早く寝タヨ

(タ-4) 実際にはまだ実現していない動作・作用を確実に実現するものとみなして表す。

(58) よしこれで勝ッタ (勝つはずだ)

(タ-5) 自己の身体的精神的な状態を表す。

(59) 今日は本当に疲レタ

なお、当該方言には、「ドイタドイタ」といったタ形による命令表現はない。

#### 2.2.2.2 形容(動) 詞述語文・名詞述語文の場合

方言形としてはケのみが使用され、タは使われない。タは、文章語的・共通語的である。

形容(動) 詞述語文・名詞述語文に後接したケには、次のような用法がある(中田 1979 では、形容(動) 詞述語文の場合と名詞述語文の場合でわけて説明を加えているが、ここではまとめた)。

(ケ-1) 過去：性質・状態あるいは感覚・感情・事柄などが「過去」時におけるものであることを表す。

(60) 久しぶりに皆と会ってウレシーッケ (嬉しかった)

(ケ-2) 過去：過去における習慣的な性質・状態・事柄などを表す。

(61) 小さい頃ははいていたのは草履ダッケヨ (草履だったよ)

(ケ-3) 回想：過去における性質・状態・事柄などを回想的に表す。

(62) 焼津も昔はイーッケヨ (よかったよ)

(ケ-4) 気付き：ある状態・事柄に、今気付いたことを表す。

(63) (運転していて) あっちの道が静岡ダッケ (静岡だった)

(ケ-5) 気付き：過去において既に確定していた事柄への気付きを表す(名詞・形容動詞述語文)

(64) 今度の日曜は仕事ダッケ (仕事だった)

(ケ-6) 確認：過去から現在にわたる性質・状態・事柄を確認することを表す。

(65) お前の家は静岡新聞ダッケナ (静岡新聞だったな)

(ケ-7) 確認：ある決まりきった性質・状態・事実を確認することを表す。

(66) 地球はマリーッケナー (丸かったなあ)

(ケ-8) 反実仮想：実際には実現していない性質・状態・事柄を仮想して表す。

(67) あっちの店で買えばヤスイッケ (安かったはずだ)

以上、中田 (1979) にしたがって焼津市方言の体系をまとめると、次のようになる。

表5 焼津市方言の過去回想表現

前接形式 \ 後接形式	タ (タ-1、2)	ケ (ケ-1)
動き動詞	完了	過去
形容詞		過去
形容動詞・名詞		過去

(形容詞・形容動詞・名詞はアスペクトをもたないためタは使用不可)

ここで山形市方言と焼津市方言をくらべると、以下のような異同がある。

- ・両方言とも、ケが（一部）テンス的な性格をもっているためか、タは現在パーフェクトあるいは完了といったアスペクト的な意味を担う（ことがある）。
- ・ケのテンス的な性格は、焼津市方言のほうが強い。山形市方言では、動き動詞に後接したケは過去を表す形式としては用いられない。このことは、焼津市方言のケが動詞の連用形に後接するということと連動しているかもしれない。

その他、次のようなタツケの用法は、焼津市方言にあって山形市方言にはない用法である。

(68) なんだ、こんなところにアツタツケ（状態用言のため、山形市方言ではアツケを使用）

(69) もうちょっとで車にブツカッタツケ（未完了の意味であるため、山形市方言ではブツカツケ（ル形）を使用）

(70) あいつがキタツケときにゃーびっくりした（動き動詞の場合、山形市方言ではケは連体節のなかでは使用できない。この場合は「キタとき」を使用）

## 2.3 「タ」と「タッタ」が過去を表す方言

### 2.3.1 宮城県登米郡中田町（八亀他 2005）

当該方言では、動詞・形容詞・形容動詞・名詞述語文ともに、以下の2形式が過去を表す形式として機能している（ただし、名詞述語文の肯定形ではタッタ形の使用が不明瞭になる）。当該方言には、「ケ」はない。

表6 宮城県登米郡中田町方言の過去表現

タ	タッタ
過去	体験（目撃）的過去

両形式の違いは、タは話し手が体験した出来事かどうか不明なのに対して、タッタの場合には話し手が体験・目撃した出来事であることを明示する点にある。したがって、以下のような文についてはタッタは使用できない。

(71) 伊達の殿様の時代にこのあたりで戦が {アツタ/\*アツタッタ}  
 なお、タッタについては、次のような特徴もある。

- ・現在パーフェクトには、タッタは使えない。

(72) (服は) もう {スマッタ/\*スマッタッタ} (しまった)

- ・タッタは、反復習慣についても使用でき、時間的限定性はない。  
 (73) お母さんは昔、毎年この時期に冬物の洋服をスマッタッタ（しまった）
- ・タッタは一人称主語についても用いることができる。  
 (74) 私は昨日、大きなイナゴをトッタッタ
- ・反実仮想については、タッタのほうが好まれる。  
 (75) おばあちゃんが来るんだったら、部屋を掃除スタッタ（したのに）

### 2.3.2 岩手県盛岡市方言（竹田 2000）

竹田（2000）によれば、当該方言のタとタッタには、次のような違いがあるという（当該方言にはケもある。竹田 2001 参照）。

表 7 岩手県盛岡市方言の過去表現

タ	タッタ
現在パーフェクトを含め、出来事の一部が過去に関わっていて、眼前に存続する場合、あるいは結果が残存する場合	現在から切り離された過去を表し、出来事と発話時現在を断絶的にとらえる場合

たとえば、次のような場合には、タは使用できるがタッタは用いられない。

(76) (バスがこちらに向かっているのを見ながら) あ、バスが {来タ/\*来タッタ}

(77) (食べたあと、カラになった皿を見ながら) 私、よくこんなに {食ベタ/\*食ベタッタ} ねえ

また、

(78) 隣から、きれいな水密 {モラッタ/モラッタッタ}

の場合、モラッタを使用したときにはまだ水密が残っている可能性があり、モラッタッタではすでにないということが含意されている。同じようにして、

(79) 年賀状 50 枚 {書イダ/書イダッタ} よ

では、書イダの場合にはまだ投函していないかもっと書く可能性があり、書イダッタの場合には全部書き終わって投函したことを意味する。

なお、当該方言では、回想（＝回想される内容は現在と切れている）は、タッタとタいずれでも表すことができるが、タの場合は副詞や文脈のサポートが必要であり、タッタのほうが自然である。

以上、中田町方言と盛岡市方言をくらべると、次のような異同がある。

- ・タは両方言において現在パーフェクトの意味を担う。この意味は、タッタでは表せない。
- ・タッタは、中田町方言では「体験的過去」を表し、盛岡市方言では「現在から切り離された過去」を表す（ただし、両者の意味は必ずしも両立しないわけではない。記述する際の視点や用語・説明の相違だけの可能性もある）。

タにアスペクト的な意味が強いことは、山形市方言や焼津市方言にも共通することで、タのほかにも別のテンス形式をもつ方言一般の特徴といえるかもしれない。

### 3. 調査の着眼点

#### 3.1 記述の順序

§1 で述べたように、各地の方言においては、過去や回想といった意味を表す有標形式の記述がまだ十分に行われているわけではない。このような段階にあっては、記述は、以下の順序で進めるのが妥当であろう。

- (a) 各地方言において、過去や回想といった意味領域を担う形式を拾い出す。
- (b) それぞれの過去回想形式の意味を個別に記述する。そのアスペクト・モダリティ的な特徴も整理する。
- (c) 過去回想表現を担う複数の形式がある場合には、それらの共起関係や対立関係に注意しつつ、その意味・用法の異同を描き出す。
- (d) ル形の担う意味機能にも注意しつつ、当該方言のテンス体系を記述する。
- (e) 回想について、そのモダリティ的な意味を、当該方言のモダリティの体系のなかで整理する。

この流れは、いわば形式優先的な記述方法であり、すでに §2 で見たように、過去や回想といった意味だけではなく、それらの形式が担う過去や回想の周辺意味領域をもまとめて記述することになる手法である。

この手順を、§2.2.1 で取り上げた山形市方言を対象にして確認すると、次のようになる。

- (a) 山形市方言の過去回想を表す形式には、タ・ケ・ガッタがある。
- (b) タは動き動詞文について過去を表すのが基本。「いる」の場合には時間的に限定された現在時を表す（恒常的な状態を表さない）。またケは、回想・検索未了・情報告知、あるいは報告といった意味を表し、「いる」以外の状態用言については過去も担う。ガッタは過去の反復行為・習慣を表す。
- (c) タとガッタは共起しない。タとケ、ガッタとケはそれぞれ共起する。前者については、タは過去ではなく完了を表すものになり（ルが未完了を表す）、当該事態が過去に起こったことであるという情報は、回想や報告を表すケがそれらの意味とあわせて間接的に担うことになる。
- (d) 当該方言のテンスは、以下のような体系をもつ。
  - 動き動詞：ル形が非過去を、タ形が過去を担う。
  - いる：ル形が非過去を、タ形が時間的に限定された現在と過去を担う。
  - 状態用言：ル形が非過去を、ケ形が過去を表す。
- (e) （過去ではなく）回想の意味を担うケは、報告その他の用法とあわせて、話し手の過去時における目撃・体験といった証拠性（evidential）を表す形式のひとつである。

#### 3.2 記述上の着眼点

本項では、§2 で取り上げた方言を参考にしつつ、§3.1 の (b) の、それぞれの過去回想形式の意味を個別的に記述する作業を行う場合の着眼点を整理しておこう。次のようなことがある。

- (a) 状態用言と動き動詞など、述語の種類によって使われる形式に違いが生じることはないか（山形市方言・焼津市方言）
- (b) 過去について、複数の形式があったとき、
  - (b-1) いずれか一方の形式に、目撃性・体験性といった意味特徴がないか（中田町方言）
  - (b-2) 反復性といった意味特徴がないか（山形市方言のガッタ）
  - (b-3) タにパーフェクト・完了といった意味が顕著に現れることはないか（タ以外の過去を表す形式をもつ方言）
- (c) 回想（あるいはケをもつ方言）について、回想や検索未了のほかに、報告その他の意味を表すことはないか。このことを考える際には、次のような特徴がてがかりになる。
  - (c-1) 終助詞ヨが下接することはないか（焼津市方言・山形市方言）
  - (c-2) 一人称主語文が不適格になるなど、主語に制約はないか（焼津市方言・山形市方言）
- (d) 個々の形式はどの程度、モダリティ的な意味をもつか。このことについては、それぞれの用法をもつ形式が以下のような従属節に入るか否かがひとつの判定基準になる。テンス的な特徴をもつものは入るが、モダリティ度の高いものは入りにくい。たとえば、ケの場合、次のような例で考えてみるとよい。

(80) きのうは {雨が降ったケ／寒いケ} から、行かなかった

(81) {雨が降ったケ／寒いケ} のはきのうだけだ

(81) の例について、焼津市方言と山形市方言のケをくらべると、焼津市方言では両者ともにケを使用することが可能であるが、山形市方言でケが使用できるのは寒イケのみである。ここから、山形市方言のほうがケのモダリティ度が高いといえる。

以上、これらの着眼点については、実際の調査の場面では、たとえば、

(82) そのとき太郎が来た

といった過去の事態を表現しようとするとき、それが、

(b-1) それは話し手が目撃したのかそうでないのか

(b-2) 反復的か（＝そういうときにはよく太郎が来た）そうでないか

(b-3) 現在パーフェクト（＝今も目の前にいる）かそうでないか

(c) 回想的か（＝そういえばそのとき、太郎が来たなあ）、報告的か（＝そのとき太郎が来たよ）

などの条件のもとでどのような形式が使用されるのか、インフォーマントにその意味特徴やコンテキストを細かく解説しながら回答を得つつ、記述調査を進めることになる。

### 3.3 タやケのアスペクト的意味・モダリティ的意味

同じく § 3.1 (b) の、各地方言のそれぞれの過去回想形式の意味を個別的に記述する作業を行う場合に、それらの形式のもつ過去回想以外の周辺的な意味を明らかにするための参考として、それらが表す可能性のある意味をいくつかあげておこう。状態用言の場合に多い。以下、用法のラベル（名称）は便宜的なものである。個々の研究によって違った名称が与えられていることがあるので注意されたい（金水 2000・工藤 2004 など参照）。

(a) 確認

(83) あー、彼、大阪大学の学生だったんだ

(b) 再確認・想起

(84) あー、そうだった。忘れてた。彼も大阪大学の学生だったんだ

(c) 予想確認

(85) やっぱり彼は大阪大学の学生だった

(d) 体験的過去

(86) (長い道のりを歩いてきて) あーやっとな着いた。この大学遠かったー

(e) 検索

(87) おまえにはたしか弟がいたよなあ

(f) 発見

(88) (探していたものを見つけて) あっ、あったあった

(h) 差し迫った命令

(89) さあ、買った買った

これらの意味・用法は、東京方言などでは、例に示したようにいずれもタが担うものの、過去を表さないものである。方言によっては、ケなどほかの形式が表したり、そのような意味を表す手段をもっていなかったりすることがある。たとえば山形市方言では、(b) (c) (d) (f) などにはケ ((e) はイダケ) を用い、(f) はタ (イダイダ) を使用する。また、(a) や (f) にはそのまま対応する言い方がない (§ 2.2.2 焼津市方言の項なども参照)。

その他、東京方言のタが表す過去以外の意味・用法として、過去に起こった出来事の効力が現在まで持続していることを表す、

(i) 現在パーフェクト

(90) レポートはもう書いた

(91) (飾られた花を見ながら) きれいに花を飾ったね

や、時間から解放された状態を言う、

(j) 単なる状態

(92) くねくねと曲がった道

などがあり、また、以下のような remoteness を表すもの (かどうかには議論があるが) としてタが使用される場合がある。

(k) 反実仮想 (現実事態から remote な事態)

(93) そんな仕事、ぼくがやってあげたのに

(94) その仕事、ぼくがもっと若かったら引き受けたんだけど

(l) 丁寧さ (聞き手との間の心理的 remoteness や tentative であることを表す)

(95) (電話に出て) はい、渋谷でした (北海道など)

(96) (依頼された買い物の品を渡して) これでよかった?

#### 4. 研究の状況

すでに他の節でふれるところがあったが、以下、過去回想表現をめぐる研究の現状を整理しておく。

## (a) 各地方言における個別形式の記述

§2 や §3 であげた文献をはじめとして、ケ（ル）（小林 1999、竹田 2004 など）やタッタなど、共通語にはない、あるいは共通語とは異なる用法をもつ各地の過去回想形式の意味・用法が、ようやく詳細に記述されはじめた段階にある。

## (b) 各地方言における過去回想表現体系の記述

中田（1979）や八亀他（2005）、竹田（2000）などは、個別の形式を取り上げるだけでなく、タとケ（中田）、タとタッタ（八亀他、竹田）の違いにも注目し、体系的な記述を試みている。

## (c) 方言間の対照研究・類型論

上記（a）の研究は、多少とも東京方言との違いを意識して行われているので、おのずと対照という視点が導入されていることが多い。しかし、たとえば、おなじケをもつ山形市方言と焼津市方言のケの異同を明らかにしようとする対照研究や、タとタッタをもつ体系とタとケをもつ体系の対照研究などは、現在はまだほとんど行われていない。したがって、当該表現領域の類型論的・通方言的な研究も、アスペクトの研究などに比較して格段に遅れている。その理由は、基本的に、上の（a）や（b）の、個別方言的な研究があまり進んでいないところにある。

## (d) 言語地理学的研究

意味を固定して、形式の全国分布のありさまを言語地図に表したものに、国立国語研究所編『方言文法全国地図 第4集』大蔵省（財務省）印刷局などがある（「C. 資料」参照）。しかし、ケやタッタなどの形式を出発点として、各地方言におけるその意味領域（の異同）を描き出した地図や、複数の意味・用法からなる汎方言的な参照枠を作成して、各地の方言でその意味・用法をどのような形式で表現するかを（複数の）地図に描き出したようなものはない。その理由もまた、（a）や（b）の、個別方言的な研究があまり進んでいないところにある。

以上、整理したことから、現在、最も研究が必要とされるのは、（a）や（b）の記述的な研究であることがわかる。

また、§2 や §3 の内容からもすでにうかがえるように、研究者間には、それぞれの形式の個々の用法について言及するときのラベル（名称）やその用法の説明内容に異同がある。それらが異なっている場合、同じ用法に違ったラベルを付与し、異なった説明を行っているだけなのか、それとも用法そのものがやはり異なっているのか、判別が不可能な場合がある（たとえば山形市方言のケの「報告」（§2.2.1.2（d））と焼津市方言のケの「過去」（§2.2.2.1.1（ケ-1）など）。用語や説明の標準化も求められるところである。

## 5. 発展

§4 で述べた（a）と（b）の研究を基礎的な研究と考えれば、（c）と（d）が発展的な研究ということになる。（d）の研究によって汎方言的な参照枠が作成されたとき、過去回想表現についても、本ガイドブックの他の項目に見られるような「B. 項目」リストが作成できるようになる。

その他、以下のような研究も、同じく（あるいはさらなる）発展的な研究として残されている。

## (e) 社会言語学的研究

1 地点における個別の過去回想形式の意味・用法や、テンス体系に見出される話し手間の年齢差・性差・職業差などを探る。

## (f) 世界の言語のなかでの類型化

日本語の方言における過去回想表現、あるいはテンス体系などを、世界の言語のそれと照らし合わせつつ、その個別性と普遍性を探ることである。世界の言語の多くがテンスという文法カテゴリをもち、また、その中心的な意味領域については異なった言語のあいだでも共通点が多く、相互に比較可能であるために、テンスの類型論的研究は盛んに行われてきた(Comrie 1985 など)。そのなかで、それぞれの言語の過去(回想)形式がもつアスペクトやムードとの複合表現性や連続性といった現象も、徐々に明らかにされつつある(Bybee 1985、Bybee et al. 1994 など)。それらの事象のなかには、たとえば過去と証拠性の関係など(Bybee et al. 1994: 95-97)、ケの用法と照らし合わせて見るべきものも多い。この分野については、日本語の方言研究が発言できることを多分にもっていると思われる。

## 6. 文献

(本文中に述べたように、過去回想表現については、各地方言における個別の形式や個別の体系の記述をさらに蓄積していくことが現段階における研究課題である。そういった観点から、以下には、記述のモデルになりそうな文献を多めにあげた。なお、以下の文献のなかには、記述対象とした方言の完成相非過去と過去の対立が「ル対タ」と単純であり、より複雑な体系を示すアスペクトの記述に重点をおいているものがあるが、ここでは区別せずに掲載する。)

- 荒井孝一(1983)「酒田方言の動詞のテンス—継続相の場合—」『国文学解釈と鑑賞』48-6  
 金田章宏(1983)「東北方言の動詞のテンス—山形県南陽市—」『講義 Manual 3 琉球方言と周辺のことば』千葉大学教養部総合科目運営委員会  
 金田章宏(1984)「山形方言の動詞のテンス—スッカッタ形とその周辺—」『国文学解釈と鑑賞』49-1  
 金田章宏(1986)「古典語文法と東北方言—「けり」と「け」をめぐって—」『国文学解釈と鑑賞』51-8  
 金水敏(2000)「時の表現」金水敏・工藤真由美・沼田善子『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』岩波書店  
 工藤真由美(1999)「青森県五所川原方言の動詞のアスペクトとテンス」『国語学研究』38 東北大学文学部国語学研究室  
 工藤真由美(2000)「八丈方言のアスペクト・テンス・ムード」『阪大日本語研究』12 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座  
 工藤真由美(2004)「現代語のテンス・アスペクト」尾上圭介編『朝倉日本語講座 6 文法Ⅱ』朝倉書店  
 工藤真由美編(2004)『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系』ひつじ書房  
 工藤真由美・佐藤里美・八亀裕美(2005)「体験的過去をめぐって—宮城県登米郡中田町方言の述語構造—」『阪大日本語研究』17 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座  
 小林隆(1999)「種子島方言の終助詞「ケル」」黒田成幸・中村捷編『ことばの核と周縁—



- 日本語と英語の間一』くろしお出版
- 小林隆 (2000) 「文末形式「ケ」」小林隆編『宮城県仙台市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 渋谷勝己 (1999) 「文末詞「ケ」—三つの体系における対照研究—」『近代語研究第十集』武蔵野書院
- 高田祥司 (2001) 「青森県弘前市方言のアスペクト・テンス体系〈動詞述語編〉」『待兼山論叢 日本学編』35 大阪大学大学院文学研究科
- 高田祥司 (2004) 「岩手県遠野方言の非動的述語及び否定のテンス—〈過去〉の場合における「一ケ」の使用を中心に—」『日本語文法』4-2
- 高田祥司・竹田晃子 (2003) 「テンス・アスペクト—仙石線グロットグラム調査から—」小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 竹田晃子 (2000) 「岩手県盛岡市方言におけるタッタ形の意味用法」『国語学研究』39 東北大学文学部国語学研究室
- 竹田晃子 (2001) 「岩手県盛岡市方言における文末形式ケの用法」『国語学会 2001 年度秋季大会要旨集』
- 竹田晃子 (2003) 「テンス・アスペクト—体系と属性差—」小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 竹田晃子 (2004) 「山形市方言におけるテンス・アスペクトと文末詞ケ」『国語学研究』43 東北大学文学部国語学研究室
- 長澤亜希子 (1999) 「秋田方言の終助詞「ケ」について」日高水穂編『秋田大学ことばの調査』1 秋田大学教育文化学部日本・アジア文化研究室
- 中田敏夫 (1979) 「静岡県焼津市方言の過去表現」『日本語研究』2 東京都立大学日本語研究会
- 日高水穂 (2000) 「秋田方言の文法 3-2 テンス・アスペクトの表現」秋田県教育委員会編『秋田のことば』無明舎出版
- 松丸真大 (2004) 「静岡県榛原郡中川根町方言の過去表現」真田信治編『静岡・中川根方言の記述』大阪大学大学院文学研究科日本語学研究室逐次刊行物
- 八亀裕美・佐藤里美・工藤真由美 (2005) 「宮城県登米郡中田町方言の述語のパラダイム—方言のアスペクト・テンス・ムード体系記述の試み—」『日本語の研究』1-1
- 山口幸洋 (1968) 「静岡県方言の過去表現について」『国語学』75
- 山口幸洋 (1999) 「テンスに関わる静岡県方言「〜ッケ」の変容」『静岡・ことばの世界』2 静岡県方言研究会
- Bybee, J.L. (1985) *Morphology: A study of the relation between meaning and form*. Amsterdam: John Benjamins.
- Bybee, J.L., R. Perkins and W. Pagliuca (1994) *The Evolution of Grammar: Tense, aspect, and modality in the languages of the world*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Comrie (1985) *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press.

### C. 資料

本文 § 3.1 (a) 「各地方言において、過去や回想といった意味領域を担う形式を拾い出す」といった作業を行うための資料として、以下、国立国語研究所編『方言全国方言文法地図』『表現法の全国的調査研究』『方言文法資料図集 (1) (3)』に全国分布図が掲載されている過去回想関係の調査項目をまとめておく(活用などを調べるための項目を含む。一部重複項目がある)。『方言全国方言文法地図』の調査文の末尾の「<G 本○○○>」は質問番号を示す。

#### 1. 『方言文法全国地図』

##### A : 活用 1 (第 2 集)

- ・ 図 92 出した  
「きのう手紙を出した」と言うときの「出した」のところは、地方によってダシタ・ダイタなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。<G 本 040>
- ・ 図 93 飽きた  
「もう仕事は飽きた」と言うときの「飽きた」はどうですか。<G 本 048>
- ・ 図 94 任せた  
「仕事を人に任せた」と言うときの「飽きた」はどうですか。<G 本 049>
- ・ 図 95 行った  
「きのう学校に行った」と言うときの「行った」はどうですか。<G 本 046>
- ・ 図 96 書いた  
「手紙を書いた」と言うときの「書いた」はどうですか。<G 本 041>
- ・ 図 97 研いだ  
「包丁を研いだ」と言うときの「研いだ」はどうですか。<G 本 045>
- ・ 図 98 貸した  
「金を人に貸した」と言うときの「貸した」はどうですか。<G 本 050>
- ・ 図 99 建てた  
「自分の家を建てた」と言うときの「建てた」はどうですか。<G 本 052>
- ・ 図 100 建った  
「立派な家が建った」と言うときの「建った」はどうですか。<G 本 053>
- ・ 図 101 立った  
「山の頂上に立った」と言うときの「立った」はどうですか。<G 本 054>
- ・ 図 102 飛んだ  
「飛行機が飛んだ」と言うときの「飛んだ」はどうですか。<G 本 044>
- ・ 図 103 飲んだ  
「酒を飲んだ」と言うときの「飲んだ」はどうですか。<G 本 043>
- ・ 図 104 蹴った  
「足でボールを蹴った」と言うときの「蹴った」はどうですか。<G 本 047>
- ・ 図 105 買った

「1個100円のりんごを買った」と言うときの「買った」はどうですか。<G本051>

B：活用2（第3集）

・図123 書かせた

「孫に手紙を書かせた」と言うときの「書かせた」のところはどのように言いますか。<G本042>

・図141 高かった

「この着物は高かった」と言うときの「高かった」はどうですか。<G本055>

・図148 静かだった

「あそこは車が通らないので静かだった」と言うときの「静かだった」はどうですか。<G本056>

C：否定（第4集）

・図151 行かなかった

「きのうは役場に行かなかった」と言うとき、「行かなかった」のところをどのように言いますか。<G本198>

・図152 行きはしなかった

「きのうは役場になど行きはしなかった」と言うとき、「行きはしなかった」のところをどのように言いますか。<G本199>

・図158 なかった

「きのうは運動会があったか」と聞かれて、「いや、なかった」と答えるとき、どのように言いますか。<G本203>

・図159/160 高くはなかった

友達から「その着物は高かったか」と聞かれて、「いや、それほど高くはなかった」と答えるとき、「高くはなかった」のところはどのように言いますか。<G本202>

D：過去回想表現（第4集）

・図186/187 おもしろかったなあ

（昔のことを思い出して、）「あのときはおもしろかったなあ」と言うとき、「おもしろかったなあ」のところをどのように言いますか。<G本223>

・図188/189 行ったなあ

昔、友達と祭りに行ったことをなつかしく思い出しながら、その友達に言います。「昔、二人で祭りに……」その次にどのように言いますか。<G本224>

・図190/191 いたよ

昔、自分が子どものころに、この土地にももの知りの方がいました。その人のことを孫に教えてやります。「昔、ここにももの知りの方が……」その次にどのように言いますか。<G本225><G準111>

・図192/193 書いたよ

あなたは役場で、事務の人が筆で字をじょうずに書いているのを見ました。家に帰ってそのことを家族に話すとします。「あの人は字をじょうずに……」その次にどのように言いますか。<G本227><G準113>

・図194/195 強かったよ

さっきまで相撲大会がありました。大変強い人がいたので、家に帰ってその人のこ

とを家族に話すとします。「あの人はずいぶん相撲が強……」その次にどのように言いますか。<G本 226><G 準 114>

・図 196 いた

「あの人は、さっきまで確かにここにいた」と言うとき、「ここにいた」のところをどのように言いますか。<G本 229><G 準 119>

・図 197 いるか

親しい友達の家を尋ねて、入口で「〇〇さん、いるか」と言うとき、どのように言いますか。<G本 230>

2. 国立国語研究所（1979）『表現法の全国的調査研究—準備調査の結果による分析の概観—』

・図 13 書かせた

「孫に手紙を書かせた」というときの「書かせた」のところは、この土地ではどのように言いますか。

・図 14 飲んだ

「酒を飲んだ」というときの「飲んだ」のところは、この土地ではどのように言いますか。

・図 18 行かなかった

「今日は役場に行かなかった」と言うとき、「行かなかった」のところをどのように言いますか。

・図 27 高かった

「あの山は高かった」と言うときの「高かった」はどうですか。

・図 33 落ちるところだった

あなたはガケから足を滑らせてもう少しで落ちそうになりました。家へ帰って、「もう少しで落ちるところだった」と言うとき、どのように言いますか。

・図 34 いた

「あの人は、さっきまで確かにここにいた」と言うとき、「ここにいた」のところを、どのように言いますか。

・図 35 いるか

親しい友人の家をたずねて、入り口で「〇〇さんいるか」と言うとき、どのように言いますか。

・図 36 強かった

さっきまで相撲大会がありました。大変強い人がいたので、家に帰ってその人のことを家族と話すとします。「あの人はずいぶん相撲が強……」その次にどのように言いますか。

3. 国立国語研究所（1981）『方言文法資料図集（1）』

・図 45 いた

昔、自分が子どものころに、この町（村）にもものしりのおじいさんがいました。今、そのおじいさんのことを思い出して言います。「そうそう、昔、ここにもものしりのおじいさんが……」その次にどのように言いますか。

4. 国立国語研究所（1983）『方言文法資料図集（3）』

・図 166 待った

「ずいぶん待った」と言うときの「待った」のところはどのように言いますか。

・図 167 行った

親しい友達にむかって、「私はきのう役場に行った」と言うとき、「役場に行った」のところをどのように言いますか。

・図 168 出した

「手紙を出した」と言うときの「出した」のところは、地方によってダシタ・ダイタなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。

・図 169 こいだ

「舟をこいだ」の「こいだ」のところは、この土地ではどのように言いますか。

・図 170 足りた

「金が足りた」と言うときの「足りた」のところは、どのように言いますか。

・図 171 しなかった

「私はきのう仕事を一日中しなかった」と言うとき、「一日中しなかった」のところをどのように言いますか。

・図 172 静かだった

「あの海は静かだった」と言うときの「静かだった」のところは、どのように言いますか。

・図 175/176 降ったなあ

「昔はこの辺はよく雪が降ったなあ」と言うとき、「よく雪が降ったなあ」のところをどのように言いますか。

・図 177 泳いだものだ

「昔、この川でよく泳いだものだ」と言うとき、「泳いだものだ」のところをどのように言いますか。

過去回想表現

## 推量表現

船木 礼子

### A 解説

#### 1. 推量表現とは

「推量」は、文の述べ方に関わる文法カテゴリーであるモダリティの中に位置づけられる表現である。モダリティについてはさまざまな観点からの分類が試みられており、用語の定義も統一されているわけではないため、「推量」という用語によって指すものは研究者により違いがあるのだが、標準語の「だろう」や「でしょう／ましょう」、「まい」が担っている表現を「推量表現」と呼ぶことが多い。(日本語の標準語のモダリティについては、森山・仁田・工藤(2000)、宮崎・安達・野田・高梨(2002)など、さまざまな概説書があるので参照されたい)。以下、井上(2002)からモダリティの分類の一例を示す。

- 1) 命題内容に対する話し手の判断のあり方を表すもの  
(判断のモダリティ, 対事的モダリティ, 命題めあてのモダリティ)
  - a 真偽判断のモダリティ (認識的モダリティ)
    - ・ 確言 (～φ)
    - ・ 推量 (だろう, まい)
    - ・ 蓋然性判断 (かもしれない, にちがいない)
    - ・ 証拠性判断 (らしい, ようだ, (～し) そうだ)
    - ・ 当然性判断 (はずだ)
    - ・ 伝聞 ((～する) そうだ)
    - ・ 説明 (のだ, わけだ)
  - b 価値判断のモダリティ (当為評価のモダリティ)
    - ・ 適当 (べきだ, ほうがよい, (～すれ) ばよい, 等)
    - ・ 必要 ((～し) なければならない, (～せ) ざるをえない, 等)
    - ・ 容認・非容認 ((～し) てもいい, (～し) てはいけない, 等)
- 2) 聞き手に対する発話態度・伝達態度を表すもの  
(発話・伝達のモダリティ, 対人的モダリティ, 聞き手めあてのモダリティ)
  - a 述べ立て
  - b 表出 (意志, 願望)
  - c 働きかけ (命令, 依頼, 禁止, 勧誘)
  - d 疑問・問いかけ・確認
  - e 強調

「だろう」や「まい」などに代表される推量表現は、「真偽判断のモダリティ（認識的モダリティ）」と呼ばれる、命題内容に対する話し手の判断のあり方を表すタイプのものである。この「推量」は、命題として示した事態を、話し手の想像の上で成立するものと判断している点で、命題を知覚・経験などによって現実には成立している事態と捉えている「確言」（断定）と対をなすものと考えられる。ただし、「推量」を疑問表現と共起しないもの、つまり「その文で取り上げる内容だけを単に主張するのではなく、その内容に矛盾対立することも同時に想定され得るといってらえ方」と規定し、「だろう」ではなく「にちがいない」や「かもしれない」を「推量」を表す形式としている立場もある（森山 1992）。

### 1.1 「だろう」の特徴

標準語の「だろう」については研究や議論が活発になされており、以下のような文法的特徴のあることが指摘されている。

- ① テンスが分化しない（\*行くだろうた）
- ② 語形変化（活用）がない（\*行くだろうば、\*行くだろうて、など）
- ③ 疑問表現と共起する（行くだろうか、いつ行くだろう）  
（ただし、不明部分が文レベルの「なぜ・どうして」の場合のみ、準体助詞「の」が必要で「～のだろう」となる。（どうして人は酒を飲むのだろう／\*どうして人は酒を飲むだろう）
- ④ 連体節に生起すると不自然（?行くだろう人）
- ⑤ 仮定節に生起しない（\*あいつが行くだろうなら、私は行かない）
- ⑥ 直後キャンセルが不可能（\*あいつが行くだろう。だが行かないだろう。）
- ⑦ 否定の焦点とならない（\*行くだろうでない）
- ⑧ 他のモダリティ形式が後接しない（\*行くだろうかもしれない、\*行くだろうようだ、など）

つまり、「だろう」には以下のような意味的特徴・文構造的特徴があるといえる。

- ・意味的特徴1：命題内容に対する発話時の話し手の判断であること
- ・意味的特徴2：命題を真と主張していること
- ・文構造的特徴：主に主節末に生起すること

こうした「だろう」の特徴に対し、標準語の他の真偽判断のモダリティ形式群、たとえば蓋然性判断の「かもしれない」、証拠性判断の「らしい」、「(～し) そうだ」、当然性判断の「はずだ」の場合は以下ようになる。

- ① テンスが分化する (行くかもしれなかった／行くらしかった／行きそうだった／行くはずだった)
- ② 語形変化（活用）がある (行くかもしれなければ、行くかもしれなくて、など／行くらしければ、行きそうで、など／行くはずなら、行くはずで、など)
- ③ 疑問表現と共起しない (\*行くかもしれないか、\*いつ行くかもしれない／\*行くらしいか、\*いつ行くらしい／\*行くはずか、\*いつ行くはずだ)  
疑問表現と共起する (行きそうか、いつ行きそうだ)
- ④ 連体節に生起する (行くかもしれない人／行くらしい人／行きそうな人／行くはずの人)
- ⑤ 仮定節に生起しにくい (?あいつが{行くかもしれない／行くらしい／行きそう／行



- くはず}なら、私は行かない)
- ⑥ 直後キャンセルが可能 (あいつが行くかもしれない。だが行かないかもしれない。)  
直後キャンセルが不可能 (\*あいつが行くらしい。だが行かないらしい。/\*あいつが行きそうだ。だが行きそうにない。/\*あいつが行くはずだ。だが行かないはずだ。)
- ⑦ 否定の焦点とならない (\*行くかもしれない/\*行くらしくない/??行くはずでない)  
否定の焦点となる (行きそうにない)
- ⑧ 他のモダリティ形式が後接する場合がある (行くかもしれないだろう/行きそうかもしれない、など)  
他のモダリティ形式が後接しない (\*行くかもしれないはずだ/行くらしいかもしれない、など)

つまり、推量表現の「だろう」は他の真偽判断のモダリティ形式と①②③の特徴によって分かたれているといえる。④～⑧では相違点と共通点が入り組んでおり、真偽判断のモダリティ形式が文法的ふるまいや意味の面で複雑に絡み合っていることが見て取れよう。

ただし、「だろう」は「あそこにポストが見えるだろう?」「やめろと言っているだろう!」のように、「確認要求表現」と呼ばれる、聞き手に対する発話態度・伝達態度をも表す。このように、「だろう」が異なったタイプのモダリティを表す現象についても、基本的な意味である「推量表現」からの用法の派生と考え、モダリティ全体を幅広く見ていくことが必要である。

## 1.2 「まい」の特徴

「だろう」に対し、「まい」は、命題部で示された否定的事態について、話し手が想像のうえで成立する事態だと判断していることを表す、否定表現と判断の表現が一体となっている形式である。この「まい」は、あくまで命題内容を否定化するもので、推量という判断それ自体を否定化するわけではない。

「まい」は「だろう」と文法的ふるまいが似ており、前述の①～⑧のうち、③以外は共通している。③は、「まい」に命題全体を否定の焦点として取り上げる意味があるため、命題全体の真偽を問う真偽疑問文とは共起するが、不明の補語を補充させる疑問詞疑問文とは、否定の焦点内に不明部分があることになり不適格となる。

(1) (真偽疑問文) 行くまいか

(2) (疑問詞疑問文) \*いつ行くまい/\*だれが行くまい/\*どこへ行くまい

また、これに加え、動詞や動詞的活用をもつ助動詞にしか後接しないという特徴がある。これは、前接要素に制限がない「だろう」と大きく違う点である。

(3) あそこは {開く/\*寒い/\*静かだ/\*図書館} まい。

このため、「だろう」は準体助詞に後接して命題をコトガラとして扱うことが出来ることによって、事態の切り取り方としてはやや不自然ながらも否定的事態について疑問詞疑問文化することが可能となるが、「まい」は不可能である。

(4) (仕事の休み時間を狙って電話をしたい) 一体、いつなら仕事をしていないのらる

う？／\*一体、いつなら仕事をしていまい？

なお、標準語では、否定辞「ない」や形容詞「ない」に「だろう」や「でしょう」という推量表現の専用形式がつくのが一般的となり、「まい」は口語では使われなくなってきている。つまり、推量専用の形式によって推量表現を表し、否定表現は否定辞や形容詞「ない」が担うという、形式と意味とを一対一対応にする機能分化が進んでいるのである。「まい」の接続の制限も、「まい」の衰退に関係があるだろう。

## 2. 日本方言の推量表現

『方言文法全国地図』3集、5集の推量表現に関わる分布図としては以下のものがある。

- 112 図「書くだろう（推量形）」（第3集）
- 113 図「来るだろう（推量形）」（第3集）
- 114 図「するだろう（推量形）」（第3集）
- 142 図「高いだろう（推量形）」（第3集）
- 149 図「静かだろう（推量形）」（第3集）
- 237 図「行くだろう」（第5集）
- 238 図「行くのだろう」（第5集）
- 239 図「行っただろう」（第5集）
- 240 図「雨だろう」（第5集）

これらの図から、現代の日本の方言で用いられている推量表現について、形式のバリエーション（2.1）と、「だろう」とは異なる意味（2.2）について述べる。

### 2.1 推量形式の分布概観

日本の方言には、さまざまな推量表現の形式が用いられている。237 図「行くだろう」を例としてあげると、以下のような分布をなすことが見て取れる。

#### 237 図「行くだろう」の分布

質問文：「友達から「あの人は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら「たぶん行くだろう」と答えるとき、どのように言いますか。」

イクダンベ・イクダッペ	関東一円
イクベ	東北地方太平洋側
イグビョン	津軽・秋田北部
イクヤロー	近畿・北陸・岐阜、九州や四国にも散見
イクジャロー	九州・山陽・四国・岐阜
イクダロー	九州の一部・山陰・徳島・東海・関東・新潟・庄内・北海道
イクデロ・イグガロ	新潟・庄内・由利
イコウ	中国地方・九州北西部海岸部・富山
イクラ・イクダラ	長野・山梨・静岡西部・愛知東部
イクダラズ	長野・山梨・静岡西部・愛知東部
イクダラー	山陰・徳島・東海
イクロー	山口・高知・新潟
イッド	九州南部
イクノーワ	八丈島
イグゴッタ	旧南部藩地域

イキドゥッサアラン	先島諸島
イチヤサニ	徳之島以南の諸島
イクルハジ(/パジ)・イクラハジ	琉球列島(徳之島以南、沖縄諸島まで)

「行くだろう」相当として回答されたこれらの形式には、標準語では推量としてはもう口語から姿を消した古典語のムに由来する「イコウ」や、古典語のベシ(ベキ)に由来する形式「イクベ」、古典語のラムに由来する「イクラ」「イクロー」「イッド」(/ro/>/do/), 古典語のラムの東国方言形式ナムに由来するといわれる「イクノーワ」などが見られる。これらは、中央変種からの伝播によって、地域的なまとまりをもって分布域を形成したと考えられる。これに対して、琉球列島の「イクルハジ」、旧南部藩の「イグゴッタ」のように、中央変種にみられない形式が推量の形式として孤立的に使われているところもある。

このほか、237 図「行くだろう」、112 図「書くだらう」、113 図「来るだろう」、114 図「するだろう」、142 図「高いだらう」などの動詞文や形容詞文の図を比べると、「カクジャロー」、「コヨー」、「ショー」、「タカカロー」などのように、同一地点でも前接要素の活用によって使われる形式が異なっている場合がある。また、形容動詞文、名詞述語文などには、動詞文の場合とは使用される推量形式ががらりと異なっている地点もあるだろう。これらは、当該地域ごとの推量表現形式の成り立ちが絡んだ違いといえる。

## 2.2 推量形式の文法的ふるまいや意味のちがい

推量表現の中には、標準語の「ダロウ」とは異なる意味を持つものもある。以下、推量形式の中に準体的機能を含んでいる形式(2.2.1)、過去事態についての推量形式(2.2.2)、否定推量のありかた(2.2.3)についてみていく。

### 2.2.1 準体機能の融合の有無

長野・山梨・静岡地域では、推量表現形式に「ラ」と「ズラ」の二種のあることが古くから指摘されている。「ラ」は「だらう」に、「ズラ」は「のだらう」にそれぞれ相当する。つまり準体機能が推量表現の中に組みこまれた形式を対立項として持っているのである。

238 図「行くのだらう」と237 図「行くだろう」を比べると、実は「イクラ」・「イクダラ」と併せて「イクズラ」を回答している山梨・長野・静岡・愛知東部に加え、237 図では「イグベ」のように動詞に直接ベイがついていた東北太平洋側・北海道南部などのベイ使用地域で、ダを介した「イグダンベ」の類が用いられていることがわかる。このことから、推量表現における準体機能の表示のありかたについては、標準語と同様に準体助詞が担う方言とともに、推量表現形式のなかに準体機能が内包されている方言(ズラ使用地域)、デアル由来のダ(ダル/ダン/ダッ)が準体機能を担う方言(ベイ使用地域)、に大きく分けられると言える。

ただし、単に準体機能が推量表現の形式に含まれているというだけでなく、準体という文法的機能もつ意味が分析される必要がある。標準語の「の」や「のだ」と同様に、背後事情の説明のモダリティとしても、より詳しい分析が待たれる。

### 2.2.2 過去推量のありかた

過去事態についての推量表現は「過去推量」と呼ばれるが、239 図の「行っただろう」の分布をみると、標準語と同様に当該方言の過去・完了形式と 237 図の推量表現形式とによる複合的な表現形式を用いる地域が多いなかで、以下のように、「ツロ」などの過去推量の専用形式をもつ方言もみられる。

イツロー・イツロー                      高知・宇和島地域・山口・島根県石見地域・瀬戸内海島嶼部  
イツロ    九州南部

こうした過去推量形式は、古典語のツラムとの関わりだけでなく、当該地域の非過去事態の推量形式が、「イコウ」や「イクロー」、「イッド」のように動詞・形容詞にしか後接しない、命題部分をテンス分化させ得ないものである場合が多い。つまり、非過去事態の推量形式と過去事態の推量形式とが、それぞれテンスも分担しているのである。

なおこれらの方言では、過去推量の形式の内部から非過去推量の形式と共通する部分である「ロー」や「ド」が析出されて、それぞれ「イッターロー」や「イッタード」のように、過去推量形式の「ツ」の部分が過去・完了の「タ」（場合によっては「ケ」など）に置き換えられてきている。これによって、命題部分がテンス分化可能となり、モダリティ部分には過去の意味が含まれない、標準語と同様のふるまいに変化がすすんでいる。

### 2.2.3 否定推量のありかた

標準語では否定推量表現の「まい」が廃れてきているが、方言ではまだ勢力を保っている場合が多い。方言においては、肯定事態の推量（「だろう」相当）に対してほぼ「まい」系の形式が対応しているところもあり、確認要求表現に使えるなど、用法も広い。以下に山口方言の例を示す。

(5)この方法じゃイケマー（いけないだろう？）（命題確認要求）

(6)バカなんかユーチョラマーガ（言っていないだろう！）（認識の同一化要求）

ただし、標準語と同様に否定辞や形容詞「ない」に方言の推量形式が後接した形式を併用する地域も多く、いずれは「まい」が衰退していく可能性がある。

## 3. 調査の着眼点

### 3.1 共時的観点

標準語における真偽判断のモダリティの研究、特に「だろう」についての議論が盛んに行われているため、標準語研究の成果を最大限レファレンス・フレームに利用するのが有効である。たとえば先に示した①～⑧のポイントが各方言の推量形式でどのようなになっているかをみるだけでも、一定の成果があがるだろう。

推量表現について文法記述を行う際の主なポイントは以下の3点である（Ⅰ～ⅢはBの項目に対応している）

#### Ⅰ 推量表現にはどのような形式があるか

それらは、どのような文法的ふるまいをするのか

・生起する位置や承接はどのようなか

節レベル：主節だけでなく連体節・従属節内に生起するか

述語タイプレベル：動詞・形容詞（活用語）のみにつく

動詞・形容詞・形容動詞・名詞なんにでもつく

- ・前接要素による形式のバリエーションがないか(推量形式の析出の程度)  
意志動詞(活用の種類と語幹の長さ:五段>一・二段>サ変・カ変)>無意志動詞>活用のある助動詞>形容詞>形容動詞・名詞
  - ・丁寧形式との共起のありかた
  - ・主節で後接可能な終助詞のタイプに傾向がないか
  - ・語形変化はあるか
- II 推量表現形式はどのような意味・用法を持っているか
- ・疑問・反語表現と共起するか/疑問との共起に偏っていないか
  - ・感嘆表現に用いられるか
  - ・「だろう/のだろう」のような使い分けがあるか。説明のモダリティ(ノダ)と推量との関わりはどのようなか
  - ・証拠性のに関して、様態表現とどのようにリンクしているか
- III 推量表現形式の対人的用法にはどのようなものがあるか
- ・確認要求用法をもつか  
どのような確認要求の意味が担えるか(→確認要求表現を参照)
  - ・コミュニケーション上の拡張用法をもつか  
話し手の行為の理由づけ用法や婉曲用法を担えるか

ただし、標準語の研究成果を援用する際に注意する点はいくつかある。

まず、文の階層構造を考える上での指標となる形式や、共起する形式などの文法的ふるまいは、標準語のものと方言のものとで一致するとは限らない。

たとえば、聞き手に対する丁寧さを表す形式についていうと、標準語では「です/ます」の他に、推量の形式と一体化している「でしょう/ましょう」がある。標準語では、前接要素である命題部の中に丁寧形式が現れると、必ずこれと連動して、「だろう」ではなくの「でしょう/ましょう」が現れる。

(7)あの人もしきに {来るダロウ/来るデショウ/\*来ますダロウ/来ますデショウ}

(8)明日来て {くれないダロウか/いただけないデショウか/\*いただけませんダロウか/いただけませんデショウか}

なお、「でしょう/ましょう」相当の敬体をもたない「まい」にはこのような対立がなく、標準語の「だろう」と「まい」との対応のいびつさがわかる。

(9)あの方は来 {るマイ/ますマイ/\*るマイです}

しかし関西方言ではデス/マスにもヤロが付き、丁寧さの形式と推量形式の語順が変わることがない(マイ類は不使用)。

(10)あの人もしきに {来るヤロ/来はるヤロ/来ますヤロ}

(11)明日来て {もらえへんヤロか/もらえまへんヤロか}

また、東北の方言には「行くベス」「本だベス」のように聞き手に対する丁寧形式「ス」が推量形式の後につくところもある。

このように、文法的ふるまいを記述する際の指標には、標準語と方言とで異なる場合があるので注意が必要である。

### 3.2 通時的観点

推量表現の形式について、2.1で「古典語に由来する形式」が各地にまとまりをもって分布していたことを見た。古典の文献を視野に入れて中央変種の変化を見渡すと、古典語（中央古語）から現代の中央変種にわたる長い間に、ムード・モダリティに関して、時制的パラダイムからモダリティのパラダイムへのパラダイムの変質があったということが指摘されている。しかし方言には古いパラダイムや形式が残っていることがあるので、方言を調べることにより、こうしたパラダイムの変質に関するデータが得られる可能性がある。

また、標準語の「だろう」は「であらう」が融合して推量専用形式として析出される過程を経ている。推量専用形式が成立する前は、意志や勧誘の表現と同じ形式が推量の意味でも使われていたわけである。翻って、方言では現在も、意志や勧誘の表現と推量の表現に同形式を用いる地域は少なくない。

このような通時的な視点から推量表現について調査する場合、先のⅠ～Ⅲの項目に以下のⅣを加える必要がある。（Bの項目に対応している）

#### Ⅳ-1 未実現事態のマーカースとしての用法

- ・「推量」以外の意味に使われるか（判断ではなく未実現事態のマーカースとして）
- ・慣用表現になっていないか

「今にも落ちんとしていた」、「そんなことを言おうものなら」等

#### Ⅳ-2 意志・勧誘表現形式とのつながり

- ・当該方言で用いる意志・勧誘表現形式と推量形式が同じではないか
- ・意志・勧誘表現と推量表現に同じ形式が使われている場合、前接要素への接続のしかたや終助詞類によって、使い分けがないか

なお、異なる形式がせめぎあっている地域に目を凝らせば、さらに接触によって推量形式の形式や意味が変化していくさまが見えてくるであろう。また近年は、例えば伝統形式「ズラ」に「だろう」が関与して「ダラ」が生まれるなど、標準語「だろう」の影響によって方言の伝統形式が変化する例もある。このような視点も、推量表現形式の派生関係の解明につながる重要なものと思われる。

## 4. 研究の現状

これまでの日本語の方言における推量表現に関する文法記述は、主に（a）（b）（c）の3つの視点で行われてきたといえる。

- （a）一つの推量表現形式を取り上げて、その多義性を記述する
- （b）推量表現形式が複数ある方言を取り上げ、意味・機能分担の記述をする
- （c）時代ごとの使用形式の意味記述

方言を対象とした推量表現関連の研究は、現在、対象となる方言における（a）か（b）の視点からの語形の報告とその意味・機能の記述が主である。

ただ、（a）（b）は共時的視点のものであるが、ともに通時的な視点が含まれていなかったわけではなく、推量と隣接するさまざまなモダリティ、たとえば確認要求や疑問、意志、勧誘などとの意味的派生関係を探るものもあれば、複数のせめぎあう形式の地理的分布状況を読み解こうとする言語地理学的研究も関連している。特に、（a）の場合は、推量表現標準語とは異なる対立構造つまり言語接触の観点から、語形や意味の変化を解明しようとしたのである。

(c) は通時的視点の研究であり、形式の変遷やパラダイムの変化を論ずるための前提と位置づけられる。とくに (c) の視点での研究は、古典語とのつながりを意識しており、古典語における認識のモダリティのパラダイムから現在のものへの移行過程を探るための手がかりとして方言を扱っていることもある。

## 5. 発展

これまで、方言の推量表現についての文法記述があまり盛んでなかったのは、前節で述べた通時的視点が先行したこともその理由のひとつだが、モダリティ形式の意味・機能の記述の方法がまだ洗練されていなかったため、実際には「だろう」と全く同じ意味・機能を持っているわけではなくても、その記述が難しかったことなどが挙げられる。「だろう」および真偽判断のモダリティに関する研究が標準語でかなり深化している現在、これを方言研究に援用していくこと、さらには方言のさまざまな事象から標準語のモダリティの議論に参加していくことが重要であろう。

また、方言では、推量表現を担ってバラエティの関係で並存していた複数の形式や、接続などの条件によって相補的に分布していた形式が、何らかの意味によって差異化していくといった変化もみられる。その場合に、推量を担っていた形式がどのような意味・機能で差異化するのかを記述することは有益であろう。

さらに、バラエティ間の新旧や意味・用法の派生関係の考察を土台として、意味・用法の変化方向について、機能拡張の視点で議論することも可能になるだろう。

## 6. 文献

- 安達太郎 (1999) 『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版
- 井上優 (2002) 「モダリティ」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック』科学研究費基盤研究(b)(2)「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」(課題番号 10410098) 研究成果報告書
- 金水敏 (1992) 「談話管理理論からみた『だろう』」『神戸大学文学部紀要』19
- 国立国語研究所編 (1994) 『方言文法全国地図3』大蔵省印刷局
- 国立国語研究所編 (2002) 『方言文法全国地図5』財務省印刷局
- 近藤泰弘 (1993) 「推量表現の変遷」『月刊言語』22-2
- 高山善行 (2002) 『日本語モダリティの史的研究』ひつじ書房
- 田窪行則 (1987) 「統語構造と文脈情報」『日本語学』6-5
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田義雄・益岡隆志編 (1989) 『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版
- 橋本(船木)礼子 (2004) 『日本語諸方言における意志・推量表現の変化に関する研究』博士学位論文(大阪大学)
- 船木礼子 (1999) 「意志・推量形式「べー」の対照—用法変化の推論—」『待兼山論叢』33
- 船木礼子・佐竹久仁子 (2004) 「静岡県中川根方言の推量・意志・勧誘表現」真田信治編『静岡・中川根方言の記述』大阪大学大学院文学研究科日本語学研究室
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店

推量表現

- 三宅知宏（1995）「「推量」について」『国語学』183  
三宅知宏（1996）「日本語の確認要求的表現の諸相」『日本語教育』89  
宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）『モダリティ』くろしお出版  
森山卓郎（1990）「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2  
森山卓郎（1992）「日本語における「推量」をめぐって」『言語研究』101  
森山卓郎・仁田義雄・工藤浩（2000）『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店  
山口堯二（1991）「推量体系の史的変容」『国語学』165  
山口堯二（2003）『助動詞史を探る』和泉書院



## B 項目

参考となる先行調査票の調査文の出典は、以下の略号で示す。

- <G 本○○○>      GAJ 本調査(○○○は質問番号)
- <G 準○○○>      GAJ 準備調査(○○○は質問番号)
- <G 表 1>            「方言文法の記述的研究・調査文例 表現法 I」
- <G 表 2>            「方言文法の記述的研究・参考文例 表現法 2」
- <中>                船木礼子・佐竹久仁子 (2004) 「静岡県中川根方言の推量・意志・  
勧誘表現」(真田信治編『静岡・中川根方言の記述』大阪大学大学  
院文学研究科日本語学研究室)

### I 推量表現形式の形式的特徴

#### I-1 主節

##### I-1-1 「だろう」相当形式の確認

- I-1-1-1 【肯定・非過去・意志動詞・行く】友達から「あの人は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら「たぶん [行くだろう]」と答えるとき、どのように言いますか。<G 本 165>, <G 準 042>
- I-1-1-2 【肯定・非過去・意志動詞・書く】「あいつはたぶん手紙を [書くだろう]」と言うときの「書くだろう」のところは、地方によって、カクダロー・カクペーなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。<G 本 067>, <G 準 138>
- I-1-1-3 【肯定・非過去・意志動詞・見る】「推量形 (活用), 見るだろう, それでは, 「[見るだろう]」はどうですか。<G 準 134>
- I-1-1-4 【肯定・非過去・意志動詞・起きる】「たぶん [起きるだろう]」と言うときの「起きるだろう」のところは、地方によってオキルダロー・オキルペー・オキルズラなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。<G 準 132>
- I-1-1-5 【肯定・非過去・意志動詞・寝る】それでは, 「[寝るだろう]」はどうですか。<G 準 133>
- I-1-1-6 【肯定・非過去・意志動詞・開ける】それでは, 「[あけるだろう]」はどうですか。<G 準 135>
- I-1-1-7 【肯定・非過去・意志動詞・来る】「あいつは, あした, たぶん [来 (く) るだろう]」と言うときの「来 (く) るだろう」はどうですか。<G 本 068>, <G 準 136>
- I-1-1-8 【肯定・非過去・意志動詞・する】「あいつは, たぶんその仕事を [するだろう]」と言うときの「するだろう」のところはどのように言いますか。(「ヤル」を使った形は採らない。) <G 本 069>, <G 準 137>
- I-1-1-9 【肯定・非過去・無意志動詞・ある】それでは, 「[有るだろう]」はどうですか。<G 準 139>

- I-1-1-10 【肯定・非過去・助動詞・せる／させる】 それでは、「たぶん [書かせるだろう]」の「書かせるだろう」はどうですか。<G 準 144>
- I-1-1-11 【肯定・非過去・助動詞・れる／られる】 それでは、「たぶん新聞に [書かれるだろう]」の「書かれるだろう」はどうですか。<G 準 145>
- I-1-1-12 【肯定・非過去・ク活用形容詞・高い】 「この着物はたぶん [高いだろう]」と言うときの「高いだろう」はどうですか。<G 本 070>, <G 準 140>  
参考：見たことのないある山のことを話題にして、「その山は [たぶん高いだろう]」と言うとき、「たぶん高いだろう」のところをどのように言いますか。<G 準 053>
- I-1-1-13 【肯定・非過去・シク活用形容詞・めずらしい】 それでは、「[めずらしいだろう]」はどうですか。<G 準 141>
- I-1-1-14 【肯定・非過去・形容動詞・静かだ】 「あそこは、車が通らないのでたぶん [静かだろう]」と言うときの「静かだろう」はどうですか。<G 本 071>, <G 準 142>, <G 準 055>
- I-1-1-15 【肯定・非過去・名詞述語・雨だ】 「あしたは [たぶん雨だろう]」と言うとき、「たぶん雨だろう」のところをどのように言いますか。（「雨が降るだろう」の形は採らない。）<G 本 170>, <G 準 056>  
参考：それでは、「たぶん [鳥だろう]」と言うときの「鳥だろう」はどうですか。<G 準 143>
- I-1-2 「まい」相当形式の確認（否定・非過去推量）
- I-1-2-1 【否定・非過去・意志動詞・行く】 友達から「あの人は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら「[たぶん行かないだろう]」と答えるとき、どのように言いますか。<G 準 046>, <G 本 166>
- I-1-2-2 【否定・非過去・意志動詞・「イクマイ」語形確認】 ところで、「行かないだろう」と言うことを「イクマイ」と言いませんか。<G 準 049>
- I-1-2-3 【否定・非過去・意志動詞・「イクマイ」丁寧形の確認】（「言う」と答えたとき）では、[I-1-2-2 の語形]のことを、もっといい言い方にするとどうなりますか。<G 準 049>
- I-1-2-4 【否定・非過去・無意志動詞・ある】 たぶんあるまい
- I-1-2-5 【否定・非過去・助動詞・せる／させる】 たぶん書かされまい
- I-1-2-6 【否定・非過去・助動詞・れる／られる】 たぶん新聞に書かれまい
- I-1-2-7 【否定・非過去・ク活用形容詞・高い】 この着物はたぶん高くないだろう
- I-1-2-8 【否定・非過去・シク活用形容詞・めずらしい】 こんなもの、それほどめずらしくないだろう
- I-1-2-9 【否定・非過去・形容動詞・静かだ】 あそこは、小学校が近いので、たぶん静かでないだろう
- I-1-2-10 【否定・非過去・名詞述語・雨だ】 あしたはたぶん雨でないだろう（「雨は降るまい」「雨は降らないだろう」の形は採らない。）

I-1-3 「ただろう」相当形式の確認（過去推量）

- I-1-3-1 【肯定・過去・意志動詞・行く】友達から「あの人はきのう役場に行っただろうか」と聞かれ、「[行っただろう]」と答えるとき、どのように言いますか。<G本 168>, <G 準 050>
- I-1-3-2 【否定・過去・意志動詞・行く】では、「[行かなかったら]」と答えるときは、どのように言いますか。<G 準 051>
- I-1-3-3 【肯定・過去・形容詞・暑い】暑かっただろう<中>
- I-1-3-4 【否定・過去・形容詞・暑い】暑くなかったらろう<中>
- I-1-3-5 【肯定・過去・形容動詞・楽だ】楽だっただろう<中>
- I-1-3-6 【否定・過去・形容動詞・楽だ】楽でなかったらろう<中>
- I-1-3-7 【肯定・過去・名詞述語・雨だ】雨だっただろう<中>
- I-1-3-8 【否定・過去・名詞述語・雨だ】雨でなかったらろう<中>

I-1-4 「のだろう」相当形式の確認

- I-1-4-1 【肯定・非過去・のだ・動詞・行く】道を歩いている人を見て、友達から「あの人はどこへ行くのだろうか」と聞かれ、「役場に [行くの]」と答えるとき、「行くの」のところはどのように言いますか。<G本 167>, <G 準 045>
- I-1-4-2 【肯定・過去・のだ・動詞・行く】友達から「あの人はどこへ行ったのだろうか」と聞かれ、「役場に [行ったの]」と答えるとき、「行ったの」のところをどのように言いますか。<G本 169>, <G 準 052>
- I-1-4-3 【肯定・非過去・のだ・形容詞・高い】頂上に雪をかぶった山を見ながら「あの山は [きっと高いの]」と言うとき、「きっと高いの」のところをどのように言いますか。<G 準 054>
- I-1-4-4 【肯定・非過去・のだ・名詞述語・雨だ】「あしたは [たぶん雨なの]」と言うとき、「たぶん雨なの」のところをどのように言いますか。（「雨が降るの」の形は採らない。）
- I-1-4-5 【確認：確言・非過去・非のだ・名詞述語】これは本だ。<G 表 2>
- I-1-4-6 【確認：確言・非過去・のだ・名詞述語】これは本なのだ。<G 表 2>

I-1-5 副詞や他の真判断モダリティとの共起関係の確認

副詞や他の真偽判断モダリティとの共起関係や位置関係をみることにより、推量表現形式の位置を確認する。副詞や真偽判断モダリティの諸形式には、それぞれ当該方言のものを用いること。以下の例文はかなり機械的に作っているので、承接のありかたには注意が必要である。

なお、以下では、【否定・過去】「行かなかったら」、【否定・非過去・のだ】「行くのではないら」、【肯定・過去・のだ】「行ったのら」、【否定・過去・のだ】「行ったのではないら」についての例文を略す。

- I-1-5-1 【副詞・だろ】{もしかしたら／たぶん／きっと} 雨が降るだろ<中>
- I-1-5-2 【副詞・まい】{もしかしたら／たぶん／きっと} 雨は降るまい
- I-1-5-3 【副詞・ただろ】{もしかしたら／たぶん／きっと} 雨が降っただろ
- I-1-5-4 【副詞・のだろ】{もしかしたら／たぶん／きっと} 雨が降るのだろ
- I-1-5-5 【かもしれない・だろ】雨が {降るかもしれないら／降るだろかもしれない}

ない}

- I-1-5-6 【かもしれない・まい】雨は {降るかもしれない／降るまいかもしれない}
- I-1-5-7 【かもしれない・ただろう】雨が {降るかもしれなかつただろう／降ったかもしれなだらう／降ったたらうかもしれない／降るだらうかもしれなかつた}
- I-1-5-8 【かもしれない・のただろう】雨が {降るかもしれないのただろう／降るのかもしれないだらう／降るのただろうかもしれない}
- I-1-5-9 【共起関係（可能性判断）：直後キャンセルの可否】明日は雨が降る（ ）し、降らない（ ）。（マル括弧内に同じ真偽判断のモダリティ形式が入るか）
- I-1-5-10 【らしい・ただろう】雨が {降るらしいただろう／降るだらうらしい}
- I-1-5-11 【らしい・まい】雨は {降るらしくあるまい／降るまいらしい}
- I-1-5-12 【らしい・ただろう】雨が {降るらしかつたたらう／降ったらしいたらう／降ったたらうらしい／降るだらうらしかつた}
- I-1-5-13 【らしい・のただろう】雨が {降るらしいのたらう／降るのらしいたらう／降るのたらうらしい}
- I-1-5-14 【はずだ・たらう】雨が {降るはずたらう／降るだらうはずだ}
- I-1-5-15 【はずだ・まい】雨は {降るはずであるまい／降るまいはずだ}
- I-1-5-16 【はずだ・たたらう】雨が {降るはずだつたたらう／降ったはずたらう／降ったたらうはずだ／降るだらうはずだつた}
- I-1-5-17 【はずだ・のたらう】雨が {降るはずなのたらう／降るのはずたらう／降るのたらうはずだ}

#### I-1-6 推量表現を担う終助詞類の確認

方言によっては、終助詞ダイなどによって推量が表現される場合がある。

- I-1-6-1 【肯定・非過去・終助詞】あいつはたぶん行くダイ（／行こうダイ）
- I-1-6-2 【否定・非過去・終助詞】あいつはたぶん行かないダイ（／行くまいダイ）
- I-1-6-3 【肯定・過去・終助詞】あいつはたぶん行ったダイ（／行つたらうダイ）
- I-1-6-4 【肯定・非過去・のだ・終助詞】あいつはたぶん行くのだ

#### I-1-7 推量表現形式に後接可能な形式（終助詞のタイプ）

以下のタイプわけは便宜的なものであり、各方言に共通ではない。調査の際は各方言の終助詞を把握した上でその方言にあったタイプ分けをすること。

- I-1-7-1 【疑問タイプ カ、カイなど】あいつは行くだらうカ／行くまいカ
- I-1-7-2 【情報要求タイプ ネ、ガ、ジャーなど】あいつは行くだらうネ／行くまいネ
- I-1-7-3 【情報提供タイプ ヨ、ダイ、エーなど】あいつは行くだらうヨ／行くまいヨ
- I-1-7-4 【情報提供・強いおしつけタイプ モン、モンカなど】あいつは行くだらうモン／行くまいモン

#### I-2 連体節

後接する名詞を変えると適格性判断に違いがでないか、確認する

- I-2-1 【肯定・非過去】行くだらう {人／とき／個人名} は…

- I-2-2 【否定・非過去】行くまい {人／とき／個人名} は…
- I-2-3 【肯定・過去】行っただろう {人／とき／個人名} は…
- I-2-4 【否定・過去】行かなかっただろう {人／とき／個人名} は…
- I-2-5 【肯定・非過去・のだ】行くのだろう {人／とき／個人名} は…
- I-2-6 【否定・非過去・のだ】行くのではないだろう {人／とき／個人名} は…
- I-2-7 【肯定・過去・のだ】行っただろう {人／とき／個人名} は…
- I-2-8 【否定・過去・のだ】行っただのではないだろう {人／とき／個人名} は…

### I-3 従属節

指標となる接続助詞は、当該方言のものを用いる

仮定節内に生起するかどうかについてはIV-1-3も参照のこと。

なお、以下では、【否定・過去】「行かなかっただろう」、【否定・非過去・のだ】「行くのではないだろう」、【肯定・過去・のだ】「行っただろう」、【否定・過去・のだ】「行っただのではないだろう」についての例文を略す。

#### I-3-1 「だろう」相当形式

- I-3-1-1 【仮定節・肯定・非過去】行くだらうならば…
- I-3-1-2 【理由節・肯定・非過去】行くだらうために…
- I-3-1-3 【時間節・肯定・非過去】行くだらう {ときに／まえに} …
- I-3-1-4 【原因理由節 (判断の根拠)・肯定・非過去】行くだらうから…
- I-3-1-5 【逆接節・肯定・非過去】行くだらうが…
- I-3-1-6 【並列節・肯定・非過去】行くだらうし…
- I-3-1-7 【引用節・肯定・非過去】行くだらうという

#### I-3-2 「まい」相当形式

- I-3-2-1 【仮定節・否定・非過去】行くまいならば…
- I-3-2-2 【理由節・肯定・非過去】行くまいために…
- I-3-2-3 【時間節・肯定・非過去】行くまい {ときに／まえに} …
- I-3-2-4 【原因理由節 (判断の根拠)・肯定・非過去】行くまいから…
- I-3-2-5 【逆接節・肯定・非過去】行くまいが…
- I-3-2-6 【並列節・肯定・非過去】行くまいし…
- I-3-2-7 【引用節・肯定・非過去】行くまいという

#### I-3-3 「ただろう」相当形式

- I-3-3-1 【仮定節・肯定・過去】行っただらうならば…
- I-3-3-2 【理由節・肯定・過去】行っただらうために…
- I-3-3-3 【時間節・肯定・過去】行っただらう {ときに／まえに} …
- I-3-3-4 【原因理由節 (判断の根拠)・肯定・過去】行っただらうから…
- I-3-3-5 【逆接節・肯定・過去】行っただらうが…
- I-3-3-6 【並列節・肯定・過去】行っただらうし…
- I-3-3-7 【引用節・肯定・過去】行っただらうという

### I-3-4 「のだろう」相当形式

- I-3-4-1 【仮定節・肯定・非過去・のだ】行くのだろうならば…
- I-3-4-2 【理由節・肯定・非過去・のだ】行くのだろうために…
- I-3-4-3 【時間節・肯定・非過去・のだ】行くのだろう {ときに／まえに} …
- I-3-4-4 【原因理由節 (判断の根拠)・肯定・非過去・のだ】行くのだろうから…
- I-3-4-5 【逆接節・肯定・非過去・のだ】行くのだろうが…
- I-3-4-6 【並列節・肯定・非過去・のだ】行くのだろうし…
- I-3-4-7 【引用節・肯定・非過去・のだ】行くのだろうという

### I-4 語形変化 (活用) の有無

現代の推量表現形式は語形変化のないものがほとんどであろうが、形式の成り立ちから活用のありそうなものもあるので、ここで若干の確認をする。以下の例文は「だろう」について機械的に作ってあるので、方言形式ごとに適切に変えてほしい。

- I-4-1 【活用一言い切り】行くだろう
- I-4-2 【活用一連体】行くだろうとき
- I-4-3 【活用一仮定】行くだろうならば
- I-4-4 【活用一否定】行くだろうない

## II 意味的特徴

### II-1 未実現事態 (反実仮想の用法)

- II-1-1 【非過去】(山田さんが海外勤務を持ちかけられたが、断ったという) 変だなあ、あの人なら、なにがなんでも行くだろうに (行かない) <中>
- II-1-2 【過去】(鈴木さんも去年、海外勤務を持ちかけられたが、断ったという) 変だなあ、あの人なら、なにがなんでも行っただろうに (行かなかった) <中>

### II-2 疑問・反語表現との共起

#### II-2-1 真偽疑問文と推量, およびノダ文とのかかわり

- II-2-1-1 【真偽疑問文・動詞・ダロウ】うーん、あの人が行くだろうか? <中>
- II-2-1-2 【真偽疑問文・動詞・ノダロウ】あいつ、一等のハワイ旅行が当たったと言ってたけど、本当にハワイに行くんだろうか? <中>  
参考: 自分自身で「あしたは [晴れるだろうか]」と心の中でつぶやくとき、「晴れるだろうか」のところをどのように言いますか。<G 準 097>  
参考: 自分自身で「これで [良いのかな]」とつぶやくとき、「良いのかな」のところをどのように言いますか。<G 本 192>, <G 準 096>

#### II-2-2 疑問詞 (「なぜ」と真偽疑問文以外) と推量, およびノダ文とのかかわり

- II-2-2-1 【疑問詞疑問文・動詞・ノダロウ】あいつ、旅行かばんなんか持って、一体どこに行くんだろう? <中>  
参考: 自分自身で「その仕事は [誰がやるのかな]」と心の中でつぶやくとき、「誰がやるのかな」のところをどのように言いますか。<G 準 095>

- Ⅱ-2-2-2 【疑問詞疑問文・動詞・ダロウ】(山本が家出をした) 山本だったらどこに行くだろう? <中>  
 参考: いつ頃晴れるだろうか。 <G表1>
- Ⅱ-2-2-3 【疑問詞疑問文・名詞・ノダロウ】 一体どっちが本物なんだろう <中>
- Ⅱ-2-2-4 【疑問詞疑問文・名詞・ダロウ】 こんなところに財布が置いてある。だれの財布だろう <中>
- Ⅱ-2-2-5 【疑問詞疑問文・疑問詞直接・ノダロウ】 {だれ/いつ/どこ/どう} なのだろう <中>
- Ⅱ-2-2-6 【疑問詞疑問文・疑問詞直接・ダロウ】 {だれ/いつ/どこ/どう} だろう <中>

### Ⅱ-2-3 疑問詞「なぜ/どうして」とのかかわり

- Ⅱ-2-3-1 【疑問詞なぜ・動詞】 なぜ太郎が行くのだろう <中>
- Ⅱ-2-3-2 【疑問詞なぜ・名詞】 あいつがなぜ会長なのだろう <中>
- Ⅱ-2-3-3 【疑問詞なぜ・なぜ直接・ダロウ】 なぜだろう <中>
- Ⅱ-2-3-4 【疑問詞なぜ・なぜ直接・ノダロウ】 なぜなのだろう <中>

### Ⅱ-2-4 感嘆表現との共起

感嘆表現と共起する推量表現形式の準体機能(コトガラ化機能)も確認すること

- Ⅱ-2-4-1 【動詞】 なんとよく食べるんだろう!
- Ⅱ-2-4-2 【形容詞】 なんと美しいのだろう! <G表1>
- Ⅱ-2-4-3 【形容動詞】 なんと静かなんだろう! <中>
- Ⅱ-2-4-4 【名詞】 なんときれいな花なんだろう! <中>  
 参考: 【体言型の感嘆表現】 話は変わりますが、美しい花を見て、感動して「[あの花の美しいこと]!」と言うとき、どのように言いますか。 <G本157>

### Ⅱ-2-5 反語と推量とのかかわり

- Ⅱ-2-5-1 【反語・ダロウ・やるわけがない】 あんなこと、誰が好き好んでやるだろう(か)  
 参考: 「そんなこと [誰がやるものか]」と強く言うとき、「誰がやるものか」のところをどのように言いますか。(「スル」を使った形は採らない。) <G本193>, <G準099>  
 参考: 「そんなばかげたことは [やるものか]」と強く言うとき、「やるものか」のところをどのように言いますか。 <G準098>
- Ⅱ-2-5-2 【反語・定型(一トイウノダロウ)・やるわけがない】 あんなこと、誰がやるというのだろう(か)
- Ⅱ-2-5-3 【反語・ダロウ・必ずやる】 こんないい役、誰がやらないだろう(か)  
 参考: あることを、必ずやるという気持で「[やらないことがあるものか]」と言うとしたら、どのように言いますか。 <G本194>, <G準100>

## Ⅱ-3 「だろう」(単純推量) / 「のだろう」(説明的推量) の使い分けの有無

### Ⅱ-3-1 「のだろう」相当形式の確認(非過去事態の推量)

- Ⅱ-3-1-1 【行く・非過去】山本が大きなかばんをさげている。旅行に行くんだろう<中>
- Ⅱ-3-1-2 【いる・非過去】ガレージに車がある。山本は家にいるんだろう<中>
- Ⅱ-3-1-3 【ある・非過去】浴衣を着た人が大勢川の方へ歩いている。花火大会があるんだろう<中>
- Ⅱ-3-1-4 【忙しい・非過去】最近あいつを見かけない。仕事が忙しいんだろう<中>
- Ⅱ-3-1-5 【楽だ・非過去】みんながあの仕事ばかり選んでいる。楽なんだろう<中>
- Ⅱ-3-1-6 【名詞述語・非過去】いつも予約がいっぱいだという。よっぽどいい旅館なんだろう<中>

### Ⅱ-3-2 名詞述語・形容動詞文におけるダロウ（単純推量）／ノダロウ（説明的推量）の対立の確認

- Ⅱ-3-2-1 【単純推量】昼間に行ったって、どうせ留守だろう。
- Ⅱ-3-2-2 【単純推量】あそこの子はもうそろそろ二十歳だろう。<中>
- Ⅱ-3-2-3 【単純推量】「あの人は甘いものは嫌いかな?」「いや、たぶん好きだろう」<中>
- Ⅱ-3-2-4 【単純推量】目玉焼きだったら簡単だろう。一度つくってみようかな。<中>
- Ⅱ-3-2-5 【説明的推量】「声をかけてもだれも出てこないよ」「みんな留守なんだろう」<中>
- Ⅱ-3-2-6 【説明的推量】おや、あの子が酒を飲んでいる。もう二十歳なんだろう。
- Ⅱ-3-2-7 【説明的推量】「あの人は毎日ソバ屋に行くね」「きっとあの人はソバが好きなんだろう」<中>
- Ⅱ-3-2-8 【説明的推量】あんな子どもでもできるのか。よっぽど簡単なんだろう。

### Ⅱ-3-3 過去推量におけるタダロウ（単純推量）／タノダロウ（説明的推量）の対立の確認

- Ⅱ-3-3-1 【単純推量】さんざん念を押しておいたので、今日はちゃんと行っただろう。
- Ⅱ-3-3-2 【単純推量】あの子たちは一日中歩き回ったそうだから、疲れただろう。<中>
- Ⅱ-3-3-3 【単純推量】きょうは気温が 30 度をこえたという。球場は暑かっただろう。<中>
- Ⅱ-3-3-4 【単純推量】「あの人は甘いもの好きだったかな?」「たぶん好きだっただろう」<中>
- Ⅱ-3-3-5 【単純推量】「あの公園にあった木は桜だったかな?」「たぶん桜だっただろう」
- Ⅱ-3-3-6 【説明的推量】ガレージに車がない。買い物に行ったんだろう。
- Ⅱ-3-3-7 【説明的推量】一日中歩き回って疲れたんだろう。ぐっすり眠っている。<中>
- Ⅱ-3-3-8 【説明的推量】シャツが汗でびっしょりぬれている。よほど暑かったんだろう。<中>
- Ⅱ-3-3-9 【説明的推量】愛犬に死なれてまだ泣いている。よっぽど好きだったんだろう。<中>
- Ⅱ-3-3-10 【説明的推量】今日の夕方、雨が降っているときにドーンと大きな音がした。たぶん雷だったんだろう。<中>



## Ⅱ-4 証拠／確信度のレベル・副詞との関わりの確認

- Ⅱ-4-1 【確信度弱（ひよっとしたら～かもしれない）】（自信はないけれど）もしかしたら／ひよっとしたら雨が降るだろう<中>
- Ⅱ-4-2 【確信度弱（ひよっとしたら～かもしれない）・ノダ文】（自信はないけれど）もしかしたら／ひよっとしたら雨が降るんだろう<中>
- Ⅱ-4-3 【確信度中（たぶん～だろう）】（絶対とまでは言えないけれどかなり自信がある）たぶん雨が降るだろう<中>  
参考：友達から「あの人は今日役場に行くだろうか」と聞かれ、迷いながら「[[たぶん行くだろう]]」と答えるとき、どのように言いますか。<G 準 042>
- Ⅱ-4-4 【確信度中（たぶん～だろう）・ノダ文】（絶対とまでは言えないけれどかなり自信がある）たぶん雨が降るんだろう<中>
- Ⅱ-4-5 【確信度中（きっと～にちがいない／だろう）】（まず間違いないと信じている）きっと雨が降るだろう<中>  
参考：《頂上に雪をかぶった山を見ながら》あの山は [きっと高いだろう]。<G 表 2>  
参考：では、確信があったので「[[きっと行くだろう]]」と答えるとき、どのように言いますか。<G 準 043>
- Ⅱ-4-6 【確信度高（～にちがいない）】では、さらに確かな根拠があって「[[行くにちがいない]]」と答えるとき、どのように言いますか。<G 準 044>
- Ⅱ-4-7 【確信度中（きっと～にちがいない／だろう）・ノダ文】（まず間違いないと信じている）きっと雨が降るんだろう<中>
- Ⅱ-4-8 【確信度中（きっと～にちがいない／だろう）・否定】では、確信があったので「[[きっと行かないだろう]]」と答えるとき、どのように言いますか。<G 準 047>
- Ⅱ-4-9 【確信度高（～にちがいない）・否定】では、さらに確かな根拠があって「[[行かないにちがいない]]」と答えるとき、どのように言いますか。<G 準 048>
- Ⅱ-4-10 【状況把握（らしい・ようだ）】（そう思えるような状況が観察できる）どうやら雨が降るだろう<中>

## Ⅱ-5 情報の質による確信度と推量表現との関わり

- Ⅱ-5-1 【来る・確信度高（知識情報）・ひとりごと】（そろそろ予定時刻だ）もうすぐバスが来るだろう<中>
- Ⅱ-5-2 【来る・確信度高（感覚情報）・ひとりごと】（独特のエンジンの音が聞こえる）もうすぐバスが来るだろう<中>
- Ⅱ-5-3 【来る・確信度高（知識情報）・応答】そろそろ予定時刻だし、もうすぐバスが来るだろう<中>
- Ⅱ-5-4 【来る・確信度高（感覚情報）・応答】エンジンの音が聞こえるから、もうすぐバスが来るだろう<中>

## Ⅲ 推量表現の対人的用法

### Ⅲ-1 確認要求表現（動詞は適当に替えてよい）

### Ⅲ-1-1 知識（認識）確認要求

以下の知識確認要求の例文は、すべて三宅(1996)の「潜在的共有知識の活性化」の文脈に統一している。推量形式は同じく知識確認要求の「認識の同一化要求」にも使えることが予想されるが、ここには挙げていない。詳しく検討したい場合は本書の「確認要求表現」の項目を参照されたい。

- Ⅲ-1-1-1 【知識確認の要求・意志動詞】ほら、あいつはいつも水曜に公民館へ行くだろう？  
だから…<中>
- Ⅲ-1-1-2 【知識確認の要求・無意志動詞】ほら、6月はよく雨が降るだろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-3 【知識確認の要求・イ形容詞文】ほら、あそこは暑いだろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-4 【知識確認の要求・名詞文】ほら、おれの名前は鈴木だろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-5 【知識確認の要求・否定・意志動詞】ほら、あいつはいつも花見には行かないだろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-6 【知識確認の要求・否定・状態】ほら、あいつはこのあいだの旅行には行っていないだろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-7 【知識確認の要求・否定・無意志動詞】ほら、ここでは雹なんてそんなに降らないだろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-8 【知識確認の要求・過去・意志動詞】ほら、あいつ昨日は郵便局へ行っただろう？  
その時に…
- Ⅲ-1-1-9 【知識確認の要求・過去・否定・意志動詞】ほら、あいつ昨日仕事に行かなかっただろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-10 【知識確認の要求・過去・無意志動詞】ほら、昨日は雨が降っただろう？だから…<中>
- Ⅲ-1-1-11 【知識確認の要求・過去・否定・無意志動詞】ほら、昨日は雨が降らなかっただろう？だから…<中>

### Ⅲ-1-2 命題確認の要求

- Ⅲ-1-2-1 【命題確認の要求・無意志動詞】(天気予報を見てきたという相手に)「明日も雨が降るんだらう?」「うん、そうらしいよ」<中>
- Ⅲ-1-2-2 【命題確認の要求・形容詞・話し手が自分で確認できない根拠】おれ、酒に弱くてさ。おれの顔、もう赤いだらう?<中>
- Ⅲ-1-2-3 【命題確認の要求・形容詞・聞き手の評価】どうだい、ここの水はうまいだらう?<中>
- Ⅲ-1-2-4 【命題確認の要求・非ノダ】今からショッピングセンターに行こうと思うんだけど、おまえも行くだらう?<中>
- Ⅲ-1-2-5 【命題確認の要求・ノダ】バス旅行にはおまえも行くんだらう?<中>
- Ⅲ-1-2-6 【命題確認の要求・非ノダ】おまえの好きなジュースを買ってきたよ。飲むだらう?<中>
- Ⅲ-1-2-7 【命題確認の要求・ノダ】(飲みかけのコップを指して)まだ飲むんだらう?<中>
- Ⅲ-1-2-8 【命題確認の要求・否定・意志】あさっての旅行には、おまえは行かない(ん)

だろう？<中>

- Ⅲ-1-2-9 【命題確認の要求・否定・状態】このあいだの旅行には、おまえは行ってないんだらう？
- Ⅲ-1-2-10 【命題確認の要求・過去・意志動詞】おまえ、昨日は公民館に行ったんだらう？<中>
- Ⅲ-1-2-11 【命題確認の要求・過去・否定・意志動詞】おまえ、昨日は公民館に行かなかったんだらう？<中>
- Ⅲ-1-2-12 【命題確認の要求・過去・無意志動詞】（遠方から電話をかけて）「ニュースで見たんだけどさ、そっちでは昨日、雹が降ったんだらう？」「うん、…」
- Ⅲ-1-2-13 【命題確認の要求・過去・否定・無意志動詞】（電話で）「昨日はそっちでは雨が降らなかったんだらう？」「うん、…」<中>

### Ⅲ-1-3 「だろうね」に相当する用法

聞き手が関与する事態について、話し手による当然性判断が含まれる表現

- Ⅲ-1-3-1 【命題確認の要求・だろうね・肯定文・過去】ちゃんと宿題をやってきたらうね
- Ⅲ-1-3-2 【命題確認の要求・だろうね・肯定文・現在】もちろん金はあるらうね
- Ⅲ-1-3-3 【命題確認の要求・だろうね・肯定文・未来】あしたこそ宿題をやってくるらうね
- Ⅲ-1-3-4 【命題確認の要求・だろうね・否定文・過去】あの秘密の話をあいつにばらさなかったらうね
- Ⅲ-1-3-5 【命題確認の要求・だろうね・否定文・現在】そのことばに嘘はないらうね
- Ⅲ-1-3-6 【命題確認の要求・だろうね・否定文・未来】あしたこそ宿題を忘れないらうね

### Ⅲ-2 コミュニケーション上の拡張用法

#### Ⅲ-2-1 話し手の行為の理由づけ

聞き手に帰属する情報について話し手が推量し、これを話し手がこれから行う／現在行っている行為の理由付けとして示す用法。話し手より聞き手が情報を多く持つため、表面上は確認要求的な表現になっているが、実際は聞き手に対する要求性が弱い。

- Ⅲ-2-1-1 【行為の理由付け・申し出】（相手が重そうな荷物を運んでいるのを見て）重いでしょう、お持ちしましょう<中>
- Ⅲ-2-1-2 【行為の理由づけ・勧め】（帰宅した家人に）おかえり、{暑かった／疲れた}でしょう、お風呂が沸いていますよ<中>
- Ⅲ-2-1-3 【行為の理由づけ・話し手の現在の行為を確認】どうだ、あったかいだらう。
- Ⅲ-2-1-4 【行為の理由づけ・申し出】結構、大変だらう。俺が代わるよ。
- Ⅲ-2-1-5 【行為の理由づけ・勧め】（手料理を供し）けっこううまいだらう。おかわり有るぞ。
- Ⅲ-2-1-6 【行為の理由付け・命令】おい、熱いだらう、ちゃんと軍手をはめろ
- Ⅲ-2-1-7 【行為の理由づけ・話し手の現在の行為を確認】（子どもをくすぐって）ほら、

くすぐったいだろう，ほらほら。（もっとくすぐる）

### Ⅲ-2-2 婉曲

確定的事態を推量として述べることにより，聞き手に対して話し手の判断を押し付けない（話し手の判断が絶対ではない）表現性を帯びる。疑問文の場合は，聞き手に対して話し手が返答を要求する「質問」形式を回避して，話し手が聞き手について推量する形式をとることにより，聞き手の回答が義務的にならない効果が生じる。

Ⅲ-2-2-1 【婉曲用法（疑問文）：情報量 話し手<聞き手・質問の回避】ご注文は何でしょうか（\*なんだろうか）

Ⅲ-2-2-2 【婉曲用法（疑問文）：情報量 話し手<聞き手・質問の回避】

A：（呼びかけて）Bさん

B：なんでしょう（\*なんだろう）

Ⅲ-2-2-3 【婉曲用法：情報量 話し手 $\geq$ 聞き手】（一緒にドライブしていたら，交通渋滞で進めなくなった）動けませんね，また渋滞でしょうね（／渋滞のようですね）

Ⅲ-2-2-4 【婉曲用法：情報量 話し手 $\geq$ 聞き手】（交通渋滞のなかをのろのろ進んでいくと，事故車があった）ああ，事故でしょうね（／事故のようですね）

Ⅲ-2-2-5 【婉曲用法：情報量 話し手=聞き手】（二人で山本さんを訪ねてみると，山本さんが忙しそうにしているのが見えた。そこで一緒に来た人に向かって）「山本さんは忙しいのでしょうね。またあとで来ることにしましょう。」（／忙しいようですね）

## Ⅳ 推量表現形式と他のモダリティ的意味との関わり（通時的観点による）

### Ⅳ-1 未実現事態のマーカースとしての用法

#### Ⅳ-1-1 将然の意味との関わり（-トスル埋め込み）

Ⅳ-1-1-1 【未実現事態・将然・過去・無意志動詞・事態への価値は±】もうちょっとで雨が降ろうとしていた（降るところだった，の意）<中>

Ⅳ-1-1-2 【未実現事態・将然・現在・無意志動詞・事態への価値は±】今にも雨が降ろうとしている（降りそうだ，の意）<中>

Ⅳ-1-1-3 【未実現事態・将然・過去・無意志動詞・事態への価値は+】もうちょっとで手が届こうとしていた（届くところだった，の意）<中>

Ⅳ-1-1-4 【未実現事態・将然・現在・無意志動詞・事態への価値は+】今にも手が届こうとしている（届きそうだ，の意）<中>

Ⅳ-1-1-5 【未実現事態・将然・過去・無意志動詞・事態への価値は-】もう少しで谷に落ちようとしていた（落ちるところだった，の意）<中>

Ⅳ-1-1-6 【未実現事態・将然・現在・無意志動詞・事態への価値は-】今にも谷に落ちようとしている（落ちそうだ，の意）<中>

Ⅳ-1-1-7 【未実現事態・将然・過去・意志動詞・事態への価値は+】赤ちゃんがもうちょっとで立とうとしていた（立つところだった，の意）<中>

Ⅳ-1-1-8 【未実現事態・将然・現在・意志動詞・事態への価値は+】赤ちゃんがもうちょっとで立とうとしている（立ちそうだ，の意）<中>

Ⅳ-1-1-9 【未実現事態・将然・過去・意志動詞・事態への価値は-】もうちょっとでふす

まを破ろうとしていた（破るところだった，の意）<中>

IV-1-1-10 【未実現事態・将然・現在・意志動詞・事態への価値は一】今にもふすまを破ろうとしている（破りそうだ，の意）<中>

#### IV-1-2 慣用表現について（古典的な用法の残存）

IV-1-2-1 【〈可能性〉〈妥当性〉】あろうはずもない奇跡を信じてしまった<中>

IV-1-2-2 【〈一般化した事態〉】校長先生ともあろう人が，そんなことをするなんて<中>

IV-1-2-3 【〈仮定〉】ひとたび走り出そうものなら，もうどうやっても止まらない<中>

IV-1-2-4 【〈選択肢〉あるいは〈仮定〉】立とうにも立てない<中>

IV-1-2-5 【〈仮定〉（逆接）】誰に頼まれようが，絶対に行かない<中>

IV-1-2-6 【〈仮定〉（逆接）】たとえこのまま死のうとも…<中>

#### IV-1-3 仮定節内の生起（確認のみ）

II-1-3-1 「行こば，行け」のような言い方はありますか。

#### IV-2 意志・勧誘表現形式とのつながり

##### IV-2-1 意志表現形式の確認（動詞活用ごとの形式確認）

IV-2-1-1 【意志表現・起きる】自分自身で「早く [起きよう]」と自分の気持ちを心の中でつぶやくときの「起きよう」のところは，地方によってオキヨー・オキルベー・オキズなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。<G 準 123><G 本 060>

IV-2-1-2 【意志表現・見る】それでは，「[見よう]」はどうですか。<G 準 125>

IV-2-1-3 【意志表現・寝る】「今夜は早く [寝よう]」とつぶやくときの「寝よう」はどうですか。<G 本 061><G 準 124>

IV-2-1-4 【意志表現・開ける】「窓を [あけよう]」とつぶやくときの「あけよう」はどうですか。<G 本 063><G 準 126>

IV-2-1-5 【意志表現・来る】「あしたもここに [来 (こ) よう]」とつぶやくときの「来 (こ) よう」はどうですか。<G 本 064><G 準 127>

IV-2-1-6 【意志表現・する】「早く [しよう]」とつぶやくときの「しよう」はどうですか。（「ヤル」を使った形は採らない。）<G 本 062><G 準 128>

IV-2-1-7 【意志表現・書く】「手紙を [書こう]」とつぶやくときの「書こう」はどうですか。<G 本 065><G 準 129>

IV-2-1-8 【意志表現・書かせる】「息子に手紙を [書かせよう]」とつぶやくときの「書かせよう」はどうですか。<G 本 066>，それでは，「孫に手紙を [書かせよう]」と言うときの「書かせよう」はどうですか。<G 準 130>

IV-2-1-9 【意志表現・書かれる】<「書かれる」の意志形があれば記入する。> [参考] 「選挙が近くなったので候補者たちは新聞に [書かれよう] として…」<G 準 131>

##### IV-2-2 意志表現形式の確認（用法の確認）

IV-2-2-1 【意志表現・ひとりごと】来週は花見に行こう<中>

参考：自分自身で「今日こそ～に [行こう]」と自分の気持（意志）を心の中でつぶやくとき、「行こう」のところをどのように言いますか。<G 準 030>

IV-2-2-2 【意志表現・否定・ひとりごと】今日は行かないでおこう<中>

参考：「もうそんなところへなんか、けっして [行くまい]」と心に決めるとき、「行くまい」のところをどのように言いますか。<G 本 159><G 準 032>

IV-2-2-3 【意志表現・表出 (-カ)】それでは、「行こうか」とつぶやくとき、どのように言いますか。<G 準 030>

IV-2-2-4 【意志表現・宣言】（「おれは行かないよ」と言われて）おれは行こう<中>

IV-2-2-5 【意志表現・否定・表出 (-カ)】それでは、「行かないでおこうか」とつぶやくとき、どのように言いますか。

IV-2-2-6 【意志表現・否定・宣言】（「ぼくは行くよ」と言われて）おれは今日は行かないでおこう<中>

IV-2-2-7 【意志表現・トスル埋め込み】では、「～に [行こうとしたら] 客が来た」と言うとき、「行こうとしたら」のところをどのように言いますか。<G 準 031>

IV-2-2-8 【意志表現・申し出・返答要求タイプ】忙しいのならば、代わりにおれが行こうか？<中>

IV-2-2-9 【意志表現・否定・申し出・返答要求タイプ】忙しいのならば、そっちには行かないでおこうか？<中>

IV-2-2-10 【意志表現・申し出・返答非要求タイプ】忙しいだろ。よし、代わりにおれが行こう<中>

IV-2-2-11 【意志表現・否定・申し出・返答非要求タイプ】忙しいのか。じゃあ、そっちには行かないでおこう<中>

### IV-2-3 勧誘表現形式の確認

IV-2-3-1 【勧誘表現・もちかけ（聞き手に決定権あり）・exclusive 勧誘】あなたが芝居の切符を買いましたが、用事ができて行けなくなりました。それで友達に「よかったら私のかわりに [行かないか]」と言うとき、「行かないか」のところをどのように言いますか。<G 準 033>

IV-2-3-2 【勧誘表現・さそいかけ（聞き手に決定権あり）・inclusive 勧誘】芝居の切符を2枚もらいました。そこで友達をさそって、「[いっしょに行かないか]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 034>

IV-2-3-3 【勧誘表現・誘導（聞き手の決定権に話し手が介入）・inclusive 勧誘】友達を芝居にさそったのですが、友達は迷っています。そこで「[いっしょに行こうよ]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 035>、友達を温泉に誘ったのですが友達は迷っています。そこで「いっしょに [行こうよ]」と誘うとき、どのように言いますか。<G 本 160>

IV-2-3-4 【勧誘表現・合図（聞き手に決定権なし）・inclusive 勧誘】いよいよ芝居の日になりました。時間がせまってきたので友達に「[さあ行こう]」と言うとき、どのように言いますか。<G 準 036>

## 様態表現

船木 礼子

### A 解説

#### 1. 様態表現とは

命題内容についての話し手の真偽判断を表す場合、どのような証拠をもとにしてその判断を行ったかによって、表現形式が使い分けられる。

- (1) (7:00 開演だが、現在 7:30 である) もう始まっているだろう
- (2) (7:00 にホールのドアを開けて) あっ、もう始まっている！
- (3) (ホールから司会者の声が聞こえる) もう始まっているらしい

(1)は開演時間が過ぎていることをもとに、ホールではどうなっているのか分からなくても、話し手の想像として命題「もう始まっている」を真だと判断している。(2)は、実際にホールのドアを開けて始まっているのを知り、命題内容を確言として述べている。これらに対し、(3)は、ホールから漏れ聞こえる司会者の声、あるいはロビーに誰もいないことや、ホールのドアに「開演中は開閉ご遠慮願います」の札が出ていることなどの証拠から、命題を真であると話し手が判断していることを表している。このように、話し手が何らかの証拠にもとづいて命題内容を真と判断していることを表す表現を、様態表現（もしくは証拠性判断）と呼ぶ。

#### 1.1 様態表現の形式と使い分け

様態表現は、標準語では「ラシイ」、「ヨウダ」、「ミタイダ」、「～シソウダ」などで表されている。しかし、証拠となるものの性格によって使い分けがみられる。

- (4) (ホールから司会者の声が聞こえる) もう始まっている {ラシイ/ヨウダ/ミタイダ/ (始まってい) ソウダ} (= (3))
- (5) あいつに聞いたんだけど、あいつの妹は今度ロスに行く {ラシイ/ヨウダ/ミタイダ/\* (行き) ソウダ}
- (6) (店頭でコートを見て) このコートは僕には少し小さい {\*ラシイ/ヨウダ/ミタイダ/ (小さ) ソウダ}
- (7) (自分の胸の胃のあたりを指さして) どうもこのへんが痛い {\*ラシイ/ヨウダ/ミタイダ/\* (痛) ソウダ}

(4)では観察した事柄（対象）を証拠として、その対象が持つ性質や状況（命題内容）について、話し手が推論を行って真と判断していることを表す。(5)も、伝え聞いた事柄を証拠として、話し手がこれを吟味して、その内容（命題内容）を真であると判断しているこ

とを示すものである（伝聞推量と呼ばれる）。これに対して、(6)は、対象を観察し、真偽は不明であっても、話し手の直接の観察が証拠となって命題内容を導いている。また(7)は話し手自身の感覚などによって得た証拠が命題内容を導いている。

さらに(8)～(10)は、証拠と、これによって導かれる事態（命題内容）との間に時間的な距離がある。(8)は発話時の段階では真偽が不明だが、時間が経つとその真偽が明らかになる。(9)はまだ成立していない事態を、目の前の様子を証拠として導いている。これと異なり、(10)は目の前の様子（証拠）から、過去に起こった事態を導いている。

(8) (配られたテストを見て) この問題なら僕にも解ける {\*ラシイ/\*ヨウダ/\*ミタイダ/ (解け) ソウダ}

(9) (よちよち歩きの赤ちゃんを見て) いまにもころぶ {\*ラシイ/\*ヨウダ/\*ミタイダ/ (ころび) ソウダ}

(10) (子どもがびしょ濡れで帰ってきたのを見て) 池に落ちた {ラシイ/ヨウダ/ミタイダ/\* (落ちた) ソウダ}

これらから、標準語では以下のようなポイントが様態表現の形式の使い分けに関与していることがわかる。

- (a) 判断の主体
  - (a-1) 話し手が判断
  - (a-2) 第三者が判断（伝聞）
- (b) 証拠の種類
  - (b-1) 話し手の推論
  - (b-2) 話し手の直接の観察
  - (b-3) 話し手の直接の経験（感覚など）
  - (b-4) 話し手が伝え聞いた情報
- (c) 証拠と命題内容の成立する時点
  - (c-1) 同時
  - (c-2) 時間差がある（未実現事態）
  - (c-3) 時間差がある（過去事態）

また、「ヨウダ」や「ラシイ」は、直接的な経験から事態の真偽が明白な場合にも、命題内容の真偽が不明なものとして扱うことによって、聞き手への配慮として聞き手に話し手の判断以外にも可能性があるように述べる、婉曲用法ももつ。この場合、単に真偽不明なものとして扱うだけでなく、「話し手だけでなく聞き手にもその事態を観察したり判断したりすることができる」ということを含ませることがポイントである。こうした場合に推論を含むラシイを使うと、話し手だけがその推論を行って下せる判断のように印象付けてしまい、聞き手のフェイスを潰してしまう行為になりかねないのである（菊地 2000）。

(11) (部屋の中がガス臭い) ガスの臭いがする {\*ラシイ/ヨウダ/ミタイダ/\* (し) ソウダ} (中島 1990)

## 1.2 様態表現と比喻表現、例示表現との関係

様態表現の形式は、証拠性判断以外にも用いられる。森山（1995）はこれを論理的関係で説明している。（以下の用例は「ヨウダ」で示す）



- ・推量的意味（不明関係）

(12)ライオンのような動物がアフリカで撮ったビデオに写っていた。

〈ライオンかどうかわからない。推量的な意味：不明関係〉

- ・比喩的意味（不一致関係）

(13)ライオンのような犬がいた。

〈ライオンではない。：比喩的な意味：不一致関係〉

- ・例示的意味（包含関係）

(14)ライオンのような肉食動物は生肉からビタミン類を摂取する。

〈ライオンもそうである。：例示的な意味：包含関係〉

またこれらが持つさまざまな意味・用法について、「類似性」によって統一的に説明している（森山 1995）。

推量的意味（不明関係）：観察される状況と想定される真相との類似性

- ・終止用法では命題内容の真偽性の判断としてのモーダルな意味に関連
- ・連体・連用修飾用法では観察的文脈の制約や被修飾部の特性に関連
- ・外面的な様態を表す場合は属性の表現（比喩）との連続性

比喩的意味（不一致関係）：ある事物の属性と他の事物の属性との類似性

- ・ある事物に類似しているということはそれ自体一つの属性の在り方

- ・不一致関係での例除外の上位概念という例の取り上げ方は包含関係と連続

例示的意味（包含関係）：素材同士の対象的關係

- ・包含関係の中で例示されたものに類似するものを取り上げるという関係だけであり、独立した判断として終止用法の形で使われることはない。
- ・類としての扱いになるところから、婉曲的な意味で使われることもある。
- ・取りあげられた事態が同じタイプの事態の例であるということを主張する意味は、作用域の違いはあるにしても、別物と対照することであり、この点において包含関係の用法は不一致関係に連続する。

これらのうち、モダリティ（文の述べ方に関わる主観的な意味内容）にあたるのは、推量的意味と比喩的意味である。

## 2. 日本方言の様態表現

### 2.1 方言の様態表現のさまざまな形式

日本方言の様態表現にどのような形式が使われているかを確認するには、国立国語研究所編（2002）『方言文法全国地図5』第241図「降りそうだ」、242図「良さそうだ」が利用できる。第241図で様態表現形式に注目してその形式の分布を概観してみよう。（なお地名に「(1)」とあるのは、一箇所だけの出現であることを示している。）

第241図「降りそうだ」の分布

質問文：「雨が今にも降りそうだ」と言うとき、「降りそうだ」のところをどのように言いますか。」

ソーダ系

フリソーダ(/ヤ/ジャ/ナ)・フリサーダ(/ナ)・フーサナ・フリソー・フロソーナ・フロソニアット

様態表現

	北海道, 岩手, 山形, 新潟南部, 関東～中国, 四国
フリソナフーダ	鹿児島
ソゲダ系	
フリソーゲダ・フリソゲラ	新潟
フリソーゲナ・フーサゲナ	島根, 隠岐
ゲダ系	
フリゲダ・フルゲダ・フロゲダ	新潟南部, 佐渡(1), 埼玉西部, 山梨西部(1), 兵庫北部(1), 隠岐(1), 香川(1), 広島(1), 島根(1)
ゴタル系	
フルゴタル・フロゴタル	山口, 九州全域
ヨーダ系	
フルヨーダ	岩手, 宮城南部, 北海道に点在
フルヨンタ	青森
フルヨナフージャ	宮崎(1)
エンタ系	
フルエンタ・フルンタ	青森, 秋田
ミタイダ系	
フルミダエダ	山形
フルミタイナ・フルミタイヤ	京都(1), 愛媛(1)
ニカーラン系	
フルニカーラン	高知
フルフル系	
フルフルヤ	富山(1)
ギサン系	
フィギサン・フィギサロー	琉球

大まかに言うと、本州にソーダ系、九州にゴタル系、高知にニカーラン系、琉球にギサン系、東北にヨーダ系・エンタ系、山形にミタイダ系のまとまりがある。ラシイは全く出現していない。

ゲダ系とソーゲダ系が新潟南部や島根などにみられる。おそらく、ゲダ系を旧形式、ソーダ系を新形式と見て、ソーダ系とゲダ系の混交形がソーゲダ系だということができるだろう。また鹿児島にはフリソナフーダが多く見られ、宮崎にもフルヨナフージャが一地点あるが、これもソーダ系やヨーダ系と「～フージャ」との混交といえるかもしれない（しかし「フルフージャ」のようにフーダだけが現れる地点はない）。

ソーダ系、ゲダ系、ゴタル系の様態表現形式は、前接要素「降る」のどのような活用形（「フリ-」、「フル-」、「フロ-」など）に付くかという点でも違いがある。

## 2.2 方言の様態表現形式のもつ意味

前節でみた様態表現形式の多くは、伝聞表現に用いられている形式と共通することが多い。ただし、様態表現と伝聞表現とでは、「フリソウダ」と「フルソウダ」のように前接要素の形態の異なりによって分かれてきているか、様態に「フルゴタル」、伝聞に「フルゲナ」のように、両表現にそれぞれ異なる形式を用いるかなどの弁別がある。前節要素の形態による弁別については、たとえば様態表現と伝聞表現のどちらにもゲダ系を使う地域では「フ

リゲダ」と「フルゲダ」などの使い分けがありうるのか、その場合のゲダ形式の意味はどのようなものなのか、考えてみる余地がある。

また、九州にひろく使われているゴタル形式は、様態表現を表すとともに、意志動詞意向形について一人称（もしくは二人称）主語をとると希望表現にもなるので、標準語の「ヨウダ」などと同レベルの「様態表現」としては一括できない側面もある。

(15)雨が{降ル／降口}ゴタル（様態表現）

(16)あいつは酒を飲ムゴタル（様態表現）

(17)ぼくは酒を飲モゴタル／おまえは酒を飲モゴタルカ（希望表現）

また、証拠の種類によって細分化されている方言もありそうである。例えば、目撃性あるいは報告を表す形式をもつ方言のあることが指摘されているが、こうした表現は、見たり聞いたりした情報を証拠としている様態表現と関わりがあるのか、関わりがあるとすればどのような関係があるのか、今後の研究が待たれる。

### 3. 調査の着眼点

実際の調査には、二つの方向がありうる。ただし、両者は独立しているのではなく、相互に関係が深いため、最終的には両方の調査を試みることになるであろう。

- ・意味中心の調査：「様態表現」の意味枠を設定して、諸形式の分布や対立関係、意味の連続層などの意味体系を記述する
- ・形式中心の調査：ある形式に焦点を絞り、その一形式が担う意味・用法について、様態表現にとどまらず例示や伝聞表現などの関連する意味項目にわたっても詳しく記述する

文法記述のポイントとしては以下のようなものが挙げられる。（Ⅰ～Ⅳは「B 項目」に対応している。）

#### Ⅰ 形態的特徴

Ⅰ-1 どのような様態表現の形式が用いられるか

Ⅰ-2 韻律的特徴などによる意味の弁別がないか

#### Ⅱ 統語的特徴

Ⅱ-1 仮定節の帰結となるか

Ⅱ-2 「～と思う」の補文になるか

Ⅱ-3 テンスの分化があるか

Ⅱ-4 否定の焦点となるか

Ⅱ-5 疑問化できるか

Ⅱ-6 語形変化があるか（終止用法，連体用法，連用用法の有無）

Ⅱ-7 承接関係はどのようなか

Ⅱ-7-1 前節要素の種類や接続の形

Ⅱ-7-2 後接要素の種類や接続の形

Ⅱ-7-3 副詞や他のモダリティ形式との共起関係

Ⅱ-8 人称や述語の意味による制限がないか

#### Ⅲ 意味・用法的特徴（主節）

Ⅲ-1 類似性による用法の弁別があるか（比喩的意味・推量的意味）

- Ⅲ-2 判断の主体
  - Ⅲ-2-1 話し手が判断
  - Ⅲ-2-2 第三者が判断（伝聞）
- Ⅲ-3 証拠の種類
  - Ⅲ-3-1 話し手の推論
  - Ⅲ-3-2 話し手の直接の観察
  - Ⅲ-3-3 話し手の直接の経験（感覚など）
  - Ⅲ-3-4 話し手が伝え聞いた情報（伝聞推量）
- Ⅲ-4 証拠と命題内容の成立する時点
  - Ⅲ-4-1 同時
  - Ⅲ-4-2 時間差がある（未実現事態）
  - Ⅲ-4-3 時間差がある（過去事態）
- Ⅲ-5 婉曲用法
- Ⅳ 意味・用法的特徴（連体節・連用節）
  - Ⅳ-1 類似性による用法の弁別があるか（例示的意味・比喩的意味・推量的意味）
  - Ⅳ-2 証拠性による用法の弁別があるか
    - Ⅳ-2-1 証拠の種類
    - Ⅳ-2-2 伝聞推量と伝聞
  - Ⅳ-3 婉曲用法

調査を意味中心／形式中心のどちらの方向から行うにせよ、様態表現に関する文法記述を行う際には、常に以下の3点に留意する必要がある。

(1) 様々な形式と意味の関係をみる。

使用形式が多ければ、その分意味の棲み分けも多くなる可能性が高い。

(2) 様態表現（証拠性判断）を、推量的意味・婉曲（推量的意味の運用上の機能拡張）・比喩的意味・伝聞推量的意味などに下位分類したならば、これらの意味的連続性に配慮する。また、蓋然性判断（～にちがいない・～かもしれない等）、当然性判断（～はずだ）、例示、伝聞など、様態表現に含まれない意味についても連続性がないか留意する。

(3) 文法化の視点から、古い意味・用法と新しい意味・用法を広く見わたしながら記述する。

#### 4. 研究の現状

地方色のある「目立つ」様態表現形式についての記述が、これまで進められてきた。

九州の「ゴタル」の記述は古くからなされており、九州方言研究会（1969）によって地域差、世代差などが大規模に調査された他、住田（1983）によって談話資料や自然傍受によって得た用例を中心にきめ細かな用法の分類が行われている。近年では、希望表現との関わりも含めて「ゴタル」の文法的ふるまいを記述した船木（印刷中）がある。

高知県域独自の形式「ニカーラン」については高木（2001）や安岡（2003）がある。高木（2001）は標準語での様態表現研究の成果を援用して「ニカーラン」の意味や文法的ふ

るまいについて記述したものであり、「ニカーラン」が標準語の「ヨウダ」「ミタイダ」などと完全に一致するわけではないことを詳しく述べている。またアクセントで意味的弁別がある可能性も指摘している。

(18)幡多方言のニカーラン (ゴシック体の文字はその音が高く発音されることを示す)

a. [叔父と甥を見て] あの二人はよく似ている。まるで実の**オヤコニカーラン** (比喩的意味)

b. あの二人はよく似ている。どうも**オヤコニカーラン** (推量的意味)

安岡 (2003) は現代の自然談話資料に出現した用例から「ニカーラン」の用法の分類を行う一方で、古典の資料を検討して「ニカーラン」の出自を「にかあらん」ではなく「に変わらん」だと結論づけている。

しかし、「ヨーナ」や「ソーナ」, 「フーダ」や「ミダエダ」などの標準語形式と似た方言形式についてはあまり詳しい調査はなされていない。こうした方言において、その形式の意味や用法が完全に標準語のそれと一致するとは言い切れない。特に、標準語が様態表現の形式を多く持っていることや、標準語が目撃性に関する文法形式の対立構造を持っていないことから考えると、方言の様態表現にはこの点で違った特徴が見出せる可能性があるだろう。また、現代の標準語と古い中央語を比べても「やうだ」「さうだ」「みたやうだ」などに文法的ふるまいの違いがあることから、方言に古典語の用法が残っている可能性、もしくは古典語の用法がさらにその方言独自の形で変化している可能性もあるだろう。

## 5. 発展

様態表現で用いられる形式の多くは、外見的な様子など、視覚的な証拠に基づくことを示す形式に由来するものが多く用いられている。ソーダ系は「相」、ヨーダ系は「様」、ミタイダ系は「見た様だ」といわれる。ゲダ系も「気」に由来しているようである。こうした出自と現在のモダリティの意味との関係を、文法化の視点から論じることができるだろう。また様態表現に用いられる形式は、使われる地域にはちがいがあがるが、その多くが伝聞表現にも用いられていることについて先に述べた。つまり、各形式が視覚的証拠と聴覚的証拠のどちらを中心としているか、また各形式が話し手の判断を含んでいるか、など点で地域差があるわけである。そしてこの地域差を、方言ごとの様態表現や伝聞表現の形式が、モダリティ形式の機能拡張の異なった段階を示しているものとして、対照方言学的な文法化の視点で論じることがもできるだろう。

また、モダリティとは若干ずれてくるが、例えば様態表現のゲダ系などの場合は、接尾辞「-ゲ」の用法との関係を見ることも必要な作業の一つと思われる。標準語ではシク活用形容詞や一部の成句にしかつかない形容詞の名詞化接尾辞-ゲだが、西日本方言では現在、シク活用形容詞だけでなくク活用形容詞にも使え、終止用法、連体用法ともに存在する。名詞と動詞には付かないが、指示詞には「アゲダ」、「ソゲナ人」のように使われる。かといって、どんな形容詞とも共起するわけではないようだ。古典語では何にでも後接して、そのような様子であることを表したという「-ゲ」が、一方で標準語のようなふるまいとなり、他方で西日本方言のようなふるまいとなるのはなぜなのか、例示の意味や比喩的意味などを含めた様態表現、および伝聞表現の「ゲダ」を絡めながら見ていく必要があるだろう。

## 6. 文献

- 井上優 (2002) 「モダリティ」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック』科学研究費基盤研究(b)(2)「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」(課題番号 10410098) 研究成果報告書
- 菊地康人 (2000) 「「ようだ」と「らしい」—「そうだ」「だろう」との比較も含めて—」『国語学』201
- 九州方言学会編 (1969) 『九州方言の基礎的研究』風間書房
- 国立国語研究所編 (2002) 『方言文法全国地図』第5巻, 財務省印刷局
- 住田幾子 (1983) 「「ゴト・ゴタル」に見る九州方言の基質」『国文学攷』(広島大学国語国文学会)
- 高木千恵 (2001) 「高知県幡多方言の「ニカーラン」について」『阪大社会言語学研究ノート』3 (大阪大学)
- 中島孝幸 (1990) 「不確かな判断—ラシイとヨウダー—」『日本語学文学』1 (三重大学)
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田義雄・益岡隆志編 (1989) 『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版
- 野田春美 (2003) 「様態の「そうだ」の否定形の選択傾向」『日本語文法』3-2
- 早津恵美子 (1988) 「「らしい」と「ようだ」」『日本語学』7-4
- 船木礼子 (印刷中) 「天草方言のゴタル形式」大西拓一郎編『方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究』(平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究B 課題番号 14310196 研究成果報告書)
- 前田直子 (1994) 「「比況」を表す従属節「～ように」の意味・用法」『東京大学留学生センター紀要』4
- 三宅知宏 (1994) 「認識的モダリティにおける実証的判断について」『国語国文』63-11 (京都大学)
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『モダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎 (1992) 「日本語における「推量」をめぐって」『言語研究』101
- 森山卓郎 (1995) 「推量・比喻比況・例示—「よう／みたい」の多義性をめぐって—」宮地裕・敦子先生古稀記念論集編集委員会編『宮地裕・敦子先生古稀記念論集 日本語の研究』明治書院
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店
- 安岡浩二 (2003) 「高知県方言における推量表現—ニカーランについて—」『高知大國文』34
- 山口堯二 (2001) 「「やうなり>やうだ」の通時的変化」『京都語文』8

## B 項目

参考となる先行調査票の調査文の出典は、以下の略号で示す。

- 〈G 本〇〇〇〉 GAJ 本調査(〇〇〇は質問番号)  
 〈G 準〇〇〇〉 GAJ 準備調査(〇〇〇は質問番号)  
 〈G 表 1〉 「方言文法の記述的研究・調査文例 表現法 I」  
 〈G 表 2〉 「方言文法の記述的研究・参考文例 表現法 2」

### I 形態的特徴

#### I-1 どのような様態表現の形式が用いられるか

- I-1-1 【様態・動詞「行く」】道を歩いている人を見て、「あの人はどうも役場に [行くらしい]」と言うとき、「行くらしい」のところをどのように言いますか。〈G 準 058〉
- I-1-2 【様態・形容詞「高い」】「あっちの山の方が [高そうだ]」と言うとき、「高そうだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 060〉
- I-1-3 【様態・形容動詞「静かだ」】「あのあたりは [静かそうだ]」と言うとき、「静かそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 061〉
- I-1-4 【様態・形容動詞「病気だ」】顔色の悪い人を見て「あの人はどうも [病気らしい]」と言うとき、「病気らしい」のところをどのように言いますか。〈G 本 173〉
- I-1-5 【様態・未実現事態・動詞「降る」】「雨が今にも [降りそうだ]」と言うとき、「降りそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 本 171〉 〈G 準 057〉
- I-1-6 【様態・未実現事態・「降ろうとしている」確認】「今にも雨が降りそうだ」を「降ろうとしている」のように言いませんか。〈G 表 2〉
- I-1-7 【様態・未実現事態・形容詞「良い」】「こっちの方がどうも [良さそうだ]」と言うとき、「良さそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 本 172〉 〈G 準 059〉
- I-1-8 【伝聞推量】「あの人の話ではあしたは雨が [降るそうだ]」と言うとき、「降るそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 062〉
- I-1-9 【比喩的意味・終止用法】「あの山はまるで [富士山のように]」と言うとき、「富士山のように」のところをどのように言いますか。〈G 本 177〉 〈G 準 068〉
- I-1-10 【比喩的意味・連用用法】「あの山は [富士山のように見える]」と言うとき、「富士山のように見える」のところをどのように言いますか。〈G 準 069〉
- I-1-11 【比喩的意味・連体用法】では、「[富士山のような山]」と言うときは、どのように言いますか。〈G 準 070〉
- I-1-12 【例示的意味・連体用法】「あの人は [若者らしい若者だ]」と言うとき、「若者らしい若者だ」のところをどのように言いますか。〈G 準 071〉
- I-1-13 【例示的意味・連体用法・指示詞後接】「[そんなこと] 言うな」言うとき、「そんなこと」のところをどのように言いますか。〈G 本 145〉 〈G 準 072〉
- I-1-14 【行動の目的（例示的意味）・連用用法】間に合うようにする
- I-1-15 【「ラシイ」の用法・終止用法】いかにもあいつらしい。（「本人にふさわしい」の意。）〈G 表 2〉

I-1-16 【「ラシイ」の用法・連用用法】いかにもあいつらしくふるまう。（「本人にふさわしく」の意。）

I-1-17 【「ラシイ」の用法・連体用法】いかにもあいつらしいふるまいだ。（「本人にふさわしい」の意。）

## I-2 韻律的特徴などによる意味の弁別がないか

I-2-1 I-1 で挙げられた形式に、アクセントの違いなどがないか。

## II 統語的特徴

### II-1 仮定節の帰結となるか

蓋然性判断は仮定条件の帰結になるが、「～シソウダ」も仮定条件の帰結になり得る。ただし、「～シソウダ」は推量的意味を表す用法では仮定条件の帰結として使用できるが、外観の観察の用法では使用できない。（宮崎他 2002:144 を参照）。

II-1-1 【仮定の帰結・推量的意味】これ以上雨が降り続いたなら、[試合は中止になる]  
{かもしれない／にちがいない／はずだ／\*らしい／\*ようだ／\*みたいだ／（なり）  
そうだ／\*そうだ}

II-1-2 【仮定の帰結・観察（感情形容詞）】試合が中止になったら、選手たちは悲しい{か  
もしれない／にちがいない／はずだ／\*らしい／\*ようだ／\*みたいだ／\*（悲し）  
そうだ／\*そうだ}。

### II-2 「～と思う」の補文になるか

蓋然性判断は思考内容化が可能（宮崎他 2002:144 を参照）。

II-2-1 【「～と思う」埋め込み】雨がひどいので、試合は中止になる {かもしれない／  
にちがいない／?はずだ／\*らしい／\*ようだ／\*みたいだ／\*（なり）そうだ／\*そう  
だ} と思う

### II-3 テンスの分化があるか

例示の意味は名詞と名詞の類のつながりなのでテンスは分化しない。

II-3-1 【推量的意味・動詞】あいつも行く {らしかった／ようだった／みたいだった／  
（行き）そうだった}

II-3-2 【推量的意味・名詞】その動物はライオン {らしかった／のようだった／みたい  
だった}

II-3-3 【比喩的意味・動詞】あいつの走り方も飛ぶ {\*らしかった／ようだった／みたい  
だった／（飛び）そうだった}

II-3-4 【比喩的意味・名詞】その犬はライオン {\*らしかった／のようだった／みたいだ  
った}

### II-4 否定の焦点となるか

様態表現の形式に否定形式が後接する場合は、可能性の否定ではなく、観察によるある事態の否定か比喩の否定になる。



- II-4-1 【可能性の否定・動詞】雨でも試合が中止になる {\*らしく/\*ようで/\*みたいで/\*(なり) そうに} ない。「中止にならないらしい」の意で
- II-4-2 【可能性の否定・名詞】あそこに見えるのはどうやらあいつ {\*らしく/\*のようで/\*みたいで} ない。「あいつではないらしい」の意で
- II-4-3 【ある事態の否定・動詞】まったく雨がやむ {?らしく/?ようで/?みたいで/(やみ) そうに} ない。
- II-4-4 【ある事態の否定・名詞】あそこに見えるのはどうやらあいつ {?らしく/のようで/みたいで} ない。「あいつのようではない」の意で
- II-4-5 【比喩の否定・動詞】どてらなんて、まったく仕事に行く {\*らしく/よいで(は)/みたいで(は)/ (行き) そうに} ない格好だ。
- II-4-6 【比喩の否定・名詞】Gパンなんて、まったく先生 {らしく/のよいで(は)/みたいで(は)} ない格好だ。

## II-5 疑問化できるか

例示の意味は名詞と名詞の類のつながりなので疑問化できない。また、推量的意味の意味では疑問文にできない(疑問文のかたちをとり得ても意味が異なる)。

比喩の意味で疑問文に出来るのは、主語の項とヨウダが含まれる項が独立しており、ヨウダが含まれる項は主語の項の属性を表すものだからである。「[この酒は][水のようだ](森山 1995(35))」

- II-5-1 【比喩的意味・動詞】あいつの走り方も飛ぶ {\*らしい/よう/みたい/?(飛び) そう} か? (飛ぶ動作に似ているか)
- II-5-2 【比喩的意味・名詞】この犬はライオン {?らしい/のよう/みたい} か? (ライオンに似ているか)
- II-5-3 【推量的意味・動詞】\*あいつも行く {らしい/よう/みたい/(行き) そう} か? (「行くかどうか不明」の意で。cf. 「\*行くかもしれないか」)
- II-5-4 【推量的意味・名詞】\*この動物はライオン {らしい/のよう/みたい} か? (「ライオンかどうか不明」の意で。cf. 「\*ライオンかもしれないか」)

## II-6 語形変化があるか

### II-6-1 様態表現形式(比喩的意味・例示の意味も含む)の語形変化

- II-6-1-1 【終止・動詞】行くようだ。
- II-6-1-2 【終止・名詞】お城のようだ。
- II-6-1-3 【連体・動詞】遠くへ行くような格好。
- II-6-1-4 【連体・名詞】お城のような家
- II-6-1-5 【中止/テ形・動詞】昨日の酒がまだ残っているようで、動きが鈍い。
- II-6-1-6 【中止/テ形・名詞】昨夜の酒は焼酎のようで、二日酔いにならなかった。
- II-6-1-7 【連用・動詞】間に合うようにする
- II-6-1-8 【連用・名詞】山のように盛る
- II-6-1-9 【否定形式(ない)・動詞】間に合うようでない
- II-6-1-10 【否定形式(ない)・名詞】山のようでない
- II-6-1-11 【仮定形式(ば)・動詞】間に合うようならば

Ⅱ-6-1-12 【假定形式（ば）・名詞】山のようならば

Ⅱ-6-2 希望表現に使われる様態表現形式の語形変化

- Ⅱ-6-2-1 【終止・希望表現】行こうゴタル（行きたい）
- Ⅱ-6-2-2 【連体・希望表現】行こうゴタル人（行きたい人）
- Ⅱ-6-2-3 【中止・希望表現】その旅行に行こうゴテ，申込書を書いた（行きたくて）
- Ⅱ-6-2-4 【連用・希望表現】旅行に行こうゴテなる（行きたくなる）
- Ⅱ-6-2-5 【連用（慣用句的用法）・希望表現】旅行に行こうゴテたまらない（行きたくてたまらない）
- Ⅱ-6-2-6 【否定形式（ない）・希望表現】旅行に行こうゴタない（行きたくない）
- Ⅱ-6-2-7 【假定形式（ば）】行こうゴタならば

Ⅱ-7 承接関係はどのようなか

（以下、「ヨウダ」で代表させて示す。他形式についても確認すること）

Ⅱ-7-1 前節要素の種類や接続の形

- Ⅱ-7-1-1 【動詞】{行く／行き／行こう} ようだ
- Ⅱ-7-1-2 【動詞・意向形がヨウ】{食べる／食べ／食べよう} ようだ
- Ⅱ-7-1-3 【形容詞】{寒い／寒／寒かろう} ようだ
- Ⅱ-7-1-4 【形容動詞】{静かだ／静かな} ようだ
- Ⅱ-7-1-5 【名詞】{雨だ／雨の（／ん）} ようだ
- Ⅱ-7-1-6 【受身・使役の形式】{食べられる／食べさせる} ようだ
- Ⅱ-7-1-7 【否定形式】行かないようだ
- Ⅱ-7-1-8 【過去形式】行ったようだ

Ⅱ-7-2 後接要素の種類や接続の形

- Ⅱ-7-2-1 【名詞】行くような人
- Ⅱ-7-2-2 【動詞】飛ぶように行く
- Ⅱ-7-2-3 【否定形式】行くようでなかった
- Ⅱ-7-2-4 【過去形式】行くようだった
- Ⅱ-7-2-5 【丁寧形式】行くようです

Ⅱ-7-3 副詞や他のモダリティ形式との共起関係

- Ⅱ-7-3-1 【前接・モダリティ形式】行く {だろう／まい／かもしれない／はずだ／そうだ} ようだ
- Ⅱ-7-3-2 【後接・モダリティ形式】行くようだろう
- Ⅱ-7-3-3 【後接・終助詞・疑問のカ】行くようか
- Ⅱ-7-3-4 【後接・その他の終助詞】行くようだ {ね／よ／や／が}
- Ⅱ-7-3-5 【副詞・推量的意味・名詞】{もしかしたら／たぶん／どうやら／きっと／絶対} 雨のようだ
- Ⅱ-7-3-6 【副詞・推量的意味・動詞】{もしかしたら／たぶん／どうやら／きっと／絶対}

雨が降るようだ

- Ⅱ-7-3-7 【副詞・比喩的意味・名詞】{まるで／まったく／いわゆる／全然} 雨のようだ  
 Ⅱ-7-3-8 【副詞・比喩的意味・動詞】{まるで／まったく／いわゆる／全然} 雨が降るよ  
 うだ

## Ⅱ-8 人称や述語の意味による制限がないか

### Ⅱ-8-1 人称による制限

- Ⅱ-8-1-1 【推量的意味・三人称】この酒はうまそうだ。  
 Ⅱ-8-1-2 【比喩的意味・三人称】この酒は水のようにだ。  
 Ⅱ-8-1-3 【例示的意味・三人称】焼酎のような酒は二日酔いにならない。  
 Ⅱ-8-1-4 【推量的意味・一人称】その酒はみんなおれが飲みそうだ。  
 Ⅱ-8-1-5 【比喩的意味・一人称】おれはザルのようにだ。  
 Ⅱ-8-1-6 【例示的意味・一人称】おれが飲むような酒は高い酒ではない。  
 Ⅱ-8-1-7 【希望・一人称】おれも飲もうゴタル。(「飲みたい」の意で)  
 Ⅱ-8-1-8 【希望・二人称】この酒、お前も飲もうゴタルか。  
 Ⅱ-8-1-9 【希望・二人称】この酒、おまえも飲もうゴタルね。  
 Ⅱ-8-1-10 【希望・三人称】あいつも飲もうゴタル。

### Ⅱ-8-2 形容詞の別による制限(推量的意味・三人称)

- Ⅱ-8-2-1 【感情形容詞】あいつはとても悲しそうだ。〈G表2〉  
 Ⅱ-8-2-2 【感情形容詞】あいつはとても悲しい。  
 Ⅱ-8-2-3 【感覚形容詞】あいつはとても暑そうだ。  
 Ⅱ-8-2-4 【感覚形容詞】あいつはとても暑い。  
 Ⅱ-8-2-5 【評価形容詞】あいつはとても弱そうだ。  
 Ⅱ-8-2-6 【評価形容詞】あいつはとても弱い。

## Ⅲ 意味・用法的特徴(主節)

(以下、「ヨウダ」で代表させて示す。他形式についても確認すること)

### Ⅲ-1 類似性による用法の弁別があるか(比喩的意味・推量的意味)

- Ⅲ-1-1 【比喩的意味・名詞】まるで石のようだ  
 Ⅲ-1-2 【推量的意味・名詞】これはどうやら石のようだ  
 Ⅲ-1-3 【比喩的意味・形容動詞】(本当は病気なのに)あれではまるで元気なようだ  
 Ⅲ-1-4 【推量的意味・形容動詞】どうやら元気なようだ  
 Ⅲ-1-5 【比喩的意味・形容詞】まるで寒いようだ  
 Ⅲ-1-6 【推量的意味・形容詞】どうやら寒いようだ  
 Ⅲ-1-7 【比喩的意味・動詞】まるで飛んでいるようだ  
 Ⅲ-1-8 【推量的意味・動詞】どうやら飛んでいるようだ

### Ⅲ-2 判断の主体

#### Ⅲ-2-1 話し手が判断

- Ⅲ-2-1-1 【見て知った証拠・現在の事態】(ジョギングしている人を見かけて) ○○さんは元気なようだ
- Ⅲ-2-1-2 【見て知った証拠・過去の事態】(書き直した跡がたくさん残っている) ずいぶん苦労したようだ
- Ⅲ-2-1-3 【読んで知った証拠・現在の事態】(新聞で、不祥事のあった会社の新社長になった人の記事を読んで) この人もこれから大変なようだ
- Ⅲ-2-1-4 【読んで知った証拠・過去の事態】(新聞で人の経歴を読んで) この人も苦労したようだ
- Ⅲ-2-1-5 【聞いて知った証拠・現在の事態】(○○さんがここ最近休みがちだと聞いた) ○○さんはどうも調子がよくないようだ
- Ⅲ-2-1-6 【聞いて知った証拠・過去の事態】(○○さんが先週休んでいと聞いた) ○○さんは調子がよくなかったようだ

### Ⅲ-2-2 第三者が判断(伝聞)

- Ⅲ-2-2-1 【専門的知識・一般的事態・話し手には実証不可能】(新聞を読んで) 人間は寝ている間に記憶を整理するらしい
- Ⅲ-2-2-2 【専門的知識・過去の事態・話し手には実証不可能】(本を読んで) カルムイク人部隊はらくだに乗ってパリに入ったらしい
- Ⅲ-2-2-3 【個人的な知識・現在の事態・話し手には実証不可能】私はよく夜中に寝言を言うらしい
- Ⅲ-2-2-4 【個人的な知識・過去の事態・話し手には実証不可能】おばあちゃんが話してくれたんだけど、私は2歳のころ、よくこの池に落ちたらしい
- Ⅲ-2-2-5 【知識(証拠なし)・一般的】世界のどこかに、同じ顔の人が三人いるそうだ
- Ⅲ-2-2-6 【知識(証拠なし)・過去】昔むかし、正直者のじいさんがいたそうだ

### Ⅲ-3 証拠の種類

#### Ⅲ-3-1 話し手の推論

- Ⅲ-3-1-1 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しない状況】(推理小説を読んで、状況から) この人が犯人のようだ
- Ⅲ-3-1-2 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しない状況】(待合室に誰もいない) もう電車は行ってしまったようだ
- Ⅲ-3-1-3 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しない状況】(待合室に誰もいない) 午後の診察はないようだ
- Ⅲ-3-1-4 【観察対象が聞き手に帰属すること】(前よりうまくなっている) おまえ、ずいぶん練習したようだね
- Ⅲ-3-1-5 【観察対象が聞き手に帰属すること】(聞き手がしきりにあくびをしている) おまえ、今日はとても疲れているようだね
- Ⅲ-3-1-6 【観察対象が話し手に帰属すること】(まだ4時なのに目が覚めた) わたし、ずいぶんあのことが気になっているようだ
- Ⅲ-3-1-7 【観察対象が話し手に帰属すること】(靴の外側だけが磨り減っている) わたし、

歩き方が悪いようだ

### Ⅲ-3-2 話し手の直接の観察

- Ⅲ-3-2-1 【観察対象が話し手に帰属すること】(店頭でコートを見て) このコートは僕には少し小さいようだ
- Ⅲ-3-2-2 【観察対象が話し手に帰属すること】(自覚していなかったがガラスに映った自分の姿勢を見て) わたし、ちょっと姿勢が悪いようだ
- Ⅲ-3-2-3 【観察対象が聞き手に帰属すること】(店頭でコートを見て) このコートはおまえには少し小さいようだ
- Ⅲ-3-2-4 【観察対象が聞き手に帰属すること】(聞き手の姿勢を見て) おまえ、ちょっと姿勢が悪いようだね
- Ⅲ-3-2-5 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しないこと】(店頭でコートを見て) このコートはあの子には少し小さいようだ
- Ⅲ-3-2-6 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しないこと】(友人の姿勢を見て) あいつ、ちょっと姿勢が悪いようだね

### Ⅲ-3-3 話し手の直接の経験(感覚など)

- Ⅲ-3-3-1 【観察対象が話し手に帰属すること】(自分の胸の胃のあたりを指さして) どうもこのへんが痛いようだ
- Ⅲ-3-3-2 【観察対象が聞き手に帰属すること】(聞き手の肩をマッサージして、かたい部分を見つけて) このあたりがはっているようだね
- Ⅲ-3-3-3 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しないこと】(壁を触ってみて) どうもこのあたりがへこんでいるようだ

### Ⅲ-3-4 話し手が伝え聞いた情報(伝聞推量)

- Ⅲ-3-4-1 【観察対象が話し手に帰属すること】さっき聞いたんだけど、おれは今度××へ異動になるようだ
- Ⅲ-3-4-2 【観察対象が聞き手に帰属すること】さっき聞いたんだけど、おまえは来年度××へ移動になるようだ
- Ⅲ-3-4-3 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しないこと】あいつに聞いたんだけど、あいつの妹は今度ロスに行くようだ

### Ⅲ-4 証拠と命題内容の成立する時点

#### Ⅲ-4-1 同時

- Ⅲ-4-1-1 (買って来たばかりのサンダルを履いた子どもが何度も転ぶのを見て) こういうサンダルではころんでしまうようだ
- Ⅲ-4-1-2 (買って来た枕の使い心地を試して) うん、なかなか良いようだ

#### Ⅲ-4-2 時間差がある(未実現事態)

- Ⅲ-4-2-1 (配られたテストを見て) この問題なら僕にも解けそうだ

Ⅲ-4-2-2 (よちよち歩きの赤ちゃんを見て) いまにもころびそうだ

参考 I-1-5 【様態・未実現事態・動詞「降る」】「雨が今にも[降りそうだ]」と言うとき、「降りそうだ」のところをどのように言いますか。〈G本 171〉〈G準 057〉

参考 I-1-6 【様態・未実現事態・「降ろうとしている」確認】「今にも雨が降りそうだ」を「降ろうとしている」のように言いませんか。〈G表 2〉

Ⅲ-4-2-3 (福袋を選ぶときに、いろいろ持ち上げたり振ってみたりして) これが良さそうだ

参考 I-1-7 【様態・未実現事態・形容詞「良い」】「こっちの方がどうも[良さそうだ]」と言うとき、「良さそうだ」のところをどのように言いますか。〈G本 172〉〈G準 059〉

### Ⅲ-4-3 時間差がある(過去事態)

Ⅲ-4-3-1 (子どもがびしょ濡れで帰ってきたのを見て) 池に落ちたようだ

Ⅲ-4-3-2 (自分の並んだ方の列は進まないのに、隣の列は進んでいるのを見て) あっちに並んだ方が良かったようだ

### Ⅲ-5 婉曲用法

真偽が話し手にとって明らかなことについて、不明関係のもの(推量的意味)として扱える場合、話し手の判断を聞き手に押し付けない婉曲の表現となる。

Ⅲ-5-1 (目の前で事故。「事故ですか」と聞かれて) 事故のようですね。

Ⅲ-5-2 (渋滞に引っかかって) 今日は道が混んでいるようだ。

Ⅲ-5-3 (部屋の中がガス臭い) ガスの臭いがするようだ。

Ⅲ-5-4 (郵便受けに入っていた封筒を見て) あなた宛に郵便が来ているようだよ。

Ⅲ-5-5 (新聞のテレビ欄を見ながら) 今日は野球の中継はないようだね。

### Ⅳ 意味・用法的特徴(連体・連用)

#### Ⅳ-1 類似性による用法の弁別があるか(例示の意味・比喩の意味・推量的意味)

Ⅳ-1-1 【推量的意味・連体】嬉しそうな顔／飲んだような顔

Ⅳ-1-2 【比喩の意味・連体】軽くて、まるで綿のような石

Ⅳ-1-3 【例示の意味・連体】泥岩や砂岩のような石

Ⅳ-1-4 【推量的意味・連用】嬉しそうに笑う／飲んだようになる

Ⅳ-1-5 【比喩の意味・連用】そのパンは、まるで石のように硬い

Ⅳ-1-6 【行動の目的・連用】食べられるようにする

#### Ⅳ-2 証拠性による用法の弁別があるか

##### Ⅳ-2-1 証拠の種類

Ⅳ-2-1-1 【推論・連体】(推理小説を読んで、状況から) 犯人のような人を見つけた

Ⅳ-2-1-2 【推論・連用】(推理小説を読んで、状況から) こいつは犯人のように見える

Ⅳ-2-1-3 【話し手の直接の観察・連体】(店頭でコートを見て) これは、僕には少し小さいようなコートだ

- IV-2-1-4 【話し手の直接の観察・連用】(店頭でコートを見て) このコートは、僕には少し小さいように見える
- IV-2-1-5 【話し手の直接の経験・連体】(自分の胸の胃のあたりを指さして) どうもこのへんが痛いような感じだ
- IV-2-1-6 【話し手の直接の経験・連用】(自分の胸の胃のあたりを指さして) どうもこのへんが痛いように感じる

#### IV-2-2 伝聞推量と伝聞

- IV-2-2-1 【伝聞推量・連体】さっき聞いたんだけど、おれが今度の異動で行くらしい部署はアルバイトの人が多いんだって。
- IV-2-2-2 【個人的な知識・話し手には実証不可能・連体】おばあちゃんが話してくれたんだけど、私が2歳のころによく落ちたらしい池は、ここなんだ。
- IV-2-2-3 【知識(証拠なし)・一般的・連体】世界のどこかに三人いるらしい同じ顔の、一人がこの人だろう
- IV-2-2-4 【知識(証拠なし)・過去・連体】昔むかしたらしい正直者のじいさん

#### IV-3 婉曲用法

真偽が話し手にとって明らかなことについて、包含関係(例示的意味)として扱える場合、そのものをはっきりと述べるのではなく、類としてぼかした婉曲の表現となる。

- IV-3-1 【例示的意味・連体】あの方、整形手術のようなことをなさったらしいわよ。
- IV-3-2 【例示的意味・連体】(レストランで給仕に) あの、ここはお手拭のようなものは出ないんですか。
- IV-3-3 【推量的意味か比喩的意味】(渋滞に引っかかって) 事故でもあったような渋滞だな。
- IV-3-4 【例示的意味・連体】(レストランで給仕が水を持ってこない) あの、ここはセルフサービスのようになっているんですか。
- IV-3-5 【推量的意味か比喩的意味】(渋滞に引っかかって) 事故でもあったように混んでいるな。

樣態表現



## 伝聞表現

船木 礼子

### A 解説

#### 1. 伝聞表現とは

他者からの言語情報を受けて、その内容を別の人に伝えようとするとき、日本語では以下のような表現ができる。

- (1) あの人が、「彼女、結婚したんだよ」って言っていたよ。
- (2) 彼女は結婚したそうだ。

(1)は引用表現と呼ばれる。これは、話し手が直接経験したもとの音声・音を、そのまま再現しようとするものである。直接話法にしる間接話法にしる、話し手は受け取ったことば（もしくは音）の情報を、話し手の判断とは無関係に引き写す。

これに対して(2)は伝聞表現と呼ばれる。伝聞表現は、命題内容について、話し手が他者からの言語情報（間接的情報）を受けていることを明示する表現である。

伝聞表現における命題内容は、話し手が聞いたり読んだりして得た、他者からもたらされた情報であり、話し手の命題内容に対する判断は含まれていない。話し手自身の思考過程（判断）を経ない点が、推量表現の「ダロウ」や様態表現の「ラシイ」、「ヨウダ」などとの大きな違いである。また、「他者から入手した」という情報の入手方法を明示するのがこの「伝聞表現」の中心的意味であり、情報を得たときの元の形態がどのようなであったかという点には関与的でないので、話法の対立もない。先の引用表現とは、話し手自身の思考過程を経ない（判断ではない）点、また、そのまま引き写せる他者のことばが情報源である点で、リンクしている。

伝聞表現が話し手の思考過程を経ないことは、いくつかのテストで確認できる（森山 1989, 仁田 1992）。標準語の伝聞表現の「スルソウダ」は、以下のように、標準語の推量表現や様態表現とは異なったふるまいを見せる。

- (3) 【「思うに」との共起】\*思うに、そろそろ来年あたり、恐慌がくるそうだ。
- (4) 【「～と思う」埋め込み】\*彼が部屋にいるそうだと思う。
- (5) 【直後キャンセルの可否】彼が部屋にいるそうだが、それは違うと思う。
- (6) 【問いかけの可否】\*彼が部屋にいるそうか？
- (3') 思うに、そろそろ来年あたり、恐慌がくるだろう。（推量）  
思うに、そろそろ来年あたり、恐慌がくるようだ。（様態）
- (4') 彼が部屋にいるだろうと思う。（推量）  
彼が部屋にいそうだと思う。（様態）
- (5') \*彼が部屋にいるだろうが、それは違うと思う。（推量）

- \*彼が部屋にいるようだが、それは違うと思う。(様態)  
 (6') 彼が部屋にいるだろうか?(推量)  
 彼が部屋にいそうか?(様態)

なお、伝聞と似ている表現に、「伝聞推量」がある。これは、他者からもたらされた言語的情報を受けて、その情報を証拠として事態(命題内容)を真と判断していることを述べるものである。伝聞推量は、話し手の判断が表される点で様態表現に近い性格を持っているといえるが、証拠となるものが伝聞情報である点で伝聞表現にリンクしている。

## 2. 日本方言の伝聞表現

日本の方言において、伝聞表現はさまざまな表され方をしている。『方言文法全国地図』第5集には本調査で用いられた伝聞表現の質問文が3つ挙げられているが、多様な形式が混在するため、1つの質問文に対してそれぞれ3~4枚の地図を作成している。

- ・243~246 図:「「天気予報ではあしたは雨だそうだと」言うとき、「雨だそうだ」のところをどのように言いますか。」〈本調査質問番号174〉
- ・247~249 図:「「あの人の話では、東京はずいぶん物価が高いそうだと」言うとき、「高いそうだ」のところをどのように言いますか。」〈本調査質問番号175〉
- ・250~252 図:「たとえば、「昔、昔、あの山に鬼がいたそうだと」言うとき、「鬼がいたそうだ」のところをどのように言いますか。」〈本調査質問番号176〉

全国的にどのような形式が使われているのかを、話し手の判断の余地のない典型的な伝聞表現である250~252図を用いて概観してみよう。

250~252 図「鬼がいたそうだ」

ソウダ系(イタソーダ, イタソーナなど)	全国的
ヨウダ系, ミタイダ系	点在
ラシイ系	散在(近畿南部と関東, 四国にまとまりあり)
ゲダ系(イタゲダ, イタゲナなど)	東海西部, 新潟, 山陰, 山口, 四国北部, 九州
フウダ系(イダフウダ)	山形(山陰にも点在)
ゴタル系(オッタゴタンナー)	九州(1箇所)
ニカーラン系(イタニカーラン)	高知(1箇所)
引用系(エダダド, オッタトなど)	東北, 北陸, 南海, 瀬戸内地域
引用+イウ系(エダズ, エダケズ, エダツケ, ウタットゥなど)	関東, 東北日本海側, 鹿児島, 先島諸島
エダタゼ	青森
オッタテーヤ, オッタテタイ	広島, 山口, 九州北部
ウイタンデーサー, ウイタンリなど	沖縄
イタセウワ・エタセウゾ	長野北部
アラッテーヤ	八丈島
オッタシコーヤゾ	山陰(1箇所)

標準語と同形のソウダ系は広く用いられているが、ラシイ系は一部地域にしか出現しない点が注目される。なお、このラシイ系は様態表現の図では全く出現していない。

ゲダ系は、東海西部や新潟と西日本のかなりの地域に分布する。さらにこれらの分布と重なり合いながら、関東、東北地域の「エダダド」や中国・四国地方に「オッタト」などの引用系の形式があり、さらにその外側（関東、東北日本海側、青森、九州、琉球など）には、引用＋イウ系の形式が存在して、周圈的な分布をなしている。

なお、ヨウダ系、ミタイダ系、ゴタル系、ニカーラン系などの、様態表現の形式も出現している。伝聞推量とともれる 246 図「(天気予報ではあしたは) 雨だそうだ」では様態表現の形式の出現はさらに多く、伝聞表現と様態表現の連続性が見えてくる。特に、新潟や山陰の一部では伝聞表現としても様態表現としてもゲダ系を用いているなど、ゲダ系形式の持つ意味範囲がかなり標準語の伝聞形式とは異なっている可能性も考えられる。

さらに、伝聞表現に用いられている形式には引用系のものがかなり多い。このことは、246 図「(天気予報ではあしたは) 雨だそうだ」でも同様である。つまり、方言の世界における引用と伝聞の境界は不明瞭な部分が多いようなのである。

### 3. 調査の着眼点

方言の伝聞表現の意味を記述する場合、標準語「スルソウダ」についての研究の蓄積を参照するとともに、以下のようなポイントに注意する必要がある。

- (a) 形式的特徴
- (b) 話し手が受け入れた情報（証拠）の種類
- (c) 話し手の判断の有無
- (d) 様態表現（伝聞推量）、引用表現との重なりかた
- (e) 伝聞の意味の希薄化（小詞化）、文末詞化（命題情報や聞き手に対する話し手の把握・認識の仕方を表す、談話機能をもつ、など）がないか

伝聞表現形式の形式的な特徴をみるための (a) では、語形確認だけでなく、各形式について構文的特徴（生起する位置）などについても押さえておく必要がある。たとえば、方言の引用系の伝聞表現形式は主節末にしか生起せず、かなりモーダル度の高いものといえるが、標準語の「ソウダ」や「トイウ」は従属節に生起可能である。ゲナ系でも、鹿児島県曾於郡のゲナについては従属節・主節の両方に生起するという報告がある。当該地域では、前件のそれには伝聞の意を感じないで、ゲナドン、ゲナヤをそれぞれ接続助詞であると認識されているという（上村 1954）。このように、従属節に義務的に用いられて伝聞法的なふるまいがみられる方言も存在する。

- (7) ハシッ ミタゲナドン マケタゲナ（走って見たが負けたそうだ）
- (8) イタッミタゲナヤ ダイモ オランジャッタゲナ（行って見たら誰もいなかったそう）

また、先に標準語の「ソウダ」を挙げて伝聞表現は問いかけにできないことを述べたが ((6)), 方言の引用系の伝聞表現形式は文末イントネーションを上昇調にすることで疑問化できる場合がある。(9)に挙げる山口方言の場合、「テ」による伝聞表現は上昇調（「↑」で示す）で聞き手への問いかけのかたちにするが、(9')のように「ト」の場合は不適格である。また、引用＋イウ系の形式「ツチュー」の場合は、(10) (10')のように上昇調だけでは問いかけにできず、ノカをつけなければならない。

- (9) あんた、またあいつから妙なことを言われたんテ↑？（言われたんだって？）

(9') \*あんだ、またあいつから妙なことを言われたんト↑？

(10) あいつが妙なことを言っているツチューンカ？（言っているというのか）

(10') \*あいつが妙なことを言っているツチューン↑？

さらに、標準語の伝聞形式「ソウダ」は、一部の作家の作品の中での使用例を除いて、一般的にはテンス分化がない。おそらくゲダ系やト系の方言伝聞形式も同様であろう。しかし、「トイウコトダ」や「トイウノダ」などの引用+イウ系の形式の場合には、形式名詞や準体助詞で事態を名詞化して指定辞「ダ」がテンスを担うためテンス分化がありうる。これらの形式は文法化の度合い、モーダル度が低いといえるだろう。

(11) \*???行ったそうだった。

(12) 行ったツツーコトダッタ

(13) 行ったツチューンジャッタ

方言の伝聞表現形式に過去形があった場合、どのような意味になっているのか。発話時からみて出来事時・情報入手時（すなわち伝え聞いた時）ともに過去であることを強めて表すのか、それとも伝聞情報それ自体を忘れていて、発話時に思い出したときなどにも使えるのか。こうしたことについて考えてみる必要があるだろう。

次に、方言の伝聞表現形式がかなり広い文脈で使われることから、様態表現（伝聞推量）や引用表現などの意味的にリンクする表現形式とともに記述することによってそれぞれの形式の中心的な意味を見極めるために（d）の項目を設定する。

例えば、以下に示す山口方言の例では、引用系の「ト」が様態表現（例示的意味）、伝聞表現、引用表現のそれぞれに用いられている（(16)の「チューテ」は「トユーテ（と言って）」が融合して引用形式となったものである）。

(14) あんトナ人は見たことがない（あのような人は）…様態表現（例示的意味）

(15) あいつ、秋芳洞に行ったんト（行ったんだって）…伝聞表現

(16) 秋芳洞ツチューテユータ（秋芳洞だと言った）…引用表現

また（e）は、伝聞表現の伝達的な性格が拡張したものと言い換えることが出来る。他者から得た言語的情報を、話し手の判断を加えずに別の人に伝えるという「伝聞表現」は、その行為自体に聞き手への伝達性が含まれることになる。このため、何らかの聞き手めあての表現性が含まれることも考えられる。先に、引用系の「ト」などは主節末にしか生起しないモーダル度の高いものであることを述べたが、このことは終助詞類と同様に、聞き手めあてのなんらかの伝達を担う基盤があることでもあるだろう。

#### 4. 研究の現状

2. で見たように『方言文法全国地図』で取り上げられている調査文については、全国的な分布状況を確認できるが、記述研究として方言の伝聞表現に注目したものは管見の限り見られない。現在、標準語研究においても、モダリティ論における伝聞表現の位置づけは一致していないが、標準語の「ソウダ」の研究成果を消化しつつ、様態表現や引用表現と関連させながら、これから記述が進められていく分野だといえる。

#### 5. 発展

3. の（d）や（e）に挙げたように、伝聞表現と引用表現の諸形式の関係（意味の異同

関係)を記述した上で、さらに談話機能などを持っていないか探してみると、機能拡張の視点から興味深い事象が掘り起こされる可能性がある。

例として、【表】に東京方言と山口方言の伝聞表現や引用表現に用いられる引用系の形式を整理したものを挙げる。

【表】伝聞・引用表現の形式

		〈伝聞〉	〈第三者発話の引用〉	〈話し手発話の引用〉	〈接続詞的用法〉	〈不明部の引用〉	〈聞き返し〉	〈文末詞〉
東京方言	テ型	ッテ	ッテ	ッテイッタ	ッテ	ダッテ	ダッテ	ッテ ッテバ
	ト型	トイウ	トイッタ	トイッタ		トイッタ #ダト	(ダト)	
	トイウノダ型							トイウノダ ツツーノ
山口方言	テ型	テ	テ	テユータ		テ	テ	
	ト型	ト	ト					
	ツチャ型	テヤ	テヤ					ツチャ

表中のそれぞれの用法は、以下のような例文を典型としている。

〈伝聞〉 昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ。

〈第三者発話の直接引用〉 先生が「早く行け」だって。

〈話し手発話の引用〉 (「今、何て行ったの?」「早く行け」と言ったんだ。)

〈接続詞的用法〉 (悩みをうちあけていた話し手が聞き手に「どうしたらいいんでしょうね」と言って聞き手の顔をみると、聞き手が寝ていた)「って、聞いてないし。」(直前の話し手自身の発話を文頭でマークするもの)

〈不明部の引用〉 (「僕は〇〇だ。」「え、何だって? よく聞こえないよ」)

〈聞き返し〉 (「僕はプロレスラーだ。」「え、プロレスラーだって?! うそだろ」)

〈文末詞〉 「早く行けというんだ!」

(「さっさと宿題をきなさいよ。」「うるさいな、今やるってば!」)

これらの例文は、伝聞表現が「他からの言語的情報という証拠に基づいていることを明示する」ものであり、引用表現が「他からの言語的情報を証拠として明示する(引き写す)」ものであることをふまえたうえで、「証拠となる言語的情報」が話し手によってどのように把握されているのか、引用する言語的情報が誰の発話のものなのか、またその言語的情報を伝聞もしくは引用として述べるのが、話し手と聞き手の対話関係の中で何を意味するのか、などの点で連続的・段階的である。こうした観点から、各形式の持つ意味・機能を記述することも実りが多いと思われる。

## 6. 文献

上村孝二(1954)「鹿児島県下の表現語法覚書」『文科報告』3

沖裕子(2003)「方言の「聞き伝え」表現」『月刊言語』32-7

高木千恵(2001)「高知県幡多方言の「ニカーラン」について」『阪大社会言語学研究ノート』3(大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室)

仁田義雄(1992)「判断から発話・伝達へー伝聞・婉曲の表現を中心にー」『日本語教育』

伝聞表現

- 船木礼子（2000）「引用表現形式に由来する文末詞の対照—山形市方言ズ，山口方言チャ，東京方言ッテ・ッテバについて—」『阪大社会言語学研究ノート』2（大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室）
- 藤田保幸（2000）『国語引用構文の研究』和泉書院
- 藤田保幸（2003）「伝聞研究のこれまでとこれから」『月刊言語』32-7
- 森山卓郎（1989）「認識のムードの形式をめぐって」『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎（1995）「『伝聞』考」『京都教育大学国文学会誌』26

## B 項目

各項目で、参考となる先行調査票の項目を以下の略号を用いて提示する。

〈G 本〇〇〇〉：GAJ 本調査(〇〇〇は質問番号)

〈G 準〇〇〇〉：GAJ 準備調査(〇〇〇は質問番号)

### I 伝聞表現に用いられる形式の確認

- I-1 【名詞・他者判断】「天気予報ではあしたは[雨だそうだ]」と言うとき、「雨だそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 本 174〉〈G 準 063〉
- I-2 【形容詞・他者判断】「あの人の話では、東京はずいぶん物価が[高いそうだ]」と言うとき、「高いそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 本 175〉
- I-3 【形容詞・他者判断】「あの人の話では、あの山はずいぶん[高いそうだ]」と言うとき、「高いそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 064〉
- I-4 【形容動詞・他者判断】「あの人の話では、あのあたりはとても[静かだそうだ]」と言うとき、「静かだそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 065〉
- I-5 【動詞・言い伝え】たとえば、「昔、昔、あの山に鬼が[いたそうだ]」と言うとき、「鬼がいたそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 本 176〉〈G 準 067〉
- I-6 【動詞・他者判断】「あの人の話ではあしたは雨が[降るそうだ]」と言うとき、「降るそうだ」のところをどのように言いますか。〈G 準 062〉

### II 伝聞表現の形式的特徴

#### II-1 構文的特徴

##### II-1-1 生起する位置

- II-1-1-1 【主節末】あいつが行ったそうだ
- II-1-1-2 【従属節・順接節】あいつが行ったそうだから、大丈夫だ。
- II-1-1-3 【従属節・逆接節】あいつが行ったそうだけど、大丈夫かな。
- II-1-1-4 【従属節・仮定節】あいつが行ったそうなら、誰もいなかった。

##### II-1-2 文全体が伝聞の場合、節ごとに義務的に生起するか

- II-1-2-1 【従属節・順接節】あいつが行ったそうだから、大丈夫だそうだ。
- II-1-2-2 【従属節・逆接節】あいつが行ったそうだけど、大丈夫ではなかったそうだ。
- II-1-2-3 【従属節・仮定節】あいつが行ったそうなら、誰もいなかったそうだ。

#### II-2 文法的ふるまい

##### II-2-1 テンスの分化の有無

- II-2-1-1 【過去・ソウダ系など】あいつが行くそうだった
- II-2-1-2 【過去・引用+イウ系(トイウコトダ)】あいつが行くということだった

- Ⅱ-2-1-3 【過去・引用＋イウ系（トイウノダ）】 あいつが行くというのだった
- Ⅱ-2-1-4 【過去・ソウダ系・伝聞時点が発話時に近い】 今あいつから聞きました，あいつが行くそうです／でした
- Ⅱ-2-1-5 【過去・ソウダ系・伝聞時点が過去・現時点の事態との異なり】 あいつが行くそうだったのに。
- Ⅱ-2-1-6 【過去・ソウダ系・伝聞時点が過去・発見・思い出しのタ】 忘れてた！あいつが行くそうだった！
- Ⅱ-2-1-7 【過去・ソウダ系・伝聞時点が過去・過去事態・発見・思い出しのタ】 忘れてた！あいつが行ったそうだった！

## Ⅱ-2-2 疑問化のありかた・聞き手への問いかけ

伝聞形式は命題内容を伝聞によって得た確定情報として、話し手の判断とは無関係に「伝聞情報」であることを表示するものである。疑問化できない。伝聞推量も命題を真と判断するものであるため伝聞の疑問化とはならない（疑問のカと共起しても様態（兆候・痕跡）の意味になる）。しかし、引用系の伝聞表現形式は文末を上昇イントネーションにしたり、ノカを付加することによって疑問化が可能なものがある。

- Ⅱ-2-2-1 【疑問・真偽・上昇調】 またあいつが妙なことを言ったんだって？
- Ⅱ-2-2-2 【疑問・疑問詞・上昇調】 何を言ったんだって？
- Ⅱ-2-2-3 【疑問・真偽・ノカ】 またあいつが妙なことを言ったというのか
- Ⅱ-2-2-4 【疑問・疑問詞・ノカ】 何を言ったというのか
- Ⅱ-2-2-5 【ネによる同意要求】 友達にむかって、「あの人は外国に [行くんだってね]」と言うとき、「行くんだってね」のところをどのように言いますか。〈G 準 066〉

## Ⅱ-2-3 人称による形式の使い分けがあるか

伝聞は基本的には第三者からの情報を証拠とするので、三人称主語が典型である。一人称主語となる場合は、一人称者が当該の事態を認識していなかった（気付いていない、忘れてる、など）が三人称者から教えられてそれを知った場合。二人称主語となる場合は、二人称者が当該の事態を認識していなかった（気付いていない、忘れてる、など）が、三人称者から情報を得た一人称者（話し手）がそれを二人称者に教える場合。

- Ⅱ-2-3-1 【一人称】 私はいつも麩をかいているそう
- Ⅱ-2-3-2 【一人称】 俺は昨日酔って暴れたそう
- Ⅱ-2-3-3 【一人称・疑問】 わたし、昨日酔って暴れたんだって？
- Ⅱ-2-3-4 【二人称】 おまえはいつも麩をかいているそう
- Ⅱ-2-3-5 【二人称】 おまえは昨日酔って暴れたそう
- Ⅱ-2-3-6 【二人称・疑問】 あんた、昨日酔って暴れたんだって？

## Ⅱ-2-4 判断のモダリティ形式との共起関係

伝聞表現の形式と、判断を含むモダリティ形式が共起するか判断を含むモダリティ形式が伝聞表現のスコープ内かどうか



- Ⅱ-2-4-1 【推量】[たぶんあいつが行くだろう] そうだ
- Ⅱ-2-4-2 【蓋然性判断】[あいつが行くかもしれない] そうだ
- Ⅱ-2-4-3 【証拠性判断】[あいつが行くらしい] そうだ
- Ⅱ-2-4-4 【説明】[実はあいつが行くそうな] のだ

### Ⅱ-2-5 伝達の様態形式との共起関係

伝聞表現の形式に伝達性があるか

- Ⅱ-2-5-1 秋芳洞に行ったそうだ
- Ⅱ-2-5-2 秋芳洞に行ったそうだよ
- Ⅱ-2-5-3 秋芳洞に行ったそうだね
- Ⅱ-2-5-4 秋芳洞に行ったそう じゃないか

## Ⅲ 様態表現（伝聞推量）との関わり

### Ⅲ-1 話し手による判断が含まれる場合

- Ⅲ-1-1 【読んで知った証拠・現在の事態】（新聞で、不祥事のあった会社の新社長になった人の記事を読んで）この人もこれから大変なようだ、僕はそう思うよ。
- Ⅲ-1-2 【読んで知った証拠・過去の事態】（新聞で人の経歴を読んで）この人も苦勞したようだ、僕はそう思うよ。
- Ⅲ-1-3 【聞いて知った証拠・現在の事態】（〇〇さんがここ最近休みがちだと聞いた）〇〇さんはどうも調子がよくないようだ、僕はそう思うよ。
- Ⅲ-1-4 【聞いて知った証拠・過去の事態】（〇〇さんが先週休んでいたと聞いた）〇〇さんは調子がよくなかったようだ、僕はそう思うよ。

### Ⅲ-2 話し手が伝え聞いた情報（伝聞推量）

- Ⅲ-2-1 【観察対象が話し手に帰属すること】さっき聞いたんだけど、おれは今度××へ異動になるようだ
- Ⅲ-2-2 【観察対象が聞き手に帰属すること】さっき聞いたんだけど、おまえは来年度××へ移動になるようだ
- Ⅲ-2-3 【観察対象が話し手・聞き手のどちらにも帰属しないこと】あいつに聞いたんだけど、あいつの妹は今度ロスに行くようだ

### Ⅲ-3 話し手の判断が含まれない場合（伝聞）

- Ⅲ-3-1 【専門的知識・一般的事態・話し手には実証不可能】（新聞を読んで）人間は寝ている間に記憶を整理するらしい
- Ⅲ-3-2 【専門的知識・過去の事態・話し手には実証不可能】（本を読んで）カルムイク人部隊はらくだに乗ってパリに入ったらしい
- Ⅲ-3-3 【個人的な知識・現在の事態・話し手には実証不可能】私はよく夜中に寝言を言うらしい
- Ⅲ-3-4 【個人的な知識・過去の事態・話し手には実証不可能】おばあちゃんが話してくれたんだけど、私は2歳のころ、よくこの池に落ちたらしい

Ⅲ-3-5 【知識（証拠なし）・一般的】世界のどこかに、同じ顔の人が三人いるそうだ

Ⅲ-3-6 【知識（証拠なし）・過去】昔むかし、正直者のじいさんがいたそうだ

#### Ⅳ 引用表現との関わり

Ⅳ-1 【伝聞】昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ。（Ⅰ-5, 〈G本 176〉〈G準 067〉）

Ⅳ-2 【第三者発話の直接引用】先生が「早く行け」だって。

Ⅳ-3 【話し手発話の引用・話し手自身の発話内容を復唱】（「今、何て行ったの？」）「早く行け」と言ったんだ。」

参考 友達が誰かが来るんだと話しています。そこであなたは、「[誰が来るんだって]？」と聞くとします。そのときはどのように言いますか。〈G準 102〉

Ⅳ-4 【引用・聞き返し・不明部の引用】（「僕は〇〇だ」）「え、何だって？ よく聞こえないよ」

（不明部分について、発話者（情報源）に発話内容を確認するため、不完全な引用をして不明部分の補完をさせる）

参考 近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「あなたは、今、[何と言いましたか]」と聞き返すとき、「何と言いましたか」のところをどのように言いますか。〈G本 254-A〉

参考 この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G本 254-B〉

Ⅳ-5 【引用・聞き返し】（「僕はプロレスラーだ」）「え、プロレスラーだって?! うそだろ」

（信じがたい情報について、復唱によって発話者（情報源）に発話内容を確認する。）

驚きの表現）

参考 友達が、また台風が来るようだとやっているのだから、あなたは驚いて、「何、また台風が[来（く）るんだって]？」と問い返すとします。そのとき、「来（く）るんだって？」のところをどのように言いますか。〈G本 195〉〈G準 101〉

## 疑問表現

井上 優  
小西いずみ

### A 解説

#### 1. 疑問表現とは

##### 1.1 疑問文の種類

ここでいう疑問表現とは、命題全体の真偽、あるいは命題の不定部分の内容を問題にする表現のことである。「あの人は学生？」「太郎が行く？」のように、命題の真偽を問う文は真偽疑問文、「これは何？」「誰が行く？」のように、命題内の不定部分の内容を問題にする文は疑問詞疑問文と呼ばれる。

疑問文が主文を構成する場合は、直接疑問文と呼ばれる。また、「あの人が行くかどうか分からない」「誰が行くか決まった」のように、疑問文が従属節として埋め込まれた場合は間接疑問文(埋め込み疑問文)と呼ばれる(以下、疑問文と言う場合は直接疑問文を指す)。

疑問表現は、聞き手目当て性の有無という観点から、聞き手に回答を要求する「問いかけ」(質問)の疑問文と、話し手が自らの疑問点を表明するだけで聞き手に特に回答を要求しない「疑念表明」の文に分類される。「今何時？」は問いかけだが、「今何時だろう？」「今何時かなあ？」は疑念表明である。疑念表明は、聞き手に応答を強制しない、ひかえめな問いかけとしても用いられる。

##### 1.2 疑問文をつくる要素

現代日本語で、文を疑問文にする要素として基本的なものは、次の3つである。

- 1) 疑問の終助詞(特に、真偽疑問文の場合)
- 2) 疑問のイントネーション(特に、真偽疑問文の場合)
- 3) 疑問詞(疑問詞疑問文の場合)

真偽疑問文は、疑問の意味を表す特別の言語形式や韻律的特徴を必要とする。現代共通語の場合、疑問の意味を担う代表的な形式としては終助詞「か」が、韻律的特徴としては文末の上昇イントネーション(以下「↑」で示す)があり、真偽疑問文を作るには少なくともどちらか一方が必要となる。

普通体(非デス・マス体)の文においては、「あなたは学生↑」「あなたが行く↑」のように上昇イントネーションを用いるのが普通である(ただし、「?あなたは学生だ↑」のように「だ」に上昇イントネーションを加えた文は不自然)。「君は学生か(↑)」「おまえも行くか(↑)」のように終助詞「か」を用いる文は、女性は用いにくいなど、文体的に偏り

がある。丁寧体（デス・マス体）の文は、「あなたは学生ですか↑」「あなたも行きますか↑」のように、「か」と「↑」の両方を用いた表現が中立的な問いかけになるが、「か」「↑」のどちらか一方でも疑問文になりうる（ただし、「?あなたは学生です↑」のように「です」に上昇イントネーションを加えた文は不自然）。

疑問詞疑問文は、不定の部分に「何」「誰」「いつ」「どこ」「どれ」などの疑問詞を用いる。疑問詞が疑問文であることの標識となるため、疑問の意味を担う特別な終助詞やイントネーションは必須ではない。現代共通語の普通体の文では、「これは何↑」「誰が行く↑」のように文末の上昇イントネーションを伴うのが普通だが、平叙文と同様の非上昇イントネーションでも疑問文になりうる。また、「?これは何か（↑）」「?誰が行くか（↑）」のように、普通体で終助詞「か」を用いた文は不自然である。丁寧体の文では、「これは何ですか↑」など「か」と「↑」をともに用いた表現が問いかけとしてもっとも自然だが、一方あるいは両方を欠いても疑問文と解釈できる。

## 2. 日本方言の疑問表現

各地方言の疑問表現については、真偽疑問文と疑問詞疑問文とで、用いられる形式や韻律的特徴に違いがあることが指摘されている。疑問詞疑問文のみに見られる言語形式や韻律的特徴が存在する方言もある。

沢木(1984)によると、青森県津軽方言では、真偽疑問文では終助詞「ナ」、疑問詞疑問文では終助詞「バ」が使われるという（下は金木町の例。表記を片仮名に改めた）。

- (1) アレア センセーダナ （あれは先生か） 【真偽疑問・名詞述語】
- (2) アレア ダエダバ （あれは誰か） 【疑問詞疑問・名詞述語】
- (3) エニ エルナ （家にいるか） 【真偽疑問・動詞述語】
- (4) ナニ ヨンデラバ （何を読んでいるか） 【疑問詞疑問・動詞述語】

共通語の「カ」に対応する「ガ」も用いられるが、その使用範囲については、地域差あるいは個人差がある。金木町の話者は真偽疑問・疑問詞疑問の区別なく用いるが、弘前市の話者は真偽疑問にしか用いないという。「ガ」が真偽疑問で用いられやすいのは共通語と同様の現象と言える。

福井(1988)によると、岐阜県萩原町方言では、真偽疑問文では終助詞「カ」が付くが、疑問詞疑問文では「カ」が付かない。この点は共通語と同様だが、特徴的なのは、丁寧体の場合においても疑問詞疑問文で「カ」が使われないことである（この方言の丁寧体は「食ベルナ」「先生ヤナ」など文末に接辞「ナ」を付けて作られる）。

高木(1999)の報告する高知県幡多方言では、普通体の真偽疑問文において、終助詞「カ（+イ・ヨ・ネ）」を伴った表現が可能であるが、中・若年層（特に女性）では終助詞を付けず上昇イントネーションによる疑問文が多いという。丁寧体の真偽疑問文においても、終助詞「カネ」の付加は可能だが、終助詞を付けない文のほうが普通である。共通語では、名詞・形容詞述語文でテンスが現在の真偽疑問文で「～デス↑」が許容されにくいのが、幡多方言ではそのような場合も「カ抜き」が用いられる。また、問いかけ性のない「納得」の表現の場合、下降イントネーションとなるが、それでもカ抜きが許容される。一方、反語文ではカが付くのが普通だという。

- (5) あの人は先生です↑ 【問いかけ】

(6) わー、これが高知城デス↓ 【納得】

疑問詞疑問文に関しては、中国・四国方言における疑問詞疑問文の係り結び(虫明1958, 1982)が興味深い。これは、次のように、疑問詞疑問文(反語文も含む)において、文末の用言(動詞・形容詞・助動詞)が仮定形をとる現象である。

(7) ダェーガ スリヤー (誰がするか) 【動詞】

(8) ドコガ 珍シケリヤー (どこが珍しいか) 【形容詞】

(9) ヤクバー ドコナラ (役場はどこだ) 【判定詞】 (虫明1982より岡山方言の例)

韻律的特長については、久保(1989, 1990a, 1990b)の報告が興味深い。久保によると、福岡市方言では、疑問詞疑問文において、疑問詞以後の語アクセント(共通語と同様に下降が弁別特徴)が消去され、高く平らな音調をとる。間接疑問詞疑問文でも補文標識「カ」の手前までが平らになるという。

『方言文法全国地図』(G A J)第4集(国立国語研究所1999)、第5集(同2002)には、問いかけの疑問文の分布図として次のものが収められている。

197図「いるか」(親しい友達の家を尋ねて、入口で「〇〇さん、いるか」と言うとき、どのように言いますか。)【真偽疑問文・動詞述語・焦点が述語部分】

265図「やったか」(孫にむかって、「犬に餌をやったか」と聞くとき、「餌をやったか」のところをどのように言いますか。)【真偽疑問文・動詞述語・焦点が述語部分】

256図「(それは)何か」(子どもが道で何かを拾ってきたので、子どもに「それは何か」と尋ねるとしたら、どのように言いますか。)【疑問詞疑問文・名詞述語・焦点が述語部分】

G A Jの真偽疑問文と疑問詞疑問文の図は、述語の性質が異なるため単純には比較できないが、全国的に疑問詞疑問文で「カ」が用いられにくいこと、津軽方言において「ナ」と「バ」が対立すること、四国方言において疑問詞疑問文で「ゾ」が用いられること、中国・四国方言に疑問詞の係り結び現象が見られること、疑問詞「何」については共通語と同源の形式が全国的に分布していること、などが確認できる。

G A Jには疑問表現の関連図として次のものも収められている。

間接疑問詞疑問文 257・258 図「誰が行くか(分らない)」

56 図「何が起るやら(分らない)」

反語文 259・260・261 図「誰がやるものか」

不定の表現 253 図「誰かが(知っているだろう)」

254 図「どこかに(あるだろう)」

255 図「いつか(聞いたことがある)」

57 図「誰やら(来た)」

### 3. 調査の着眼点

ここでは、まず、疑問表現を体系的に記述することを目的とした調査を念頭におき、そのための着眼点を述べる。加えて、疑問の終助詞の意味範囲を記述するための観点についても触れる。ほぼ「B 項目」と対応させながら述べるので、あわせて参照してほしい。

#### 3.1 疑問文のつくり方(1)：直接疑問文

まず、「問いかけ」の文を対象として、「述語の違い」(動詞述語文／形容詞述語文／名詞述語文／「のだ」文)、「疑問の焦点の位置の違い」(述語部分に焦点／非述語部分に焦点)という2つの観点から、1節であげた疑問文をつくる3つの要素の現われ方を整理することが基本となる。

疑問の終助詞の種類とその使われ方を把握する際にポイントとなるのは次の3点である。

- 1) 真偽疑問文と疑問詞疑問文における疑問の終助詞の使われ方の違い
- 2) 判定詞と疑問の終助詞の分布(名詞述語文、「のだ」文の場合)
- 3) 動詞の意志形につく終助詞

以下では、富山県井波方言を例にとり、共通語と対照しながらみていく(下線部分は共通語と比較して特徴のある形式、「%」は共通語的な表現を表すものとする)。

## I : 動詞述語文

### A 真偽疑問文

共通語

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	食べる?	食べた?	食べます?	食べました?
か	食べるか?	食べたか?	食べますか?	食べましたか?

井波方言

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	タベル?	タバタ?	タベマス?	タバマシタ?
カ	タベッカ?	タバタカ?	%タベマスカ?	%タバマシタカ?
ケ	タベッケ?	タバタケ?	タベマスケ?	タバマシタケ?

### B 疑問詞疑問文

共通語

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	何を食べる?	何を食べた?	何を食べます?	何を食べました?
か	*何を食べるか?	*何を食べたか?	何を食べますか?	何を食べましたか?

井波方言

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	ナン タベル?	ナン タバタ?	ナン タベマス?	ナン タバマシタ?
カ	*ナン タベッカ?	*ナン タバタカ?	%ナン タベマスカ?	%ナン タバマシタカ?
ケ	<u>ナン タベッケ?</u>	<u>ナン タバタケ?</u>	ナン タベマスケ?	ナン タバマシタケ?

Ⅱ：形容詞述語文

A 1 真偽疑問文（述語部分が疑問の焦点）

共通語

	－丁寧		＋丁寧	
	－過去	＋過去	－過去	＋過去
φ	あれは安い？	あれは安かった？	*あれは安いのです？	*あれは安かったです？
か	あれは安いのか？	あれは安かったか？	あれは安いのですか？	あれは安かったですか？

井波方言

	－丁寧		＋丁寧	
	－過去	＋過去	－過去	＋過去
φ	アレ 安い？	アレ 安かった？	?アレ 安いデス？	アレ 安かったデス？
カ	アレ 安いカ？	アレ 安かったカ？	アレ 安いデスカ？	アレ 安かったデスカ？
ケ	アレ 安いケ？	アレ 安かったケ？	アレ 安いデスケ？	アレ 安かったデスケ？

A 2 真偽疑問文（非述語部分が疑問の焦点）

共通語

	－丁寧		＋丁寧	
	－過去	＋過去	－過去	＋過去
φ	これがいい？	これがよかった？	*これがいいのです？	*これがよかったです？
か	これがいいのか？	これがよかったか？	これがいいのですか？	これがよかったですか？

井波方言

	－丁寧		＋丁寧	
	－過去	＋過去	－過去	＋過去
φ	コレガ イー？	コレガ ヨかった？	?コレガ イーデス？	コレガ ヨかったデス？
カ	コレガ イーカ？	コレガ ヨかったカ？	コレガ イーデスカ？	コレガ ヨかったデスカ？
ケ	コレガ イーケ？	コレガ ヨかったケ？	コレガ イーデスケ？	コレガ ヨかったデスケ？

B 疑問詞疑問文

共通語

	－丁寧		＋丁寧	
	－過去	＋過去	－過去	＋過去
φ	どれがいい？	どれがよかった？	どれがいいのです？	どれがよかったです？
か	*どれがいいのか？	*どれがよかったか？	どれがいいのですか？	どれがよかったですか？

井波方言

	－丁寧		＋丁寧	
	－過去	＋過去	－過去	＋過去
φ	ドレ イー？	ドレ ヨかった？	ドレ イーデス？	ドレ ヨかったデス？
カ	*ドレ イーカ？	*ドレ ヨかったカ？	ドレ イーデスカ？	ドレ ヨかったデスカ？
ケ	ドレ イーケ？	ドレ ヨかったケ？	ドレ イーデスケ？	ドレ ヨかったデスケ？

Ⅲ：名詞述語文

A 1 真偽疑問文（述語部分が疑問の焦点）

共通語

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	あれは星？	—	—	—
だ	*あれは星だ？	あれは星だった？	*あれは星です？	あれは星でした？
か	あれは星か？	—	—	—
だか	*あれは星だか？	あれは星だったか？	あれは星ですか？	あれは星でしたか？

井波方言

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	アレ 星？	—	—	—
ヤ	*アレ 星ヤ？	アレ 星ヤッタ？	アレ 星デス？	<u>アレ 星ヤッタデス？</u> アレ 星デシタ？
カ	アレ 星カ？	—	—	—
ケ	アレ 星ケ？	—	—	—
ヤカ	*アレ 星ヤカ？	アレ 星ヤッタカ？	アレ 星デスカ？	<u>アレ 星ヤッタデスカ？</u> アレ 星デシタカ？
ヤケ	*アレ 星ヤケ？	アレ 星ヤッタケ？	アレ 星デスケ？	<u>アレ 星ヤッタデスケ？</u> アレ 星デシタケ？

A 2 真偽疑問文（非述語部分が疑問の焦点）

共通語

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	これが一番？	—	—	—
だ	*これが一番だ？	これが一番だった？	*これが一番です？	これが一番でした？
か	これが一番か？	—	—	—
だか	*これが一番だか？	これが一番だったか？	これが一番ですか？	これが一番でしたか？

井波方言

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	コレガ 一番？	—	—	—
ヤ	*コレガ 一番ヤ？	コレガ 一番ヤッタ？	コレガ 一番デス？	<u>コレガ 一番ヤッタデス？</u> コレガ 一番デシタ？
カ	コレガ 一番カ？	—	—	—
ケ	コレガ 一番ケ？	—	—	—
ヤカ	*コレガ 一番ヤカ？	コレガ 一番ヤッタカ？	コレガ 一番デスカ？	<u>コレガ 一番ヤッタデスカ？</u> コレガ 一番デシタカ？
ヤケ	*コレガ 一番ヤケ？	コレガ 一番ヤッタケ？	コレガ 一番デスケ？	<u>コレガ 一番ヤッタデスケ？</u> コレガ 一番デシタケ？



疑問表現

B 1 疑問詞疑問文（述語部分が疑問詞）

共通語

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	あれは何？	-	-	-
だ	あれは何だ？	あれは何だった？	あれは何です？	あれは何でした？
か	*あれは何か？	-	-	-
だか	*あれは何だか？	*あれは何だったか？	あれは何ですか？	あれは何でしたか？

井波方言

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	アレ ナニ？	-	-	-
ヤ	アレ ナンヤ？	アレ ナンヤッタ？	アレ ナンデス？	<u>アレ ナンヤッタデス？</u> アレ ナンデシタ？
カ	*アレ ナンカ？	-	-	-
ケ	<u>アレ ナンケ？</u>	-	-	-
ヤカ	*アレ ナンヤカ？	*アレ ナンヤッタカ？	アレ ナンデスカ？	<u>アレ ナンヤッタデスカ？</u> %アレ ナンデシタカ？
ヤケ	*アレ ナンヤケ？	<u>アレ ナンヤッタケ？</u>	アレ ナンデスケ？	<u>アレ ナンヤッタデスケ？</u> アレ ナンデシタケ？

B 2 疑問詞疑問文（非述語部分が疑問詞）

共通語

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	誰が一番？	-	-	-
だ	誰が一番だ？	誰が一番だった？	誰が一番です？	誰が一番でした？
か	*誰が一番か？	-	-	-
だか	*誰が一番だか？	*誰が一番だったか？	誰が一番ですか？	誰が一番でしたか？

井波方言

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	誰 一番？	-	-	-
ヤ	誰 一番ヤ？	誰 一番ヤッタ？	誰 一番デス？	<u>誰 一番ヤッタデス？</u> 誰 一番デシタ？
カ	*誰 一番カ？	-	-	-
ケ	<u>誰 一番ケ？</u>	-	-	-
ヤカ	*誰 一番ヤカ？	*誰 一番ヤッタカ？	誰 一番デスカ？	<u>誰 一番ヤッタデスカ？</u> 誰 一番デシタカ？
ヤケ	*誰 一番ヤケ？	<u>誰 一番ヤッタケ？</u>	誰 一番デスケ？	<u>誰 一番ヤッタデスケ？</u> 誰 一番デシタケ？

Ⅳ：「のだ」文

A 真偽疑問文

共通語 「本当はこれが～」

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	いいの？	—	—	—
だ	*いいんだ？	いいんだった？	*いいんです？	*いいんですか？
か	いいのか？	—	—	—
だか	*いいんだか？	いいんだったか？	いいんですか？	いいんですか？

井波方言 「本当はこれが～」

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	イーガ？	—	—	—
ヤ	*イーガヤ？	イーガヤッタ？	*イーガデス？	<u>イーガヤッタデス？</u> イーガデシタ？
カ	イーガカ？	—	—	—
ケ	イーガケ？	—	—	—
ヤカ	*イーガヤカ？	イーガヤッタカ？	イーガデスカ？	<u>イーガヤッタデスカ？</u> イーガデシタカ？
ヤケ	*イーガヤケ？	イーガヤッタケ？	イーガデスケ？	<u>イーガヤッタデスケ？</u> イーガデシタケ？

B 疑問詞疑問文

共通語

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	どれがいいの？	—	—	—
だ	どれがいいんだ？	どれがいいんだった？	どれがいいんです？	どれがいいんですか？
か	*どれがいいのか？	—	—	—
だか	*どれがいいんだか？	*どれがいいんだったか？	どれがいいんですか？	どれがいいんですか？

井波方言

	-丁寧		+丁寧	
	-過去	+過去	-過去	+過去
φ	ドレ イーガ？	—	—	—
ヤ	ドレ イーガヤ？	ドレ イーガヤッタ？	ドレ イーガデス？	<u>ドレ イーガヤッタデス？</u> ドレ イーガデシタ？
カ	*ドレ イーガカ？	—	—	—
ケ	<u>ドレ イーガケ？</u>	—	—	—
ヤカ	*ドレ イーガヤカ？	*ドレ イーガヤッタカ？	ドレ イーガデスカ？	<u>ドレ イーガヤッタデスカ？</u> ドレ イーガデシタカ？
ヤケ	*ドレ イーガヤケ？	<u>ドレ イーガヤッタケ？</u>	ドレ イーガデスケ？	<u>ドレ イーガヤッタデスケ？</u> ドレ イーガデシタケ？

ポイント1)に関しては、上の表から、普通体(一丁寧)の場合、真偽疑問文では「カ」「ケ」の2つの終助詞が使用可能だが、疑問詞疑問文では基本的に「ケ」だけが使用可能であることが分かる。ただし、「その場での意志決定の要求」という場合には「カ」も使われる。

(1) アンタ 何時ゴロ オイデッカ?

(あなた何時ごろにいらっしゃる? (今考えて決めよ))

(2) アノ人 何時ゴロ {オイデッケ/??オイデッカ} ?

(あの人は何時ごろにいらっしゃる? (知っていることを教えよ))

また、ポイント2)に関しては、名詞述語文の場合、共通語と同様に、普通体で「判定詞+終助詞」が不適格、また「判定詞+φ」(終助詞なし)が真偽疑問文で不適格、疑問詞疑問文で適格となる。

ポイント3)としてあげた意志形については、井波方言では「ケ」(標準語の「かい」に相当)が用いられず、その場合は疑問詞疑問文でも「カ」が使われる。

(3) 時間マデ 何 {シトロカ?/\*シトロケ?} (時間まで何してようか。)

イントネーションの記述に関しては、同じくピッチの変動という物理的特徴を持つ語アクセントと混同しないよう注意が必要である。特に、終助詞のある疑問文においては、終助詞自身が何らかのアクセントを持ち、それと文末のイントネーションを区別したほうがよい場合がある(こうした立場からの記述については木部1993が参考になる)。手始めとして、述語をその方言が持つアクセント型ごとに用意して一通り真偽疑問文を作ってみるのがよい。井波方言では、問いかけの普通体の真偽疑問文の場合、「φ」(終助詞なし)は上昇イントネーションだが、「カ」「ケ」を用いると下降イントネーション(非上昇ではなく、積極的に下降するイントネーション)をとるのが普通である。ただし、「ケ」は一度下降して上昇する音調をとることができ、その場合、自問しながら聞き手に問いかけるという意味になる。([はピッチの上昇位置、]は下降位置。共通語と同様、下降の位置が弁別特徴となる。)

(4) ホ[シケ]ー[ー (ホシ=星。アクセントは無核(平板)型。)

「問いかけ」の文を一通り確認したら、聞き手目当て性のない「疑念表明」の場合との異同を確かめる。井波方言の場合、真偽疑問文では「カナー(カネー、カノー)」, 疑問詞疑問文では「カナー(カネー、カノー)」及び「ヤ」が疑念表明の疑問文になる。

(5) (独り言で) ホンマカナー。/ホンマカネー。/ホンマカノー。(本当かなあ。)

(6) (独り言で) a. アッ {ダレカナー?/ダレカネー?/ダレカノー?}

(あれは誰かなあ)

b. アッ ダレヤ↓↑(下降+上昇)。(あれは誰だ↑?)

「疑念表明」の文においては、推量形に付く終助詞が着眼点の一つとなる。井波方言では、推量形(意志形と同じ「~う・よう」が用いられる)に「ケ」が付かない。

(7) アノ人, 今ゴロ 何 {シトロカ?/\*シトロケ?}

(あの人, 今ごろ何をしているだろうか。)

反語文との異同も確認する必要がある。共通語では、問いかけの疑問詞疑問文では「か」が使われないが反語文では使われるという違いがある。

(8) a. (通常の質問) 誰が行く?/\*誰が行くか?

b. (行かないという気持ちで) 誰が行くか!

井波方言の場合、反語文は「ケ」で終止しにくい。

(9) ソンナトコ ダンガ {イッカ/\*イッケ} ! (そんなところ、誰が行くか!)

(10) ソンナモン {クエッカ/\*クエッケ} ! (そんなもの食えるか!)

疑問文の一種だがかなり性質の異なるものとして、先行の発話を再現し、その真偽や不明な部分を確認する「問い返し疑問文」がある。問い返し疑問文には、「太郎も来るって?」「太郎も来るだって?」のような引用表現を用いる場合と、「太郎も来る?」のように引用表現を用いない場合とがある。後者においては、一般の問いかけの文と、問い返し疑問文とがイントネーションによって区別され、調査・記述のポイントもその点におかれることになる。

### 3.2 疑問文のつくり方(2)：間接疑問文

文中に埋め込まれる間接疑問文のつくり方について調べる場合のポイントは、疑問の終助詞と間接疑問文をつくる形式(疑問の補文標識)とがどの程度一致するかである。

共通語では、疑問の終助詞と疑問の補文標識の形が基本的に一致する。

(1) a. 今日中に雪がやむかどうかわからない。 […かどうか]

b. 雪がやむかやまないかわからない。 […か…か]

c. 雪がいつやむかわからない。 [疑問詞…か]

「やら」も間接疑問文をつくる補文標識として用いられる。

(2) 雪がいつやむやら、わからない。 [疑問詞…やら]

井波方言には、「カ」「ケ」という2つの疑問の終助詞があるが、このうち疑問の補文標識としても用いられるのは「カ」のみである。「ヤラ」も疑問の補文標識となる。名詞述語や「のだ」文の場合、判定詞「ヤ」が疑問の補文標識となりうる点の特徴である

(3) a. 今日中ニ 雪 ヤムカドーカ ナン ワカラン。

b. 雪 ヤムカヤマンカ ナン ワカラン。

c. 雪 イツ ヤムカ ナン ワカラン。

(4) 雪 イツ ヤムヤラ ナン ワカラン。

(5) a. 雪 イツ ヤムガカ ナン ワカラン。(雪がいつやむのか、まったくわからない。)

b. 雪 イツ ヤムガヤ ナン ワカラン。(雪がいつやむのか、まったくわからない。)

(6) アレ 誰ヤ ワカラン。(あれが誰かわからない。)

### 3.3 疑問の終助詞の意味範囲

疑問の終助詞の意味範囲の問題としては、疑問の終助詞が「納得」の用法を有するかという点がある。井波方言の場合、「ケ」「カ」はともに納得の用法を有する。

(1) ア, ソンナガケ。/ア, ソンナガカ。(あ, そうなのか。)

「ガヤ」(のだ)は、「…ガヤ。」の形で用いられた場合、もっぱら納得の意味を表す。

(2) ア, ソンナガヤ。(あ, そうなんだ。)

話し手と聞き手がともに行う動作について候補をあげて聞き手の意向を問うことは、勧誘表現に連続する。井波方言では前述のように意志形には「ケ」が付かないが、勧誘表現としては「意志形+マイ」が用いられ、それには「ケ」も「カ」も付けることができる。

(3) アンタモ イコマイ {カ/ケ}。(あなたも行こうよ。)

なお、否定疑問の表現については「否定表現」の章に概説・調査項目があるのでそちらもあわせて参照してほしい。

共通語の「か」による間接疑問文は、それ単独で「年のせいか、酒が弱くなった。」のように注釈副詞的に用いることができる。間接疑問文にこういった用法があるかどうかを確認するのも意味があるであろう。

また、共通語の「か」は、「誰かが来た」のように、命題の不定部分を問うのではなく、不定のまま叙述する場合にも用いることができる。間接疑問文の補文標識の用法やこうした非文末の用法を疑問の助詞が持つかどうかは、その助詞の意味を捉える上で重要な観点である。

「帰れとは何だ！」のような「とがめだて」の表現は、「詰問」の疑問詞疑問文の延長線上にあると思われる。聞き手目当て性を有する文ではあるが、聞き手に対する答えの要求という性格は弱く、用いられる終助詞や、文全体の形、韻律において、問いかけの文とは異なる特徴を持つことが予想される。

#### 4. 研究の現状と発展

日本語方言の疑問表現についての記述的研究はそれほど多くない。先行研究のいくつかは2節で紹介したが、真偽疑問文と疑問詞疑問文の終助詞の相違や、特定の疑問文に現われる形式上の特徴・韻律的特徴を述べるにとどまっており、もっとも基本的な「問いかけ」の疑問文に限っても、3.1節で示した3つの観点をすべて考慮した体系的な記述を行ったものはない。疑問文が、文の種類として平叙文と対立する最も基本的なものであるにも関わらず、また、2節や3節でみたように諸方言の疑問表現には非常に興味深い現象が存在するにも関わらず、その記述的研究はあまりさかんでなかったと言える。

その理由の一つは、疑問を表す言語的手段の一つがイントネーションであるためだろう。イントネーションについては、共通語においてすら、どのような型が認められるかについての共通理解が得られておらず、また、個々の文が持つイントネーションをどう認定すればよいか、それをどのように表記すればよいかという方法論が確立されていない。また、その方言の語アクセントについて把握しないとイントネーションを抽出しにくいという問題もある。しかし、各地方言の語アクセントについての記述的研究は飛躍的に進み、また、現在は音響音声学的な分析も、パーソナルコンピュータ上で動作する比較的安価なソフトやフリーソフトを用いて格段に行いやすくなってきた。今後、イントネーションも含めた、諸方言の疑問表現の包括的・体系的な記述研究が望まれる。

#### 5. 文献

安達太郎(1989)「日本語の問い返し疑問について」『日本語学』8-8

安達太郎(1999)『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版

井上優・黄麗華(1996)「日本語と中国語の真偽疑問文」『国語学』184

尾上圭介(2001)「不定語の語性と用法」『文法と意味 I』くろしお出版

木部暢子(1997)「鹿児島市のイントネーション」佐藤亮一・ほか(編)『諸方言のアクセントとイントネーション』三省堂

- 木部暢子・久見木大介(1993)「鹿児島市方言の質問のイントネーションについて」『人文学科論集』(鹿児島大学法文学部紀要)38
- 久保智之(1989)「福岡市方言の、ダレ・ナニ等の疑問詞を含む文のピッチパターン」『国語学』156
- 久保智之(1990a)「福岡市方言の疑問詞表現のアクセント規則」『九大言語学研究室報告』
- 久保智之(1990b)「福岡市方言の問い返し疑問詞疑問文(WH-echo)のピッチパターン」『文学研究』(九州大学)87
- 郡史郎(1997)「日本語のイントネーション一型と機能一」国広哲弥・ほか(編)『日本語音声2 アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』三省堂
- 郡史郎(2003)「イントネーション」上野善道(編)『朝倉日本語講座3 音声・音韻』朝倉書店
- 国立国語研究所(1999)『方言文法全国地図』第4集 大蔵省印刷局
- 国立国語研究所(2002)『方言文法全国地図』第5集 財務省印刷局
- 沢木幹栄(1984)「津軽方言における単純疑問と疑問詞疑問」『国立国語研究所報告79 研究報告集5』
- 高木千恵(1999)「高知県幡多方言におけるカ抜き疑問文」『阪大社会言語学研究ノート』1
- 田野村忠温(1990)『現代日本語の文法I 「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版
- 野田春美(1995)「～ノカ?、ノ?、～カ?、～φ?—疑問文の文末の形—」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版
- 野田春美(1997)『「の(だ)」の機能』くろしお出版
- 福井玲(1988)「疑問文の体系とその特徴について」『日本方言研究会第47回研究発表会発表原稿集』
- 南不二男(1975)「質問文の構造」水谷静夫(編)『朝倉日本語新講座4 文法と意味II』朝倉書店
- 宮崎和人(2005)『現代日本語の疑問表現—疑いと確認要求』ひつじ書房
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002)『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版
- 虫明吉治郎(1958)「疑問詞の係結—中国方言の場合」『国語学』34
- 虫明吉治郎(1982)「広島県の方言」『講座方言学8 中国四国地方の方言』国書刊行会
- 森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院
- 森山卓郎(1991)「認識のムードとその周辺」仁田義雄・益岡隆志(編)『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎(2000)「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店

## B 項目

\* 優先度が低い項目

<G 本〇〇〇> GAJ 本調査の質問項目 (〇〇〇は質問番号)

<G 準〇〇〇> GAJ 準備調査の質問項目 (〇〇〇は質問番号)

- ・ GAJ の質問項目は原文のまま引用する。そのため、他の項目とは文末の形式が異なっているものがあるが、調査の際は統一してほしい (直接疑問文の項目における「～る？」／「～るか。」等)
- ・ GAJ の待遇表現項目で、改まった場面しか設定されていないために、文末を非丁寧体に改めた。その場合、質問番号の後に「改」と記した。

### 1. 疑問表現を体系的に記述するための調査項目

#### 1.1 直接疑問文

##### 1.1.1 問いかけ

※すべて、「親しい人に尋ねる」という設定で質問する(「友人に～と尋ねるときはどのように言いますか」等の聞き方をする)。

※各項目ごとに丁寧体(共通語のデス・マス形に対応する形)でも確認する。

## I 動詞述語文

### I-A 真偽疑問文

- (1) (目の前の料理を指差して) これ、食べる? 【-過去, 意志決定・判断の要求】
- (2) あなたは、ふだん、パンを食べるか。 <G 本 253-AB 改> 【-過去, 知識提供の要求】
- (3) (目の前の料理を指差して) これ、食べた? 【+過去】
- (4) そんなに嫌なら、私が食べようか? 【意志形, 話し手主体】
- (5) 今日は肉を食べようか? それとも、魚にしようか? 【意志形, 話し手・聞き手主体】
- \* (6) お前は今度の旅行に行くか。 <G 準 083> 【-過去】
- \* (7) あしたもここに来るか。 <GAJ 本 250-AB 改> 【-過去】
- \* (8) 今日は家にいるか。 <G 本 249-AB 改> 【-過去】
- \* (9) (自分の父に) あしたは家にいるか。 <G 本 265> 【-過去】
- \* (10) (親しい友達の家を尋ねて、入口で) 〇〇さん、いるか。 <G 本 230> 【-過去】
- \* (11) あの事件を知っているか。 <G 本 251-AB 改> 【-過去】
- \* (12) 犬に餌をやったか。 <G 本 209> 【+過去】

### I-B 疑問詞疑問文

- (1) (食堂でメニューを見ながら) 何を食べる? 【-過去, 意志決定・判断の要求, 疑問詞「何」】

- (2) あなたは、ふだん、朝食には何を食べる？ 【－過去，知識提供の要求，疑問詞「何」】  
 (3) 今日の昼食は何を食べた？ 【＋過去，疑問詞「何」】  
 (4) (食堂でメニューを見ながら) さて，何を食べようか？ 【意志形，疑問詞「何」】  
 \*(5) あなた，明日，何時頃ここに来る？ 今決めてしまおうよ。 【－過去 意志決定の要求，疑問詞「何(時)」】  
 \*(6) 山田さんはいつも何時頃ここに来る？ 【－過去，知識提供の要求，疑問詞「何(時)」】  
 \*(7) 山田さんは昨日何時頃ここに来た？ 【＋過去，疑問詞「何(時)」】  
 \*(8) ひと月に何通手紙を書くか。 <G 本 252-AB 改> 【－過去，疑問詞「何(通)」】  
 \*(9) あなたは，今，何と言ったか。 <G 本 254-AB 改> 【＋過去，疑問詞「何」】

## II 形容詞述語文

### II-A1 真偽疑問文，述語部分が疑問の焦点

- (1) (棚の物を指して) あれは安い？ 【形容詞，－過去】  
 (2) (棚の物を指して) あれは安かった？ 【形容詞，＋過去】  
 (3) あの部屋は静か？ 【形容動詞，－過去】  
 (4) あの部屋は静かだった？ 【形容動詞，＋過去】

### II-A2 真偽疑問文，述語部分が疑問の焦点

- (1) これがいい？ 【形容詞，－過去】  
 (2) これがよかった？ 【形容詞，＋過去】  
 (3) (2つの部屋を比べて) どちらかと言えば，あの部屋が静か？ 【形容動詞，－過去】  
 (4) (2つの部屋を比べて) どちらかと言えば，あの部屋が静かだった？ 【形容動詞，＋過去】

### II-B 疑問詞疑問文

- (1) どれがいい？ 【形容詞，－過去，疑問詞「どれ」】  
 (2) どれがよかった？ 【形容詞，＋過去，疑問詞「どれ」】  
 (3) (2つの部屋を比べて) どちらの部屋が静か？ 【形容動詞，－過去，疑問詞「どちら」】  
 (4) (2つの部屋を比べて) どちらの部屋が静かだった？ 【形容動詞，＋過去，疑問詞「どちら」】

## III 名詞述語文

### III-A1 真偽疑問文，述語部分が疑問の焦点

- (1) (夜空に光る点を指して) あれは星？ 【－過去】  
 (2) (夜空を何かが横切ってすっと消えたのを見て) あれは星だった？ 【＋過去】  
 \*(3) あの人は先生か。 <G 準 090> 【－過去】  
 \*(4) これはお前の傘か。 <G 本 242-0AB> 【－過去】

### III-A2 真偽疑問文，非述語部分が疑問の焦点



- (1) これが一番？ 【一過去】
- (2) これが一番だった？ 【+過去】

### Ⅲ-B1 疑問詞疑問文，述語部分が疑問の焦点

- (1) (空に浮かぶものを見て) あれは何？ 【一過去】
- (2) (空を何かが横切ってずっと消えたのを見て) あれは何だった？ 【+過去】
- \* (3) (道を歩いている人を見て) あの人は誰か。 <G 準 089>
- \* (4) (子どもが道で何かを拾ってきたので, その子どもに) それは何か。 <G 本 188>

### Ⅲ-B2 疑問詞疑問文，非述語部分が疑問の焦点

- (1) 誰が一番？ 【一過去, 疑問詞「誰」】
- (2) 誰が一番だった？ 【+過去, 疑問詞「誰」】

## Ⅳ 「のだ文」

### Ⅳ-A 真偽疑問文

- (1) 本当はこれがいいの？ 【形容詞, 一過去】
- (2) 本当はこれがいいんだった？ 【形容詞, +過去】
- \* (3) (道で友達に会って) 今から仕事に行くの？ 【動詞, 一過去】
- \* (4) 本当は午後から仕事に行くんだった？ 【動詞, +過去】
- \* (5) 本当にそんなに大勢行くのか。 <G 準 088> 【動詞, 一過去】
- \* (6) 本当はあの部屋のほうが静かなの？ 【形容動詞, 一過去】
- \* (7) (派手な傘を持ち帰ろうとした相手に, 意外だなという気持ちで) それ, あなたの傘なの？ 【名詞, 一過去】

### Ⅳ-B 疑問詞疑問文

- (1) 本当はどれがいいの？ 【形容詞, 一過去, 疑問詞「どれ」】
- (2) 本当はどれがいいんだった？ 【形容詞, +過去, 疑問詞「どれ」】
- \* (3) (道で友達に会って) どこへ行くのか。 <G 本 246-0AB> 【動詞, 一過去, 疑問詞「どこ」】
- \* (4) 本当はどこへ行くんだった？ 【動詞, +過去, 疑問詞「どこ」】
- \* (5) なぜそんなことを言うの？ 【動詞, 一過去, 疑問詞「なぜ」】
- \* (6) どうしたら成功するの？ 【動詞, 一過去, 疑問詞「どう」】
- \* (7) あの先生は, いつ東京へ行くのか。 <G 本 267> 【動詞, 一過去, 疑問詞「いつ」】
- \* (8) お前のほかに誰が行くのか。 <G 準 086> 【動詞, 一過去, 疑問詞「誰」】
- \* (9) 本当はどの部屋が静かなの？ 【形容動詞, 一過去, 疑問詞「どの」】
- \* (10) これ, 一体誰の傘なの？ 【名詞, 一過去, 疑問詞「誰」】

### 1.1.2 疑念表明

※すべて、「独り言」という想定で聞く(「～という意味のことを独りでつぶやくとしたら, 何と言いますか」等の聞き方をする)。

## I 動詞述語文

### I-A 真偽疑問文

- (1) 太郎はこの料理を食べるかな。【一過去, 第三者主体】
- (2) 太郎はこの料理を食べたかな。【+過去, 第三者主体】
- (3) 太郎はこの料理を食べるだろうか。【一過去・推量形, 第三者主体】
- (4) そろそろ昼食を食べるかな。【一過去, 話し手主体】
- (5) そろそろ昼食を食べようかな。【意志形, 話し手主体,】
- (6) あれ? 昨日, 昼食を食べたかな。【+過去, 話し手主体】
- \* (7) 明日は晴れるだろうか。〈G 準 097〉【一過去・推量形】

### I-B 疑問詞疑問文

- (1) (食堂でメニューを見ながら) 太郎は何を食べるかな。【一過去, 第三者主体】
- (2) (食堂でメニューを見ながら) 太郎は何を食べるだろうか。【一過去・推量形, 第三者主体】
- (3) 昨日, 太郎は何を食べたかな。【+過去, 第三者主体】
- (4) (食堂でメニューを見ながら) 何を食べるかな。【一過去, 話し手主体】
- (5) (食堂でメニューを見ながら) 何を食べようかな。【意志形, 話し手主体】
- (6) 昨日の夜, 何を食べたかな。【+過去, 話し手主体】

## II 形容詞述語文

### II-A1 真偽疑問文, 述語部分が疑問の焦点

- (1) (店の品物を目にして) あれは安いかな。【形容詞, 一過去】
- \* (2) (店の品物を目にして) あれは安いだろうか。【形容詞, 一過去・推量形】
- \* (3) (「あの棚は安かった?」と聞かれて) 安かったかな。【形容詞, +過去】
- \* (4) (「あの部屋は静か?」と聞かれて) 静かかな。【形容動詞, 一過去】
- \* (5) (「あの部屋は静か?」と聞かれて) 静かだろうか。【形容動詞, 一過去・推量形】
- \* (6) (「あの部屋は静か?」と聞かれて) 静かだったかな。【形容動詞, +過去】

### II-A2 真偽疑問文, 非述語部分が疑問の焦点

- (1) やっぱりこれがいいかな。【形容詞, 一過去】
- \* (2) やっぱりこれがいいだろうか。【形容詞, 一過去・推量形】
- \* (3) やっぱりこれがよかったかな。【形容詞, +過去】
- \* (4) やっぱりあの部屋のほうが静かかな。【形容動詞, 一過去】
- \* (5) やっぱりあの部屋のほうが静かだろうか。【形容動詞, 一過去・推量形】
- \* (6) やっぱりあの部屋のほうが静かだったかな。【形容動詞, +過去】

### II-B 疑問詞疑問文

- (1) どれがいいかな。【形容詞, 一過去】
- (2) どの部屋が静かかな。【形容動詞, 一過去】

- \* (3) どれがいいだろうか。【形容詞，一過去・推量形】
- \* (4) どれがよかったかな。【形容詞，＋過去】
- \* (5) どの部屋が静かだろうか。【形容動詞，一過去・推量形】
- \* (6) どの部屋が静かだったかな。【形容動詞，＋過去】

### Ⅲ 名詞述語文

#### Ⅲ-A1 真偽疑問文，述語部分が疑問の焦点

- (1) (夜空の星を見て) あれは金星かな。【一過去】
- \* (2) (夜空の星を見て) あれは金星だろうか。【一過去・推量形】
- \* (3) (夜空の星を見て) あれは金星だったかな。【＋過去】

#### Ⅲ-A2 真偽疑問文，非述語部分が疑問の焦点

- (1) (舞台上に登場した人を見て) あの人が主役かな。【一過去】
- \* (2) (舞台上に登場した人を見て) あの人が主役だろうか。【一過去，推量形】
- \* (3) (舞台上に登場した人を見て思い出しながら) あの人が主役だったかな。【＋過去】

#### Ⅲ-B1 疑問詞疑問文，述語部分が疑問の焦点

- (1) あれは何かな。【一過去】
- \* (2) あれは何だろうか。【一過去・推量形】
- \* (3) あれは何だったかな。【＋過去】

#### Ⅲ-B2 疑問詞疑問文，非述語部分が疑問の焦点

- (1) どの人が主役かな。【一過去】
- \* (2) どの人が主役だったかな。【＋過去】

### Ⅳ 「のだ文」

#### Ⅳ-A 真偽疑問文

- (1) 本当はこれがいいのかな。【形容詞，一過去】
- (2) 太郎の話では，これがいんだったかな。【形容詞，＋過去】
- \* (3) (太郎を見かけて) 今から仕事に行くのかな。【動詞，一過去】
- \* (4) 太郎は今日，午後から仕事に行くんだったかな。【動詞，＋過去】
- \* (5) 本当はあの部屋のほうが静かなのかな。【形容動詞，一過去】
- \* (6) (太郎が派手な傘を持っているのを見て) あれは太郎の傘なのかな。【名詞，一過去】

#### Ⅳ-B 疑問詞疑問文

- (1) 本当はどれがいいのかな。【形容詞，一過去】
- (2) 本当はどれがいんだったかな。【形容詞，＋過去】
- \* (3) (太郎を見かけて) どこへ行くのかな。【動詞，一過去】
- \* (4) 太郎は今日，どこへ行くんだったかな。【動詞，＋過去】

## 疑問表現

- \* (5) (自分自身で、心の中でつぶやいて) その仕事は誰がやるのかな。 <G 準 095> 【動詞，一過去】
- \* (6) 本当はどの部屋が静かなのかな。 【形容動詞，一過去】
- \* (7) これは一体誰の傘なのかな。 【名詞，一過去】

### 1.1.3 反語表現

※聞き手に対して言う場合と、独り言の場合とで、文末の形式等に違いがあるかどうかを確認する。

#### A 真偽疑問の反語文

- (1) (ひどい料理を出されて) そんなもの、食えるか!
- (2) そんなばかげたことはやるものか。 <G 準 098>
- \* (3) あの品物がそんなに安いものか!
- \* (4) あれが星なものか!
- \* (5) (あることを、必ずやるという気持で) やらないことがあるものか。 <G 本 194>

#### B 疑問詞疑問の反語文

- (1) (ひどい料理を出されて) そんなもの、誰が食うか!
- (2) (ひどい料理を出されて) どうしてそんなものを食べようか。
- (3) (ひどい料理を客に出そうとしているのを見て) そんなもの、誰が食うんだ!
- (4) (ひどい料理を客に出そうとしているのを見て) そんなもの、誰が食うだろうか!
- \* (5) そんなこと誰がやるものか。 <G 本 193>

### 1.1.4 問い返し疑問文

#### A 真偽疑問

- (1) (「明日、太郎が来るよ」と言われて、驚いて) え? 太郎が来る?
- (2) (「明日、太郎が来るよ」と言われて、驚いて) え? 太郎が?
- (3) (「明日、太郎が来るよ」と言われて「太郎」と呼び捨てにするのは失礼だという気持ちで) 太郎 (だって) ?
- (4) (友達が、また台風が来るようだとやっているの、驚いて) 何、また台風が来るんだって? <GAJ 本 194>

#### B 疑問詞疑問

- (1) (「明日、太郎が来るよ」と言われて、よく聞き取れず) 誰が来る (って) ?
- (2) (人の自己紹介がよく聞き取れず、隣の人に) あの人の名前、何だって?

### 1.2 間接疑問文

※ 疑問の従属節に下線を付す。

#### I 動詞述語文

##### I-A 真偽疑問文

## 疑問表現

- (1) 雨が止むかどうか (が) 分からない。【格助詞「ガ」付加が可, <肯定形>カドーカ】
- (2) 雨が止むか止まないか 分からない。【格助詞「ガ」の付加が可, <肯定形>カ<否定形>カ】
- (3) 雨が止むか 分からない。【格助詞「ガ」の付加が可, <肯定形>カ】
- (4) 雨が止むかどうか が重要だ。【格助詞「ガ」が必須, <肯定形>カ<否定形>カ】
- (5) 雨が止むかどうか (を) 教えてくれ。【格助詞「ヲ」付加が可, <肯定形>カ<否定形>カ】
- (6) (友達から今度の団体旅行に行くかどうかを尋ねられて) 行くか行かないか 分からない。<G本 186>【格助詞「ガ」の付加が可, <肯定形>カ<否定形>カ】

### I-B 疑問詞疑問文

- (1) 誰が行くか (が) 分からない。<G本 187>【格助詞「ガ」付加が可】
- (2) 誰が行くか が重要だ。【格助詞「ガ」が必須】
- (3) 誰が行くか (を) 教えて。【格助詞「ヲ」付加が可】
- (4) 誰が来たのか (に) 気付いた。【格助詞「ニ」付加が可】
- (5) どうしたらいいか, ため息が出る。【格助詞の付加が不可】
- (6) 何が起ころやら 分からない。<G本 125>【間接疑問がガ格, 「やら」】

## II 形容詞述語文

### II-A 真偽疑問文

- (1) あれが安いかどうか 分からない。【形容詞】
- (2) あの部屋が静かかどうか 分からない。【形容動詞】

### II-B 疑問詞疑問文

- (1) どれがいいか 分からない。【形容詞】
- (2) どの部屋が静かか 分からない。【形容動詞】

## III 名詞述語文

### III-A 真偽疑問文

- (1) あれが星か 分からない。

### III-B 疑問詞疑問文

- (1) あれが何か 分からない。

## 2. 疑問表現の意味・用法の範囲を記述するための調査項目

### 2.1 共通語の「か」の用法

#### a) <納得><了解>

- (1) (人の説明を聞いて, あいづちを打って) へえ, そうなのか。 ※丁寧体でも確認
- (2) (人の説明を聞いて, 心の中で) ああ, そうなのか。
- (3) (ふとしたことで疑問が解けて, 思わず独り言で) あ, そうか!

## 疑問表現

- (4) 「あれが山田先生だ」と教えてもらって) へえ、あの人が有名な山田先生か。  
※丁寧体でも確認
- (5) (人から太郎についての話を聞いて) そうか。とうとう太郎もあきらめたか。  
※丁寧体でも確認
- (6) (人から太郎についての話を聞いて) そうか。とうとう太郎もあきらめるか。  
※丁寧体でも確認

### b) 「意志形+カ」「否定形+カ」による、〈選択候補提示〉〈有力候補提示〉〈勧誘〉

- (1) 今日は肉を食べようか？ それとも、魚にしようか？ =1.1.1 IA(5)【〈意志形〉カ，  
選択候補提示による問いかけ】
- (2) 今日は久しぶりに肉でも食べようか。【〈意志形〉カ，有力候補提示による提案・勧誘】
- (3) 今日は久しぶりに肉でも食べようじゃないか。【〈意志形〉ジャナイカ，有力候補提示による提案・勧誘】
- (4) 今日は久しぶりに肉でも食べないか？ 【〈否定形〉(+カ)，有力候補提示による提案・勧誘】

※ 否定疑問文の意味・用法については、否定表現・確認要求表現の頁を参照。

### c) 間接疑問文の注釈副詞的な用法

- (1) 年のせいか，酒が弱くなった。
- (2) 何のご利益か，最近仕事が順調だ。

## 2.2 疑問詞疑問文による、とがめだて

- (1) a. (道で友達に会って) どこへ行くのか。 =1.1.1 IVB(3) 【中立的な問いかけ】  
b. (深夜に家とは逆方向に歩く友達に会って) こんな時間に一体どこへ行くんだ？  
言ってみなさい！ 【詰問】  
c. (深夜に家とは逆方向に歩く子供に会って) こんな時間にどこへ行くんだ！  
すぐに帰りなさい！ 【とがめだて】
- (2) a. 今さらやめるとは，どういうこと？ 説明して！ 【詰問】  
b. 今さらやめるとは，何を言うんだ！ 【とがめだて】  
c. 今さらやめるとは，何だ！ 【とがめだて】

## 2.3 不定表現

※不定語(「疑問詞+カ」「疑問詞+モ・デモ」)の成分に下線を付す。

### a) 「疑問詞+カ」

- (1) そのことは誰かが知っているだろう。 <G 本 189> 【疑問詞「誰」，ガ格】
- (2) そのことは誰か生徒が知っているだろう。 【疑問詞「誰」，ガ格】
- (3) 太郎が誰かをなぐった。 【疑問詞「誰」，ヲ格】
- (4) 太郎が誰かになぐられた。 【疑問詞「誰」，ニ格(受身の動作主)】

疑問表現

- (5) それはどこかに有るだろう。 <G 本 190> 【疑問詞「どこ」、ニ格（存在場所）】
- (6) 太郎はどこかで遊んでいる。 【疑問詞「どこ」、デ格（動作の場所）】
- (7) 太郎がどこかから電話をかけてきた。 【疑問詞「どこ」、カラ格】
- (8) 太郎は東京のどこかまでは着いただろう。 【疑問詞「どこ」、マデ格】
- (9) あの人はその仕事をいつかはやるだろう。 <G 準 094> 【疑問詞「いつ」、時の副詞句】
- (10) その話はいつか聞いたことがある。 <GAJ 本 191> 【疑問詞「いつ」、時の副詞句】
- (11) むこうから誰やら来た。 <G 本 126> 【疑問詞「誰」、ガ格、助詞「ヤラ」】

b) 「疑問詞+モ・デモ」

- (1) そのことは誰もが知っているだろう。 【疑問詞「誰」、ガ格】
- (2) 太郎は生徒の誰をも愛している。 【疑問詞「誰」、ヲ格】
- (3) 太郎が誰にでも好かれる。 【疑問詞「誰」、ニ格（受身の動作主）】
- (4) そんなものどこにでも有るだろう。 【疑問詞「どこ」、ニ格（存在場所）】
- (5) 太郎はどこででも寝る。 【疑問詞「どこ」、デ格（動作の場所）】
- (6) 太郎がどこからでも電話をかけてくる。 【疑問詞「どこ」、カラ格】
- (7) 太郎はどこまででも追いかけてくるだろう。 【疑問詞「どこ」、マデ格】
- (8) 太郎は何よりも酒が好きだ。 【疑問詞「何」、ヨリ格】
- (9) あの人はいつでも仕事のことを考えている。 【疑問詞「いつ」、時の副詞句】

疑問表現



## 確認要求表現

船木 礼子

### A 解説

#### 1. 確認要求表現とは

確認要求表現とは、話し手が聞き手に、命題内容についての真偽判断を求めたり、命題内容を情報として持っているかを尋ねたり、あるいは聞き手が持っている認識に関して、話し手のもつ認識（命題内容）と同じものに改めるよう働きかけるなどの、聞き手に対する何らかの要求を行う表現の一部を取り上げたものである。この確認要求表現には、否定疑問形式（標準語の「デハナイカ」など）や終助詞、推量表現形式など、さまざまなものが用いられている。つまり確認要求表現は、疑問（質問）、否定、推量、そして話し手と聞き手の間の情報や認識のあり方などをめぐる、さまざまな概念と形式によって複雑に構成されている表現だといえる。

確認要求表現として挙げられる文脈の幅は多様であるが、大意を損じることなく相互に取り換えが可能な場合もあれば、どれかの形式が全く不適格になってしまう場合もある。たとえば、標準語の「デハナイカ」と「ダロウ」を比べてみると、(1)と(2)は「デハナイカ（／ジャナイカ）」も「ダロウ」も適格だが、(3)～(5)は「ダロウ」が使えない。逆に(6)は「デハナイカ」が使えない。（例文末の矢印は文末イントネーションを示す。↑は上昇調、↓は下降調。また、用例中の\*は不適格であること、??は不自然であることを表す。）

- (1) 自分から言い出したん {じゃないか／だろ} ↓
- (2) 何をやる、危ない {じゃないか／だろ} ↓
- (3) よう、山田 {じゃないか／\*だろ} ↓
- (4) （不審な様子から）どうもあの男犯人 {じゃないか／\*だろ} ↑
- (5) （空模様を見て）雨でも降る {んじゃないか／\*だろ} ↑

(6) （手料理を供し）けっこうまい {\*んじゃないか／だろ}、おかわり有るぞ  
また、上記の(1)～(6)には全く使えない標準語の「ヨネ」は、「デハナイカ」や「ダロウ」と(7)の場合は互換がきくが、(8)の場合は入れ替えられない。

- (7) 同級生に加藤さんっていた {だろ／じゃないか／よね}
- (8) 私、ゆうべ、眼鏡、ここに置いた {\*だろ／\*じゃないか／よね}

標準語の終助詞「ネ」や「ヨ」も、「デハナイカ」と互換がきく(9)(10)のような場合もあれば、「ネ」しか使えない(11)や、「ヨ」しか使えない(12)のような場合もある。

- (9) （シュートを決めたのを見て）なかなかやる {じゃないか／ね／\*よ}
- (10) 仮にこれを A とする {じゃないか／\*ね／よ↑}。そうすると、B のところも A と

いうことになるんだ

(11) (聞き込みで)「それでは、あなたは 1 時に帰宅なさったんです { \*じゃないか / ね / \*よ }」「ええ」

(12) (何度も失敗すると責められ) 今度はちゃんとやる { \*じゃないか / \*ね / よ }

このように、標準語の「デハナイカ」、「ダロウ」、「ヨネ」および「ネ」、「ヨ」などのもつ意味・機能に注目が集まり、類義語の対照的研究やモダリティ研究の進展と連動して、1980 年代末から 1990 年代に標準語の確認要求表現の分類や記述が進んだ。似たような意味・機能を持つ複数の形式を対照することによって、個々の形式の意味・機能の特徴を詳しく導き出し、記述することが可能となったのである。

こうした多様な形式の対照によって、「確認要求」に関する表現と呼ばれるものの中に、以下のような大きな違いがあることが明らかになった。

(a) 形態的な違い

- ・体言接続か、接続の制限がないか
- ・疑問の力が省略できるか
- ・時制の分化があるか
- ・「ノダ」などのモダリティ形式が共起するか
- ・文末イントネーションが上昇か、下降か、制限がないか

(b) 意味的な違い

- ・聞き手に何を要求しているか  
命題内容の真偽判断 / 命題内容を情報として持っているか / 命題内容（話し手が持っている認識）の再受け入れ（共有情報の前景化）、など
- ・話し手と聞き手の間で情報（命題内容）が共有されているか  
共有されている場合、共有していることの確認を要求  
共有されていない場合、共有するよう要求（思い出させる / 新規に受け入れさせる / 新規に導入する、など）
- ・話し手にとって命題内容が既知かどうか  
命題内容が話し手にとって既知のものである場合、聞き手にも既知のものとして思い出させる（前景化）か、忘れていたなら再度認識させる  
命題内容が、話し手自身新規に受け入れたものである場合、話し手が新規に受け入れたということ自体を表示するか、その表示を受けた聞き手に聞き手自身の既知情報を前景化させる
- ・命題内容に推論が含まれるかどうか

【表 1】に示したのは、主に標準語を対象とした先行研究による、確認要求表現の分類である（方言研究の成果も部分的に反映させている）。各研究者がさまざまな観点から用法にラベリングを行っているので、観点によってはこの表中に反映されていない場合もあるが、確認要求表現にどのようなものがあるかを大雑把に把握することはできよう。【表 1】のうち「話し手と聞き手の情報量」という項目は、話し手を S、聞き手を H で示している。これはあくまで話し手の想定として、命題についての情報が話し手と聞き手のどちらが多く持っているかを示そうとしたものである。また、用例末尾の〈 〉には、先行研究の誰のラベリングかを略して示している。なお、田野村（1988）によるラベリングについては、

確認要求表現

本稿や【表1】では、田野村の用いている「ではないか<sub>1</sub>」を〈デハナイカⅠ類〉、「では

【表1 確認要求表現の分類】

聞き手への要求の種類	話し手と聞き手の情報量	デハナイカ	ダロウ	ヨネ	ヨ	ネ	先行研究によるラベリング	方言に関する先行研究の視点	例文
推論の含まれる命題内容についての聞き手の考え方や妥当性判断	S<H	△※					同意要求型の否定疑問文(安) 同意要求(高) ※田野村のデハナイカⅡ類・～ナイカⅡ類に相当		A:夏の風物詩と言えば花火大会じゃない？(高) B:ああ、そうだね。／えー、そうかな。夏といえば、スイカだよ。 A:手術してでも大会に出るなんて、すごいぞ？ B:ほんと、すごいよね。／そう？あたりまえだと思うけど… ※述語の否定疑問形式が用いられるので、名詞述語や形容動詞述語であればデハナイカが用いられる。 標準語では、状態性の述語・経験者主語を取る述語に限られる(安)。方言の形式によってはそうした制限がなく「～だと思わない？」に置き換えられる(高)。
推論の含まれる命題内容の真偽判断(もしくは命題内容についての聞き手の考え方や妥当性判断)	S≧H または S≦H	○					推測(三) デハナイカⅡ類(田)	推測(高)	A:マタロンが溺れ死んだというのは、ほんとうかね B:確認したわけじゃない。しかし今ごろはたぶん、沖あたりまでながされてるんじゃないですか(三、一部改変) A:今日は混んでるなー。何かあるのかな。 B:花火大会じゃない？(高)
推論の含まれる命題内容の真偽判断	S<H	○	○	○			命題確認の要求(三) デハナイカⅡ類(田)		あなた関西の人だから、そういう味つけ好きでしょ？(三) お宅からは、ずいぶん遠いんじゃないか(三) おまえも当然、お花見に行くよね？ A:今日、もしかして、花火大会じゃない？(高) B:ああ、そうだよ。
推論の含まれる命題内容の真偽判断(話し手の行為／行為指示の理由の理解)	表面上 S<H		○				命題確認の要求(聞き手の評価において命題が真であることの確認) (三) 推量確認(連)		どうだ、あつたかいだろう(三) 疲れたでしょ。ゆっくり休んでね。(連) (手料理を供し)けっこうまいだろう。おかわり有るぞ。 おい、熱いだろう、ちゃんと軍手をはめる ははは、どうだ、苦しいだろう、もっと苦しめ
命題内容を情報として持っているかについての肯定・否定の回答(共有情報の前景化)	S=H		○	○	○		知識確認の要求(潜在的共有知識の活性化) (三) 共通認識の喚起(連) デハナイカⅠ類(田)	聞き手が受け入れないことが可能(前)	社長の御子息の誕生パーティーでビンゴゲームやったろ(三) 「同級生に加藤さんっていた[だろう/じゃないか/よね]。背の高い男の子。」(連) 回答:うん。／えっ、そうだった？ 大阪方言のヤンカ/*ガナ
命題内容の新規受け入れ(情報(仮定など)の共有)	S≧H		○	○	○			聞き手が受け入れないことが不可能(前)	「仮に30人来るとするじゃない。そしたら、1人5千円の会費で、15万円くらいの予算でいけるよ。」(連) 「仮にこれをAとする[よね/よ↑]。そうすると、BのところもAということになるんだ。」 「～じゃない」の回答:うん/*えっ、そうかな 標準語の「ヨ」は上昇イントネーションのみ適格 大阪方言のヤンカ/(ヤ)ガナ
命題内容の再受け入れ(共有情報の前景化)	S>H		○	○			知識確認の要求(認識の同一化要求) (三) 認識形成の要請(連) デハナイカⅠ類(田)	命題内容が聞き手に関する事柄(聞き手の認識状態に対する話し手の依存を含む) (前)	「ばかなこと言ってるんじゃない！もう短大出たヤンカ」(前) 「先輩、ゴルフのことはかかしてたヤンカ」(前) 「土方さん、ずいき芋は好物だったヤンカ」(前) 大阪方言のヤンカ/*ガナ
			○	○				命題内容が話し手の判断(聞き手の認識状態に対する話し手の依存を含まない) (前)	「そんなに驚くことないだろう？」(三) 「だから言ったでしょ。あの人には気をつけなさいって。」(連) 「何をする、危ないじゃないか」(田) 「(小遣いをくれといわれて)あら！きのう渡しましたヤンカ/ガナ」(前) 「あなたが言い出したヤンカ/ヤガナ。おこづかいくれたら、どんどんはたらからって。」(前) 「(そんなのは許さないぞといわれて)なんでよっ！今お父さん「勝手にこしろ」って言ったヤンカ/ガナ」(前) 大阪方言のヤンカ/ガナ
					○			聞き手への反発(前)	「(探し物をしている人に、その在処を知っているだろうと責められ)知らんヤンカ/ガナ/ヨ」(木) 「(何度目失敗すると責められ)今度はずいぶんやるとヤンカ/ガナ/ヨ」(木) 「(「明日の予定についてわかっているかどうか念を押され)わかってるガナ/ヤンカ/ヨ」(前) 大阪方言のヤンカ/(ヤ)ガナ

①

②

③

確認要求表現

聞き手への要求なし (話し手自身を聞き手相当として扱う) 話し手による命題内容の新規受け入れの表示	—	○	△					驚きの表示(三) 認識生成のアピール(連) デハナイカI類(田)	聞き手がまだ認識していない現象や聞き手が直接知りえない話し手の個人的な評価(前)	「あれっ、雨が降ってるじゃないか」(三) 「なんだ、空っぽじゃないか」(連) 「なんだ、まだ誰も来てないじゃないか」(田) 「あんた、怪我してるじゃない」(前) 「なんだ、おまえ、まさにおじゃねえか」(前) 「このジャケット、素敵でしょ。」「うん、なかなか似合ってるじゃないか」(連) 「何はともあれ、合格したんだからめでたいじゃないか」(連) 大阪方言のヤンカ/*(ヤ)ガナ	→④
話し手による命題内容の新規受け入れ/前景化をうけて、聞き手が自分の情報に照らして前景化(再受け入れ)	S≤H	○					○	弱い確認要求(三)	聞き手が既に承知している事柄(前)	「よう、山田じゃないか」(田) 大阪方言のヤンカ/*(ヤ)ガナ 「おい今日はえらい短いスカートまいてるじゃないか」(三) 「久しぶりヤンカ」(前) 「君の結婚相手、なかなかの美人だそうじゃないか」(連) 「聞いたぞ、社内中に広まったらしいじゃないか」(三) 大阪方言のヤンカ/*(ヤ)ガナ	
推論の含まれない命題内容の真偽判断		○					○	確認要求(鄭) 命題確認の要求(かなり強い見込み含意)〈三〉		「あ、失礼しました。星泉さんですね?」「星泉です/はい、そうです/??そうですね」(鄭) 「今日、まだカンチと言も口利いていないね?」「うん...」(三) 「あなたは1時に帰宅したんですね」「ええ/いいえ、2時です」	
命題内容の新規受け入れ	S>H					○	○	○	聞き手にとって未知な情報を持ちかける(前) 新規話題の導入(前)	「このあいだ、歯がしみるから、歯医者さんに行ったのね。そしたら、知覚過敏だって言われたの。」 「あの子、今度結婚スルネヤンカ」 「こないだ試験ヤッテンヤンカ」 大阪方言ではヤンカ↓の音調が多い	→⑤
命題内容の共有(前景化)							○	同意要求(三)〈鄭〉		「今にも降って来そうですね」(三) 「悪戯にしたら厭味な悪戯ですね」/??そうだ/そうだね」(鄭) 「いやあ、また会いましたね」「そうですね」(鄭)	→⑥
命題内容を共有情報として前景化(再受け入れ)し、肯定する	S=H				○			相互了解の形成確認(連)	聞き手にとって新規情報(朝) 聞き手にとって既有情報(朝)	わかってるよね、これから何するの。(朝) *名古屋市のガ 「私、ゆうべ、眼鏡、ここに置いたよね。」(連) A: タイのお米ってまずいね。 B: そう? 私はあの独特の香りが好きだけど。カレーにはとても合うと思う。 A: (Cに向かって) まずいよね。(連) C: うん、ちよっとね。 ヨネだけでなく、ノデハナカツカや、大阪のヤンナも適格 名古屋市のガも適格	

【欄外矢印の発展的補足事項】

→①	共有すべき認識の提示(松)、仙台市「ツチャ」の対話用法B(玉) 例「私って、5月3日生まれジャン? だからいつも休みで、...」(松) 例「俺の部屋、西向きだツチャー」「あー、うん」「だから朝とか昼間とか全然日がはいらないんだ」(玉、一部改変)
→②	ダロウネ:「ベキダ」に相当する当為性判断を基底にもつ/ノデハナイダロウネ:懸念される事柄の非存在の確認に特化している(当為系)〈宮〉 例「ちゃんと持ってきたらうね」 例「もしかして、忘れたんじゃないだろうね」
→③	聞き手への反発を表せる終助詞 例)ワヨ、山口のイネ、富山のチャ、博多のタイ・パイなど 例)引用由来の終助詞類 「(探し物をしている人に、その在処を知っているだろうと責められ)知らないッテ/知らんツチューネン/知らないんダッテ」
→④	主要な用法は聞き手に対する認識変更要求である終助詞類の、独り言用法 例(独り言で)「チューニングしてるだけだツツー」
→⑤	「ノダ+終助詞類」による情報提供用法との関わり 例)東京のノダ+ッテ 「昨日、お台場に行ったんだッテ」「へー」「そしたらさ、××がいてさー...」 例)関西のノダ+ワ 「今日?今日はあかんわ、おれ今日午後から京都に行くねんわー」「ふーん、仕事?」
→⑥	同意要求の応答で必須となる場合の要求性が全くない「ネ」は、同意表明(三)

・先行研究に用いられているラベリング(用語)や用例には以下の略号を付けている。  
 (朝)…朝日祥之(2001)、(安)…安達太郎(1999)、(木)…木川行央(1996)、(高)…高木千恵(2005a)、(田)…田野村忠温(1988)、  
 (玉)…玉懸元(2001)、(鄭)…鄭相哲(1995)、(連)…蓮沼昭子(1995)、(前)…前川朱里(2000)、(松)…松丸真大(2001)、  
 (三)…三宅知宏(1994・1996)、(宮)…宮崎和人(1999・2000)

ないか<sub>2</sub>〈デハナイカⅡ類〉、「ではないか<sub>3</sub>」を〈デハナイカⅢ類〉と呼ぶことにする。

形式によっては、一方で確認要求表現を担いつつ、もう一方で全く要求性のない用法をもつこともある。【表1】では要求性のない用法を省いているが、「何を」要求するのかわからない点があることによって用法に幅があると思われるものについては、要求性を持つ用法との派生関係を考えるために部分的に残している。また、用法の拡張や、似た形式による別用法など、発展的課題としてとりくめそうな項目については、表1の右欄外に、矢印「→」と丸囲み番号をつけ、メモとして表の下で補足している。表1には、このような作成者の恣意も混じっていることをご承知おきいただきたい。

## 2. 日本方言の確認要求表現

方言の確認要求表現の記述は、1980年代末ごろから標準語の「ではないか」や「だろう」および「よ」「ね」「よね」に関する研究成果が続々と出てきたことを受け、これを援用して進みだしたばかりの分野である。各地の方言形式について記述が進められているが、日本方言の全体像はまだ見えていない。

これまでに行われた方言の確認要求表現の記述を、以下に挙げてみる。もちろん、これだけが全てということではなく、ある終助詞の文法的記述として独立しているものはここに含まれていない。推量表現形式についても、推量表現の形式がその対人的拡張用法として確認要求表現を持つとの認識が標準語研究において示されているため、推量表現の記述のなかで「確認要求表現にも使われる」との補足的な書かれ方をすることがよくある。この点、方言の立場からは、推量表現形式なのに確認要求表現に使えない、あるいは推量表現形式に由来しているが確認要求しか表せない、などの事象を掘り起こすほうが、現象の多様性が示せておもしろいだろう。

- ・ 否定疑問形式

秋田方言のネガ・デネガ（高清水 2001）、兵庫県西脇市のヤナイカ・ヤンカ（木川 1996）、大阪方言のジャナイ（カ）・チャウ（カ）・ヤンカ（前川 2000、高木 2005a）、コトナイカ（高木 2005b）

- ・ 終助詞

秋田県横手・平鹿方言のシャ（佐々木 1999）、仙台のチャ（玉懸 2000）、鳥取市のガ（浅尾 2001）、名古屋市のガ（朝日 2001）、松江のガ（松丸 2005）、山形市のドレ（渋谷 2001）、東京のジャン（松丸 2001）、山口のジャ（船木 2001a）、

- ・ 推量表現形式

山形市のベ、ベシタ（渋谷 2001）、旧南部藩域のゴッタ（日高 2000、船木 2001b、橋本（船木）2004）、秋田北部のビョン／ベオン（日高 1999、日高 2000）、高知のロウ（橋本（船木）2004）。

## 3. 調査の着眼点

終助詞の場合はいうまでもないことだが、標準語の否定疑問形式や推量形式に相当する方言の形式がまったく標準語と同じような意味・機能を持っているとはいえないため、文法記述（特に意味や機能の記述）の際には、方言ごとに対応しなければならない。

しかし、記述のおおまかな参照枠として、【表1】に挙げたような標準語形式の意味・

機能の枠組み利用するのは、意味・機能を整理するためにも、のちに方言対照研究に発展させるためにも有益であろう。

### 3.1 確認要求表現を調査する2つの方向

確認要求表現に限らず、文法形式を記述するための調査する際、形態的特徴、統語的特徴を調べる方向と、意味的特徴を調べる方向の両面から、それぞれの特徴を把握していくのが基本である。

#### (a) 形態的特徴、統語的特徴を調べる方向

- ・その形式の語形変化の有無
- ・承接関係
- ・生起する文タイプ
- ・文末イントネーションのありかた
- ・統語的な特徴のちがい
  - ・前接要素に制限がないか（名詞・準体助詞・形容詞・動詞など）
  - ・テンスが分化するか（～デハナカッタカ）
  - ・ノダ文にできるか（～デハナイノカ）
  - ・動詞意志形に後接するか（さあ行こうデハナイカ）
  - ・推量形式に後接するか（多分あいつが行くじゃろうジャー（山口方言，船木2001a）など）
  - ・どのようなタイプの終助詞と共起するか／しないか
  - ・疑問の力の省略が可能か（ダロウカは不可（ダロウが推量になる）など）
- ・出自（わかる範囲で）
 

東京のジャン（＜ジャンカ）、山形市のデ（＜指示詞のドレ）、秋田北部のビョン（＜ベモノ）、など

出自の違いによって、その形式の形態的・統語的ふるまいが、意味によるのか、形式の出自によるのかの見当が付く可能性がある。

#### (b) 意味的特徴を調べる方向

- ・中心的な意味はなにか
 

命題内容の見込み化（デハナイカ）、推量（ダロウ）、共有化（ネ）、一方的伝達（ヨ）、など
- ・誰の認識（情報）が関与するのか
 

話し手のみ（既知情報の再認識）、既知情報を更新、新規情報の新たな認識）、聞き手（が持っていると思定される認識）、など
- ・話し手と聞き手の認識のギャップの有無
- ・何を要求するのか
 

話し手の既知の認識の伝達、話し手が認識のギャップを埋めたことを伝達（話し手が認識を更新したことを聞き手が受け入れること、話し手が命題内容を新規導入したことを聞き手が受け入れること）、話し手と聞き手の認識のギャップを聞き手が埋めることの命令（聞き手が認識を更新すること、聞き手が命題内容を新規導入すること、話し手との認識の共有）など

### 3.2 確認要求表現の意味・用法についての調査のキーポイント

意味・機能や用法についての調査は、一律に示しづらい。ここではキーポイントとなりそうなものを2点挙げるにとどめる。

#### (1) 話し手や聞き手の情報把握（認識）に焦点を当てる

たとえば、話し手の情報把握に基づいた、情報（認識）の更新などの認知的操作に関するもの（話し手が話し手自身のこれまでの認識を改める場合、独り言にもなり得る）、話し手と聞き手の間の情報のあり方に基づいた、情報把握（認識）に関する行為指示に関するもの、情報把握それ自体よりも聞き手に対する配慮や話し手の行為の理由付けを重視した語用論的なものなどが考えられる。また、こうした情報の操作意図を明らかにすることによって、さまざまなニュアンス（話し手自身の驚きや、聞き手へのいらだちや非難など）が説明できる。

#### (2) 一形式が担いうる意味・機能に焦点を当てる

ある一形式がモダリティ内部の複数の領域をまたいでいることが多い。たとえば、標準語の「ダロウ」などの推量形式は「推量」と「確認要求」の両方に用いられるし、標準語の「デハナイカ」はデハナイカⅠ～デハナイカⅢ類を同形式で表せる。しかし、方言では、標準語とのパラダイムの違いがみられることがある。例えば、方言で否定推量としてマイを用いている地域では、否定化された命題内容についての確認要求もマイで表せる場合がある。また、方言によってはデハナイカⅠ類、デハナイカⅡ類をそれぞれ別の形式が担っているところもある。

## 4. 現状

現在、確認要求表現を対象とした方言研究は、標準語研究の成果をベースに、各方言形式に当てはめて整理し、部分的に異なる用法などを見つけ出している段階である。標準語の確認要求表現の研究を援用することによって、方言の否定疑問形式や推量形式、終助詞類の文法記述に新展開があったとも言える。標準語とは異なった意味・機能や用法が見つかった例を、以下2つほど挙げる。

### 4.1 標準語の確認要求表現形式にない弁別特徴や意味・機能を見つけ出す（細分化）

聞き手に対して話し手が自分の認識を示したり、聞き手に命題（話し手の認識）の真偽を確かめたり、もしくは聞き手に再認識させたり、聞き手が持つ認識を改めさせるなどの表現を担っているのが「確認要求表現」と呼ばれるものである。このため、話し手と聞き手の間で情報や情報把握のありかたを調整する一方法として、その方言の独自性もしくは他方言との共通性を明らかにできる可能性がある。

たとえば、名古屋方言のガは標準語の「よね」とも重なる用法をもつが、その情報が聞き手にとって新規のものであると、不適合になるという（朝日 2001）。つまり、名古屋市のガは話し手と聞き手との間の情報の共有性が強い表現だと考えられる。

(13)私、ゆうべ、眼鏡、ここに置いた {よね/ガ}。〈朝〉（聞き手が既知）

(14)わかってる {よね/\*ガ}, これから何するのか。〈朝〉（聞き手は未知）

## 4.2 確認要求表現形式の用法の拡大

標準語でも「デハナイカ」と「ヨ」は使用できる文脈にかなり重なりがある。このことは多くの方言で共通しているのだが、近年の方言の否定疑問形式や終助詞の記述のなかには、さらに「ヨ」の領域に踏み込んでいる例が報告されている。

東京のジャン、ジャナイや、大阪のヤンカなどのノダを介さない「デハナイカ」相当形式や、東北の推量形式ベーなどが、以下のように用いられる。

(15) (自分の誕生日を知らない聞き手に対して) 私って、5月3日生まれジャン? だからいつも休みで、… (松丸 2001)

(16) (そんなに話したことの無い聞き手に対して) 私って、嘘がつけないジャナイデスカー。だから、嘘をつくとすぐ顔にでちゃうんです。

こうした表現は会話の第一発話部で用いられ、話し手は聞き手にとっての新情報を提示する。これによって、話し手は会話の前提を導入して、話をさらにすすめるのである。こうした用法は、共通認識の喚起〈蓮〉・知識確認の要求(潜在的共有知識の活性化)〈三〉から用法が拡大したものと考えられる(松丸 2001)。

(17) ほら、あそこにポストが見えるでしょ。

実際は(17)が発話された時点で聞き手が対象を認識しておらず、話し手の発話による発話内行為(ポストを見よ)が聞き手に理解され、発話媒介行為(聞き手が視界の中にポストを探し、ポストを見つける)が遂行されるといった文脈でも、デハナイカが使用できる。こうした、話し手が聞き手に発話の前提を共有せよと要求する表現が、さらに拡大し、発話時以前には共通認識がなくても、話し手が述べた命題内容はこれからの会話の中で共有されるべきものだと示すことにより、命題内容の受け入れを要求するわけである。またこのことは、この話題について聞き手が共通認識を受け入れることを前提に、話し手がさらに話を続けるという談話展開を含意するため、話し手の会話ターンの維持という談話機能も併せ持つ。

また、大阪のヤンカはノダを介して、以下のように聞き手が全く知らない情報をこれからの会話の前提として導入する表現にもなっている。

(18) 昨日は私、東京に出張やってンヤンカー。そんでなー、…

山口方言の終助詞ジャの場合、ノダを介さない場合は「デハナイカ」I類の意味範囲にあるが、ノダを介して成立したと考えられる終助詞「ンチャ」は大阪のンヤンカ(上記の(18))と同様の意味となる。

(19) 昨日は私、東京に出張ジャッタンチャー。そいでね、… (東京に出張だったのよ)  
cf.(19') 昨日は私、東京に出張ジャッタジャー (東京に出張だっただろう/じゃないか)

## 5. 発展

方言における確認要求表現の研究は、標準語研究の成果を応用しながらスタートを切ったばかりであり、まずはデータの積み重ね、これを踏まえての理論的展開が必要である。ここで、敢えて発展的課題に触れるとすれば、以下の3つが挙げられるだろう。

### 5.1 方言対照研究として

3.1 で列挙したような調査ポイントをいくつかを組み合わせ、標準語だけでなく方言



間の対照をおこなうと、各方言形式の違いや多様性が見えてくるだろう。確認要求表現のうち、どのような点を細分化するかが、方言によって異なっている可能性もある。このことは、方言（方言文化）によって重視する領域が異なることを意味するのかもしれない（もちろん安易な文化論は避けるべきだが）。どのような方言がどのような領域をどのように細分化させているかを調べていくことは、部分的ではあるが、日本にあるさまざまな方言についての類型論的な把握にもつながっていくと思われる。

## 5.2 言語（方言）接触研究の事例として

玉懸（2001）は、標準語化が進む仙台市方言において、標準語化をまぬがれた方言形式の持つ意味・機能の特質について考えるために、確認要求表現を担う仙台市方言の「ツチャ」の用法を記述している。仙台市の「ツチャ」は、頻繁に相手に同意を求めたり確認したりする現代の若年層の嗜好する対話の手法にマッチするものであったため、若年層にも維持されているという。

また、これとは対照的に、高木（2005a）は近畿方言の否定疑問形式を取り上げて、標準語の影響によって地域方言が変容していく変化のなかで、近畿の若年層が標準語のジャーナイ（カ）を取り入れつつ、旧来のチャウ（カ）、ヤン（カ）とともに使い分けているさま—すなわち、標準語や近畿非若年層では一形式が広い意味範囲を担っていたが、若年層では形式と意味の対応が一对一に近づいてきていることを、意味の棲み分けの事例として報告している。

このように、現象の現れ方やその現象の捉え方はさまざまだが、現代の方言を考える上で標準語の影響は無視できない。接触によってどのような結果となるかは多様であろうが、確認要求表現が話し手と聞き手の間の情報や情報把握のありかたを調整する一方法であることから、確認要求表現を担う形式は会話の中での使用頻度が高いモダリティ形式として注目すべき項目だと思われる。

## 6. 文献

- 浅尾いずみ（2001）「鳥取市方言における文末詞ガー」『阪大社会言語学研究ノート』3  
 朝日祥之（2001）「名古屋市方言における文末詞「ガ」」『阪大社会言語学研究ノート』3  
 安達太郎（1991）「いわゆる『確認要求の疑問表現』について」『大阪大学日本学報』10  
 安達太郎（1999）『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版  
 木川行央（1996）「兵庫県西脇市方言における終助詞「ガナ」と「ヤンカ」・「ヤナイカ」」  
 平山輝男博士米寿記念会編『日本語研究諸領域の視点』明治書院  
 金水敏（1991）「伝達の発話行為と日本語の文末形式」『神戸大学文学部紀要』16  
 金水敏（1992）「談話管理理論からみた『だろ』」『神戸大学文学部紀要』19  
 金水敏（1993）「言語学の最新情報〈日本語学〉：終助詞ヨ・ネ」『月刊言語』22-4  
 国立国語研究所（1960）『国立国語研究所報告 18 話しことばの文型（1）—対話資料による研究—』  
 国立国語研究所（1963）『国立国語研究所報告 23 話しことばの文型（2）—独話資料による研究—』  
 佐々木雅典（1999）「秋田県横手・平鹿方言の終助詞「シャ」の意味分析」日高水穂編『秋

- 田大学ことばの調査』1
- 渋谷勝己(2001)「山形市方言における確認要求表現とその周辺」『阪大社会言語学研究ノート』3
- 高木千恵(2005a)「関西若年層にみられる標準語形ジャナイ(カ)の使用」『日本語の研究』1-2
- 高木千恵(2005b)「大阪方言の述語否定形式と否定疑問文—「～コトナイ」を中心に—」『阪大社会言語学研究ノート』7
- 清水佳子(2001)「秋田方言における「じゃないか」相当形式「ネガ」と「デネガ」について」日高水穂編『秋田大学ことばの調査』2
- 田野村忠温(1988)「否定疑問小考」『国語学』152
- 玉懸元(2001)「宮城県仙台市方言の終助詞「ッチャ」の用法」『国語学』205
- 鄭相哲(1992)「いわゆる確認要求のネとダロウ」『日本学報』11(大阪大学)
- 鄭相哲(1995)「ネとダロウとジャナイカー確認要求形式」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法』くろしお出版
- 中野伸彦(1996)「確認要求の平叙文と終助詞「ね」—江戸語と現代語—」『山口明穂教授還暦記念 国語学論集』明治書院
- 中野伸彦(1998)「確認要求の平叙文の「だろう」」『東京大学国語研究室創設百周年記念 国語研究論集』汲古書院
- 仁田義雄・益岡隆志編(1989)『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版
- 橋本(船木)礼子(2004)『日本語諸方言における意志・推量表現の変化に関する研究』博士学位論文(大阪大学)
- 蓮沼昭子(1995)「対話における確認行為—「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」仁田義雄編『複文の研究(下)』くろしお出版
- 日高水穂(1999)「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」(解説)日高水穂編『秋田大学ことばの調査』1
- 日高水穂(2000)「秋田方言の文法 3-5 推量・意向の表現」(114-115頁)秋田県教育委員会編『秋田のことば』無明舎出版
- 船木礼子(1999)「意志・推量形式「べー」の対照—用法変化の推論—」『待兼山論叢』33
- 船木礼子(2001a)「山口方言の文末に見られるジャについて—断定辞のジャと文末詞のジャ—」『阪大社会言語学研究ノート』3
- 船木礼子(2001b)「男鹿・八郎潟周辺地域の推量・意向表現」日高水穂編『秋田大学ことばの調査』2
- 船木礼子・佐竹久仁子(2004)「静岡県中川根方言の推量・意志・勧誘表現」『静岡・中川根方言の記述』大阪大学大学院社会言語学講座報告集
- 前川朱里(2000)「「(ヤ)ガナ」と「ヤンカ」の用法・機能上の相異について—「ではないか」との対比を中心に—」『現代日本語研究』7
- 松丸真大(2001)「東京方言のジャンについて」『阪大社会言語学研究ノート』3
- 松丸真大(2005)「島根県松江市方言のガ系文末詞」『阪大社会言語学研究ノート』7

確認要求表現

- 三宅知宏 (1994) 「否定疑問文による確認要求的表現について」『現代日本語研究』 1
- 三宅知宏 (1995) 「「推量」について」『国語学』 183
- 三宅知宏 (1996) 「日本語の確認要求的表現の諸相」『日本語教育』 89
- 三宅知宏 (1997) 「「愛だろ, 愛っ。」—推量と確認要求」『月刊言語』 26-2
- 宮崎和人 (1993) 「「～ダロウ」の談話機能について」『国語学』 175
- 宮崎和人 (1995) 「「～ダロウ」をめぐる」『広島修大論集 (人文編)』 35-2
- 宮崎和人 (1996) 「確認要求表現と談話構造—「～ダロウ」と「～ジャナイカ」の比較—」  
『岡山大学文学部紀要』 25
- 宮崎和人 (1998) 「否定疑問文の述語形態と機能—「(ノ) デハナカッタカ」の位置づけの  
検討—」『国語学』 194
- 宮崎和人 (1999) 「確認要求表現としての「ダロウネ」」『日本語科学』 6
- 宮崎和人 (2000) 「確認要求表現の体系性」『日本語教育』 106
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『モダリティ』 くろしお出版
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法 3 モダリティ』 岩波書店

## B 項目

- ・調査例文は、「A 解説」中に挙げた【表 1】に沿って、先行研究による意味・機能の細分化を活かすかたちで構成している。なお、項目の見出しには、筆者が統一的な見出しがないし新たなラベリングを行うことは避け、各研究者によるラベリング（用語）や説明を示しておく。
- ・先行研究に用いられているラベリング（用語）や用例には以下の略号を付けている。
 

〈朝〉…朝日祥之（2001）	〈鄭〉…鄭相哲（1995）
〈安〉…安達太郎（1999）	〈蓮〉…蓮沼昭子（1995）
〈木〉…木川行央（1996）	〈前〉…前川朱里（2000）
〈高〉…高木千恵（2005a）	〈松〉…松丸真大（2001）
〈田〉…田野村忠温（1988）	〈三〉…三宅知宏（1994），（1996）
〈玉〉…玉懸元（2001）	〈宮〉…宮崎和人（1999），（2000）
〈G 本○○○〉…GAJ 本調査(○○○は質問番号)	
〈G 準○○○〉…GAJ 準備調査(○○○は質問番号)	
- ・調査例文のなかでは、否定疑問形式と推量形式を標準語形で代表させて示す。ただし、終助詞類については、標準語形（「ね」「よ」「よね」「わ」など）で示せるものは標準語形で代表させるが、個別的に方言形でなければ示せない場合は方言形と地名を例として出している。
- ・様々な形式がこの確認要求表現としてピックアップされることが予想されるので、各形式の形態的特徴の確認項目はここでは省略する。各方言形式にあわせて、語形変化や承接のありかた、生起する文タイプ、テンスやみとめ方の分化のありかた、丁寧形の有無などについて確認されたい。また高木（2005a），（2005b）の報告にあるように、前接要素（動詞，形容詞，形容動詞，名詞）によって確認要求表現形式が分かたれている場合もある。調査対象にあわせて承接関係の例文を設定してほしい。

### 【1】同意要求型の否定疑問文〈安〉・同意要求〈高〉

話し手が聞き手に、命題内容についての聞き手の考えや妥当性判断を要求する。

述語の否定疑問形式が用いられる。ただし名詞述語や形容動詞述語であればデハナイカが用いられる（デハナイカⅡ類〈田〉）。標準語では、状態性の述語・経験者主語を取る述語に限られるが〈安〉、方言の形式によってはそうした制限がなく「～だと思わない？」に置き換えられる〈高〉。

詳しくは、否定表現の項目を参照されたい。

1-1 A：夏の風物詩と言えば花火大会じゃない？〈高〉

B：ああ、そうだね。／えー、そうかな。夏といえば、スイカだよ。

1-2 A：手術してでも大会に出るなんて、すごくない？

B：ほんと、すごいよね。／そう？あたりまえだと思うけど…。

### 【2】推測〈三〉・デハナイカⅡ類〈田〉・推測〈高〉

話し手が聞き手に、推論の含まれる命題内容の真偽判断、もしくは命題内容についての聞き手の考えや妥当

性判断を要求する。ただし、聞き手には命題内容についての情報がなく、話し手も、見込みはもっていても確言できない情報量しかもっていない。

標準語では、体言を受けるときは「デハナイカ」、用言を受けるときは「ノデハナイカ」が用いられる(準体助詞が必須)。副詞「もしかして」などと共起しやすい。文末イントネーションも上昇調(↑)である。

2-1 A : あいつ、ふるえてるよ。

B : あいつ、犬が怖いんじゃないか? 〈高, 一部改変〉

2-2 A : 今日は混んでるな。何かあるのかな。

B : 花火大会じゃない? 〈高〉

### 【3】命題確認の要求〈三〉・デハナイカⅡ類〈田〉・推測〈高〉

聞き手だけに帰属する情報(判断・感情・感覚など、つまり情報量はS<H)について、話し手が推論によって妥当な把握をしていると話し手が見込んでいる。これを命題として示し、聞き手に真偽判断させる。

【2】と同様、標準語では、体言を受けるときは「デハナイカ」、用言を受けるときは「ノデハナイカ」が用いられる(準体助詞が必須)。また「ダロウ」や「ヨネ」も使われる。既存の情報に焦点をあて記憶の検索を行わせる副詞ホラとは共起しない。質問なので、文末イントネーションは上昇調(↑)となる。

3-1 あなた関西の人だから、そういう味つけ好きでしょ? 〈三〉

3-2 お宅からは、ずいぶん遠いんじゃないですか。〈三〉

3-3 おまえも、当然、お花見に行くよね?

3-4 A : 夏の風物詩と言えば花火大会じゃない? 〈高〉

B : ああ、そうだね。

3-5 A : (外を見て) 今日とはとくに夜景がきれいじゃない? 〈高〉

B : うん、そうだね。すごくきれいだ。

3-6 【動詞・否定事態】あなた、そんなところには行かないでしょ?

3-7 【動詞「ある」・否定事態】学校には、そんなものありはしないだろ/あるまい?

3-8 【形容詞・否定事態】お宅からは、近くないでしょ?

3-9 【名詞・否定事態】カタカナで「トヨタ」といったら、普通「織機」じゃないでしょ?

### 【4】命題確認の要求(聞き手の評価において命題が真であることの確認)〈三〉・推量確認〈蓮〉)

話し手は聞き手に帰属する情報(判断・感情・感覚など)について、話し手が推論によって妥当な把握をしていると話し手が見込んでいる。しかし、このことを示した命題内容について聞き手に真偽判断させる形式をとりながらも、実際はその真偽判断が重要なのではなく、話し手が今行っている行為、これから行う行為や行為指示の理由づけを、その命題を示すことによって表すという、語用論的な用法である。このため、表面上は情報量がS<Hだが、この発話の目的が話し手の行為の理由付けであるため、実際には情報量はS≥Hであり、肯定否定の回答は必須ではない。

標準語ではダロウだけが使われる。副詞「ホラ」や「ドウ(ダ)」などと共起でき、文末イントネーションは上昇調(↑)にも下降調(↓)にもなる。

4-1 【話し手の現在の行為の理由付け】どうだ、あったかいだろう。〈三〉

4-2 【話し手の勧めの理由付け】疲れたでしょ。ゆっくり休んでね。〈蓮〉

4-3 【話し手の申し出の理由付け】重いでしょう。お持ちしますよ。

- 4-4 【話し手の現在の行為の理由付け】(子どもをくすぐり) ほら、くすぐったいだろう、ほらほら。(もっとくすぐる)
- 4-5 【話し手の勧めの理由付け】(手料理を供し) けっこううまいだろ。おかわり有るぞ。
- 4-6 【話し手の命令の理由付け】おい、熱いだろう、ちゃんと軍手をはめろ
- 4-7 【話し手の現在の行為の理由付け・否定事態】(カーテンを閉めて) どうだ、こうしたら陰が映らないだろう。
- 4-8 【話し手の勧めの理由付け・否定事態】まだまだお腹がふくれていないでしょ。もう少し召し上がれ。
- 4-9 【話し手の命令の理由付け・否定事態】おい、それじゃ見えないだろう、ちゃんと立てろよ。

**【5】知識確認の要求(潜在的共有知識の活性化)〈三〉・共通認識の喚起〈蓮〉・デハナイカI類〈田〉・聞き手が受け入れないことが可能〈前〉**

話し手が、聞き手も知っている可能性がある情報(つまり情報量は  $S=H$ )を聞き手に伝えることで、聞き手を話し手と同じ認識状態に至らせ、認識のギャップを埋めようとする。聞き手が命題内容を既知情報として持っているかどうか(話し手の発話に導かれて発話の場で当該情報を知った場合も含む)について、聞き手の回答が要求される。聞き手には、話し手が提示した事柄を受け入れるか否かの選択の余地があるので、命題内容を肯定する回答・否定する回答のどちらもありうる。

標準語では「デハナイカ」「ダロウ」「ヨネ」が用いられる。副詞「ホラ」と共起し、文末イントネーションは上昇調(↑)にも下降調(↓)にもなる。

- 5-1 【過去の共有知識を思い出させる】社長の御子息の誕生パーティーでビンゴゲームやっただろ〈三、一部改変〉
- 5-2 【過去の共有知識を思い出させる】ほら、同級生に加藤さんっていたじゃないか。〈蓮、一部改変〉
- 5-3 【一般的知識を思い出させる】米は普通、炊飯器で炊くよね。それを、あの子は「茹でる」って言うんだよ。
- 5-4 【一般的知識を思い出させる】ほら、あいつは東京うまれだろう。
- 5-5 【発話時に共有すべき知識を導入する】あそこに郵便ポストが見えるじゃないか。そのすぐ先の角を…〈蓮、一部改変〉
- 5-6 【発話時に共有すべき知識を導入する】ほら、ここは日が当たっているだろう。だから変色したんだよ。
- 5-7 【一人称者に関する共有情報を導入する】ほら、ぼく、どちらかというとな背が高いほうじゃないか。だからいつも後ろのほうに並んでいて…
- 5-8 【二人称者に関する共有情報を導入する】おまえって、結構足が速いよね。だからリレー選手に選ばれたんだよ。
- 5-9 【過去の共有知識を思い出させる・否定事態】ほら、あの時山田先生は来なかっただろう。
- 5-10 【一般的知識を思い出させる・否定事態】ほら、この辺りではそんなもの食べないだろう。
- 5-11 【発話時に共有すべき知識を導入する・否定事態】ほら、ここからはあのポスターが

見えないだろう。だから、もっと右に貼ったほうがいいよ。

**【6】知識確認の要求（潜在的共有知識の活性化）〈三〉・共通認識の喚起〈蓮〉・デハナイカ I 類〈田〉・聞き手が受け入れないことが不可能〈前〉**

会話を進める前提として、話し手がある命題内容を提示し、これを聞き手に認識させる際に、話し手が提示した事柄について、聞き手がそれを受け入れる返答をするか否かの選択の余地はない。聞き手には命題内容を受け入れを表す回答（肯、あいづちなど）が要求される。情報量は $S \geq H$ であり、前件を受け入れることが、後件の内容を成立させる前提となる

標準語では「デハナイカ」「ダロウ」「ヨネ」および上昇調（↑）の「ヨ」が用いられる。

- 6-1 仮に 30 人来るとするじゃない。そしたら、1 人 5 千円の会費で、15 万円くらいの予算でいけるよ。〈蓮〉
- 6-2 【6-1 に対する否定事態】「仮に 30 人来ないとするじゃない」に相当する意味で、「来るマイ」や「来ないジャナイカ」のような形式で表現することが可能か？
- 6-3 ここにチーズを置いておく。すると、ネズミが来て食べるだろう。そしたら、カゴの蓋が閉まる仕組みなんだ。
- 6-4 【6-3 に対する否定事態】ここに網戸をつけておく。すると、蚊が入らないだろう。そしたら、蚊取り線香はいらなくていいよ。

**【7】知識確認の要求（認識の同一化要求）〈三〉・認識形成の要請〈蓮〉・命題内容が聞き手に関する事柄（聞き手の認識状態に対する話し手の依存を含む）〈前〉・デハナイカ I 類〈田〉**

命題内容が聞き手に帰属する事柄で、聞き手はその事柄を話し手の発話時直前に認識していないだけで、記憶はしているはずだと話し手が想定している（聞き手はその事柄を覚えているはずだ、と話し手が期待している）。このため、命題内容について聞き手の肯定否定の回答が要求される。

標準語では「デハナイカ」「ダロウ」が用いられる。

- 7-1 ばかなこと言ってるんじゃない！もう短大を出たじゃないか。〈前、一部改変〉
- 7-2 先輩、ゴルフのことばかにしてたじゃないか。〈前、一部改変〉
- 7-3 あんた、ずいき芋は好物だったじゃないか。〈前、一部改変〉
- 7-4 【否定事態・恒常的状态】おまえはいつも納豆は食べないじゃないか。
- 7-5 【否定事態・現在の状態】おまえはまだ高校を卒業していないじゃないか。

**【8】知識確認の要求（認識の同一化要求）〈三〉・認識形成の要請〈蓮〉・命題内容が話し手の判断（聞き手の認識状態に対する話し手の依存を含まない）〈前〉・デハナイカ I 類〈田〉**

話し手は、聞き手が行った行動や発言から、聞き手はその事柄について何も認識がない（全く忘れている）と判断し、話し手の現在の認識（および過去に聞き手が持っていたはずの聞き手の認識）と矛盾があることを主張する。このため、聞き手は命題内容についての肯定否定の回答は要求されず、命題内容（話し手が主張する認識）の受け入れを要求される。

標準語では「デハナイカ」「ダロウ」が用いられる。

- 8-1 そんなに驚くことないだろ？ 〈三〉 / そんなに驚かなくてもいいだろ？
- 8-2 だから言ったでしょ。あの人には気をつけなさいって。〈蓮〉

- 8-3 何をする，危ないじゃないか。〈田〉
- 8-4 （小遣いをくれといわれて）あら！きのう渡しましたでしょう。〈前，一部改変〉
- 8-5 あんたが言い出したんじゃないか。おこづかいくれたら，どんどんはたらくからって。  
〈前，一部改変〉
- 8-6 （そんなのは許さないぞといわれて）なんでよっ！今お父さん「勝手にしろ」って言ったじゃない。〈前，一部改変〉
- 8-7 【否定事態・恒常的状态】（もうやったかと言われて）何言ってんの。日曜日にはやらないでしょう！
- 8-3 【否定事態・現在の状態】（バカと言われたと泣かれて）そんなこと言ってないだろう！

### 【9】聞き手への反発〈前〉

話し手は，聞き手が話し手と同じ認識を持つことが可能なことについて話し手とは異なる認識をして話し手を疑っていると判断し，これを訂正する（話し手と同じ認識に至らせる）ために聞き手に発話する。このため，聞き手は命題内容についての肯定否定の回答は要求されず，話し手の述べる命題内容の受け入れを要求される。標準語では下降調（↓）の「ヨ」が用いられるが，「～なわけじゃないか」や「～と言っているじゃないか」などの形式に置き換え可能な場合がある。

- 9-1 （探し物をしている人に，その在処を知っているだろうと責められ）知らないよ／知るわけじゃないじゃないか。〈前，一部改変〉
- 9-2 （何度も失敗すると責められ）今度はちゃんとやるよ／やるって言っているじゃないか〈前，一部改変〉
- 9-3 （明日の予定について念を押されて）わかってるよ／わかってるって言っているじゃないか〈前，一部改変〉

### 【10】驚きの表示〈三〉・認識生成のアピール〈蓮〉・聞き手がまだ認識していない現象や聞き手が直接知りえない話し手の個人的な評価〈前〉・デハナイカⅠ類〈田〉

話し手が，それまで知らなかった事柄に気づき，話し手が自分の認識を更新したことを表す用法。話し手の以前の認識と現在の認識との間にギャップがあり，これが驚きという含意を生み出す。話し手の認識のありかたが焦点となるので，聞き手のもつ情報のありかたは関与せず，独話解釈も可能である。

標準語では「デハナイカ」が用いられる。下降調（↓）の「ヨ」が用いられることもありうる。

- 10-1 あれっ，雨が降ってるじゃないか〈三〉
- 10-2 なんだ，空っぽじゃないか〈蓮〉
- 10-3 なんだ，まだ誰も来てないじゃないか〈田〉
- 10-4 あんた，怪我してるじゃない〈前〉
- 10-5 なんだ，おまえ，まさおじゃねえか〈前〉
- 10-6 （このジャケット，素敵でしょ。）うん，なかなか似合ってるじゃないか〈蓮〉
- 10-7 何はともあれ，合格したんだからめでたいじゃないか〈蓮〉

### 【11】驚きの表示〈三〉・認識生成のアピール〈蓮〉・聞き手が既に承知している事柄〈前〉・デハナイカⅠ類〈田〉

【10】が未知の事柄（物や現象）の発見の用法だったのに対し，【11】は話し手が聞き手を発見したときに，それ



## 確認要求表現

を同定したことを述べる用法。話し手が知っている人物(聞き手)について、その場にいないと思っていたのに、実はそこにいたという話し手の認識のギャップが驚きという含意を生み出す。聞き手自身が発見の対象なので、聞き手には話し手の認識(聞き手を見つけ、前景化していること)を受け入れることが要求される。命題内容が聞き手当人なので、聞き手に同意を求める「ネ」は使われない。また、【10】と違って独話解釈は不可能である。標準語では「デハナイカ」だけが用いられる。

11-1 よう、山田じゃないか。〈田〉

11-2 あれ、山田さんじゃないの。珍しいわね、あなたが来るなんて。

### 【12】驚きの表示〈三〉・認識生成のアピール〈蓮〉・聞き手が既に承知している事柄〈前〉・デハナイカ I 類〈田〉

話し手が、以前の認識を改めて命題内容を新規情報として受け入れ、これを対話の前提として持ち出す用法。聞き手はこれを受けて、自分の情報に照らして、命題内容を前景化し、話題を共有する。命題内容は聞き手に帰属する既知の事柄であり、話し手は聞き手より後からその情報を知ったことになる。

標準語では「デハナイカ」と「ネ」が用いられる。「ラシイ」「～ダソウダ」などの証拠性判断の形式と共起することがよくある。また、聞き手に話し手の認識更新を受け入れさせて、話題として共有する用法なので、【10】と違って独話解釈は不可能である。

12-1 おい今日はえらい短いスカートはいてるじゃないか。〈三〉

12-2 久しぶりじゃないか。〈前、一部改変〉

12-3 君の結婚相手、なかなかの美人だそうじゃないか。〈蓮〉

12-4 聞いたぞ、社内中に広まったらしいじゃないか。〈三〉

12-5 よお。今日はいやに元気がないじゃないか。どうしたんだい。

### 【13】弱い確認要求〈三〉

話し手の認識(命題内容)を、話し手にとって確定的なものとして聞き手に持ちかけ、聞き手も同じ認識を持つよう誘導したり、同じ認識をもっていることを話し手と聞き手の間で共有する用法。命題内容は話し手による評価的内容であることが多い。

標準語では「デハナイカ」と「ネ」が用いられ、「ヨウダ」「～シソウダ」などの証拠性判断の形式と共起することがよくある。

13-1 なかなかうまいじゃないか 〈田〉

13-2 お、おいしそうじゃないか 〈三〉

13-3 なかなかやるじゃん／やるねー！

#### 【13 参考】

近所の知り合いの人が珍しい本を見せてくれました。そこで、その人にむかって、ややていねいに「これは [珍しい本ですね]」と言うとき、「珍しい本ですね」のところをどのように言いますか。〈G 本 261-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G 本 261-B〉

Aさんに「これは [めずらしい本だね]」と言うとき、「めずらしい本だね」のところをどのように言いますか。〈G 準 236〉

Bさんに「これは [めずらしい本だね]」と言うとき、「めずらしい本だね」のこ

ろをどのように言いますか。〈G 準 236〉

では、奥さんに「これは [めずらしい本だね]」と言うとき、「めずらしい本だね」のところをどのように言いますか。〈G 準 236〉

**【14】 確認要求〈鄭〉・命題確認の要求（かなり強い見込み含意）〈三〉**

聞き手に帰属する情報について、話し手が推論を含まない命題として示し、聞き手に真偽判断させる。

標準語では「ネ」だけが使われる。質問なので、文末イントネーションは上昇調(↑)となる。また回答部には「ネ」が用いられない。

14-1 A：あ、失礼しました。星泉さんですね？〈鄭，一部改変〉

B：はい、そうです／いいえ、ちがいます

14-2 A：今日、まだあいつと一言も口利いていないね？〈三，一部改変〉

B：うん…

14-3 A：そうすると、あなたは1時に帰宅なさったんですね？

B：ええ／いいえ、2時です

**【15】 聞き手にとって未知な情報を持ちかける〈前〉・新規話題の導入〈前〉**

話し手が聞き手に、話題として、命題内容の新規に受け入れさせる。聞き手には命題内容を新たに認識して、共有することが求められ、命題に対する真偽判断などは求められない。

標準語では「ノヨ」や「ノネ」が用いられるが、方言では、例えば大阪方言の「タバタンヤンカー↓」など、否定疑問形式由来のものが使われることがある。

15-1 このあいだ、歯がしみるから、歯医者さんに行ったのね。そしたら、知覚過敏だって言われたの。

15-2 あの子、今度結婚スルネンヤンカ

15-3 このあいだ試験ヤッテンヤンカ

**【16】 同意要求〈三〉・〈鄭〉**

聞き手も話し手と同じ認識をしている(情報量はS=H)との見込みのもとで、命題内容を共有していることを確認させる。聞き手にとってもその情報は既知のものなので、話し手の発話によってその情報を前景化することになる。

標準語では「ネ」のみが用いられる。

16-1 A：今にも降って来そうですね〈三〉

B：そうですね

16-2 A：いやあ、また会いましたね〈鄭〉

B：そうですね

**【16 参考】**

親しい友達にむかって、「今日は [寒いな]」と言うとき、「寒いな」のところをどのように言いますか。〈G 本 244-0〉

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに言うときはどうですか。〈G 本 244-A〉

この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに言うときはどうですか。〈G

本 244-B)

Aさんに「今日は [寒いね]」と言うとき、「寒いね」のところをどのように言いますか。〈G 準 222〉

Bさんに「今日は [寒いね]」と言うとき、「寒いね」のところをどのように言いますか。〈G 準 222〉

では、奥さんに「今日は [寒いね]」と言うとき、「寒いね」のところをどのように言いますか。〈G 準 222〉

### 【17】相互了解の形成確認〈蓮〉・聞き手にとって新規情報〈朝〉

命題内容について聞き手が何も認識をもっていない場合もあれば、何らかの認識は持っていたとしても、それが話し手にとっては誤りであるような場合もある。こうした場合に、聞き手にとっての新しい情報を、話し手が共有すべきものとして聞き手に新たに受け入れさせる(もしくは更新させる)、共有事項を押し付ける用法。

標準語では【18】と区別なく、「ヨネ」や否定疑問形式が使われるが、方言によっては【18】に用いる形式がこの用法としては使えない場合がある(名古屋市方言の「ガ」など)。

17-1 【新規認識】わかってるよね、これから何するのか。〈朝〉

17-2 【認識の更新】(酒を飲んだ未青年に)酒は二十歳になってからだよ。

17-3 【話題の導入】みんな、宇宙のはじまりのことは知っているよね。ビッグバンといわれる大爆発が…

### 【18】相互了解の形成確認〈蓮〉・聞き手にとって既有情報〈朝〉

聞き手にとって既に成立している(と話し手が見込んで)認識について、話し手と共有しているものとしてその情報を聞き手に再度受け入れさせる(前景化させる)用法。

標準語では「ヨネ」だけでなく、否定疑問形式も使われる。また大阪方言の「ヤンナ」や名古屋市方言の「ガ」なども適格である。

18-1 【恒常的状态・動詞】ここの先生、いつもよくしゃべるよね／しゃべらない? 〈蓮, 一部改変〉

18-2 【過去の事柄・動詞】ここの先生、昨日は妙によくしゃべったよね／しゃべらなかった?

18-3 【恒常的状态・形容詞】ここの給食のごはんってまずいよね／まずくない? 〈蓮, 一部改変〉

18-4 【過去の事柄・形容詞】今日の給食のごはん、まずかったよね／まずくなかった?

18-5 【話し手に帰属する恒常的状态・動詞】私、いつも、眼鏡をここに置くよね。

18-6 【話し手に帰属する過去の事柄・動詞】私、ゆうべ、眼鏡、ここに置いたよね。〈蓮〉

18-7 【話し手に帰属する恒常的状态・形容詞】私の足って、ちょっと大きいよね／大きくない?

18-8 【話し手に帰属する過去の事柄・形容詞】私、小学生の頃、わりと大きかったよね／大きくなかった?

18-9 【聞き手に帰属する恒常的状态・動詞】おまえ、いつも通帳をここにしまっているよね。

18-10 【聞き手に帰属する過去の事柄・動詞】おまえ、ゆうべ、通帳を引出しにしまったよ

確認要求表現

ね。

18-11【話し手に帰属する恒常的状态・形容詞】おまえの足って、ちょっと大きいよね／大きくない？

18-12【話し手に帰属する過去の事柄・形容詞】おまえ，小学生の頃，わりと大きかったよね／大きくなかった？

## 原因・理由表現

前田 直子  
日高 水穂  
小西いずみ  
船木 礼子

### A 解説

#### 1. 原因・理由表現とは

2つの事態を1文で表現する場合、その両者の関係はさまざまに捉えることができるが、中でも2つの事態が時間的に前後して起きる場合、その両者は時間的な関係としても捉えることができるし、因果関係として捉えることもできる。

- ・ ボタンを押した時、お湯が出た。
- ・ ボタンを押すと、お湯が出た。

因果関係として捉えるということは、先に起こった事態が後から起こった事態を引き起こすという関係を認めるということである。因果関係、すなわち、先に起こった事態が後から起こった事態を引き起こすという関係は、まだ実現していない事態に対しても認めることができる。

- ・ ボタンを押せば、お湯が出る（だろう）。

このような未実現の事態における因果関係は、一般に仮定的な順接条件として表される。一方、2つの事態が既に実現済みの場合は、原因・理由の表現として表される。

- ・ ボタンを押した {から／ので}、お湯が出た。

原因・理由表現は事実的な因果関係をもつ2つの事態が結びつけられた文であり、複数の事態の関係を表す基本的な表現の1つであると言える。

#### 1.1 原因・理由を表すさまざまな形式

現代日本語において、原因・理由を表す形式は数多くあるが、もっとも基本的な形式は、まず「から」と「ので」であろう。「から」が他の助詞と結びついて、新たな原因・理由表現となったものに、「からこそ」「からには」がある。また、文末の「のだ」という形式が「から」に接続した「のだから」は、「から」とは異なる性質を持つ。「から」「ので」の他に、現代日本語において重要な原因・理由表現に「て」および「し」がある。

その他、原因・理由を表す表現には、次のようなものがある。

「ために」「ばかりに」「あまりに」「せいで」「おかげで」「だけに・だけあって」「以上」「上は」「限りは」「結果」「手前」「ものだから・もので・(もの) ゆえ」「ことだから

ら・ことだし・こともあって」「からか・ためか・のか」

## 1.2 「から」と「ので」

「から」と「ので」は原因・理由を表す最も基本的な形式であり、その表す意味も共通性が高い。両者の違いを見るためには、まず形式的な相異を確認する必要がある。

「から」と「ので」の形式的な違いの1点めとして、「から」は終止形接続、「ので」は連体形接続であり、ナ形容詞・名詞述語文の接続形が異なる。

- ・ 明日は日曜日だから、銀行は休みだ。
- ・ 明日は日曜日なので、銀行は休みだ。

2点めとして、「だろう・でしょう」「まい」「のだ」には、「から」のみが接続する。

・ このことはまだ誰も知らないだろう {から/×ので}、しばらく黙っておこう。  
この点からは、「から」はC類、「ので」はB類（南 1974）と位置づけられる。また、そのことから、「から」は連体修飾節に入りにくいことが指摘される。

- ・ 頭が痛かったので学校を休んだ太郎は、昨日の事件のことはまだ知らない。
- ・ 頭が痛かったから学校を休んだ太郎は、昨日の事件のことはまだ知らない。

3点めとして、「だ」を伴って文の述語となる述語用法も、「から」のみが可能である。

- ・ ストーブを入れたのは、寒くなったからだ。

このことから「～からか」という表現は可能であるが、「～のでか」は不可である。

4点めとして、とりたて助詞と複合し、様々な原因・理由を表す用法が「から」のみにある。

- ・ 太郎は、花子を愛していたからこそ、彼女と別れた。
- ・ 太郎が花子と別れたからには、もう何も障害はない。
- ・ 太郎が花子と別れたからといって、全てが解決したわけではない。
- ・ 子どもでも難しいくらいだから、大人にはとてもできそうにない。

5点めとして、「から」には文末で言い終わり、終助詞的な意味・機能を果たすと見られる用法がある。

- ・ じゃ、行って来るから。
- ・ あなたって本当にずるいんだから。

「ので」については、主節を省略した言い方は可能であろうが、「から」ほど終助詞的な機能は発達させていないと言える。

最後に6点めとして、主節の文のタイプに関して、「から」には制約はないが、「ので」は普通体の行為要求の文の従属節には用いにくいとされる。ただし、主節が丁寧体であれば、「ので」も用いられると一般には言われている。

- ・ あぶない {から/?ので} やめろ。
- ・ あぶない {から/ので} やめてください。

しかしながら、これには反論も多くある。

- ・ ねえさん。寝台車が来たので、お棺を協会の控え室へ移すよ。(cf. 岩崎 1996)

一方、「から」と「ので」の意味的な相異については、積極的には認めない立場と、積極的に認めようという立場がある。後者については、上に見た「形式的な相異」からどのような意味的な違いを認めるかということが問題になるが、それに関しては、永野賢(1952)

以降、多くの研究がある。ただし、「から」と「ので」が意味的に置き換えのできない明確な用法というものはないと言ってよく、その意味でも「から」と「ので」はともに、現代日本語の原因・理由表現の基本的な形式と言えよう。

## 2. 日本方言の原因・理由表現

以上で見てきた標準語の「から」と「ので」の（主に形式面での）違いをふまえ、『方言文法全国地図』の調査では、次のような「から」「ので」を含む文が調査され、第1集にその分布図が収録されている。

第33図 雨が降っているから行くのはやめろ。

第37図 子どもなのでわからなかった。(第36図に「子どもなので」の分布図あり。)

第33図は主節が命令文（行為要求の文）で「ので」よりも「から」が現れやすいとされるものであり、第37図は後件が叙述文で「から」よりも「ので」が現れやすいとされるものである。ただし、実際には、標準語において、「雨が降っているので行くのはやめろ」あるいは「子どもだからわからなかった」が不自然なわけではなく、両者は置き換え可能である。それにもかかわらず、この2つの分布図では、異なる形式が回答されている地点が多いのであるが、このことからただちに、第33図と第37図の例文が、形式の使い分けに関わる違いを持っているとは言えない。『方言文法全国地図』のような「標準語翻訳式」による調査では、提示された標準語の例文で用いられた形式に近い形式が積極的に回答されるのが普通だからである。したがって、両図で異なる形式が回答されている地点については、その2つの形式がそれぞれ置き換え不可能な形式であるのかどうかを確認していくことが、記述調査においては必要なこととなる。また、同じ形式が回答されている地点についても、併用される別の形式が存在しないのかどうかを確認していくことも必要である。談話資料などを見ると、原因・理由表現には、複数の形式が併用されているのが普通であることからすると、各地方言は標準語と同様に「から」相当の形式と「ので」相当の形式を併用しており、『方言文法全国地図』の調査結果は、そのどちらかが用いられやすきに地域差がある、と見るべきだと思われる。

そうした点を念頭においた上で、この2つの分布図から、「から」「ので」に相当する主要な形式の分布状況を概観してみる。

まず、第33図には、以下のような形式の分布が見られる。

- ・カラ類の形式が、東北地方の太平洋側から関東地方にかけて広く分布している。西日本では、宮崎県や鹿児島県の種子島・屋久島などにカラ・カリ・カイというカラ類の形式が見られる。
- ・中部地方に「述語+ニ」「述語+デ」の形式が分布している。「述語+デ」は、鹿児島県を中心に九州南部にも分布している。
- ・西日本には、ケン類（ケン、ケー、キニなど）の形式が広く分布している。
- ・近畿地方から東日本の日本海側にかけて、以下のようなサカイ類の形式が分布している。

〔サ-〕 サカイ・サカイニ・サカ・サカニ等……………近畿地方・北陸地方

サケァー・サケー・サゲァ・サゲ等……………近畿地方・山形県

〔ス-〕 スカイニ・スカ・スケァー・スケ等……………新潟県・岩手県・青森県

ステ（シテ）……………青森県

〔ハ-〕ハゲァーニ・ハゲ等……………山形県・秋田県

次に第 37 図であるが、第 33 図と異なる形式の分布について見ると、以下のような形式が目される。

- ・ 関東地方を中心にナノデ類が分布する。
- ・ 中部地方を中心にモノを含む形式（モンダモノデ、ダモンダデ、ダモンダニなど）が分布する。

これら 2 つの分布図を比較すると、①「から」の調査文と「ので」の調査文で異なる形式を回答する地点は東日本に多く、山陰地方を除いて西日本には少ないこと、②「から」の調査文に現れる形式は「ので」の調査文にも現れるのに対し、「ので」の調査文にのみ現れる形式があること、などがわかる。

なお、『方言文法全国地図』第 1 集には、原因・理由表現に関わる項目として、接続詞「だから」に相当する表現の分布図が収録されている。

第 35 図 だから 言ったじゃないか。（第 34 図に「だから」の分布図あり。）

この分布図によれば、原因・理由を表す形式の分布は、第 33 図に現れた形式の分布状況にほぼ一致する。また、第 34 図と第 35 図から接続詞「だから」相当形式の分布を概観すると、ダカラ・ジャケーなど＜断定辞＋「から」「ので」相当形式＞という語形成のもののほか、ソヤサカイ・ホンダカラなどソ系指示詞を前部に含む表現が比較的広く分布していることがわかる。

### 3. 調査の着眼点

方言の原因・理由表現を記述するにあたり、標準語の原因・理由を表す諸形式の意味用法、文法的な振舞いと対照させることは有効な方法であろう。ここでは、標準語の基本的な原因・理由表現である、以下の形式について、その用法と文法的特徴を示す。

なお、以下では、B で扱う調査項目を中心に調査の着眼点を簡略に記す。ローマ数字は B での扱いに対応している。

- I. 「から」と「ので」
- II. 「のだから」
- III. 接続詞「だから」
- IV. 「し」

方言の調査においては、当該方言の原因・理由を表す（とみられる）形式の用法を上記の形式と比較することによって捉える一方で、形態的に上記の形式と関連するものが、用法においても同等のものであるかどうかを確認していくことも必要である。

#### I. 「から」と「ので」の用法

複文の前件を構成する「から」および「ので」には、次の 5 つの用法がある。

- (1) 事態の原因
- (2) 行為の理由
- (3) 判断の根拠
- (4) 発言・態度の根拠



## (5) 理由を表さない用法

## (1) 事態の原因

主節が具体的な事実・事態を表し、従属節が主節の事態そのものを引き起こす原因・理由を表す場合である。「から」「ので」どちらも用いられる。この「から」は、田窪(1987)の言うB類の「から」に当たる。

- ・ 子ども {だから／なので}, わからなかった。

## (2) 行為の理由

主節に話者の意志的な行為や聞き手に対する働きかけが現れ、その行為を行う理由が「から」「ので」によって、表される。主節が叙述である場合は「から」「ので」ともに用いられるが、意志・勧誘・命令・依頼が普通体で現れる場合は一般に「から」の方が「ので」より用いられる。

- ・ 雨が降っているから行くのはやめろ。

## (3) 判断の根拠

主節に判断を表す文が来る場合には、2つのタイプがある。

- ・ 雨が降ったから, 道がぬれているのだろう。……(1)
- ・ 雨が降ったから, 道がぬれているだろう。……(2)

(1)は、道がぬれているのを見て、その理由が「雨が降ったからだ」と推量している。この「から」は「事態の原因・理由」を表していると考えられるB類の「から」である。一方、(2)は、道がぬれているかどうかはわからないが、雨が降ったことはわかっているので、それを根拠に「道がぬれている」と推量している。(2)のような場合、前件は、後件事態を引き起こした原因を表すのではなく、後件の判断(ここでは推量)の根拠を表している。「から」「ので」ともに用いられる。

判断の根拠を表す場合、主節には判断を表す様々な形式が現れる。

- ・ 道が濡れているから, 雨が {×降った／降った(の)だろう／降ったにちがいない／降ったかもしれない／降ったはずだ／降ったようだ／降ったらしい}。

判断の根拠を表す場合、前件が後件を引き起こしているのではなく、むしろ、前件を引き起こすのが後件事態であるということもある。

- ・ 頭痛がしなくなってきたから, 薬が効いてきたようだ。
- ・ 左手薬指に指輪をはめているから, 結婚しているに違いない。

「薬が効いたから頭痛がしなくなった」「結婚しているから指輪をはめている」といえるからである。このように、判断の根拠を表す場合は、前件の原因・理由と後件の判断内容とで、時間的な前後関係が逆転することも可能である。

判断・伝達態度の根拠を表す原因・理由文では、前件にも未実現の事態が来る場合がある。

- ・ 社長が来るらしいから, 今日の食事はきっと豪華だろう。
- ・ 未成年も参加するだろうから, ジュースも用意しておいてください。

## (4) 発言・態度の根拠

主節に、聞き手に対する働きかけや話し手の意志などの発言や態度が現れ、そのような発言・態度の根拠を表す場合がある。「から」「ので」ともに用いられるが、文が普通体の場合は一般に「から」の方が「ので」より用いられる。この「から」は、田窪(1987)の言うC類の「から」に当たる。

- ・ 危ないから、この川では遊ばな。

### (5) 理由を表さない用法

原因・理由文の中には、原因・理由を表しているとはいえないものがある。

- ・ すぐタクシーを呼ぶから、これから病院へ行きなさい。
- ・ ここに、医者電話番号も書いてありますから、疑問点は何でもきいてください。

これらの「から」「ので」節は、「なぜそうするのか」「なぜそう判断・命令するのか」を表してはいない。つまり後件の論理的な理由や根拠ではない。これらの前件が表しているのは、後件の実行を可能にし、促進させる事柄であり、「まだ起こっていない後件事態の実現が可能になるのは前件が成立する(あるいは、現に成立している)からである」ということが述べられている。

また、次のような場合もある。

- ・ これから答えを言いますから、注意して聞いてください。

- ・ A「佐藤さんの電話番号、知ってる？」

B「うん」

A「じゃあ、あとで電話するから、その時教えて」

これらの文では、主節の命令「注意して聞いてください」「その時教えて」だけでは情報が不足していて、それぞれ「何を聞くか」、「その時とはいつか」が不明である。その不明の部分の原因・理由節が説明している。

後件の実現を助ける用法では、主節は、命令・禁止・依頼・勧誘など、未実現の事態であって、聞き手に何らかの行為をするように(禁止の場合は、しないように)働きかける表現が来る。中でも前件が話し手の行為を表し、後件に聞き手の行為が来て、それを命令・依頼する場合がもっとも典型的である。

- ・ 6時には戻りますから、それまでお待ちください。
- ・ すぐ医者呼ぶから、ここで寝ていなさい。

主節には意志・希望の表現も来ることができる。

- ・ [独話] どうせ明日会うから、その時に言おう。
- ・ [独話] 彼女の半分でいいから英語がうまくなりたい。

また、次のような原因・理由節は、後件の実現をできるだけ容易にする条件や、実現を強く望む話し手の伝達態度を表すために用いられている。これらは前置きの慣用的表現である。

- ・ 一度でいいから、ピラミッドに登ってみたい。
- ・ お願いしますから、お金を貸してください。

## II. 「のだから」の用法

「のだから」は「のだ」といういわゆる説明のモダリティ形式に「から」が続く形であ

るが、「から」とはかなり異なる特徴を持つ。もっとも重要な特徴は、単に事実を描写するだけの文では用いられない点である。「のだから」の主節には制約があり、そこに「のだから」の意味的な特異性も現れている。

- ・ 熱が出た {から／ので／んだから／~~x~~からは／~~x~~以上／~~x~~うえは}, 休みました。  
「のだから」の用法を、ここでは次の5つに分ける。

- (1) 確かな事実とその当然の結論
- (2) 聞き手に対する情報—行為要求・認識要求
- (3) 後件が聞き手の利益になる事柄の場合
- (4) 倒置
- (5) 終助詞的用法

#### (1) 確かな事実とその当然の結論

「のだから」は主節にあらわれる表現に制約がある。主節には、必然的な判断、聞き手に行為の実行を働きかける表現、話し手の意志や希望などが現れる。こうした表現では、前件を確かな事実として示し、そこから必然的に、あるいは当然、後件で示される事態が実現されなければならないという話し手の気持ちが表される。

- ・ こんなに頑張ったんだから、今度はうまくいくはずだ。

#### (2) 聞き手に対する情報—行為要求・認識要求

命令・依頼など、聞き手に行為実行を働きかけたり、認識を要求したりする場合には聞き手に対する非難のニュアンスを帯びることがある。ある行為や認識を聞き手に要求するというのは、聞き手がそのような行為を行っていない、あるいはそのような認識を行っていないからである。そのことに対する非難のニュアンスを帯びることになる。

- ・ 若いんだから、1度や2度の失敗でくよくよするな。

#### (3) 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

一方で「のだから」は常に非難のニュアンスを帯びるわけではない。聞き手がまだ未実現のある行為を行うことによって利益を得る場合には、「のだから」は強い好意の表現や、勇気づけ・慰めといった、聞き手に対する話し手の好意的な態度を表すことになる。

- ・ 時間はまだ十分あるんだから、ゆっくりしていってくれ。

#### (4) 倒置

「のだから」は、従属節に述べた事実をふまえれば、主節の事態が当然成立するという話し手の強い態度を示すものであり、話し手の主張は主節の方にある。そのため、倒置されることがよくある。

- ・ 体に気をつけろよ。もう若くないんだから。

#### (5) 終助詞的用法

倒置される場合が多いことは、終助詞的な用法を確立させる原因であろう。「のだから」には文末に現れる終助詞的な用法がある。この場合、普通ではない特別な事態に対する、

話し手の評価や強い決意を聞き手に訴えたり、話し手自身が改めてそうした事態を認識した場合に用いる。

- ・ 私，絶対に彼と結婚するんだから。
- ・ こっちが甘い顔をすると，すぐ調子にのるんだから。

### Ⅲ. 接続詞「だから」の用法

文頭で用いられる「だから」は，語形成的には，断定辞「だ」と接続助詞「から」から成るが，現代標準語においては，逆接の「けど」と同様に，接続詞として一語化したものとみなすことができる。「ですから」「でございますから」など，断定辞の形態の変異に対応した形も用いられる。

ここでは，特に話し言葉を念頭において，①接続助詞「から」を用いた複文への言い換えの可・不可，②前件・後件間での話者交替の有無，という2点から，「だから」の用法を次の3つに分ける。

- (1) 接続助詞「から」の文に言い換えられ，前件・後件が同一の話し手によるもの
- (2) 接続助詞「から」の文に言い換えられ，前件・後件の間に話者交替があるもの
- (3) 接続助詞「から」の文に言い換えられず，「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

#### (1) 接続助詞「から」の文に言い換えられ，前件・後件が同一の話し手によるもの

「最近は毎日雨が降る。だから洗濯物が乾かない。」などである。「から」「ので」の5つの用法（Iの(1)～(5)）のいずれもがこのタイプの「だから」の表現になりうる。

#### (2) 接続助詞「から」の文に言い換えられ，前件・後件の間に話者交替があるもの

##### (2-1) 相手の発話中の事態Pを受け，それから導かれる帰結Qを述べるもの

「から」「ので」の用法のうち「理由を表さない用法」以外が，このタイプの「だから」の表現になりうる。前件となる事態は相手の発話で示されるが，話し手にとっても既知のものである。新情報を受けて帰結を述べる時は「だから」を用いにくい。

- ・ A「星が出ているよ」  
B「うん。だから明日もいい天気になるだろうよ」
- ・ A「星が出ているよ」  
B「へえ。{それなら／×だから} 明日もいい天気になるだろうよ。」

##### (2-2) 聞き手に結論を求めるもの

相手の発話を受け，それから何が帰結されるのかを問い返すものである。(2-1)の一種とも言える。

##### (2-3) 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが，既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

「だから」の後は「のだ」文になることが多い。「QなのはPだからだ。」とも言い換えられ，「だから」以下の発話の焦点は帰結Qよりも「(P) だから」の部分にある。前件・

後件の意味関係からみると、「から」「ので」の5つの用法のうち「事態の原因」「行為の理由（主節が叙述表現の場合）」に当たる。

**（2－4）相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの。**

（2－3）の一種で、話し手自身の過去の発話行為の叙述（「～と言った」という引用表現が典型）を後件とするものである。「だから」以下の表現全体が、その発話行為の正当性・適切さを主張するという談話上の機能を持つ。「そういう事態が予想されたから、Q（発話行為の叙述）」と言い換えられる。

**（3）接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの**

**（3－1）「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの**  
先行のやりとり（対になる発話）と類似したやりとりが繰り返される場合に用いられる。「だから～{と言っているじゃないか/って}。」などの引用表現をとる場合もとらない場合もある。「あなたが…と言うから、私は～と言う」という発話行為の因果関係があるとみることが出来るが、「だから」の意味・機能としては、「それについては既に述べているのに」という話し手の発話態度を表示する、という側面のほうが強い。

**（3－2）発話行為間の因果関係がないもの**

聞き手が既に了解しているはずのことを「だから」の後に述べるという点では（3－1）と共通するが、（3－1）のように対になる発話の繰り返しはない。「あなたは既にそのことを了解しているはずなのに」という話し手の発話態度の表示機能を担うものである。

すなわち（1）（2）は接続助詞「から」に還元できる用法、（3）は「だから」独自の用法と言える。（3）は江戸・東京方言で発達したもののようで、大阪方言の「ソヤサカイ」等は本来その用法がなかったと思われる。なお、（1）～（3）および（2）の下位分類に対応して、「だから」のとの音調にも違いが認められる（村中1995）。

#### IV. 「し」の用法

複文の前件を構成する「し」は並列を表すといわれ、次のように同時に起こる複数の事態を列挙するときに用いられる。ただし、中止形やテ形で結ばれるような、因果関係のない事態の列挙(3)や継起的な事態の時間順の列挙(4)には「し」は用いられない。

- ・ 彼はピアノも弾くし、作曲もするし、歌も上手だ。 ……(1)
- ・ 映画は見たいし、時間はないし。 ……(2)
- ・ ??ショパンはポーランド人だし、1810年に生まれた。 ……(3)
- ・ ショパンはポーランド人で、1810年に生まれた。 ……(3')
- ・ ??きのう美術館に行ったし、それから図書館に行った。 ……(4)
- ・ きのう美術館に行き、それから図書館に行った。 ……(4')

「し」の用いられている文では、明示的ではないが、話し手が表そうとしている、これ

らの事態をまとめる何らかの統括的な命題が含まれているといえる。これを寺村(1984)は「統括命題」と呼んでいる。たとえば、(1)では類似する事態の列挙によって「彼は音楽の才能がある」というようなことが、また(2)では食い違う事態の列挙によって「残念だ、まいったな」などが統括命題として想定できよう。(3)や(4)にはこうした統括命題が想定しにくい。つまり、「し」で列挙された事態は、話し手の考える統括命題で関係づけられており、聞き手(読み手)が文中に明示されていない統括命題を推論しこれに到達するための「根拠」として機能するのである。このため、「し」で示される事態間には因果関係はないが、それらの事態と統括命題との間には因果関係が含意される。

因果関係がより濃く現れるのは、次の例のように、列挙されて「し」でマークされた事態が、話し手による統括命題の根拠として働き、統括命題を導いている場合である。

・体に良くないし、僕はタバコをやめた。…………(5)

次の例のように統括命題が省略されている場合も同様である。

・タバコは体に良くないし、小遣いも少ないし、うちには子どももいるし。

このように前件と後件として結ばれた事態と統括命題との関係は、時間的に先行する・論理的前提となる事態である前件(原因・理由)が、統括命題である後件(結果・結論)を導くと捉えられた、因果関係にあるものといえる。

こうした因果関係は、統括命題によってまとめられる並列の「し」の内に含まれるものと考えることができよう。上の例(5)のように根拠となる事態が文中に1つしか挙げられていない場合でも、「し」がもともと複数の事態の列挙を表す形式であるため、根拠となる事態が複数あることが含意される。根拠となる事態が複数あるということが証拠固めとなり、統括命題である結論や結果が導かれやすくなるのである。「し」が助詞「も」と共起しやすいことも、この証左といえる。

以上のように、並列の「し」は因果関係である原因・理由の表現性を内包するものなのだが、方言によっては「から」や「ので」などよりも頻繁に原因・理由表現に使われていることがある。京都市方言の「し」などがこれに当たる。

以下では、「し」に関する調査で着眼点となる点を、次の5つに分けて概説する。

- (1) 並列の「し」としての用法(標準語の「し」との異同確認)
- (2) 原因・理由の「し」、理由を表さない「し」(標準語の「から」「ので」との異同確認)
- (3) 「し」の構文的特徴(標準語の「から」「ので」との異同確認)
- (4) 終助詞的な用法
- (5) 婉曲性・スタイル差

#### (1) 並列の「し」としての用法

並列の「し」は、因果関係が含まれる統括命題さえ想定できれば、述べられる各事態が同時に両立しないものであっても適格である。しかし、「し」に原因・理由表現としての用法が確立している場合、並列の「し」の用法は狭まっていることが予想される。以下は、京都市方言の例であるが、(1)のように前件と後件が食い違った事態である場合や、(2)のように「～し」が「で」の理由節内に埋め込まれている場合には、「し」が使われない。

・×映画は見たいし、時間はないし(／あらへんし)。…………(1)

- ・ 映画は見たいけど、時間はないし（／あらへんし）。…………(1’)
- ・ ×あの図書館は暑いし、うるさいしで、勉強にならへんかった。…………(2)

## (2) 原因・理由の「し」、理由を表さない「し」

因果関係を含む「し」が、原因・理由をどの程度まで表現できるのか、後件の特徴や人称から段階的に探ってみることも意味がある。

「し」が、話し手の想定する統括命題を導くために、話し手が根拠とみなすものを列挙する意味を持つならば、後件にはほかでもない話し手がそう考えているのだということを表す内容が出現しやすいと思われる。標準語の「し」で、後件に行為指示（命令など）や詠嘆が出現しやすいのはこのためである。前件に理由、後件に意志性のある事態が述べられる場合は、後件の意志の主体である人称（主語）は三人称よりも一人称のほうが自然である（堀池 1999）。後件の行為を行う／行った理由は、行為者である人物が最もよくわかっているからである。また同様の理由から、一人称主語の事態のほうが、三人称主語の事態よりも後件に出現しやすいであろう。

なお、標準語の「～のだから」と同様に、後件に聞き手への行為指示や話し手の意志・希望などが現れる場合、「～のだし」として固定化して使われる可能性もある。

後件にどんなものでも現れ、人称の制限もないという場合は、並列の「し」が持つ根拠の複数列挙という特徴を排除した「因果が一対一対応」の文脈を用意して、その「し」が原因・理由の形式として確立していることを確認する。京都市方言では、次のような例が適格である。

- ・ この腕時計、昨日落としたし、壊れてしまった。（原因の特定）
- ・ 定価が一万円やし、消費税込みで一万五百円や。（計算的因果関係）
- ・ 三角形の内角の和は180度やし、ここの角度は30度になる。（法則的因果関係）

さらに、「し」にも「から」と同様に理由を表さない用法があるかどうかを確認すべきである。（Iの（5）を参照のこと）

## (3) 「し」の構文的特徴

構文的特徴を見ると、「し」が「から」等と置き換え可能な原因・理由の形式となっている場合、「し」が主節につく、原因・理由節の述語用法が適格となる。

- ・ A 「気分が悪い」
- ・ B 「あんなにたくさん飲むしや」

さらに、この述語用法の「し」にどのようなモダリティ形式が後接するかという点からも、「し」の位置づけが可能となるだろう。

また、文を階層構造的に見た場合に、標準語の「から」はC類に位置づけられ（南 1974）、連体修飾節に入りにくいという特徴があるが、方言の「し」が「だろう」「まい」などに相当する方言のモダリティ形式の後接を可能としている場合には「から」と同様に、連体修飾節内の生起について制限をもつ可能性がある。

なお、「し」はもともと並列の意味をもつので、原因・理由節の内部に生起した場合に「並列」の意味に解釈されてしまいかねない。このため、原因・理由節内の生起についても制限があるかもしれない。

#### (4) 終助詞的な用法

京都市方言の「し」のうち、主節末に「し」が生起する用例には、①標準語の「から」の「理由を表さない用法」のように、後件に聞き手への行為指示や話し手の意志・希望の表明などが述べられることが想定されるが、こうした後件の省略と認められるものと、②標準語の「から」の「理由を表さない用法」とは異なった、行為指示などが想定しにくい、話し手の主張を強め聞き手の認識のありかたに働きかける用法とがある。

①は、次の例のようなものである。これについては、「から」と置き換えが可能なので、Iの(5)の解説を参照されたい。

- ・ あとで、もう一度電話するし。(待っていて)(京都市方言)

②は、以下のようなものである。

- ・ [描いて見せた絵を猫だと言われたが、実は猫ではなく熊のつもりである] 猫ちゃうし。(京都市方言)
- ・ それぐらい、知っているし。(京都市方言)

後件を想定するとすれば、それぞれ、「猫ではない(なぜ猫だなどというのだ)」、「知っている(説明してくれるな)」などであるともいえるが、これではトートロジー(か発話内行為)である。それよりも、無理に後件を想定するのではなく、話し手の主張を強め、聞き手に対して認識を変更するよう求めるといった、話し手・聞き手間の情報認識を操作する機能があるように思われる。

こうした終助詞的な用法については、統一的な例文に当てはめて調査することが困難である。『方言文法ガイドブック』のモダリティの記述方法を参考にされたい。

蛇足だが、標準語の並列の「し」が終助詞的に用いられる用例が近年よく聞かれるようになった(次の例を参照)。これは、統括命題が、前件を前提とした不満や驚きなどの感情自体であって、独り言的に用いられることが多い。そのような感情を誘発する複数の事態のうち、1つを取り上げて述べたものとの解釈が可能で、並列の「し」の終助詞的な用法といえるように思われる。

- ・ [こちらが話をしているのに全然聞いていない聞き手について、独り言で] ったく、話聞いてないし。(聞き手の態度に不満/困ったものだ)

このような「し」の用法が、メディアなどを通して発信されることにより、各地で取り込まれていく可能性もある。注意して見ておく必要がある。

#### (5) 婉曲性・スタイル差

標準語の並列の「し」はカジュアルな文体に用いられる傾向があり、論文などの改まった文体では使いにくいというスタイル差がある。これには、話し手が主観的判断によって前件を後件の根拠として挙げるといった標準語の「し」の意味的特徴が、客観性を要求される論文のような論理にそぐわないためだと考えられる。

一方、方言では改まった書きことばの文体を一般に持ちあわせていないため、方言の「し」には上記のようなスタイル差はみられない。むしろ、複数の事象(根拠)があるなかのいくつかを列挙するという並列の表現からの意味派生を経たことにより、複数あるなかの1つだけを挙げて全ては述べないという婉曲性が、聞き手配慮の丁寧な表現と認識されると



いう、対人的機能を持っていることが考えられる。すなわち、「全てを述べなくても、1つ挙げればあなたには分かるだろう」、あるいは「聞き手に対して全ての根拠を述べあげるのは、一から十まで言わないと分からない人だ」という認識のものとの行動となり、聞き手に対して失礼だ」などの、「わきまえ」を重視する待遇である。このことから、聞き手に対する待遇度のちがいによって、「し」の使われ方に偏りが現れる可能性もある。

#### 4. 研究の現状と発展

原因・理由を表す形式の全国分布は『方言文法全国地図』により、詳細に把握することができるようになった。この分布図と文献資料を分析することにより、原因・理由表現の全国分布の形成過程をたどる研究には、彦坂(2005)などに進展が見られる。

一方、原因・理由を表す個々の形式の用法の詳細を明らかにする研究、あるいは各地方言でどのような原因・理由表現が併用されているのか、その使い分けはどのようにになっているのかという観点での研究は、今後の進展が期待されるところである。各地方言の詳細な記述調査と、談話資料などを用いた計量的な調査などが、行われる必要があろう。

#### 5. 文献

- 今尾ゆき子(1991)「カラ、ノデ、タメーその選択条件をめぐって一」『日本語学』10-12
- 伊藤勲(1982)「「から」および「ので」の用法」『国際学友会日本語学校紀要』7
- 岩崎卓(1995)「ノデとカラ」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(下)複文・連文編』くろしお出版
- 岩崎卓(1996)「ノダカラの統語的特徴について」『小泉保先生古希記念論文集』大学書林
- 尾方恵理(1993)「「から」と「ので」の使い分け」松村明先生喜寿記念会編『国語研究』明治書院
- 上林洋二(1989)「理由を表す接続詞再考」『文藝言語研究 言語編』16 筑波大学
- 上林洋二(1992)「理由を表す接続詞補稿一「から」と「ので」」『東海大学紀要』12
- 上林洋二(1994)「条件表現各論一カラ／ノデ」『日本語学』13-9
- 言語学研究会・構文論グループ(1985)「条件づけを表現するつきそい・あわせ文(2)一その2・原因的なつきそい・あわせ文一」『教育国語』82
- 小西いずみ(2003)「会話における「ダカラ」の機能拡張一文法機能と談話機能の接点一」『社会言語科学』6-1
- 小西いずみ(2000)「東京方言が他地域方言に与える影響一関西若年層によるダカラの受容を例として一」『日本語研究』20
- 小林賢次(1992)「原因・理由を表す接続助詞一分布と史的変遷一」『日本語学』11-5
- 趙順文(1988)「「から」と「ので」一永野説を改訂する一」『日本語学』7-7
- 鈴木忍(1976)「原因・理由を表す助詞の異同」『日本語学校論集』3 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 白川博之(1991)「「カラ」で言いさす文」『広島大学教育学部紀要第2部』39
- 白川博之(1994)「「カラ」と「カラダ」」『広島大学日本語教育学科紀要』4
- 白川博之(1995)「理由を表さない「カラ」」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版
- 白川博之(2001)「接続助詞「シ」の機能」中右実教授還暦記念論文集編集委員会編『意味

- と形のインターフェイス 下巻』くろしお出版
- 田窪行則(1987)「統語構造と文脈情報」『日本語学』6-5
- 竹内道子(1995)「「ので」と「から」: 関連性理論による分析」『神奈川大学言語研究』18  
神奈川大学言語研究センター
- 田中寛(1997)「「から」と「ので」をめぐる諸問題—認知的把握に基づく再考—」『大東文化大学紀要(人文科学編)』35
- 寺村秀夫(1984)「並列的接続とその影の統括命題—モ, シ, シカモの場合—」『日本語学』3-8
- 寺村秀夫(1993)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 永野賢(1952)「「から」と「ので」はどう違うか」(『日本の言語学』第4巻所収)
- 永野賢(1988)「再説「から」と「ので」はどう違うか—趙順文氏への反批判をふまえて」『日本語学』7-12
- 野田春美(1995)「「のだから」の特異性」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版
- 蓮沼昭子(1991)「対話における「だから」の機能」『姫路獨協大学外国語学部紀要』4号
- 蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『日本語文法セルフマスターシリーズ7 条件表現』くろしお出版
- 花井裕(1990)「「ので」の情報領域—「から」との対話性と比較して—」『阪大日本語研究』2
- 彦坂佳宣(2005)「原因・理由表現の分布と歴史—『方言文法全国地図』と過去の方言文献との対照から—」『日本語科学』17
- 姫野伴子(1995)「「から」と文の階層性1—演述型の場合—」『阪田雪子先生古希記念論文集』三省堂
- 堀池尚明(1999)「「シ」を用いた原因・理由表現について」『筑波日本語研究』4 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室
- 前田直子(1991)「「論理文」の体系性—条件文・理由文・逆条件文をめぐる—」『大阪大学日本学報』10
- 前田直子(2000)「現代日本語における原因・理由文の3分類」山田進・菊地康人・靱山洋介編『ひつじ研究叢書(言語編) 日本語 意味と文法の風景—国広哲弥教授古希記念論文集—』ひつじ書房
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 村中淑子(1995)「接続詞「だから」の音調について」『日本語研究センター報告』3 大阪樟蔭女子大学
- 森田良行(1980)『基礎日本語2』角川書店
- 山田みどり(1984)「「ので」と「から」の問題点」『研究資料日本文法5』明治書院
- Miyagawa, Shigeru and Nakamura, Mari (1991) The logic of *kara* and *node* in Japanese, In C. Georgeopoulous and R. Ishihara(eds.) *Interdisciplinary Approach to Language: Essays in honor of S. -Y. Kuroda*, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht.

## B 項目

各項目で、参考となる先行調査票の項目を以下の略号を用いて提示する。

<G本○○○>：GAJ本調査(○○○は質問番号)

また、調査番号の前に付した「\*」は、調査の優先度の低い項目であることを示す。

### I. 「から」と「ので」の用法

#### I-1. 事態の原因（接続調査を兼ねる）

- I-1-1. 毎日雨が降る {から/ので}, 洗濯物が乾かない。(動詞述語)
- I-1-2. 毎日雨 {だから/なので}, 洗濯物が乾かない。(名詞述語)
- I-1-3. 天気がいい {から/ので}, 洗濯物がよく乾く。(形容詞述語)
- I-1-4. この部屋は静か {だから/なので}, 仕事に集中できる。(形容動詞述語)
- \* I-1-5. タベ大雨が降った {から/ので}, 地面に水たまりができています。(動詞述語)
- \* I-1-6. 子ども {だから/なので}, わからなかった。(名詞述語) <G本 141>

#### I-2. 行為の理由（後件のモダリティ制限の調査を兼ねる）

- I-2-1. 体調が悪い {から/ので}, 仕事を休むことにした。(叙述)
- I-2-2. 体調が悪い {から/ので}, 今日は仕事を休もう。(意志)
- I-2-3. 夜道は暗い {から/ので}, 一緒に帰ろう。(勧誘)
- I-2-4. 赤ん坊が寝ている {から/ので}, 静かにしろ。(命令)
- I-2-5. 赤ん坊が寝ている {から/ので}, 静かにしてくれないか。(依頼)
- \* I-2-6. 雨が降る {から/ので}, 傘を持って行け。(命令) <G本 095>

#### I-3. 判断の根拠

- I-3-1 a. 星が出ている {から/ので}, 明日もいい天気になるだろう。  
※ I-3-1a で回答が得られないときは、次の例で確認をする。
- I-3-1b. A 「明日もいい天気になるだろう。」  
B 「どうしてわかるの？」  
A 「星が出ている {から/ので}。」
- I-3-2. 左手薬指に指輪をはめている {から/ので}, 結婚している。
- \* I-3-3. 咳が出るし、熱っぽい {から/ので}, 風邪を引いたのかもしれない。
- \* I-3-4. さっき新聞配達の声がした {から/ので}, 5時を過ぎたのだろう。

#### I-4. 発言・態度の根拠

- I-4-1. 危ない {から/ので}, この川では遊ばな。
- \* I-4-2. 風邪をひくといけない {から/ので}, 厚着をして出かけなさい。
- \* I-4-3. 今日の仕事は全部終わった {から/ので}, もう帰ろう。

### I-5. 理由を表さない用法

- I-5-1. すぐにもどってくる {から／ので}, ここで待っていてくれ。
- I-5-2. 一度でいい {から／ので}, ピラミッドに登ってみたい。
- I-5-3. お願い {だから／なので}, お金を貸してください。
- \* I-5-4. 車を呼んであげる {から／ので}, すぐに病院へ行きなさい。
- \* I-5-5. 机の上においてある {から／ので}, 僕の財布取ってきてくれないか。

### I-6. 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

- I-6-1. A 「気分が悪い。」  
B 「あんなにたくさん飲むからだよ。」
- I-6-2. A 「今日はデパートが込んでいるね。」  
B 「日曜日だからだろうね。」
- I-6-3. A 「最近, 太郎の機嫌が悪いんだ。」  
B 「おまえが次郎のことばかりほめるからじゃないか?」
- I-6-4. A 「最近, 太郎の機嫌が悪いんだ。」  
B 「私が次郎のことばかりほめるからかなあ。」
- \* I-6-5. A 「最近, 太郎の機嫌が悪いんだ。」  
B 「次郎ばかりほめられるからかもしれないね。」
- \* I-6-6. A 「引っ越しの後, パソコンの調子が悪いんだ。」  
B 「それは, 運ぶときに落としたからにちがいないよ。」

### I-7. 従属節内のモダリティ表現

#### I-7-1. 伝聞・推定表現など

- I-7-1-1. (天気予報によれば)今夜は雨が降るそう {だから／なので}, 早めに帰ろう。
- I-7-1-2. (天気予報によれば)今夜は雨が降るらしい {から／ので}, 早めに帰ろう。
- I-7-1-3. (雲行きを見ていると)今夜は雨が降りそう {だから／なので}, 早めに帰ろう。
- I-7-1-4. どうも熱があるよう {だから／なので}, 早めに帰ることにした。
- I-7-1-5. 雨が降るかもしれない {から／ので}, 傘を持ってきた。

#### I-7-2. 推量表現

- I-7-2-1. 雨が降るだろうから, 傘を持っていけ。
- I-7-2-2. 山ではかなり雪が降っただろうから, 雪崩が心配だ。
- I-7-2-3. たいした雨にはならないだろうから, 傘は持っていかない。
- I-7-2-4. 外は寒いだろうから, 厚着をして出かけよう。
- I-7-2-5. この分だと明日も雨だろうから, 遠足は中止になるだろう。

#### I-7-3. 丁寧表現

- I-7-3-1. ちょっと話がありますので, ここに来てください。
- I-7-3-2. 危険ですので, かけこみ乗車はやめましょう。

- \* I-7-3-3. 国の両親が訪ねて来ますので、今日は少し早めに帰らせていただいてもよろしいですか。

## I-8. 文末用法

### I-8-1. 倒置

- I-8-1-1. ここでちょっと待っていて。すぐにもどって来るから。  
\* I-8-1-2. ちょっと、5千円貸して。月末までに返すから。  
\* I-8-1-3. 駅まで迎えに来て。7時に着くから。

### I-8-2. 終助詞的用法

- I-8-1. あとで、もう一度電話するから。  
I-8-2. ちょっと出かけてくるけど、おやつ、プリンが冷蔵庫に入っているからね。  
I-8-3. 君のこと決して忘れないから。  
I-8-4. [兄にいじめられた弟が兄に対して] お父さんに言いつけてやるからな。  
\* I-8-5. 5時まで駅前の喫茶店にいるから。  
\* I-8-6. ちょっと、スーパーまで買い物に行ってくるから。  
\* I-8-7. 秘密をばらしたら、ただではおかないからな。

## II. 「のだから」の用法

◎形態的に「(準体助詞+)指定辞+原因・理由の接続助詞」に相当すると考えられる形式について、標準語の「から(ので)」、「のだから」との用法の異同を確認する。

### II-1. 「から(ので)」との相違

- II-1-1a. 時間がないから {急いだ(事実の叙述)/急ごう(意志)/急げ(命令)}。  
II-1-1b. 時間がないんだから {×急いだ(事実の叙述)/急ごう(意志)/急げ(命令)}。  
II-1-2. 天気がいい {から/×んだから} 散歩に出かけた。  
\* II-1-3. 毎日雨が降る {から/×んだから} 洗濯物が乾かない。  
\* II-1-4. 夕べ大雨が降った {から/×んだから} 地面に水たまりができています。  
※当該方言の「から(ので)」類の形式が使用でき、「のだから」相当形式が使用できないことを確認。

### II-2. 意味・用法(接続調査を兼ねる)

#### II-2-1. 確かな事実とその当然の結論

- II-2-1-1. こんなに頑張った {?から/んだから}、今度はうまくいくはずだ。  
II-2-1-2. 大事な話をしている {?から/んだから}、子どもはあっちへ行っちゃなさい。  
II-2-1-3. こっちは真剣 {×だから/なんだから}、からかわないでくれよ。

#### II-2-2. 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

- II-2-2-1. 若い {×から/んだから}、1度や2度の失敗でくよくよするな。

- Ⅱ-2-2-2. 受験生 {×だから／なんだから}, もっと真剣に勉強しなさい。  
Ⅱ-2-2-3. せっかく留学する {×から／んだから}, ちゃんと勉強して来いよ。

### Ⅱ-2-3. 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

- Ⅱ-2-3-1. 時間はまだ十分あるんだから, ゆっくりしていってくれ。  
\*Ⅱ-2-3-2. チャンスはまだあるんだから, 元気を出せよ。  
\*Ⅱ-2-3-3. もうじき退院できるんだから, あと少しの辛抱じゃないか。

### Ⅱ-2-4. 倒置

- Ⅱ-2-4-1. 体に気をつけろよ。もう若くないんだから。  
\*Ⅱ-2-4-2. 自分で決めろよ。もう子どもじゃないんだから。  
\*Ⅱ-2-4-3. そりゃ心配するよ。親なんだから。

### Ⅱ-2-5. 終助詞的用法

- Ⅱ-2-5-1. 私, 絶対に彼と結婚するんだから。(決意)  
\*Ⅱ-2-5-2. こっちが甘い顔を見ると, すぐ調子にのるんだから。  
\*Ⅱ-2-5-3. あの男ときたら, まったく酒癖が悪いんだから (困ったやつだ)。

## Ⅲ. 接続詞「だから」の用法

### Ⅲ-1. 接続助詞「から」の文に言い換えられ, 前件・後件が同一の話し手によるもの

- Ⅲ-1-1. 最近毎日雨が降る。だから洗濯物が乾かない。(事態の原因 c.f. I-1-1)  
\*Ⅲ-1-2. もう家を出る時間の30分前だ。だから早く起きなさい。(発言・態度の根拠)  
\*Ⅲ-1-3. すぐにもどってくる。だからここで待っていてくれ。(理由を表さない用法 c.f. I-5-1)

### Ⅲ-2. 接続助詞「から」の文に言い換えられ, 前件・後件の間に話者交替があるもの

#### Ⅲ-2-1. 相手の発話中の事態Pを受け, それから導かれる帰結Qを述べるもの

- Ⅲ-2-1-1. A:「最近毎日雨が降るね。」  
B:「うん。だから洗濯ものが乾かなくて困るよ。」  
\*Ⅲ-2-1-2. A:「今日は雨が降るそうだね。」  
B:「だから傘を持っていきなさい。」

#### Ⅲ-2-2. 聞き手に結論を求めるもの

- Ⅲ-2-2-1. A:「大変だ。雨が降ってきた。」  
B: (雨が降るぐらいでどうして大変なのか理解できず)  
「だからどうしたと言うの? / だから何なの? / だから?」

#### Ⅲ-2-3. 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが, 既知の事態Qの原因・理由であると認

定するもの

Ⅲ-2-3-1. A:「事故で電車が遅れているそうだよ。」  
B:「そうか。だから、みんなまだ来ないんだ。」

Ⅲ-2-3-2. (外出先で混雑しているのにうんざりして)  
「(これ) だから 連休に出かけるのは嫌なんだ。」

Ⅲ-2-3-3. (テレビで行楽地が混雑しているのを見て)  
「(あれ) だから 連休に出かけるのは嫌なんだ。」

※「ソレダカラ」「ソヤサカイ」など前部に指示詞を含む接続詞を持つ方言では、Ⅲ-2-3-2 やⅢ-2-3-3 で、コ系・ア系の指示詞に切り替わるかどうかを確認。

Ⅲ-2-4. 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの。

Ⅲ-2-4-1. («やめておけ」と注意したのに、それを守らないで間違いをおこしたので)  
「だから、やめておけと{言ったのだ/言っただろう/言ったじゃないか}。」

\*Ⅲ-2-4-2. (孫に、注意したのに間違いをおこしたので)  
「だから、すると言ったじゃないか」<G本 096>

Ⅲ-3. 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

Ⅲ-3-1. 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

Ⅲ-3-1-1. A:「さっき頼んだ仕事、ちゃんとやってね。」  
B:「うん、今日中にやるよ。今ちょっと忙しくてできないんだ。」  
A:「明日までにやってよ。」  
B:「だから、今日中にやる {と言っているじゃないか/よ}。」

\*Ⅲ-3-1-2. A:「今日はお願いがあって来たんだ。」  
B:「何? 話してみなさい。」  
A:「とても大事なことなんだ。」(と言ってなかなか話そうとしない)  
B:「だから、話してみなさい (と言っているじゃないか)。」

※「と言っているじゃないか」などの引用表現をとる場合と、とらない場合と、両方確認してみる。

Ⅲ-3-2. 発話行為間の因果関係がないもの

Ⅲ-3-2-1. A:「さっき頼んだ仕事、やってくれた?」  
B:「え? 何のこと?」  
A:「だから、午前中に頼んだあの仕事だよ。」

\*Ⅲ-3-2-2. A:「今日、ちょうど田中さんに会ったよ。」  
B:「どの田中さん?」  
A:「だから、昨日話していた3丁目の田中さん。」

## IV. 「し」の用法

### IV-1. 並列

#### IV-1-1. 統括命題の想定可能な並列

- IV-1-1-1. 彼はピアノも弾くし、作曲もするし、歌も上手だ。(彼は音楽の才能がある)  
\*IV-1-1-2. あの店は、安いし、うまい。(最高だ／あの店で食べよう)

#### IV-1-2. 前件・後件が食い違う事態(統括命題の想定可能)

- IV-1-2-1. 映画は見たいし、時間はないし。  
\*IV-1-2-2. 親の期待は大きいし、かといって出世の道は厳しいし、頭が痛いよ。

#### IV-1-3. 「で」によるコトガラ化・「は」による対比

- IV-1-3-1. 子どもは生まれるし、金はないしで、大変だ。  
\*IV-1-3-2. あの図書館は暑いし、うるさいしで、勉強にならなかった。

#### IV-1-4. 統括命題のない事態の列挙(「し」不適格)

##### IV-1-4-1. 並列するが因果関係のないことがらを並べる

- IV-1-4-1-1. あの薬屋の西側には図書館があるし、東側には畑がある。  
\*IV-1-4-1-2. ショパンはポーランド人だし、1810年に生まれた。

##### IV-1-4-2. 同時的でないことがらを時間的な順序で並べる

- IV-1-4-2-1. きのうち美術館に行ったし、それから図書館に行った。  
\*IV-1-4-2-2. 先週大阪へ行ったし、友達にあった。

### IV-2. 原因・理由

#### IV-2-1. 後件が行為要求

- IV-2-1-1. すぐに戻ってくるし、ちょっと待ってて。  
IV-2-1-2. すぐに戻ってきますし、少々お待ちください。  
\*IV-2-1-3. 危険だし、エスカレーターでは遊ばないで。  
\*IV-2-1-4. 危険ですし、エスカレーターでは遊ばないでください。

#### IV-2-2. 後件が行為要求の「のだし」(→Ⅱ参照)

- IV-2-2-1. もう大人なんだし、しっかりしなさい。  
IV-2-2-2. もう大人だし、しっかりしなさい。  
\*IV-2-2-3. せっかく作ったんだし、食べてよ。  
\*IV-2-2-4. せっかく作ったし、食べてよ。

#### IV-2-3. 後件が感動・詠嘆の表現

- IV-2-3-1. 雪も降ってきたし、ようやく冬らしくなってきたなあ。  
IV-2-3-2. いつまでたってもその癖は直らないし、全く困った奴だなあ。



#### IV-2-4. 後件が意志性のある事態の叙述

- IV-2-4-1. 時間がなかったし、彼はそこには立ち寄らなかった。(後件が三人称主語)
- IV-2-4-2. 時間がなかったし、私はそこには立ち寄らなかった。(後件が一人称主語)
- \*IV-2-4-3. 体に良くないし、太郎はタバコをやめた。(後件が三人称主語)
- \*IV-2-4-4. 体に良くないし、僕はタバコをやめた。(後件が一人称主語)

#### IV-2-5. 後件が確定的事態（無意志的・状態的事態）の描写，および人称との関係

- IV-2-5-1. 乱暴に扱ったし、壊れてしまった。(後件が非情物主語)
- IV-2-5-2. 太郎は寝坊したし、待ち合わせに遅れた。(三人称，前件後件人称一致)
- IV-2-5-3. 僕は寝坊したし、待ち合わせに遅れた。(一人称，前件後件人称一致)
- IV-2-5-4. 太郎が寝坊したし、観光バスの出発が遅れた。(三人称，前件後件人称不一致)
- IV-2-5-5. 僕が寝坊したし、観光バスの出発が遅れた。(一人称，前件後件人称不一致)

#### IV-2-6. 因果が一對一

- IV-2-6-1. この腕時計，昨日落としたし，壊れてしまった。(原因の特定)
- IV-2-6-2. 定価が一万円だし，消費税込みで一万五百円だ。(計算的因果関係)
- IV-2-6-3. 三角形の内角の和は 180 度だし，計算するとここの角度は 30 度になる。  
(法則的因果関係)
- \*IV-2-6-4. これは酸だし，試験紙は赤くなるよ。(法則的因果関係)
- \*IV-2-6-5. 引力があるし，リンゴが落ちる。

#### IV-2-7. 「から」による慣用表現と「し」の置き換え

- IV-2-7-1. 後生だし，命だけはお助けください。
- IV-2-7-2. お願いだし，もっとまじめに勉強して。
- IV-2-7-3. いい子だし，おとなしくしているのよ。
- IV-2-7-4. 一度でいいし，宝くじの一等賞を当ててみたい。

#### IV-3. 構文的制限

##### IV-3-1. 後接形式による制限 (→ I-6 参照)

- IV-3-1-1. 頭が痛いのは，夕べお酒を飲み過ぎたしだ。
- \*IV-3-1-2. 頭が痛いのは，夕べ飲み過ぎたしだろう。
- \*IV-3-1-3. 頭が痛いのは，夕べ飲み過ぎたしかなあ。
- \*IV-3-1-4. (頭が痛いと言う相手に)頭が痛いのは，夕べ飲み過ぎたしか？
- \*IV-3-1-5. 先生，僕が落第したのは，出席日数が足りなかったしですか？

##### IV-3-2. 連体修飾節の制限

- IV-3-2-1. 風邪をひいたし学校を休んだ太郎は，昨日の事件のことをまだ知らないよ。

##### IV-3-3. 原因・理由節の制限

IV-3-3-1. 太郎は〔風邪をひいたし学校を休んだ〕し、昨日の事件のことをまだ知らないよ。(太郎は〔風邪をひいたから学校を休んだ〕ので、昨日の事件のことをまだ知らないよ。)

#### IV-4. 終助詞的な用法

IV-4-1. (プールを使う前に事前に注意する) プールで走ったらだめだしね。

IV-4-2. (描いて見せた絵を猫だと言われたが、実は猫ではなく熊のつもりである) 猫じゃないし。

\*IV-4-3. (わかっていることを説明されて) そんなこと、知っているし。

#### IV-5. 婉曲性・スタイル差

IV-5-1. 部長、私ちょっと用事がありますし、お先に帰らせていただきます。

(フォーマル・目上)

IV-5-2. 叔母さん、私ちょっと用事がありますし、お先に帰らせてもらいます。

(インフォーマル・目上)

IV-5-3. (会社の部下に) ○○さん、私ちょっと用事があるし、お先に帰らせてもらいます。

(フォーマル・同輩以下)

IV-5-4. (同級生や弟妹に) 私ちょっと用事があるし、先に帰るね。

(インフォーマル・同輩以下)

IV-5-5. (旅行者に) もう少し行くと交差点がありますし、そこを右折したらすぐ見わかりますよ。

(疎)

IV-5-6. (友人に) もう少し行くと交差点があるし、そこを右折したらすぐ見つかるよ。

(親)

IV-5-7. 課長、さっき提出したばかりの書類ですし、机の上にあるはずですよ。ちゃんと探されたのですか？

(フォーマル・非婉曲的)

\*IV-5-8. 部長、十日も前に提出した書類なんですし、早く処理してください。

(フォーマル・非婉曲的)

## 接続詞

沖 裕子

### A 解説

#### 1. 接続詞とは

##### 1.1 文法論と接続詞

接続詞とは、語、句、文等を結び、前件と後件の意味的關係に関する主体の認識を表現する語詞である。

たとえば、次の「そして」「しかし」がそれにあたる。

(1) 朝起きて顔を洗った。そして、歯を磨いた。

(2) 朝ごはんを食べた。しかし、おいしくなかった。

上記の「そして」を例にとれば、「朝起きて顔を洗った」という文の表現する内容を、接続詞「そして」によって後続する文内の内容にとりこみ、「朝起きて顔を洗った」と「歯を磨いた」という両者の内容（前件と後件と呼ぶ）を関連づけている。さてこのとき、接続詞「そして」は後続する文内に位置し、前件と後件は一文の中にはない。このことから、接続詞研究は、文を最大単位とする文論の枠組みにおける記述ではおさまらず、文を超える単位を対象とした枠組みの存在を必要とすることが分かる。

##### 1.2 意味論と接続詞

意味論的には、接続詞は話し手の主観を表現する。このことは、同じ記号列を別の接続詞で結ぶことができる次のような事実から分かることである。

(3) 洋菓子はおいしい。しかし、和菓子もおいしい。

(4) 洋菓子はおいしい。そして、和菓子もおいしい。

(3)も(4)も、「洋菓子はおいしい」と「和菓子はおいしい」を結んでいるが、(3)では、「しかし」があることによって、話し手は、「洋菓子がおいしい」と感じることに「和菓子がおいしい」と感じるのが普通両立しないという考え方にたって両者を関係づけていることが読みとれる。他方、(4)では、「そして」によって、話し手は、おいしいものの類例のひとつとしてまず洋菓子をあげ、次に和菓子を上げるという見方にたっていることが知られるのである。

このように、結びつけられる前件と後件のあり方に対する認識を表現する、主観的意味を有しているのが接続詞である。接続詞に属する語は、語によって語義が異なることから、前件と後件に対する話し手の主観的関係づけを、その語がどのように担っているか、意味論的記述が必要とされるのである。

### 1.3 談話論と接続詞

さらに、接続詞は、(5)のように語と語、(6)のように句と句、(7)のように節と節、(8)のように文と文、また、(9)のように複文と複文を結ぶだけではなく、(10)のように、談話・文章にあっては、離れた位置にある事柄同士を結ぶことができる。特に(10)のような事実が観察されることから、接続詞には、談話の結束性を担う役割があることが分かる。

(5) 朝ごはんには、目玉焼き、そして、おひたしを食べた。

(6) 朝ごはんには、熱々の目玉焼き、そして、新鮮なおひたしを食べた。

(7) 朝ごはんのために、目玉焼きを焼き、そして、おひたしを作った。

(8) 目玉焼きを焼いた。そして、おひたしを作った。

(9) 目玉焼きを食べ、おひたしを食べた。そして、食後の甘いものをがまんして、ジョギングに出かけた。

(10) 朝起きてすることは次のようなことである。まず、朝食の用意をする。朝食はいつも、目玉焼きとおひたしである。そして、一日のスケジュールを点検する。

(10)において「そして」が結んでいるのは、「朝食の用意をする」ことと、「一日のスケジュールを点検する」ことである。両者の間には「朝食はいつも……である」が挿入されており、位置的には離れたところにある前件と後件を結んでいることが分かる。接続詞は、談話の結束性を保証する働きを有しており、談話論的な側面からも記述される必要があることが分かる。

### 1.4 形態論と接続詞

接続詞は、そのほとんどが他の品詞からの転成であるといわれており、以下のように説明されている。

接続詞は、語源的に本来的な所属語彙がほとんどなく、副詞（「また・なお」など）・代名詞（「これ・そう」など）・助詞（「が・けれども」など）などからの転成したものや、それら、および形式名詞（「ところ・ゆえ」など）・形式動詞（「する」）・指定の助動詞（「だ」など）などより成る連語（「すると・それから・だが・ところで・または」など）が慣用的に固定したものからなる。（以上、国語学会編、1980年、東京堂出版『国語学大辞典』、接続詞の項、井手至執筆）

これにみる限り、接続詞は、歴史的には機能語からの転成が多いことが指摘できる。

## 2. 日本方言の接続詞

### 2.1 話しことばにおける接続詞

接続詞の研究は、主として書きことばを対象として進められてきており、話しことばを資料とした接続詞研究はまだ盛んであるとはいいがたい。日本方言における接続詞の研究も本格的にはこれからの課題であるといってよいであろう。

方言における接続詞の研究は、地理的変異を追究する側面と、一言語における体系と運用を追究する側面があるが、離れたものではない。両者あいまって、日本方言の実態を明らかにするものである。

### 2.2 通時的な研究における接続詞

接続詞は、中世以来、日本語の論理的運用の進展とともに発達をみえてきた。日本方言の分岐・統合を研究する観点からいえば、比較的新しい現象に属する。テンス・アスペクト

のような言語の根幹にかかわる現象で、日本語の古層を追究しうるような事象とは、その意味で性格が異なっているといえよう。

G A Jによれば、接続詞にも地域的な分布が認められる。日本語史という観点からみれば、接続詞の研究は、方言区画、それも中世以降の社会の分化のあり方を反映する文法項目としてこれを位置づけ、研究してみる必要があるかと思われる。

### 3. 調査の着眼点

#### 3.1 一般的な問題として

接続詞の共時的な研究は、これからの課題である。条件表現における接続助詞とどのように接続詞は異なるのか、どの程度分離して独立した語詞になっているかについても不明である。まず、自分自身で当該の方言談話を収録・文字化して、そこで使用されている接続詞の特徴について観察することから始めてみることも一方法である。接続詞は、語彙的、文法的、談話的事実であるから、それらに配慮した分析を行う必要がある。

#### 3.2 談話資料による接続詞使用状況の確認

その方言における接続詞を調査しようとする場合、二つの方法によることが考えられる。一つは、自然談話文字化資料を作成する方法、もう一つは、接続詞語彙の意味分析を行う方法である。接続詞に関しては、まず、前者の方法で調査をし、のちに後者を行うことが有効であろうと考える。

接続詞の使用率は、方言においては案外に低いものである。このことは、自然談話資料を観察してみると分かる。接続詞は歴史的には分析的表現の要求とともに発達してきたため、方言が文字に留められず日常卑近なことを話題にするコードであることを考えれば、当然のことともいえる。

#### 3.3 用法からみた接続詞の意味分析

談話資料から得た接続詞について、談話資料に即した意味分析を行ってみるのが次の段階である。接続詞は、前述したように、形態的には語以上の諸単位を結ぶ。また、談話には不整表現や省略が頻出する。これらのことから、接続詞が何と何を結んで使用されているか、談話資料の中では、はっきりとしないこともある。さらに、接続詞は、形式を結ぶというより、形式によって表現されている意味的単位体を結ぶ働きをする。そのため、語られている内容が把握できていないと、前件と後件を正しく把握できないことがおこる。その意味では、当該方言について、まず音声、語彙、文法といった談話より下位レベルの単位に関する事象の調査が済んでおり、さらに、当該方言文化についても知識がないと、談話レベルの現象である接続詞研究へは進めないことになる。この意味では、母方言を研究することが最も有利である。

さて、接続詞は文法的事象に属し、変異形がさほど多くないことから、気づかれにくい方言の存在があることに留意すべきであろう。なお、接続詞が比較的方言的変異が少ないことは、次のような事情による。まず、機能語を中心とした他品詞からの転用が多いため、組み合わせや転用には限りがあること。言語の一般的性質として、機能語は実質語に較べて地域的変異は少ないこと。また、時代的に新しい発生であるため、十分に地域的分化が行われていないこと。さらに、接続詞は、書きことばからの影響も大きい語詞であろうが、書きことばが属する共通語は、基層方言に較べると、地域的変異はきわめて小さいこと。

こうしたことから、日本方言における接続詞の変異形は相対的に少ない。もっとも、「とはいうものの」「そうはいつでも」のような、複合形式を含む接続語まで入れれば、その数はかなり多くなるが、これについては青木（1973）を参照されたい。

### 3.4 形態・意味・文法的調査

談話資料の中でできるだけ多くの用例を整理したのちは、質問による体系的調査を行うことも可能であろう。

## 4. 研究の現状

### 4.1 談話論的研究

久木田(1990)は、自然談話資料から、話者の独話で説明が展開する部分に焦点をあて、東京方言談話と関西方言談話を対照させた。その結果、ここで接続詞のみを挙げれば、東京方言談話では、「ダカラ」がキーワードとなり、関西方言談話では、「ソレデ」「ソシテ」類が頻用され、それぞれの談話展開の特徴をなしている、としている。その後、東北方言談話も典型的に位置付けられ、それらを検証する研究も試みられている。

方言談話資料で比較的入手しやすい文献には、次のようなものがある。このほかにも、各地方言談話資料が私家版等でも刊行されている。

国立国語研究所（1978-1987）『方言談話資料(1)－(10)』

国立国語研究所（刊行中）『全国方言談話データベース 日本のおふるさとことば集成』  
国書刊行会

日本放送協会編『ハイブリッド版 CD-ROM 版全国方言資料 全12巻』NHK 出版

### 4.2 意味・文法論的研究

接続詞の意味・機能に関する研究は、共通語の文章を資料としたものが最も進んでいるが、分類については諸説あり、定説をみない。接続助詞との連続性の問題や、談話における働きを考察しなければ結論がつかない部分を有しているからであろう。話しことばにおける接続詞研究については、シナリオなどのテキストを用いるか、あるいは内省による研究が多く、話しことば資料に立脚した研究は少ない。

### 4.3 形態論的研究

『方言文法全国地図全6巻』（国立国語研究所編 大蔵省印刷局 刊行中）には、関係する次のような言語地図および原資料が収録されている。形態的な全国分布を考察するために、まず、参考にすることができる。ここに収録された接続詞項目は「だから」「だけれど」のみであり、他は接続助詞であるが、接続助詞と接続詞は連続的である。形態面の分布を類推するための補助的資料として積極的活用が望まれる。

GAJ 第1集

第33図 「雨が降っているから行くのはやめろ」

第34図 「だから、するなと言ったじゃないか」

第35図 「だから、するなと言ったじゃないか」

第36図 「子どもなのでわからなかった」

第37図 「子どもなのでわからなかった」

第38図 「少し寒いけれどもがまんしよう」

- 第 39 図 「今日は寒いなあ。だけど、どうしても行かなければならない」  
 第 40 図 「木を植えたのに枯れてしまった」

GAJ 第 4 集

- 第 167 図 「あした雨が降れば船は出ないだろう」  
 第 168 図 「あした雨が降ったらおれは行かない」  
 第 169 図 「お前が行くとその話はだめになりそうだ」  
 第 170 図 「そこに行ったらもう会は終わっていた」  
 第 171 図 「お前が行ったってだめだ」  
 第 172 図 「お前が行ったってだめだ」

上図を用いた研究には小西(2000)があり、ダカラという接続詞は、指定辞ダと、接続助詞カラとから成り、<指定辞+接続助詞>という語構成からなる接続詞には、ダカラ、ジャカラの分布がみられるが、「\*ヤカラ」はみあたらず、指定辞ヤを含む接続詞は<ソ系指示語(ソ・ソン・ホンなど)+指定辞+接続助詞>という語構成になる等々の指摘がなされている。

## 5. 発展

接続詞は、形態、語彙、文法、意味、談話など、多岐のレベルにわたる事象である。このことをふまえ、まず、一地域の言語的事実を明らかにする記述的研究を緻密に積み上げる必要がある。全国的な分布についても、それをふまえ、各レベルから多角的に明らかにされていくことが望まれる。

接続詞を研究することによって談話論そのものの発展が期待できるとともに、語彙、文法、意味の各論においても、共通語の書きことばを中心とした研究に対して、方言の生きた話しことばの研究成果が加わることの価値は大きい。

## 6. 文献

- 池上嘉彦(1983)「テキストとテキストの構造」国立国語研究所『談話の研究と教育 I 大蔵省印刷局  
 沖 裕子(2006a)『日本語談話論』和泉書院  
 沖 裕子(2006b)「接続詞の文法化—気づかれにくい方言「それで」—」『科学研究費成果報告書』(課題番号 14310196「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」/研究代表者大西拓一郎)  
 久木田恵(1990)「東京方言の談話展開の方法」『国語学』162  
 久木田恵(1992)「北部東北方言の談話展開の方法」『小林芳規博士退官記念 国語学論集』汲古書院  
 小西いずみ「東京方言が他地域方言に与える影響—関西若年層によるガカの受容を例として—」『日本語研究』第 20 号 東京都立大学 国語学研究室  
 坂原茂(1985)『日常言語の推論』東京大学出版会  
 阪倉篤義(1993)『日本語表現の流れ』岩波書店  
 鈴木一彦・林巨樹編(1973)『品詞別 日本文法講座 6 接続詞・感動詞』明治書院

接続詞

- 鈴木一彦・林巨樹(1984)『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・  
接続詞・感動詞』明治書院
- 田窪行則・西山祐司・三藤博・亀山恵・片桐恭弘(1999)『岩波講座言語の科学7 談話と  
文脈』岩波書店
- 塚原鉄雄(1958)「接続詞」『続日本文法講座』明治書院
- ハリデイ, M. A. K. ・ハサン, ルカイヤ(1997)『テキストはどのように構成されるか一言語  
の結束性一』ひつじ書房(原典出版1976年)



B 項目

項目をあげて示すことが困難であるため、沖（2006b）により分析の事例をあげて責を果たしたい。

方言談話文字化資料を観察していくと、次のようなことが分かる。すなわち、1）その方言の特定話種において繰り返し使用される接続詞があること、2）前件と後件の内容を担う記号列が多様であることである。以下、節を分けて述べる。また、自然談話調査に関する留意点についても節をたて、簡略にふれる。

1. 方言談話資料と接続詞

それぞれの方言で好まれる接続詞とは、たとえば、次のようなものである。久木田（1990）によると、東京方言談話では、「ダカラ、デスカラ」が挙げられ、関西方言については、「ソイデ、ホイデ、ヘテ、ヘタラ」が挙げられているが、こうした、方言による使用頻度の異なりは確かに存在する。

『方言談話資料(1)』に収録された、長野県上伊那（かみいな）郡中川村字葛島（かずらしま）方言〔1975年当時〕の方言談話文字化資料から、使用された接続詞を示すと以下のようなになる（調査概要を含む詳細は沖 2006b を参照されたい）。

表 1 長野県上伊那郡中川村葛島方言の接続詞

資料：『方言談話資料(1)』

作成：沖(2006b)より

接続詞	使用度数
ケド	1
ソコデ	4
ソシテ・ソーシテ・ホーシテ	26
ソレガ	1
ソレカラ・ソレカラナー・ソイカラ・ホレカラ	21
ソレジャ	1
ソレダモンデ	1
ソレデ・ソイデ・ソーデ・ソエデ・ソレデナー・ホイデ・ホエデ・ホデ・ホレデ	62
ソレデモ・ソイデモ	3
ソレニ	2
ダカラ・ダーカラ	3
タダ	1
デ	1
トコロガ	1
計	128

表1からは、ソレデ系統が48%、ソシテ系統が20%使用されていることが分かる。当該資料中、ソレデ系統、ソシテ系統を合わせると、使用された接続詞の約70%近くを占めており、これは、久木田(1990)の調査した関西方言(大阪府豊能郡能勢町地黄)とも類似の傾向を示すことが知られる。さらに、こうしたソレデ、ソシテ系統とともに、当地では、続いてソレカラ系統が16%を占めており、三者を合わせて85%を占める。

久木田の資料は、一人の話者が興にのって体験を語る談話であり、沖が分析対象とした資料は、二人の話者が昔の体験を語り合う談話である。両者は、語りの談話であることは共通しており、話種の点からみて比較対照にたえるものである。

このように、当該方言談話の当該話種において好まれる接続詞をまず探すが、方言接続詞の地域性を探るひとつの方法となる。

## 2. 接続詞の意味分析

引き続き、長野県中川村葛島方言における「それで」の分析例をあげよう。当該方言での「それで」は、たとえば、次のように使用されている。

(10) C ホーシテ ソノ ナカヤドッテ ユー トコガ アリマシテナン (B  
ウン) ソエデ ソコエ ヨメノ ホーカラ モッテ キマシテ ホレカラ  
コンドア ムコガタカラ ソノ ナカヤドエ ア アノー キテ ソエデ  
ソコデ ウケワタシヲ シマスノ ニモツヲ。

B ウン ニモツノ サイリョー。

A ウン ソエデ ニザイリョーッテ ユーノガ ツイテ (Bニザイリョー ハイ)  
キマシテナン。 ホエデ ソコデ マタ コンダ ムコガタノ ホーエ  
ワタシテ コンダ ムコガタワ ムコガタデ ヤッパリ ソノ ニンプオ  
ツレテ イッテ コンダ ヒキウケテ モッテ ヤッパリ ソノ ニザイ  
リョーガ アッタ ワケ。

B ウン。(353~354頁)

(10') C そうして その 中宿と いう ところが ありましてね、(B うん。)  
それで そこへ 嫁の 方から 持って 来まして、それから  
今度は 婿方から その 中宿へ あ あのう 来て、それで  
そこで 受け渡しを しますの、 荷物を。

B うん、荷物の 宰領。

C うん、それで 荷宰領と いうのが ついて (B 荷宰領、はい)  
来ましてね。それで そこで また 今度は 婿方の 方へ  
渡して、今度は 婿方は 婿方で やっぱり その 人夫を  
連れて 行って、今度は 引き受けて 持って やっぱり その  
荷宰領が あった わけ。

B うん。

用例を見る限り、「それで」は累加の用法であり、前件と後件には因果関係は見出せない。

さて、東京共通語における「それで」は、どのような意味・用法をもつのであろうか。

田中(1989:102-103)によれば、次のように説明される(下線論者)。

- (11) (略)「腹が痛くテ学校を休んだ」のように、はっきり、必然的な関係を示す接続は、「ソシテ」や「カクテ」よりも、むしろ、指示語系の「ソレデ」によって表される。(略)

この年、カゼの大流行があった。ソレデ学級閉鎖があいついだ。

王政への不満不信が高まり、ソレデ革命の火の手があがった。

と「ソレデ」で結ばれると、はっきり必然的な事象の接続になってくる。この言い方は、話しことばにも、現在の普通の口語文にも広く用いられる。

この「ソレデ」から生じた接続詞として、「デ」がある。これは、左のように、結婚するそうね。デ、どこに住むの？

母が入院したんだ。デ、これから見舞に行くところだ。

もっぱら会話に用いられ、「ソレデ」と同様に、前件に無理なくつながる事象を結び付ける。

この記述からは、「それで」は単なる累加ではなく、前件と後件の必然性に関する関係づけを行う語詞であることが分かる。

こうして話しことばの意味分析を行ってみると、形式が同様に、意味・用法にずれがみられ、しかもそれが意識されていない「気づかれにくい方言」が、長野県上伊那郡葛島方言にあることが明らかになるのである。また、関西方言における「それで」についても、沖(2006b)は、これと同様の「気づかれにくい方言」であることを指摘している。

接続詞語彙の意味分析を行うことによって、形態的側面のみ分布からは分かりにくい、日本方言における接続詞分布の実態解明につなげる方向性を見出すことができる。

### 3. 談話資料作成に関する覚書

方言談話資料を作成するにあたって、文字化の方法は各種模索されているが、次の点に留意して進めたい。

- (1) どのような情報を文字化するか
- (2) どのように文字化するか
- (3) 何の目的で文字化するか

また、その際、次の点については基本的な事項であり、難しいことであるが、視覚的にも捕捉しやすい表示が工夫されることが望ましい(以上、沖 2006a 参照)。

- (1) 「私」と「私」の交替が明示されること。
- (2) 実時間に添った展開を示しうる表記であること。

さらに、今後の方言研究にとって大切なことは次のようなことであろう。まず、第1に、談話文字化資料には、当該地域の音韻、韻律、形態、語彙、文法、談話的特徴等に関する記述的研究をふまえた解説を添えたい。第2に、言語外現実について注釈のついたテキストの作成を行うことである。言語研究においてテキスト作成は重要な作業のひとつであり、解題と注釈は研究成果の一つに含まれる。現代語の談話文字化資料は文献テキストとは異なるが、先に述べた解説と注釈があることの価値を重んじたい。こうした資料を作成することで、他の研究者の利用が容易になり、あるいは後世における利用可能性が高まることであろう。ひとつの手本は、国立国語研究所が作成した『方言談話資料(1)-(10)』(秀英出

接続詞

版、1978-1987年、(1)のみ非売品)である。

ちなみに、調査地点、日時、調査場所、被調査者、調査者、調査進行の雰囲気やいきさつ、調査企画の意図など、基本的な調査概要を記しておくことは言うまでもない。

## 資料

以下は、本書で扱うことを当初予定していたが、諸般の事情で掲載がかなわなかった分野に関して、『方言文法全国地図』の準備調査・本調査の質問文を資料として、挙げるものである。

- <G 本○○○> : GAJ 本調査(○○○は質問番号)
- <G 準文○○○> : GAJ 準備調査(文法調査票)(○○○は質問番号)
- <G 準表○○○> : GAJ 準備調査(表現法調査票)(○○○は質問番号)

### 【希望表現】

- ・「温泉に [行きたいなあ]」とつぶやくとき、「行きたいなあ」のところをどのように言いますか。<G 本 161>
- ・「温泉に [行きたくてたまらない]」と言うとき、「行きたくてたまらない」のところをどのように言いますか。<G 本 162>
- ・「温泉には [行きたくない]」と言うとき、「行きたくない」のところをどのように言いますか。<G 本 163>
- ・「あの人には、是非、いっしょに [行ってもらいたい]」と言うとき、「行ってもらいたい」のところをどのように言いますか。<G 本 164>
- ・芝居が好きなので「芝居に [行きたいなあ]」と言うとき、「行きたいなあ」のところをどのように言いますか。<G 準表 038>
- ・では、「芝居に [行きたくてたまらない]」と言うときは、「行きたくてたまらない」のところをどのように言いますか。<G 準表 039>
- ・芝居の好きな友達のことを話題にして、「あの人はずっと芝居に [行きたがる]」と言うとき、「行きたがる」のところをどのように言いますか。<G 準表 040>
- ・温泉が嫌いなので「温泉には [行きたくない]」と言うとき、「行きたくない」のところをどのように言いますか。<G 準表 041>

### 【意志表現】

- ・自分自身で「あしたは早く [起きよう]」とつぶやくときの「起きよう」のところはどのように言いますか。<G 本 060>
- ・自分自身で「早く [起きよう]」と自分の気持を心の中でつぶやくときの「起きよう」のところは、地方によってオキヨー・オキルベー・オキズなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。<G 準文 123>
- ・それでは、「[見よう]」はどうですか。<G 準文 125>
- ・「今夜は早く [寝よう]」とつぶやくときの「寝よう」はどうですか。<G 本 061>
- ・それでは、「[寝よう]」はどうですか。<G 準文 124>
- ・「早く [しよう]」とつぶやくときの「しよう」はどうですか。<G 本 062>
- ・それでは、「早く [しよう]」と言うときの「しよう」はどうですか。<G 準文 128>

#### 資料

- ・「窓を [あけよう]」とつぶやくときの「あけよう」はどうですか。〈G 本 063〉
- ・それでは、「[あけよう]」はどうですか。〈G 準文 126〉
- ・「あしたもここに [来 (こ) よう]」とつぶやくときの「来 (こ) よう」はどうですか。〈G 本 064〉
- ・それでは、「[来 (こ) よう]」はどうですか。〈G 準文 127〉
- ・「手紙を [書こう]」とつぶやくときの「書こう」はどうですか。〈G 本 065〉
- ・それでは、「[書こう]」はどうですか。〈G 準文 129〉
- ・「息子に手紙を [書かせよう]」とつぶやくときの「書かせよう」はどうですか。〈G 本 066〉
- ・それでは、「孫に手紙を [書かせよう]」と言うときの「書かせよう」はどうですか。〈G 準文 130〉
- ・[書かれよう] < 「書かれる」の意志形があれば記入する。 > [参考]「選挙が近くなったので候補者たちは新聞に [書かれよう] として…」〈G 準文 131〉
- ・「おれは東京に [行こうと思っている]」と言うとき、「行こうと思っている」のところをどのように言いますか。〈G 本 158〉
- ・自分自身で「今日は [飲むぞ]」と自分の気持を心の中でつぶやくとき、「飲むぞ」のところをどのように言いますか。〈G 準表 027〉
- ・自分自身で「今日こそ～に [行こう]」と自分の気持 (意志) を心の中でつぶやくとき、「行こう」のところをどのように言いますか。〈G 準表 030〉
- ・それでは、「行こうか」とつぶやくとき、どのように言いますか。〈G 準表 030〉
- ・では、「～に [行こうとしたら] 客が来た」と言うとき、「行こうとしたら」のところをどのように言いますか。〈G 準表 031〉
- ・「もうそんなところへなんか、けっして [行くまい]」と心に決めるとき、「行くまい」のところをどのように言いますか。〈G 本 159〉
- ・「もうそんなところへなんか、けっして [行くまい]」と心に決めるとき、「行くまい」のところをどのように言いますか。〈G 準表 032〉

#### 【詠嘆表現】

- ・酒飲みの人のことを話題にして「あいつはよく酒を [飲むなあ]」と言うとき、「飲むなあ」のところをどのように言いますか。〈G 準表 028〉
- ・話は変わりますが、美しい花を見て、感動して「[あの花の美しいこと! ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 本 157〉
- ・美しい景色を見て「[ここは何と美しいのだろう]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 029〉

#### 【強調表現 (「のだ」文など)】

- ・親しい友達から「今度の旅行に行くか」と聞かれ、「もちろん [行く]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G 本 155〉
- ・「今度の旅行に、お前の家では誰が行くんだ」と聞かれて、「[おれが行くんだ]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G 本 156〉

- ・親しい友達から「今、酒を飲むか」と聞かれて「[飲む]」と答えるとき、どのように言いますか。〈格別の強調を伴わない叙述表現を求める。ただし、「ノムヨ」など、文末詞を伴った回答でも採用する。〉〈G 準表 024〉
- ・では、「もちろん [飲む]」と答えるとき、どのように言いますか。〈「もちろん」(または、それにあたる他の副詞)を伴ったときの強調表現を求める。〉〈G 準表 025〉
- ・「この酒は誰が飲むのか」と聞かれて、「おれが [飲むんだ]」と答えるとき、どのように言いますか。〈G 準表 026〉
- ・自分自身で「今日は [飲むぞ]」と自分の気持を心の中でつぶやくとき、「飲むぞ」のところをどのように言いますか。〈G 準表 027〉

### 【勧誘表現】

- ・あなたが芝居の切符を買いましたが、用事ができて行けなくなったとします。それで友達に「よかったら私のかわりに [行かないか]」と言うとき、「行かないか」のところをどのように言いますか。〈G 準表 033〉
- ・芝居の切符を2枚もらいました。そこで友達をさそって、「[いっしょに行かないか]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 034〉
- ・友達を温泉に誘ったのですが友達は迷っています。そこで「いっしょに [行こうよ]」と誘うとき、どのように言いますか。〈G 本 160〉
- ・友達を芝居にさそったのですが、友達は迷っています。そこで「[いっしょに行こうよ]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 035〉
- ・いよいよ芝居の日になりました。時間がせまってきたので友達に「[さあ行こう]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 036〉
- ・体の弱い友達に「あの温泉に [行くといいよ]」とすすめるとしたら、「行くといいよ」のところをどのように言いますか。〈G 準表 037〉

### 【命令表現】

- ・「ぐずぐずしないで早く [起きろ]」と言うときの「起きろ」のところは、地方によって、オキロ・オキレ・オキヨなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。〈G 本 032〉
- ・「早く [起きろ]」と言うときの「起きろ」のところは、地方によってオキロ・オキー・オキヨなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。〈G 準文 060〉
- ・それでは、「[寝ろ]」はどうですか。〈G 準文 061〉
- ・「ぐずぐずしないで早く [しろ]」と言うときの「しろ」はどうですか。〈「ヤル」を使った形は採らない。〉033〉
- ・それでは、「早く [しろ]」と言うときの「しろ」はどうですか。〈G 準文 065〉
- ・「窓を [あけろ]」と言うときの「あけろ」はどうですか。〈G 本 034〉
- ・それでは、「[あけろ]」はどうですか。〈G 準文 063〉
- ・「あれを [見ろ]」と言うときの「見ろ」はどうですか。〈G 本 035〉
- ・それでは、「[見ろ]」はどうですか。〈G 準文 062〉

- ・それでは、「[書け]」はどうですか。〈G 準文 066〉
- ・それでは、「金を [貸せ]」と言うときの「貸せ」はどうですか。〈G 準文 069〉
- ・それでは、「あの人に金を [借りろ]」と言うときの「借りろ」はどうですか。〈G 準文 070〉
- ・[有れ] <「有る」の命令形が存在すれば記入する。〉〈G 準文 067〉
- ・「ここに [来 (こ) い]」と言うときの「来 (こ) い」はどうですか。〈G 本 036〉
- ・それでは、「[来 (こ) い]」はどうですか。〈G 準文 064〉
- ・「足でボールを [蹴れ]」と言うときの「蹴れ」はどうですか。〈G 本 037〉
- ・それでは、「早く [蹴れ]」と言うときの「蹴れ」はどうですか。〈G 準文 068〉
- ・「その仕事はおれに [まかせろ]」と言うときの「まかせろ」はどうですか。〈G 本 038〉
- ・それでは、「その仕事はおれに [まかせろ]」と言うときの「まかせろ」はどうですか。〈G 準文 071〉
- ・「おれに手紙を [書かせろ]」と言うときの「書かせろ」はどうですか。〈G 本 039〉
- ・それでは、「おれに手紙を [書かせろ]」と言うときの「書かせろ」はどうですか。〈G 準文 072〉
- ・[書かれろ] <「書かれる」>の命令形が存在すれば記入する。〉〈G 準文 073〉
- ・朝いつまでも寝ている孫にむかって、起きるようにやさしく言うとき、どのように言いますか。〈G 本 147〉
- ・孫にむかって、起きるようにやさしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 012〉
- ・朝いつまでもねている孫に早く起きるように言うとき、どのように言いますか。〈010 ~012「学校ニオクレルゾ」などが出たときには「起きる」を用いた表現を求める。〉〈G 準表 010〉
- ・それでも起きないので、起きるようにきびしく言うとき、どのように言いますか。〈G 本 148〉
- ・それでも起きないので、起きるようにきびしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 011〉
- ・部屋の空気が悪いので、孫にむかって、窓をあけるようにやさしく頼むとき、どのように言いますか。〈G 本 149〉
- ・孫にむかって、窓をあけるようにやさしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 015〉
- ・孫にむかって、窓をあけるように言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 013〉
- ・なかなかあけないので、窓をあけるようにきびしく言うとき、どのように言いますか。〈G 本 150〉
- ・なかなかあけないので、窓をあけるようにきびしく言うとき、どのように言いますか。〈G 準表 014〉

【禁止表現】→「否定表現」参照

- ・孫にむかって、やさしく「そっちへ [行くな]」と言うとき、どのように言いますか。〈G 本 151〉
- ・孫にむかって、「そっちへ [行くな]」とやさしく言うとき、どのように言いますか。



<G 準表 018>

- ・孫にむかって、きびしく「そっちへ [行くな]」と言うとき、どのように言いますか。  
<G 本 152>
- ・孫にむかって、「そっちへ [行くな]」ときびしく言うとき、どのように言いますか。  
<G 準表 017>
- ・孫にむかって、「そっちへ [行ってはいけない]」と言うとき、どのように言いますか。  
<G 本 153>
- ・孫にむかって、「そっちへ [行ってはいけない]」と言うとき、どのように言いますか。  
<016~018 動詞「行く」を用いた禁止表現を求める。><G 準表 016>
- ・孫にむかって、「そこで [泳いではいけない]」と言うとき、どのように言いますか。  
<G 準表 019>
- ・孫にむかって、「そこで [泳ぐな]」ときびしく言うとき、どのように言いますか。<G 準表 020>
- ・孫にむかって、「そこで [泳ぐな]」とやさしく言うとき、どのように言いますか。<G 準表 021>
- ・孫にむかって、「今日は寒いから [泳がないでおけ]」と注意するとき、「泳がないでおけ」のところをどのように言いますか。<G 準表 022>

【あいさつ表現】

- ・朝、近所の目上の人に道で出会ったとき、どんなあいさつをしますか。ふつう良く使う言い方を教えてください。<G 本 237>
- ・日中、働いている人のそばを通りかかったとき、どのように声をかけますか。<G 本 238>
- ・目上の人の家を日中尋ねたとき、その家の玄関で、どのように声をかけますか。<G 本 239>
- ・夜、近所の目上の人に出会ったとき、どんなあいさつをしますか。<G 本 240>
- ・人から物をもらって「ありがとう」とお礼を言うとき、どのように言いますか。<G 本 240>
- ・あなたが朝早く道で近所の親しい友達に出会ったとします。そのようなとき、あなたはどんなあいさつをしますか。いろいろな言い方があると思いますが、あなたがよく使う言い方を教えてください。<G 準表 001>
- ・あなたの家に、あなたよりも年上の男のお客が来たとします。そのお客に対して「どうぞ家におあがりください」と言うとしたら、どのように言いますか。<G 準表 002>
- ・そのお客から何かみやげの品物をもらったとします。あなたはそのとき、どのようなお礼のあいさつをしますか。<G 準表 003>
- ・そのお客があなたの家を出るとき、あなたはその人に対してどのようなあいさつをしますか。<G 準表 004>
- ・あなたが、あなたよりも目上の人の家を昼すぎに訪問したとします。その家の玄関の前で、あなたは何と言って入りますか。<G 準表 005>
- ・それでは、その人の家を出るとき、どのようなあいさつをしますか。<G 準表 006>

資料

- ・日中，働いている人のそばを通りかかったとき，あなたはその人に，どのように声をかけますか。〈G 準表 007〉
- ・夕方，食事時分に，用事ができて人の家を訪ねたとします。そのとき，あなたはどのようにあいさつをしますか。〈G 準表 008〉
- ・あなたが，夕方，薄暗くなったころ，道で近所の親しい友達に出会ったとします。そのようなとき，あなたはどんなあいさつをしますか。〈G 準表 009〉

## 方言文法調査ガイドブック 2

科学研究費基盤研究(B)

「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」  
(2002-2005年度, 課題番号 14310196)

発行 2006年3月

編者 大西拓一郎

連絡先 190-8561 東京都立川市緑町 3591-2 国立国語研究所  
大西拓一郎 TEL 042-540-4521

電子メール takoni@kokken.go.jp

# 方言文法調査ガイドブック 2

主題	小西いずみ
副助詞(付：接尾辞)	三井はるみ
可能表現 2	木部暢子
否定表現	大西拓一郎
授受表現	日高水穂
待遇表現	井上文子
過去回想表現	渋谷勝己
推量表現	船木礼子
様態表現	船木礼子
伝聞表現	船木礼子
疑問表現	井上優・小西いずみ
確認要求表現	船木礼子
原因・理由表現	前田直子・日高水穂・ 小西いずみ・船木礼子
接続詞	沖裕子